

*KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/*

*KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/*

*KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8164V*

## 日本語版ユーザーマニュアル



### 本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8164V の取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2019年5月6日

## ユーザーの皆様へ

---

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意の上、正しくお使いください。

# ATEN ジャパン製品保証規定

---

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

## 【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

### (1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

### (2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

### (3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

### 【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②型番 CL からはじまる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	3年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

### 【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行いますが、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

## 【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<https://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

## 製品についてのお問い合わせ

---

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

# 目次

---

ユーザーの皆様へ .....	i
ATEN ジャパン製品保証規定 .....	ii
製品についてのお問い合わせ .....	v
EMC 情報 .....	10
RoHS.....	11
安全にお使い頂くために.....	12
全般 .....	12
ラックマウント .....	14
バッテリー .....	14
同梱品.....	15
本マニュアルについて.....	16
マニュアル表記について.....	18
用語 .....	19
第1章 はじめに.....	20
概要.....	20
特長.....	24
ハードウェア.....	24
管理 .....	24
可用性.....	25
高度なセキュリティ.....	26
バーチャルメディア .....	26
バーチャルリモートデスクトップ.....	26
新型 KN シリーズに特化した特長.....	27
システム要件.....	28
リモートクライアントコンピューター .....	28
サーバー .....	29
コンピューターモジュール .....	29
OS.....	32
Web ブラウザ.....	32
製品各部名称 .....	33
KN2116VA/KN4116VA フロントパネル .....	33

KN2124VA/KN4124VA フロントパネル .....	33
KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V フロントパネル .....	33
KN2140VA/KN4140VA フロントパネル .....	34
KN4164V/KN8164V フロントパネル .....	34
KN2116VA/KN4116VA リアパネル .....	37
KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V リアパネル .....	37
KN4164V/KN8164V リアパネル .....	37
KN2124VA/KN4124VA リアパネル .....	39
KN2124VA/KN4124VA リアパネル .....	39
<b>第 2 章 セットアップ方法</b> .....	<b>41</b>
<b>概要</b> .....	<b>41</b>
<b>セットアップの前に</b> .....	<b>41</b>
<b>デバイスの卓上設置とラックマウント</b> .....	<b>42</b>
卓上設置 .....	42
設 置 方 法 ( KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/ KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA) .....	43
KN4164V/KN8164V の設置方法 .....	47
<b>単体構成でのセットアップ</b> .....	<b>51</b>
<b>(KN2124VA/KN4124VA/ KN2140VA/KN4140VA)</b> .....	<b>51</b>
単体構成 接続図 .....	53
<b>単 体 構 成 で の セ ッ ト ア ッ プ ( KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/   KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V)</b> .....	<b>54</b>
単体構成 接続図 .....	56
コンピューターモジュール 接続図(1/2) .....	57
コンピューターモジュール 接続図(2/2) .....	58
<b>2 段階カスケード接続のセットアップ</b> .....	<b>59</b>
2 段階カスケード接続 接続図 .....	61
<b>チャンネル転送</b> .....	<b>62</b>
チャンネル転送の設定 .....	63
<b>PDU のセットアップ</b> .....	<b>64</b>
<b>ホットプラグ</b> .....	<b>67</b>
モジュール ID 機能 .....	67
<b>製品の電源 OFF/再起動</b> .....	<b>68</b>
<b>ポート ID の割り当て</b> .....	<b>69</b>
<b>ポートの選択</b> .....	<b>69</b>
<b>第 3 章 スーパーアドミニストレーターによる 初期設定</b> .....	<b>70</b>



概要.....	70
初回使用時に必要なセットアップ .....	70
ネットワークの設定.....	72
スーパーアドミニストレーターのユーザーネーム/パスワードの変更 .....	73
その他の管理メニューを操作する場合は .....	75
<b>第4章 ログイン .....</b>	<b>76</b>
概要.....	76
ローカルコンソールからのログイン .....	76
ブラウザからのログイン .....	77
Windows クライアントからのログイン.....	78
接続画面.....	79
Windows クライアント AP を使った接続方法.....	80
ファイルメニュー .....	82
Java クライアントからのログイン .....	83
接続画面.....	84
Java クライアント AP を使った接続方法.....	85
<b>第5章 ユーザーインターフェース .....</b>	<b>86</b>
概要.....	86
Web ブラウザメイン画面 .....	86
画面内の構成要素 .....	87
製造番号.....	87
タブメニュー .....	88
クライアントアプリケーションのメイン画面 .....	90
ローカルコンソール GUI メイン画面 .....	92
コントロールパネル .....	93
Windows クライアントコントロールパネル.....	93
コントロールパネルの機能.....	95
マクロ.....	98
ビデオ設定 .....	108
メッセージボード.....	115
バーチャルメディア .....	118
ズーム.....	123
オンスクリーンキーボード .....	124
マウスポインタータイプ .....	126
拡張表示.....	127
マウスダイナミックモード .....	128

コントロールパネルの環境設定 .....	131
Java コントロールパネル .....	134
<b>第 6 章 ポートアクセス.....</b>	<b>135</b>
<b>概要.....</b>	<b>135</b>
Web ブラウザインターフェース .....	135
アプリケーション GUI .....	136
<b>ポート選択バー.....</b>	<b>137</b>
ポート選択ツリー .....	137
スキャン .....	138
アレイモード .....	139
フィルター .....	139
サイドバーユーティリティ .....	141
ポート/アウトレットの名前設定 .....	142
<b>KVM デバイス・ポート - 接続画面.....</b>	<b>144</b>
デバイスレベル .....	144
ポートレベル.....	146
<b>ブレードサーバー - 接続画面.....</b>	<b>147</b>
ブレード設定画面.....	147
ポートの関連付け.....	148
ポートの関連付け解除 .....	151
<b>履歴.....</b>	<b>152</b>
<b>お気に入り.....</b>	<b>153</b>
<b>ユーザー設定.....</b>	<b>156</b>
<b>セッション .....</b>	<b>159</b>
<b>アクセス .....</b>	<b>161</b>
デバイスレベルでのブラウザ GUI インターフェース .....	161
ポートレベルでのブラウザ GUI インターフェース.....	162
デバイスレベルでのアプリケーション GUI インターフェース.....	164
ポートレベルでのアプリケーション GUI インターフェース .....	166
変更内容の保存 .....	167
<b>ポート設定.....</b>	<b>168</b>
デバイスレベル .....	168
ポートレベル.....	171
<b>第 7 章 ユーザー管理.....</b>	<b>178</b>
<b>概要.....</b>	<b>178</b>
Web ブラウザインターフェース .....	178

GUI インターフェース .....	178
<b>ユーザー .....</b>	<b>180</b>
ユーザーの作成.....	180
ユーザーアカウントの編集.....	185
ユーザーアカウントの削除.....	186
<b>グループ .....</b>	<b>187</b>
グループの作成.....	187
グループの編集.....	189
グループの削除.....	189
<b>ユーザーとグループ.....</b>	<b>190</b>
ユーザータブを使ってユーザーをグループに登録するには .....	190
ユーザータブを使ってグループからユーザーを削除するには .....	191
グループタブを使ってユーザーをグループに登録するには.....	192
グループタブを使ってグループからユーザーを削除するには .....	193
<b>デバイスの割り当て.....</b>	<b>194</b>
ユーザータブからデバイスの操作権限を割り当てるには .....	194
グループタブからデバイスの操作権限を割り当てるには.....	198
<b>第 8 章 デバイス管理.....</b>	<b>201</b>
<b>KVM デバイス .....</b>	<b>201</b>
デバイス情報.....	201
操作モード.....	204
ネットワーク .....	206
ANMS .....	211
セキュリティ .....	219
日付/時刻.....	232
免責事項(ブラウザインターフェースのみ) .....	234
<b>ブレードサーバー .....</b>	<b>235</b>
設定画面.....	235
ブレードサーバーの設定 .....	236
ブレードサーバーの変更・削除 .....	237
Web アクセス.....	238
<b>第 9 章 ログ .....</b>	<b>239</b>
<b>概要.....</b>	<b>239</b>
ブラウザ GUI .....	239
アプリケーション GUI.....	239
<b>ログ情報.....</b>	<b>240</b>

フィルター .....	240
通知設定.....	244
<b>第 10 章 メンテナンス.....</b>	<b>245</b>
<b>概要.....</b>	<b>245</b>
ブラウザ GUI .....	245
アプリケーション GUI.....	245
<b>メインファームウェアのアップグレード .....</b>	<b>246</b>
<b>ファームウェアアップグレードのリカバリー .....</b>	<b>247</b>
<b>コンピューターモジュールのファームウェアアップグレード .....</b>	<b>248</b>
コンピューターモジュールのアップグレード.....	248
モジュールファームウェア情報 .....	250
ディスプレイ情報 .....	250
モジュールディスプレイ情報の更新 .....	251
<b>コンピューターモジュールのファームウェア アップグレードリカバリー .....</b>	<b>251</b>
<b>バックアップ/復元 .....</b>	<b>252</b>
バックアップ .....	252
リストア .....	253
<b>ターミナル .....</b>	<b>254</b>
<b>システム運用.....</b>	<b>256</b>
ポートネームのクリア .....	256
デフォルト設定に戻す .....	256
終了時にリセット.....	256
<b>第 11 章 ダウンロード.....</b>	<b>258</b>
<b>概要.....</b>	<b>258</b>
<b>第 12 章 ポート操作 .....</b>	<b>259</b>
<b>概要.....</b>	<b>259</b>
<b>ポートへの接続.....</b>	<b>260</b>
<b>ポートツールバー .....</b>	<b>261</b>
ツールバーアイコン .....	262
ツールバーホットキーによるポート切替 .....	263
ポートアクセスタブの再呼び出し .....	265
GUI ホットキー一覧表 .....	265
<b>パネルアレイモード.....</b>	<b>266</b>
パネルアレイツールバー .....	267
<b>マルチユーザーによる操作.....</b>	<b>268</b>
ユーザーとバス .....	270

<b>第 13 章 ログサーバー</b> .....	<b>271</b>
インストール .....	271
ログサーバーの起動 .....	272
メニューバー .....	273
設定 .....	273
イベント .....	274
オプション .....	277
ヘルプ .....	277
ログサーバーのメイン画面 .....	278
概要 .....	278
リストパネル .....	279
イベントパネル .....	279
<b>付録</b> .....	<b>280</b>
<b>製品仕様</b> .....	<b>280</b>
KN2116VA.....	280
KN4116VA.....	283
KN2124VA.....	286
KN4124VA.....	289
KN1132V.....	292
KN2132VA.....	295
KN4132VA.....	298
KN8132V.....	301
KN4164V.....	304
KN8164V.....	307
KN2140VA.....	310
KN4140VA.....	313
<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>316</b>
製品全般に関するトラブルシューティング .....	316
マウスに関するトラブルシューティング .....	319
バーチャルメディアに関するトラブルシューティング .....	321
Web ブラウザに関するトラブルシューティング .....	322
Windows クライアントに関するトラブルシューティング .....	323
Java アプレットと Java クライアント AP に関するトラブルシューティング .....	325
Sun に関するトラブルシューティング .....	326
Mac に関するトラブルシューティング .....	327
Red Hat に関するトラブルシューティング .....	327

ログサーバーに関するトラブルシューティング .....	328
パネルアレイモードに関するトラブルシューティング .....	329
<b>IP アドレスの設定 .....</b>	<b>332</b>
ローカルコンソール .....	332
IP インストーラー .....	332
ブラウザ .....	334
<b>IPv6 .....</b>	<b>335</b>
リンクローカルアドレス .....	335
ステートレス自動設定 .....	336
<b>ポートの転送 .....</b>	<b>337</b>
<b>キーボードエミュレーション .....</b>	<b>338</b>
Mac キーボード .....	338
Sun キーボード .....	339
<b>PPP モデム操作 .....</b>	<b>340</b>
基本セットアップ .....	340
ダイヤルイン接続 セットアップ例 (Windows XP) .....	342
<b>KA7140 の設定および操作 .....</b>	<b>343</b>
設定方法 .....	343
操作方法 .....	345
KA7140 ピンアサイン .....	345
<b>内部シリアルインターフェースの設定 .....</b>	<b>346</b>
ナビゲーション .....	346
操作方法 .....	347
スイッチレベルでの設定 .....	347
ポートレベルでの設定 .....	349
<b>その他のマウス同期方法 .....</b>	<b>351</b>
Windows .....	352
Sun/Linux .....	354
<b>その他のビデオ解像度の設定 .....</b>	<b>355</b>
<b>信頼された証明書 .....</b>	<b>356</b>
概要 .....	356
証明書のインストール .....	357
証明書のインストール完了 .....	358
<b>自己署名(プライベート)証明書 .....</b>	<b>361</b>
例 .....	361
ファイルのインポート .....	362

ファンの位置と速度.....	363
ファンの位置 .....	363
ログイン情報の消去 .....	364
工場出荷時のデフォルト設定 .....	366
シリアルアダプターのピンアサイン .....	367
対応 KVM スイッチ .....	367
対応電源管理デバイス .....	368
対応 PDU .....	368
バーチャルメディア対応 .....	369
Windows クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通).....	369
Java クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通).....	369

## EMC 情報

---

### FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

**FCC による注意:**本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

**CE による注意:**本製品は Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。その際は、ユーザーご自身にて、適切な処置を行ってください。

**注意:**本製品は CISPR 32 の Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。





## RoHS

---

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

## 安全にお使い頂くために

---

### 全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源の上限を把握しておき、これを超えないように注意してください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適

合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。

- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
  - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
  - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
  - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
  - 電源コードが破損した。
  - 装置の上に液体をこぼした。
  - 装置が雨や水にぬれた。
  - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
  - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
  - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加で必要になることがあります。
- ◆ 本製品は固定させて使用するよう設計されているため、通常の動作中には動かさないようにしてください。
- ◆ Cat 5e/6 ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

## ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

## バッテリー



- ◆ 不適切なタイプのバッテリーに交換された場合、爆発する危険性があります。使用済のバッテリーは、関連する指示に従って処分してください。

## 同梱品

---

本製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8164V IP-KVM スイッチ ×1
- ◆ 電源コード(3P,100V) ×2
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs) ×2
- ◆ ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具 ×1
- ◆ SA0142 シリアルアダプター  
(製品側 : RJ-45 メス、シリアルデバイス側 : DB9 オス、DTE→DCE) ×2  
※KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/  
KN8164V のみ
- ◆ フットパッド(4pcs) ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド\* ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

---

\* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

---

## 本マニュアルについて

---

このユーザーマニュアルは、KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8164Vに関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法に関する情報を提供します。

マニュアル構成は下記のとおりです。

- 第1章 はじめに:**製品の機能概要および各部名称について説明します。
- 第2章 セットアップ方法:**製品の基本的なハードウェアセットアップの手順や簡単な操作方法について説明します。
- 第3章 スーパーアドミニストレーターによる初期設定:**製品のネットワーク環境の設定、デフォルトユーザーのアカウント/パスワードの変更など、スーパーアドミニストレーターが製品を最初に利用する際に必要となるセットアップの方法について説明します。
- 第4章 ログイン:**ローカルコンソール、Web ブラウザ、専用アプリケーション (Windows アプリケーションおよび Java アプリケーションプログラム) を使った製品へのアクセス方法について説明します。
- 第5章 ユーザーインターフェース:**製品の GUI メニューの各項目について説明します。
- 第6章 ポートアクセス:**「Port Access」(ポートアクセス) タブの詳細と、ポートおよび電源アウトレット操作に関する項目の設定方法について説明します。
- 第7章 ユーザー管理:**アドミニストレーター/スーパーアドミニストレーター向け操作である、ユーザーやグループの作成・変更・削除、また、ユーザーグループの登録の各方法について説明します。
- 第8章 デバイス管理:**スーパーアドミニストレーター向け操作である、デバイスの環境設定の方法について説明します。
- 第9章 ログ:**イベントログ情報の参照、消去、エクスポートの各方法、および製品でイベント通知を行う方法について説明します。

**第10章 メンテナンス:**製品や、製品に接続されているコンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの方法について説明します。

**第11章 ダウンロード:**スタンドアロンタイプアプリケーションである、Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーのダウンロード方法について説明します。

**第12章 ポート操作:**製品に接続されているデバイスへのアクセスおよび操作の詳細方法について説明します。

**第13章 ログサーバー:**ログサーバーのインストールおよび設定方法について説明します。

**付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

## マニュアル表記について

---

[   ]                    入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1.                        番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆                        ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→                        矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。



## 用語

本マニュアルでは、ユーザーおよび IP-KVM スイッチに接続されたデバイスに関して「ローカル」と「リモート」という用語を使って表現しています。

ユーザーおよびサーバーは状況に応じて「ローカル」と表現されることもあれば、「リモート」と表現されることもあります。

### ◆ IP-KVM スイッチ側から見た場合

- リモートユーザー - 「スイッチから離れた」場所からネットワーク経由で製品にログインしているユーザーを、「リモート」ユーザーと呼びます。
- ローカルコンソール - 製品に直接接続された、キーボード、マウス、モニターのことを指します。
- サーバー - KVM ケーブルを介して製品に接続されているコンピューターのことを指します。

### ◆ ユーザー側から見た場合

- ローカルクライアントユーザー - 「離れた」場所にある KVM スイッチを自身のコンピューターから操作している人を「ローカルクライアントユーザー」と呼びます。
- リモートサーバー - ローカルクライアントユーザーから見たリモートサーバーのことを指します。というのは、これらのサーバーは製品にローカル接続されているものの、ユーザーからは離れた場所にあるからです。

本マニュアルでは、システム構成全体について説明をする場合は、基本的には IP-KVM スイッチ側の観点に立って説明します。この場合、ユーザーがリモート側と見なされます。また、ユーザーがネットワーク経由でブラウザ、ビューワー、またアプリケーションを使って行う操作について説明する場合は、ユーザー側の観点に立って説明します。この場合、製品およびその配下にあるサーバーがリモート側と見なされます。

# 第1章 はじめに

## 概要

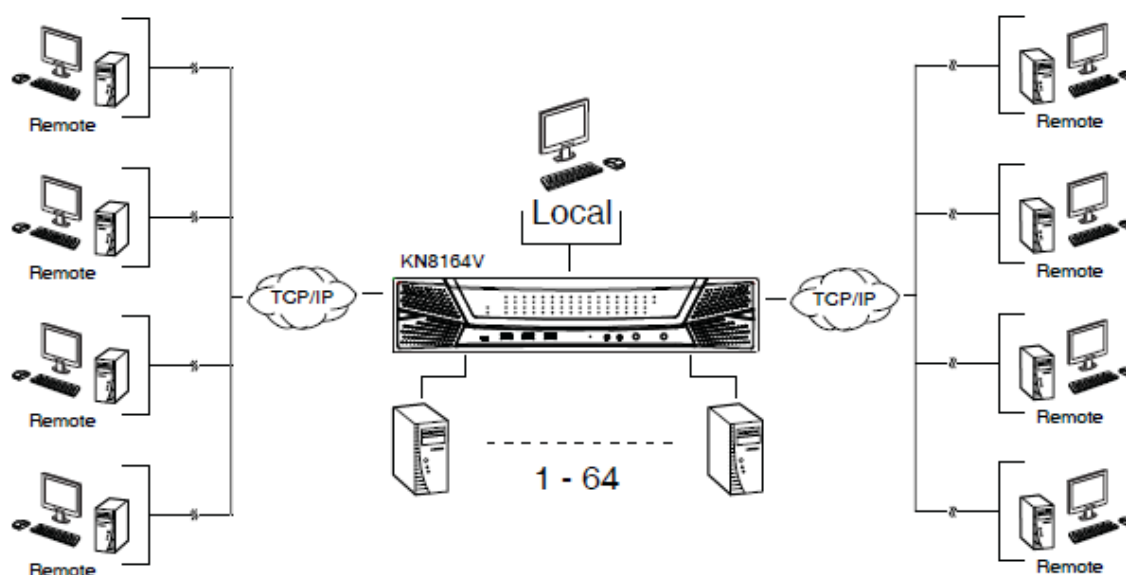
KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8164V は、ローカルおよびリモートユーザーが1コンソールから複数のサーバーを参照したり、これらのサーバーにアクセスしたりすることができる IP-KVM スイッチです。本シリーズの IP-KVM スイッチは、単体の機器構成において16/24/32/40/64 台のサーバーを、また、2段階のカスケード接続の機器構成において最大512 台のサーバーをそれぞれ操作することが可能です。各 IP-KVM スイッチは、解像度の向上(最大1920×1200 対応)、バーチャルメディア機能の USB デバイスへのアクセスにおけるデータ転送速度の向上、そして FIPS 140-2 Level 1 セキュリティ標準への準拠といった点が、従来機種から改良されています。

本シリーズの IP-KVM スイッチは、バス数と KVM ポート数の種類も豊富な、以下のラインナップを提供しております。

型番	対応バス数	サイズ	KVM ポート
KN2116VA	ローカル : 1、リモート : 2	1U	16
KN4116VA	ローカル : 1、リモート : 4	1U	16
KN2124VA	ローカル : 1、リモート : 2	1U	24
KN4124VA	ローカル : 1、リモート : 4	1U	24
KN1132V	ローカル : 1、リモート : 1	1U	32
KN2132VA	ローカル : 1、リモート : 2	1U	32
KN4132VA	ローカル : 1、リモート : 4	1U	32
KN8132V	ローカル : 1、リモート : 8	1U	32
KN2140VA	ローカル : 1、リモート : 2	1U	40
KN4140VA	ローカル : 1、リモート : 4	1U	40
KN4164V	ローカル : 1、リモート : 4	2U	64
KN8164V	ローカル : 1、リモート : 8	2U	64

各バスとも個別のユーザーセッションに対応していますので、ローカルサーバーに対して、最大2バス(ローカル1ユーザー、リモート1ユーザー対応モデル)、3バス(ローカル1ユーザー、

リモート2ユーザー対応モデル)、5バス(ローカル1ユーザー、リモート4ユーザー対応モデル)、または9バス(ローカル1ユーザー、リモート8ユーザー対応モデル)の個別接続を同時に行うことができます。次のページにある接続図は、KN8164V がローカル 1 セッションとリモート 8 セッションを使って、どのように接続できるかを表しています。



製品は通信プロトコルとしてTCP/IPを使用していますので、LAN、WAN、またはインターネットに接続できる環境であればどこからでも - オフィスや街角からでも IP アドレスでアクセスすることができます。リモートユーザーはWeb ブラウザやスタンドアロンアプリケーションであるWindows クライアント、Java クライアントの各専用ツールを使って製品にログインすることが可能です。とりわけ、JavaクライアントはOracle Java Runtime Environment(JRE)が動作するプラットフォームであれば、Windows、Mac、Linux といった各種対応 OS で動作が可能です。

クライアントツールを使用すると、製品に接続されているコンピューターとキーボード、ビデオ、マウスの各信号を、ローカルにセットアップされたKVMスイッチを直接操作しているときと同様の感覚でやり取りすることが可能です。

リモートバスは最大 32 ユーザーで共有することができます。ユーザー間でのポート共有をスムーズに行えるように、メンバー間の対話を可能にするメッセージボード機能を提供しています。

本製品の導入によって、アドミニストレーターはGUIアプリケーションのインストールや実行から、BIOS レベルのトラブルシューティング、定期モニタリング、同時メンテナンス、システム管理、再起動、起動前の機能に至るまで、あらゆる運用業務を簡単に行うことができます。

ローカルコンソールは、キーボードによるホットキー、または、フルスクリーン対応の GUI 画面を使って操作することができます。

製品に接続されたサーバーの画面のモニタリングを容易にするために、便利なオートスキャン機能を提供し、ユーザーが定義した時間間隔でポートを自動的に切り替えて表示します。また、パネルアレイモードを利用すると、最大 64 ポートのサーバーのデスクトップ画面を同時に表示することも可能です。

製品は RJ-45 コネクタを有し、Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルを使用してサーバーを接続します。この省スペース設計によって、わずか 1U の筐体に 16/24/32/40 ポートを、また、2U の筐体に 64 ポートを、それぞれ搭載することに成功しました。またネットワーク接続にも LAN ケーブルを使用しますので、TCP/IP ネットワークが利用できる環境であれば、簡単に導入いただけます。

セットアップに必要な作業は、必要なケーブルを適切に接続するだけですので、簡単で時間もかかりません。キーボードの入力信号はそのまま製品に送られますので、ソフトウェアの複雑なセットアップも不要。互換性の問題に悩まされることもありません。

ファームウェアはインターネット経由でアップグレードできますので、最新版を弊社 Web サイトからダウンロードし、製品に適用することで、新しい機能をご利用いただけます。

先端のセキュリティ機能を搭載した本製品を導入することで、スピード、信頼性、費用対効果のいずれの点においても、最も優れた方法で各地に分散する多数のサーバーのリモート管理を実現します。

本製品は、モジュール ID、OS、キーボード言語、アダプター名、操作モードなどのポート情報を格納できるモジュール ID 機能に対応していますので、コンピューターモジュールを別のポートに付け替えると、設定を本体側で変更することなく、そのまま使用することができます。さらに、これらのモジュールは、別の IP-KVM スイッチに接続したとしても、格納されたポート情報をそのまま引き継ぎますので、再設定の必要がありません。

本シリーズの IP-KVM スイッチでは、リモートアクセスしているコンピューター上の USB DVD/CD/ハードディスクドライブやその他のストレージメディアを、KVM スイッチ配下のサーバーにマウントして使用することが可能です。この機能によって、ファイル転送、アプリケーションや OS の更新、診断プログラムの実行がリモートから簡単に実行できます。TCP/IP ネットワークが利

用できる環境であれば、ユーザーはどこからでも、製品に接続されたサーバーのアップグレードが可能です。

また、本シリーズの製品は冗長電源にも対応していますので、片方の電源に問題が生じた場合はもう片方の電源が自動的に連動し、製品への電源供給が継続されます。さらに、電源の二重化によってサーバールームの電源障害による影響を避けることも可能です。お使いのサーバールームに複数系統の電源がある場合、製品の電源ケーブルを別の系統の電源に接続しておくと、電源を二重化することが可能ですので、サーバールームの電源が電力不足になった場合でも、自動的にもう片方の電源を使うことで、動作を続けることができます。

また、各モデルは、内蔵ファンを制御する温度センサーを搭載しています。これらのセンサーは、サーバールームの気温に応じてファンが適切なスピードで稼働するように自動的に調節しますので、エネルギーを有効活用できるだけでなく、ファンやスイッチをより長い間お使いいただくこともできます。

また、これらのモデルは、オーディオにも対応しています。ローカル側はスピーカーとマイク、また、リモート側はスピーカーの使用がそれぞれ可能です。

## 特長

---

### ハードウェア

- ◆ RJ-45 コネクタおよび Cat 5e/6 ケーブルを使用して、1U サイズのハウジングに 16 ポート ( KN2116VA/KN4116VA )、24 ポート ( KN2124VA/KN4124VA )、32 ポート ( KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V )、または 40 ポート ( KN2140VA/KN4140VA ) を、また、2U サイズのハウジングに最大 64 ポート ( KN4164V/KN8164V ) をそれぞれ搭載
- ◆ リモートからの IP アクセスに独立した 1/2/4/8 バスセッション
- ◆ 10/100/1000Mbps 対応ネットワークインターフェースを 2 ポート搭載 - ネットワークの二重化や異なる IP アドレスの設定が可能
- ◆ ブレードサーバー対応
- ◆ PS/2、USB および RS-232 シリアル接続対応
- ◆ ローカルコンソールは USB キーボード・マウスに対応
- ◆ マルチプラットフォーム ( Windows、Mac、Linux、Sun、VT100 ベースシリアル ) 対応
- ◆ 解像度 - ( ローカルコンソール ) 1920×1200@60Hz、24-bit 色深度 / ( リモートコンソール ) 1920×1200@60Hz、24-bit 色深度 ( 最大 50m )
- ◆ オーディオ対応
- ◆ デュアル電源供給対応
- ◆ 単体で 64 台まで、カスケード接続をすれば最大 512 台のコンピューターを監視・操作することが可能\*

※対応 KVM スイッチ - CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)

### 管理

- ◆ 最大 64 名のユーザーアカウントが作成可能
- ◆ 最大 32 名のユーザーが同時に操作を共有可能
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターはユーザーセッションを手動で終了することが可能
- ◆ 温度によって回転速度が変化するグリーン IT ファン搭載
- ◆ イベントログ、Windows ベースのログサーバー対応
- ◆ 重大なシステムイベントの発生時には SMTP メールで通知。SNMP トラップ、Syslog 対応

- ◆ カスタマイズ可能なイベント通知機能
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ アウトオブバンドアクセス - モデムのダイヤルイン/ダイヤルアウト/ダイヤルバック接続に対応 (KN1132V/KN2116VA/KN4116VA/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V)
- ◆ モジュールID 保存機能 - モジュールのポート変更後もデバイス情報を自動認識。製品側では再設定不要
- ◆ ポート共有モードにより複数ユーザーからのサーバーへの同時アクセスが可能
- ◆ 統合管理システム CC2000 対応
- ◆ 互換性のある KVM over IP コンソールステーション (KA8270/KA8280/KA8278/KA8288)
- ◆ 電源管理デバイスとの連携を強化 - KVM ポートを PDU 製品の電源アウトレットに関連付けし、製品インターフェースを使ったサーバー電源のリモート管理が可能に
- ◆ IPv6 対応

## 可用性

- ◆ パネルアレイモード - ローカルコンソールのオペレーターおよびリモートアクセスユーザーの両方で利用可能
- ◆ 統合された日本語対応インターフェース - ローカルコンソール、ブラウザメニュー等の GUI は多言語に対応しているため、ユーザーの訓練時間を短縮し、生産性の向上が可能
- ◆ マルチプラットフォームクライアント対応 (Windows、Mac OS X、Linux、Oracle 社 SPARC(Sun))
- ◆ 各種 Web ブラウザに対応 (IE、Chrome、Firefox、Safari、Opera)
- ◆ Web ブラウザを使ったリモートアクセス - 事前に Java ソフトウェアパッケージをインストールしなくても、Web ブラウザだけで操作可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップを複数起動し、同一ログインセッションから複数のサーバーに接続可能
- ◆ マジックパネル - 設定可能な機能アイコンが付いた特殊な折り畳み式コントロールパネル
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ キーボード・マウスブロードキャスト機能 - キーボード・マウスの入力には製品配下にある全サーバーで複製が可能
- ◆ ローカルコンソールの自動同期 - ローカルコンソールモニターの EDID 情報はコンピューターモジュール内に保存されるので、最適な解像度で表示可能
- ◆ ATEN PadClient 対応 - IP-KVM スイッチに接続されたコンピューターに対してリモートからセキュアにアクセスすることができる iPad 用モバイルアプリ

## 高度なセキュリティ

- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ ブラウザログイン時のパスワード入力を TSL 1.2 データ暗号化および RSA 2048 ビット証明書で保護
- ◆ キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号を個別に暗号化可能 (56 ビット DES、168 ビット 3DES、256 ビット AES、128 ビット RC4、またはランダムより選択)
- ◆ IP アドレス、MAC アドレスによるフィルタリング機能
- ◆ サーバーへのアクセス許可や操作許可をユーザー毎およびグループ毎に設定可能
- ◆ CSR 自動生成機能およびサードパーティーの認証機関による認証に対応

## バーチャルメディア

- ◆ バーチャルメディアを使用して、ファイルアプリケーション、OS のパッチ、ソフトウェアのインストールや診断テストが可能
- ◆ バーチャルメディアは USB 対応サーバーにおいて OS および BIOS レベルで動作可能
- ◆ DVD/CDドライブ、USB マスストレージデバイス、PC ハードドライブおよび ISO イメージ対応
- ◆ KA7166/KA7168/KA7169/KA7177/KA7188/KA7189 コンピューターモジュールに接続したサーバーでは、スマートカードリーダーに対応

## バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ 帯域制御機能 - ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて自動調整。モノクロ色深度設定、データ圧縮率のしきい値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能
- ◆ 高性能のグラフィックで最高画質を提供
- ◆ フルスクリーンビデオ表示、リサイズ可能ビデオ表示ともに対応
- ◆ リモートユーザーのコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載
- ◆ マウスダイナシク機能 - ローカル/リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ 終了マクロ対応
- ◆ 多言語対応ソフトウェアキーボード搭載
- ◆ BIOS レベルでのアクセス可能



## 新型 KN シリーズに特化した特長

- ◆ FPGA グラフィックプロセッサ搭載で高解像度表示が可能
- ◆ バーチャルメディア転送速度が従来機種の 2 倍の速さに
- ◆ リモートからの IP アクセスに独立した 1/2/4/8 バスセッションを使用
- ◆ FIPS 140-2 Level 1 セキュリティ標準準拠で高度なセキュリティを実現

## システム要件

---

### リモートクライアントコンピューター

リモートクライアントコンピューター(または、クライアントコンピューター)とは、インターネット経由で製品にログインする際に使用されるコンピューターのことを指します(p.19「用語」参照)。これらのコンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ プロセッサが Pentium III 1GHz 以上、解像度が 1024×768 以上のコンピューターをお使いください。
- ◆ Internet Explorer 8 以上の Web ブラウザをお使いください。
- ◆ TLS 1.2 データ暗号化通信に対応している Web ブラウザをお使いください。
- ◆ ネットワーク転送速度が 512kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ Web ブラウザで動作する Windows クライアント Active X ビューワーの動作環境には、Direct X 8 がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 150MB 以上あることを確認してください。
- ◆ Web ブラウザで動作する Java クライアントビューワーの動作環境には、Oracle Java Runtime Environment(JRE)がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 205MB 以上あることを確認してください。
- ◆ アプリケーション版 Windows クライアントの動作環境には、Direct X 8 がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 90MB 以上であることを確認してください。
- ◆ アプリケーション版 Java クライアントの動作環境には、Oracle Java Runtime Environment(JRE)がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 145MB 以上であることを確認してください。
- ◆ ログサーバーの動作環境には、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上のドライバーがインストールされていることを確認してください。

## サーバー

サーバーとは、コンピューターモジュール経由で製品に接続されているコンピューターのことを指します (p.19「用語」参照)。これらのコンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA またはマルチスキャン対応ポート
- ◆ USB Type-A ポートおよびUSB ホストコントローラー(USB タイプのコンピューターモジュールを使用する場合)
- ◆ ミニ DIN6 ピンに対応したキーボードポート、マウスポート(PS/2 タイプのコンピューターモジュールを使用する場合)

## コンピューターモジュール



- ◆ 本製品とコンピューターモジュール間の接続には Cat 5e 以上の LAN ケーブルが必要です (p.54 参照)。
- ◆ 本製品に対応しているコンピューターモジュールは下表のとおりです。

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	VGA・PS/2 コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用	KA7120	ミニ DIN6 ピン オス ミニ DIN6 ピン オス D-sub15 ピン オス
	VGA・USB タイプコンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用	KA7170※1	USB Type-A オス D-sub15 ピン オス
	VGA・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用 (バーチャルメディア対応)	KA7175	USB Type-A オス D-sub15 ピン オス
	VGA・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用 (バーチャルメディア&オーディオ対応)	KA7176	USB Type-A オス D-sub15 ピン オス オーディオプラグ×2

(表は次のページに続きます)

製品画像	機能	型番	コネクター仕様
	VGA・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応)	KA7177	USB Type-A オス×2 D-sub15 ピン オス
	VGA・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(デュアルバス&バーチャルメディア&オーディオ対応)	KA7178	USB Type-A オス D-sub15 ピン オス オーディオプラグ×2
	DVI-D・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応)	KA7166	USB Type-A オス×2 DVI-D オス
	HDMI・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応)	KA7168	USB Type-A オス×2 HDMI オス
	DisplayPort・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応)	KA7169	USB Type-A オス×2 DisplayPort オス
	シリアル対応	KA7140	DB-9 ピン メス

(表は次のページに続きます)

製品画像	機能	型番	コネクタ仕様
	HDMI・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカード&オーディオディエンベデッド対応)	KA7188	USB Type-A オス×2 HDMI オス
	DisplayPort・USB コンソールポートを持つコンピューターとの接続に使用(バーチャルメディア&スマートカード&オーディオディエンベデッド対応)	KA7189	USB Type-A オス×2 DisplayPort オス

**注意:**

1. Oracle 社 SPARC(Sun)にも対応しています。
2. 既にお使いのコンピューターモジュールを本製品で使用する場合は、ファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしてください(p.248 参照)。

## OS

- ◆ 製品にログインする際に使用するリモートクライアントコンピューターの対応 OS は、Windows 2000 以降です。また、Windows 以外の環境(Linux、Mac、Sun)では、Oracle Java Runtime Environment(JRE) 6 Update 3 以降のバージョンが動作可能であることをご確認ください。
- ◆ 製品の KVM ポートに接続できるリモートサーバーの対応 OS は以下のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	Fedora	Core 2 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降*
DOS		6.2 以降

## Web ブラウザ

本製品にリモートログインするには以下の Web ブラウザを使用してください。

ブラウザ		バージョン
IE		8 以降
Chrome		8.0 以降
Firefox	Windows	3.5 以降
	Linux	3.0 以降
Safari	Windows	4.0 以降
	Mac	3.1 以降

---

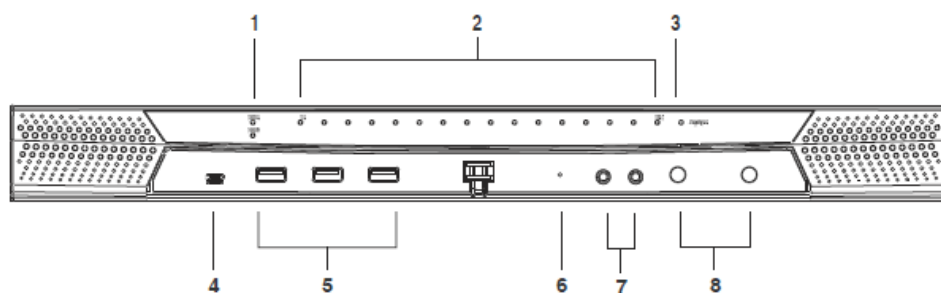
\* 詳細については p.327 をご参照ください。

---

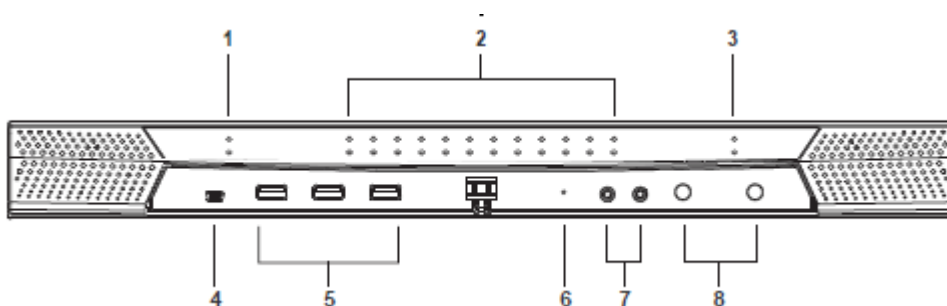
## 製品各部名称

---

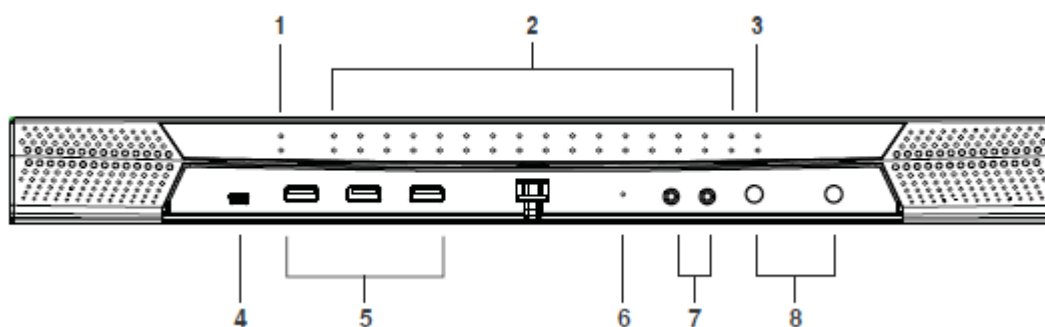
### KN2116VA/KN4116VA フロントパネル



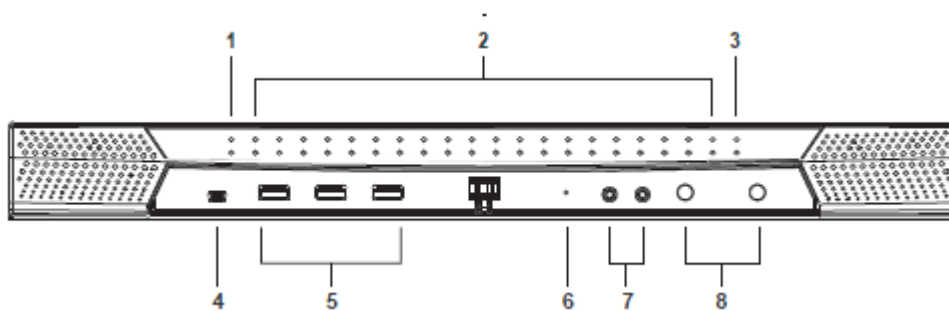
### KN2124VA/KN4124VA フロントパネル



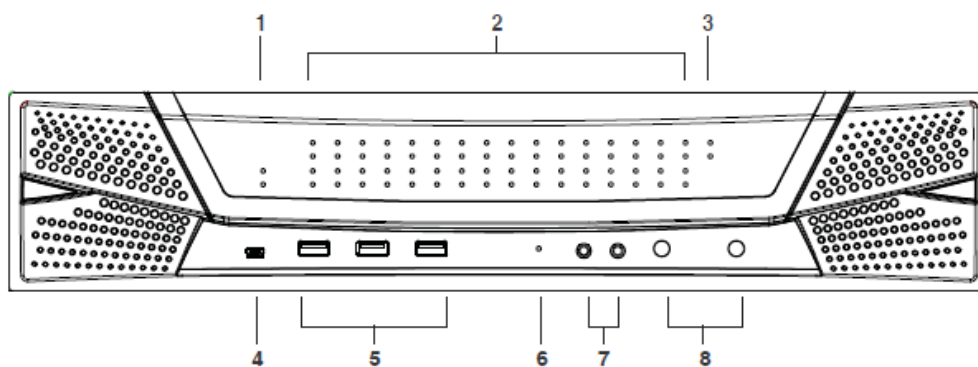
### KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V フロントパネル



KN2140VA/KN4140VA フロントパネル



KN4164V/KN8164V フロントパネル



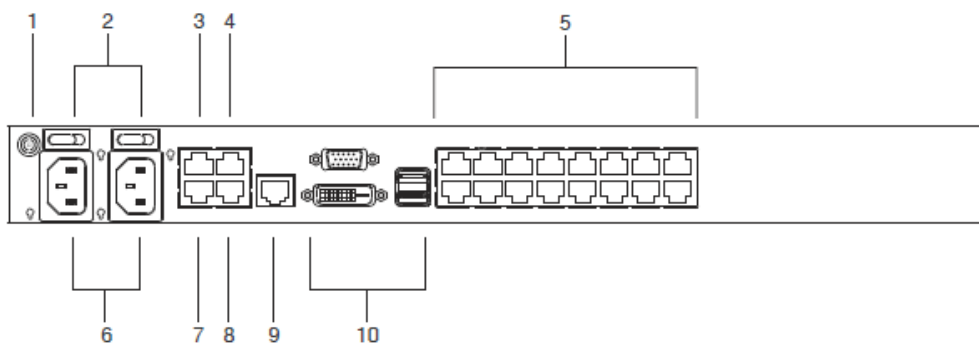


No.	名称	説明
1	電源 LED ランプ	製品に電源が入り操作が可能になると、この LED ランプが点灯します。
2	ポート LED ランプ	<p>各 LED ランプは、対応する KVM ポートの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ グリーン: 当該ポートに接続されているコンピューターがオンラインであることを表します。</li> <li>◆ レッド: 当該ポートに接続されているコンピューターが製品に選択されている(すなわち、KVM 操作が可能である)ことを表します。</li> <li>◆ オレンジ: 当該ポートに接続されているコンピューターがオンラインで、かつ製品に選択されていることを表します。</li> </ul> <p>通常、この LED ランプは点灯していますが、ポートがオートスキャンモード、またはスキップモードでアクセスされている間は 0.5 秒間隔で点滅します (p.263、p.264 参照)。</p>
3	LAN LED ランプ	<p>プライマリー、セカンダリーの各インターネットインターフェースのデータ転送速度を表す LED ランプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ レッド: 10Mbps</li> <li>◆ オレンジ: 100Mbps</li> <li>◆ グリーン: 1000Mbps</li> </ul> <p>製品がネットワーク経由でアクセスされている間は、この LED ランプが点滅します。</p>
4	ラップトップ USB コンソールポート	コンピューターやノートパソコンを接続してローカル側からアクセスしたり操作したりする際に使用するための USB ポートです。
5	USB ポート	USB キーボードや USB マウスを接続するポートです。リアパネルのポートの代わりとして、もしくはリアパネルのポートに追加してキーボードやマウスを接続することができます。このポートには、CD/DVD ドライブ、ハードディスクドライブ、USB フラッシュメモリなどの USB ストレージデバイスを接続することもできます。

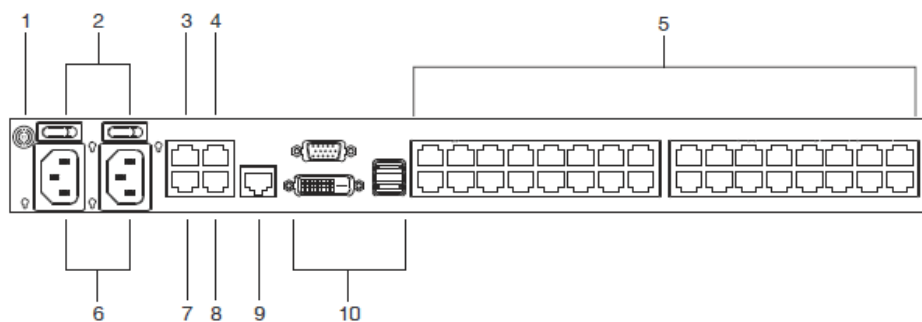
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
6	リセットスイッチ	<p><b>注意:</b>このスイッチは、クリップやボールペンのような先の尖った物を使って押してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 製品の動作中にこのスイッチを押して離すとシステムリセットを実行します。</li> <li>◆ 製品の動作中にこのスイッチを 3 秒以上長押しすると、システム設定を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。</li> </ul> <p><b>注意:</b>この操作でユーザーアカウントの情報は消去されません。ユーザーアカウントの消去に関する詳細は p.364「ログイン情報の消去」をご参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ このスイッチを押しながら製品に電源を入れると、工場出荷時にインストールされたバージョンのファームウェアに戻ります。ファームウェアアップグレードに失敗した場合でも、この操作を行うことで作業をやり直すことができます。</li> </ul> <p><b>注意:</b>この操作は、ファームウェアアップグレードの結果、製品が操作できなくなった場合にのみ行ってください。</p>
7	オーディオポート	スピーカーやマイクを接続します。
8	ポート切替ボタン	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「PORT DOWN」ボタンを押すと、現在選択されているポートの前のポートに手動で切り替えます。</li> <li>◆ 「PORT UP」ボタンを押すと、現在選択されているポートの次のポートに手動で切り替えます。</li> </ul>

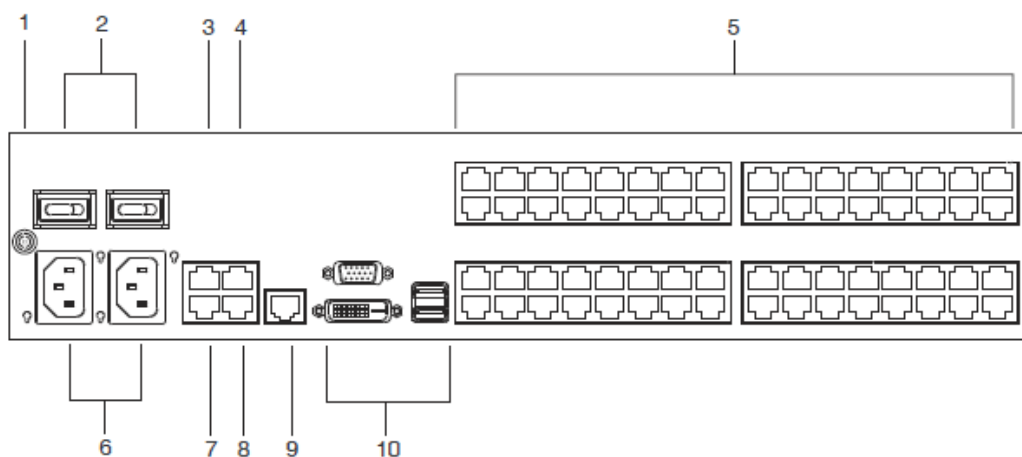
## KN2116VA/KN4116VA リアパネル



## KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V リアパネル

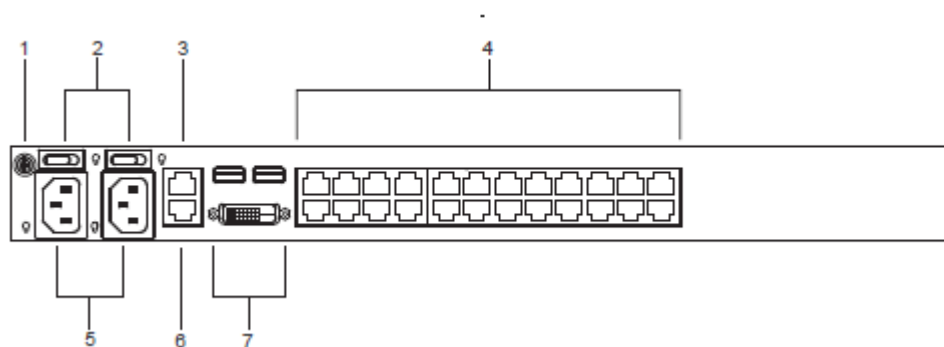


## KN4164V/KN8164V リアパネル

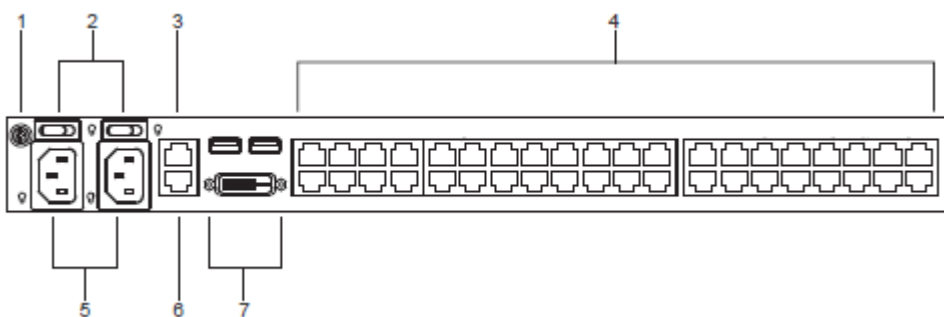


No.	名称	説明
1	接地ターミナル	接地線をここに接続し、製品本体を接地します。
2	電源スイッチ	ユニットの電源の ON/OFF を操作するスイッチです。
3	セカンダリーLAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、セカンダリーのバックアップネットワーク(10/100/1000Mbps)として認識されます。
4	PON ポート	電源管理デバイスと接続することで、本製品に接続されたサーバーの電源をリモート操作することができます。 セットアップの詳細については p.55 の手順 6 をご参照ください。なお、電源管理デバイスに関する詳細は、販売代理店にお問い合わせください。
5	KVM ポート	(コンピューターにつながっている)コンピューターモジュールとこの部分を、Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルで接続します。
6	電源ソケット	電源ケーブルを接続するソケットです。左側の電源ソケットは左側の電源スイッチに、右側の電源ソケットは右側の電源スイッチにそれぞれ対応しています。
7	プライマリーLAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、マスター側となるプライマリーネットワーク(10/100/1000Mbps)として認識されます。
8	シリアルポート	このポートはシリアル機器用に使用できます。または、TCP/IP ネットワークが利用できない場合、このポートを使ってダイヤルイン接続することで製品を利用することが可能になります。セットアップの詳細については p.55 「単体構成でのセットアップ ( KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V)」 の手順 7 をご参照ください。
9	リモートコンソール ポート	こちらのポートは、将来的なファームウェアアップグレードによってリモートコンソールポートとして使用できるように予約されています。
10	ローカルコンソール ポート	製品は、TCP/IP ネットワーク経由、またはローカルコンソールからアクセスすることができますが、ローカルコンソールで使用する場合は、キーボード (USB)、モニター (DVI-D または VGA)、マウス (USB) をこの部分に接続します。

## KN2124VA/KN4124VA リアパネル



## KN2124VA/KN4124VA リアパネル



No.	名称	説明
1	接地ターミナル	接地線をここに接続し、製品本体を接地します。
2	電源スイッチ	ユニットの電源の ON/OFF を操作するスイッチです。
3	セカンダリーLAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、セカンダリーのバックアップネットワーク(10/100/1000Mbps)として認識されます。
4	KVM ポート	(コンピューターにつながっている)コンピューターモジュールとこの部分を、Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルで接続します。
5	電源ソケット	電源ケーブルを接続するソケットです。左側の電源ソケットは左側の電源スイッチに、右側の電源ソケットは右側の電源スイッチにそれぞれ対応しています。
6	プライマリーLAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、マスター側となるプライマリーネットワーク(10/100/1000Mbps)として認識されます。
7	ローカルコンソールポート	製品は、TCP/IP ネットワーク経由、またはローカルコンソールからアクセスすることができますが、ローカルコンソールで使用する場合は、キーボード (USB)、モニター (DVI-I)、マウス (USB) をこの部分に接続します。

# 第2章

## セットアップ方法

### 概要

---

PS/2 と USB インターフェースが混在したマルチプラットフォームの環境でもお使いいただけるように、製品とサーバーの間の接続には各サーバーのインターフェースに対応したコンピューターモジュールと呼ばれるデバイスを使用します (p.57「コンピューターモジュール接続図」参照)。

コンピューターモジュールは製品に接続するサーバーやデバイスごとに必要となります。本製品に対応しているコンピューターモジュールの型番の詳細については p.29「コンピューターモジュール」に記載されていますので、そちらをご参照ください。

### セットアップの前に

---



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.12 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。電源ケーブルも抜いてください。

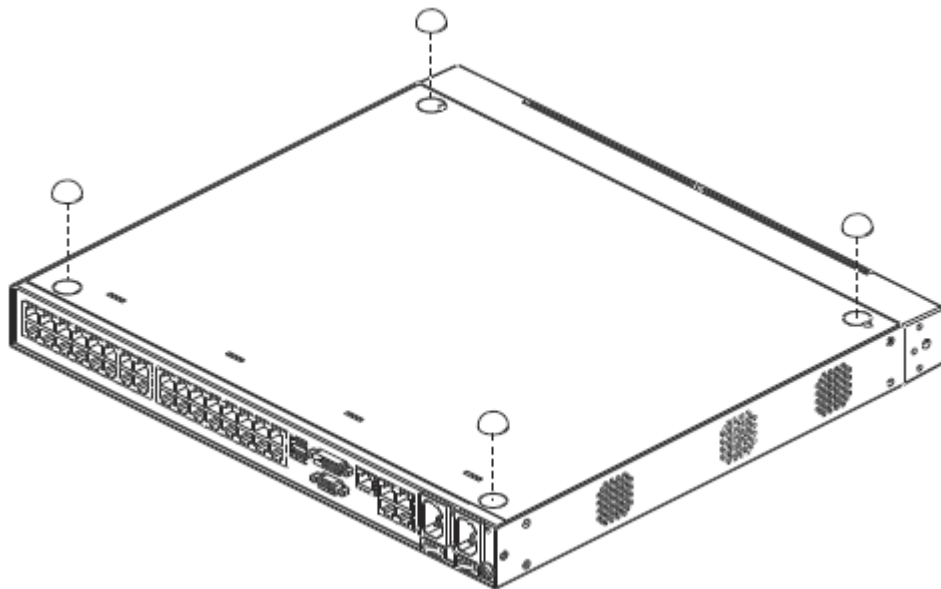
## デバイスの卓上設置とラックマウント

---

製品は卓上に置いたり、ラックのフロント側・リア側にマウントしたりして使用することができます。以下のセクションでは製品の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

### 卓上設置

本体と接続されるケーブルの重量に耐えられる安定した水平な場所であれば、どんな場所にも製品を設置することが可能です。製品本体や、製品にカスケード接続されたユニットを置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。



---

**注意:** 機器への通気を確保するために、製品の両側面は5cm以上、また、背面は配線のスペースを考慮して15cm以上の空間を設けるようにしてください。

---



## 設置方法(KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/

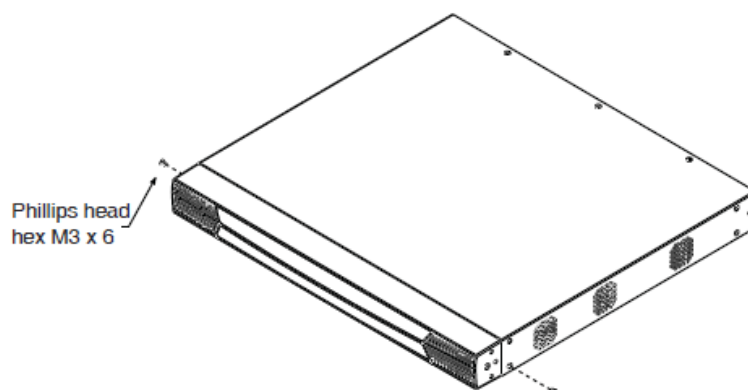
## KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA)

これらのモデルは EIA 規格 19 インチラックに 1U サイズでマウントできる製品です。マウントブラケット用のネジ穴は機器のフロント側とリア側に設けてありますので、用途に応じて製品本体をラックのフロント側とリア側のどちらにでも取り付けることが可能です。

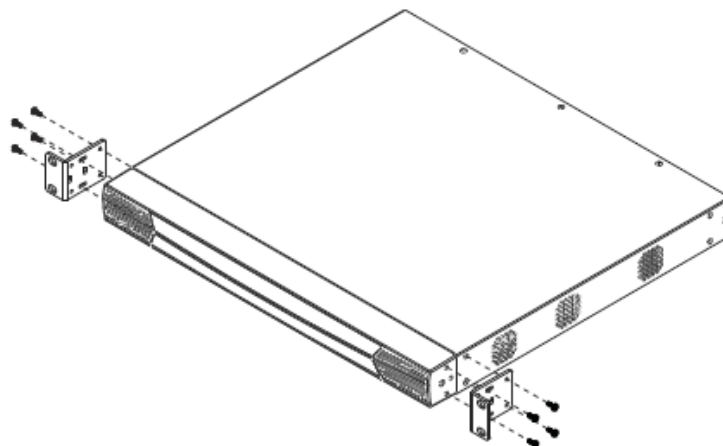
### ラックのフロント側にマウントする場合

製品をラックのフロント側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

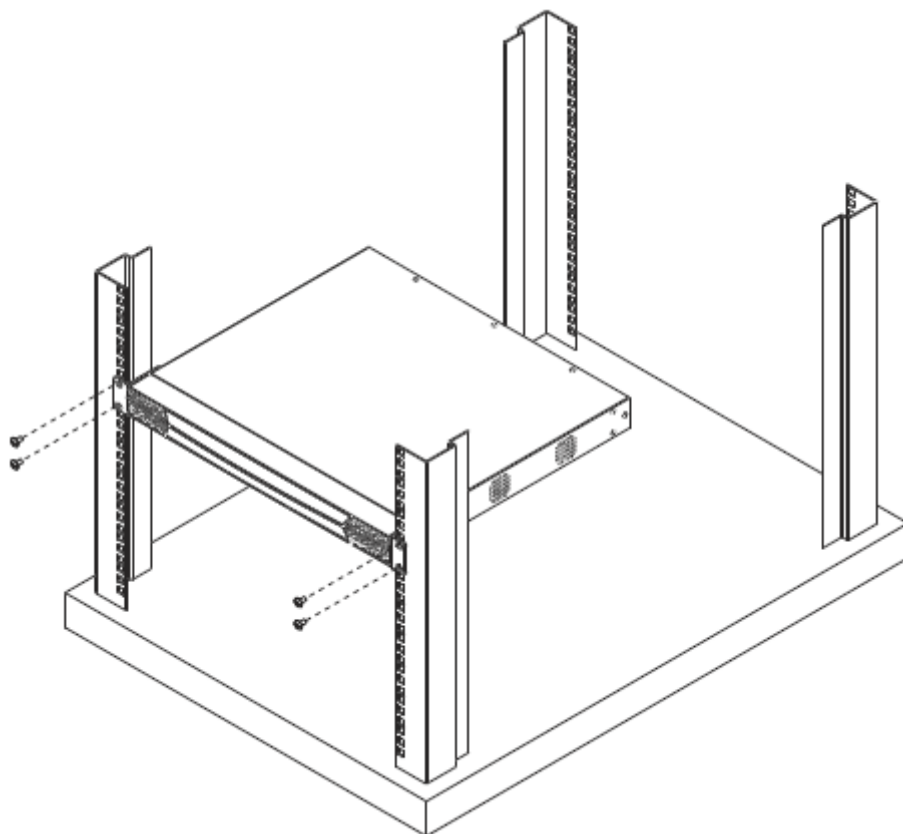
1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。



2. 製品同梱のラックマウントキットにある M3 プラスネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のように本体のフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。



---

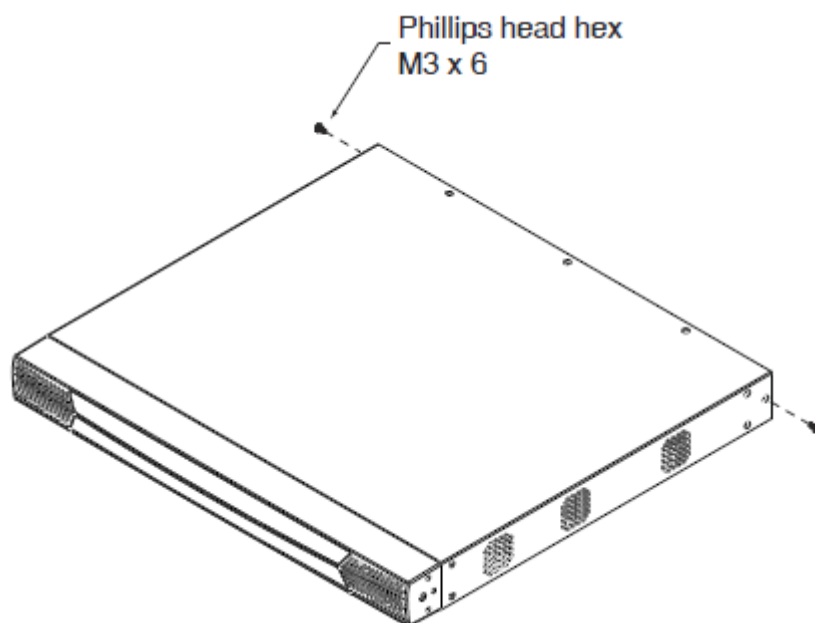
**注意:** ケージナットは製品には同梱されていないので、お手数ですが別途ご用意ください。

---

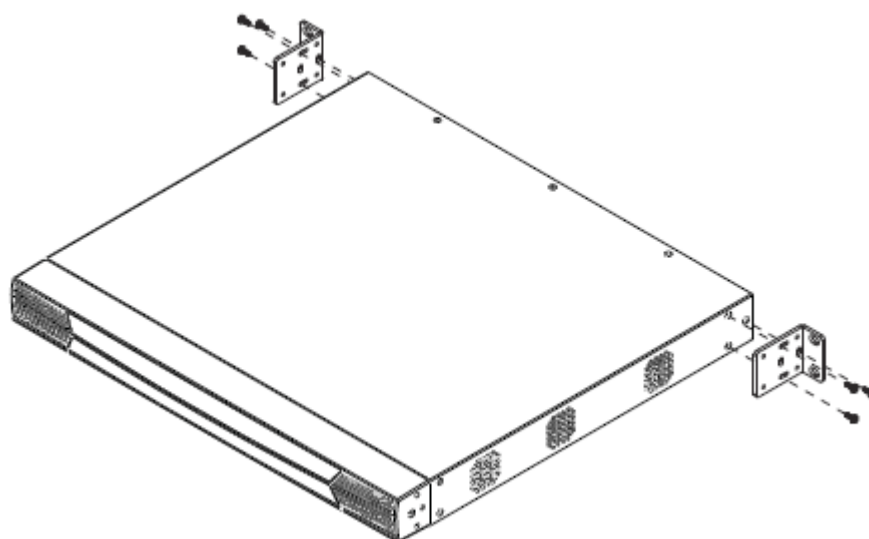
## ラックのリア側にマウントする場合

製品をラックのリア側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

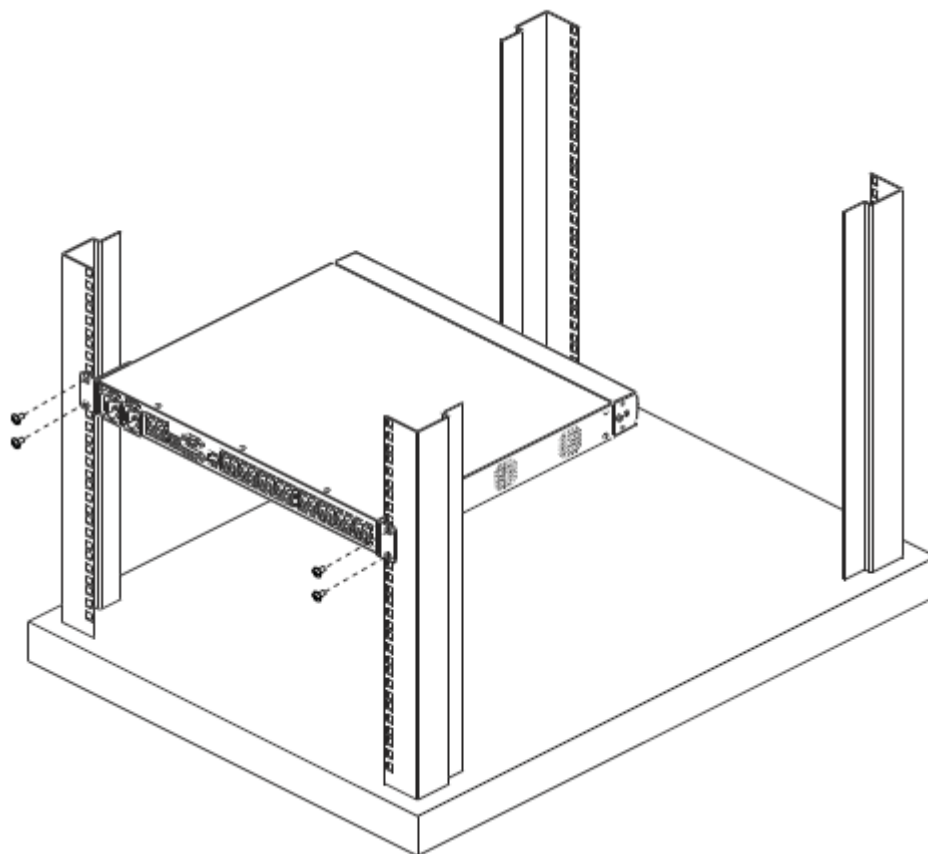
1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。



2. 製品に同梱のラックマウントキットにある M3 プラスネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のようにリア側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのリア側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。



---

**注意:** ケージナットは製品には同梱されていませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

---

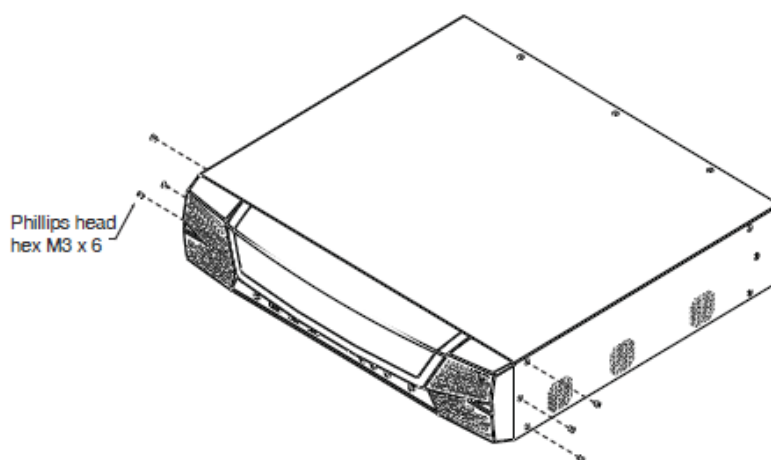
## KN4164V/KN8164V の設置方法

KN4164V/KN8164V は EIA 規格 19 インチラックに 2U サイズでマウントできる製品です。マウントブラケット用のネジ穴は機器のフロント側とリア側に設けてありますので、用途に応じて製品本体をラックのフロント側、リア側のどちらにでも取り付けることが可能です。

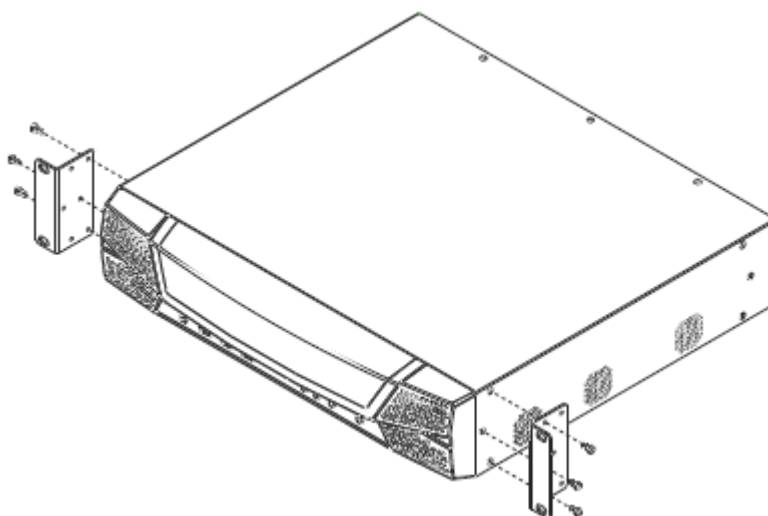
### ラックのフロント側にマウントする場合

製品をラックのフロント側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

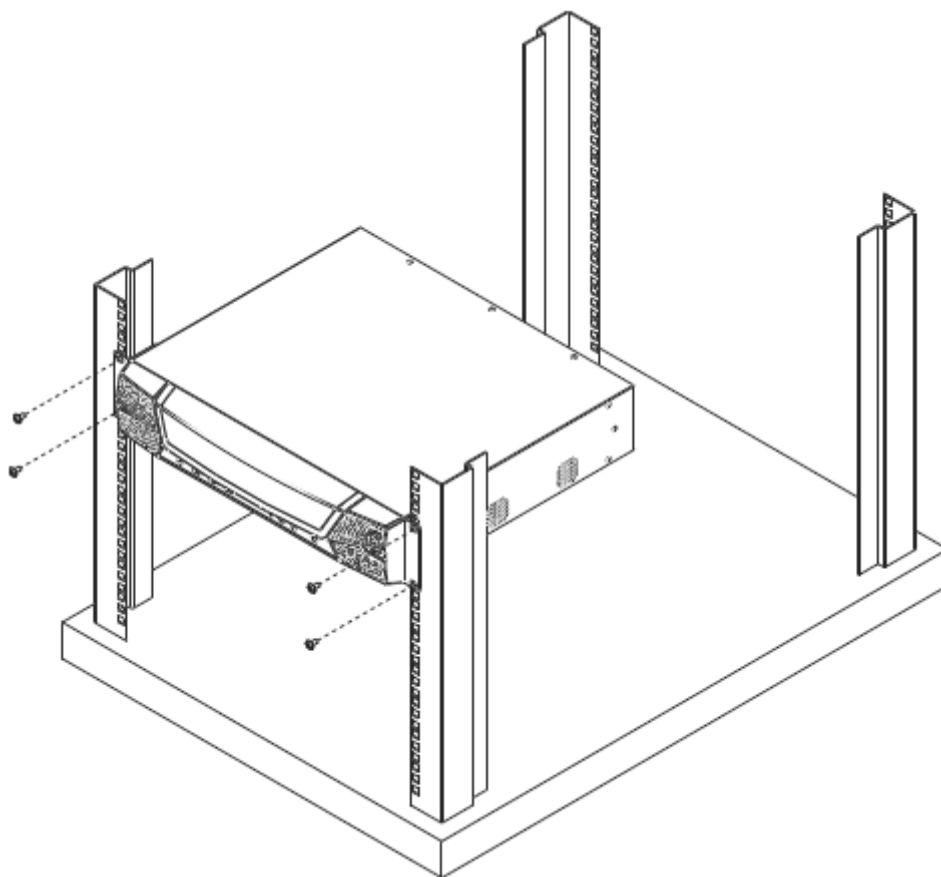
1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。



2. 製品に同梱のラックマウントキットにある M3 プラスネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のように本体のフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。



---

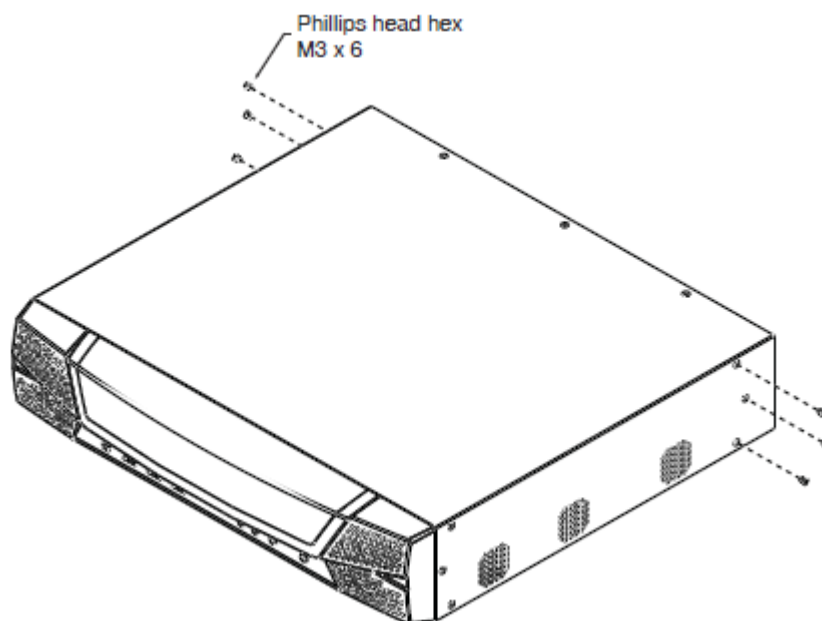
**注意:** ケージナットは製品には同梱されていませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

---

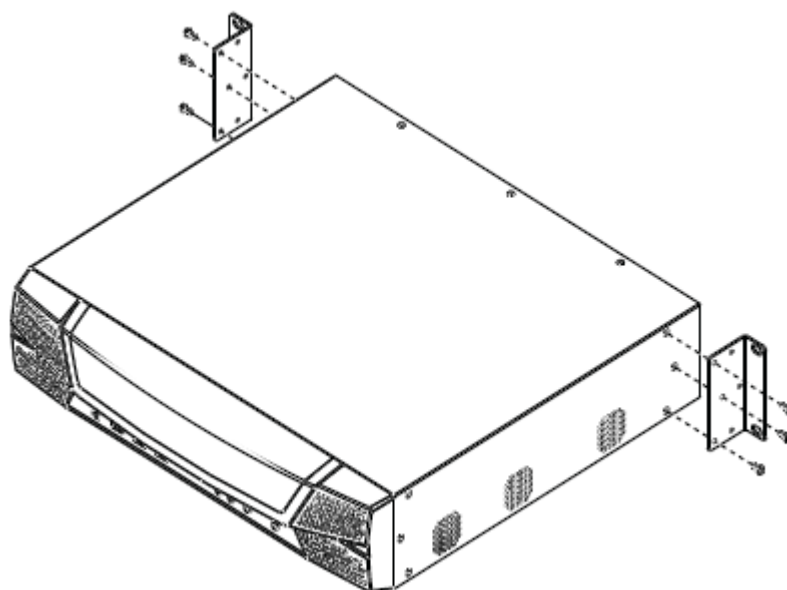
## ラックのリア側にマウントする場合

製品をラックのリア側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

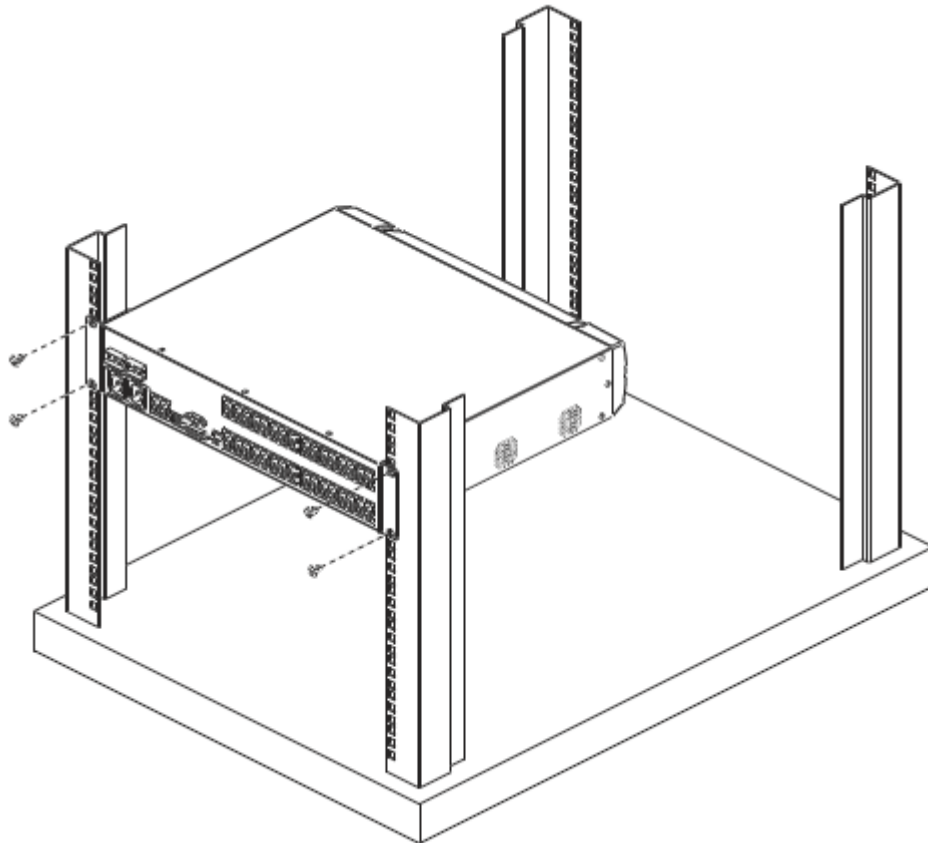
1. 下図のように、ブラケットを取り付ける側についているネジをはずします。



2. 製品に同梱のラックマウントキットにある M3 プラスネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のようにリア側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品を、ラックのリア側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。



---

**注意:** ケージナットは製品には同梱されていませんので、お手数ですが別途ご用意ください。

---



## 単体構成でのセットアップ

### (KN2124VA/KN4124VA/ KN2140VA/KN4140VA)

---

製品を単体構成で使用する場合は、他の KVM スイッチをカスケード接続する必要はありません。単体構成で使用する場合は、p.53 の接続図(図内における番号は手順に対応)をご参照の上、以下の手順でセットアップしてください。

1. ローカルコンソールで使用するデバイス(キーボード、モニター、マウス)を、製品本体にあるコンソールポートに接続してください。ポートはアイコンと色分けによって、接続するデバイスが容易に識別できるようになっています。

---

**注意:**

1. USB キーボードと USB マウスは、ローカルコンソールポートの他に、フロントパネルの USB ポートにも接続してお使いいただけます。
2. 製品とローカルモニターの距離が 20m 以内になるようにセットアップしてください。

---

2. サーバーに接続されているコンピューターモジュールと製品の KVM ポートを、Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルで接続してください(コンピューターモジュールの詳細については p.29 をご参照ください)。

---

**注意:**

1. コンピューターモジュール KA7120、KA7130 を使用する場合は、p.351 のマウスポインターの同期方法をご確認の上、設定を行ってください。
2. コンピューターモジュール KA7140 を使用する場合は、p.343 の内容をご確認の上、設定を行ってください。
3. 製品とコンピューターモジュール間の距離が以下の範囲内になるようにセットアップしてください。  
KA7140 使用時:300m、KA71XX 使用時(KA7140 を除く):50m

---

3. コンピューターモジュールの各コネクタをコンピューターの当該ポートに接続してください。(p.57「コンピューターモジュール接続図」参照)
4. プライマリーの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品のプライマリー

LAN ポートに接続してください。

5. (オプション)セカンダリーの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品のバックアップ(セカンダリー)LAN ポートに接続してください。
6. 接地線の片方を製品の接地ターミナルに、もう片方を適当な接地物にそれぞれ接続し、製品を接地してください。

---

**注意:** この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

---

7. 製品に同梱されている電源ケーブルを製品の電源ソケットに接続し、電源ケーブルを電源に接続してください。

片方の電源ソケットのみを使用する場合は、そのソケットに対応する電源スイッチを使って製品に電源を入れてください(p.38「電源スイッチ」参照)。両方の電源ソケットを使用する場合、片方のスイッチを使うと製品に電源が入り、両方のスイッチを使うと冗長電源を有効にすることができます。

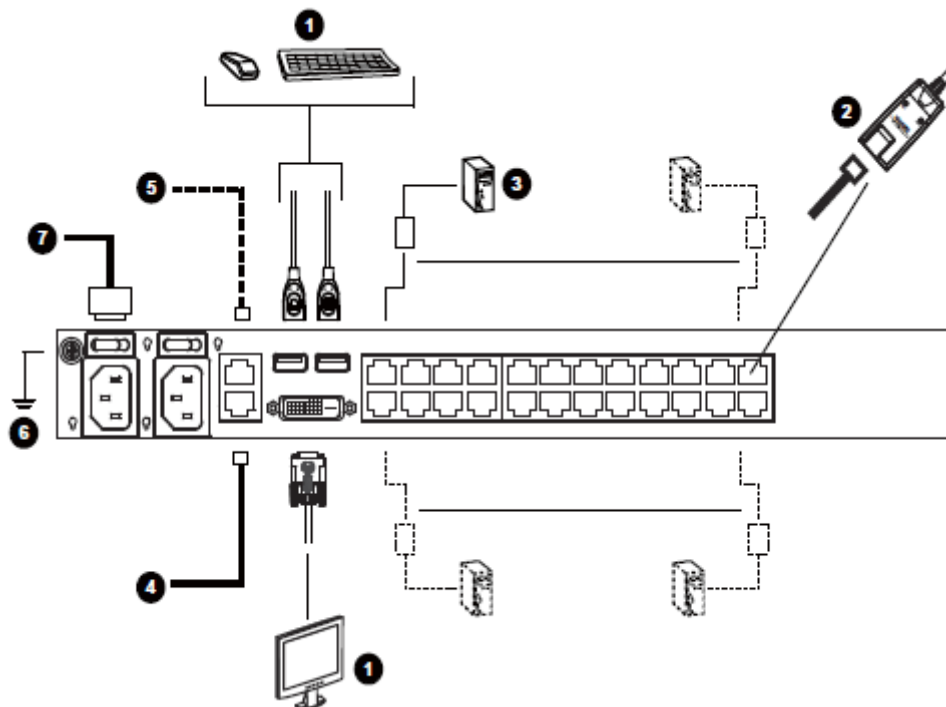
---

**注意:** 製品に UPS や電源管理デバイスを接続して使用する場合には、必ずそのデバイスに付属した電源コードを使用するようにしてください。

---

8. 必要なケーブルの配線が完了したら、製品に電源を入れてください。製品に電源が入ったら、製品に接続されているサーバーに電源を入れることができます。

## 単体構成 接続図



---

**注意:** 上図は KN2124VA を例にとったものです。これ以外の IP-KVM スイッチは KVM ポート数が異なるだけですので、基本的にはこの KN2124VA と同様の方法でセットアップすることができます。

---

## 単体構成でのセットアップ (KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/ KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V)

---

製品を単体構成で使用する場合は、他の KVM スイッチをカスケード接続する必要はありません。単体構成で使用する場合は、p.56 の接続図(図内における番号は手順に対応)をご参照の上、以下の手順でセットアップしてください。

1. ローカルコンソールで使用するデバイス(キーボード、モニター、マウス)を、製品本体にあるコンソールポートに接続してください。ポートはアイコンと色分けによって、接続するデバイスが容易に識別できるようになっています。

---

**注意:**

1. USB キーボードと USB マウスは、ローカルコンソールポートの他に、フロントパネルの USB ポートにも接続してお使いいただけます。
2. 製品とローカルモニターの距離が 20m 以内になるようにセットアップしてください。

2. サーバーに接続されているコンピューターモジュールと製品の KVM ポートを、Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルで接続してください(コンピューターモジュールの詳細については p.29 をご参照ください)。

---

**注意:**

1. コンピューターモジュール KA7120、KA7130 を使用する場合は、p.351 のマウスポインターの同期方法をご確認の上、設定を行ってください。
2. コンピューターモジュール KA7140 を使用する場合は、p.343 の内容をご確認の上、設定を行ってください。
3. 製品とコンピューターモジュール間の距離が以下の範囲内になるようにセットアップしてください。  
KA7140 使用時:300m、KA71XX 使用時(KA7140 を除く):50m

3. コンピューターモジュールの各コネクタをコンピューターの当該ポートに接続してください。(p.57「コンピューターモジュール接続図」参照)
4. プライマリーの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品のプライマリー LAN ポートに接続してください。

5. (オプション)セカンダリーの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品のバックアップ(セカンダリー)LAN ポートに接続してください。
6. (オプション)Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルを使って、リアパネルの PON ポートと、製品同梱の SA0142 を接続し、SA0142 を電源管理デバイスの PON IN ポートに接続してください。

---

**注意:**

1. 電源管理デバイスやPDUと併用する場合は、本製品の GUIメニューにおける「Device Management」(デバイス管理)→「OOBC」→「Console Port Settings」(コンソールポート設定)にアクセスして、「Baud Rate」(ボーレート)の値を 38400bps に設定してください。
2. KN と PN の両方で、CC 管理機能が無効になっていることを確認してください。
3. 本マニュアルでは PN0108 を例に挙げています。その他の対応電源管理デバイスについては p.368 をご参照ください。

---

7. (オプション)Cat 5e 以上に対応した LAN ケーブルを使って、リアパネルのシリアルポートに、製品同梱の SA0142 を接続してください。そうしたら、SA0142 のシリアルコネクタをシリアルデバイスまたはモデムの DB-9 ポートに接続してください(接続デバイスの COM ポートの設定に関する詳細は p.204「操作モード」を参照)。
8. 接地線の片方を製品の接地ターミナルに、もう片方を適当な接地物にそれぞれ接続し、製品を接地してください。

---

**注意:** この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

---

9. 製品に同梱されている電源ケーブルを製品の電源ソケットに接続し、電源ケーブルを電源に接続してください。

片方の電源ソケットのみを使用する場合は、そのソケットに対応する電源スイッチを使って製品に電源を入れてください(p.38「電源スイッチ」参照)。両方の電源ソケットを使用する場合、片方のスイッチを使うと製品に電源が入り、両方のスイッチを使うと冗長電源を有効にすることができます。

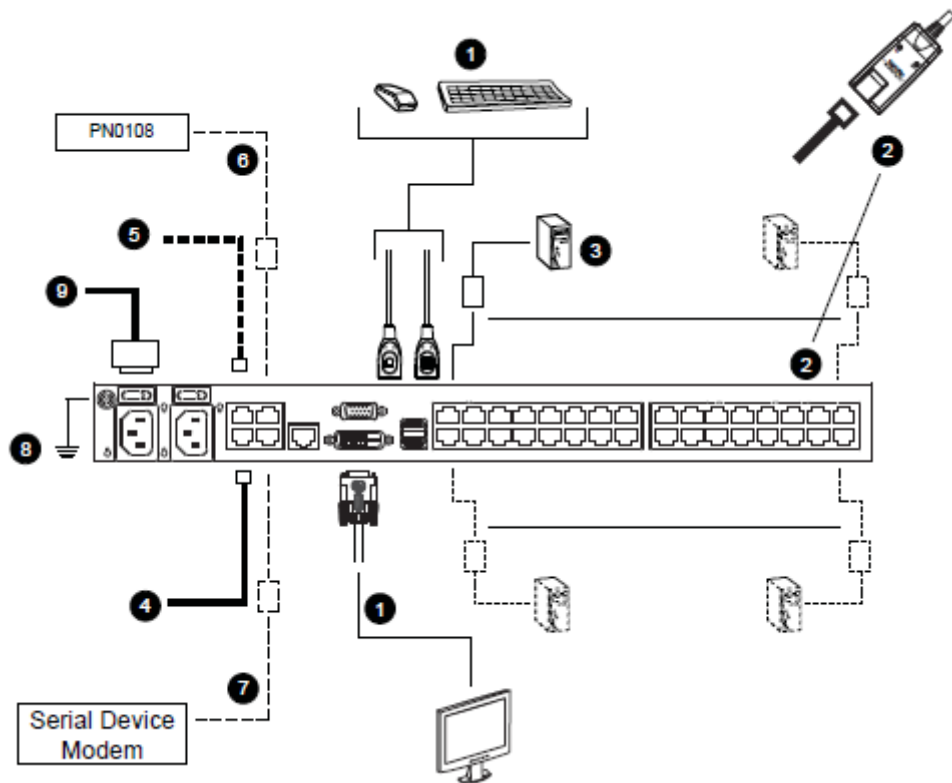
---

**注意:** 製品に UPS や電源管理デバイスを接続して使用する場合には、必ずそのデバイスに付属した電源コードを使用するようにしてください。

---

10. 必要なケーブルの配線が完了したら、製品に電源を入れてください。製品に電源が入ったら、製品に接続されているサーバーに電源を入れることができます。

## 単体構成 接続図

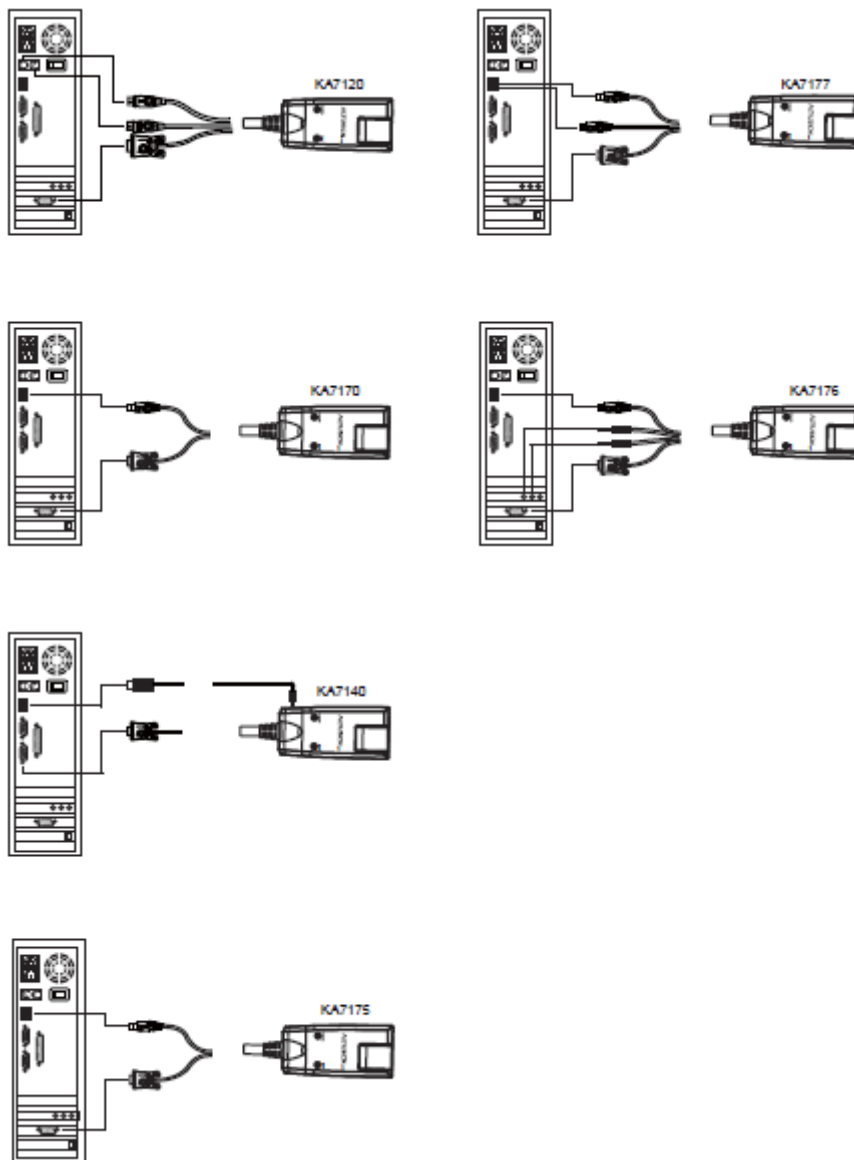


---

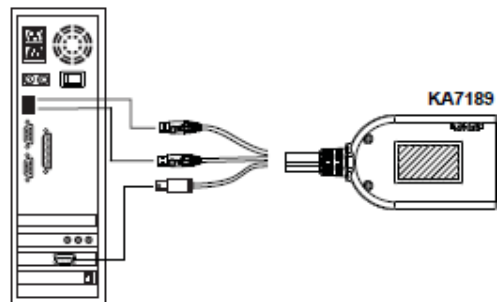
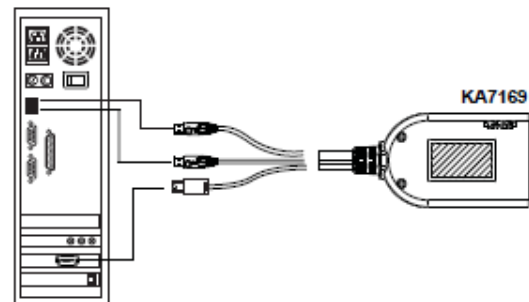
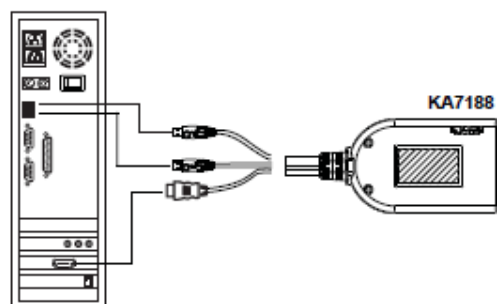
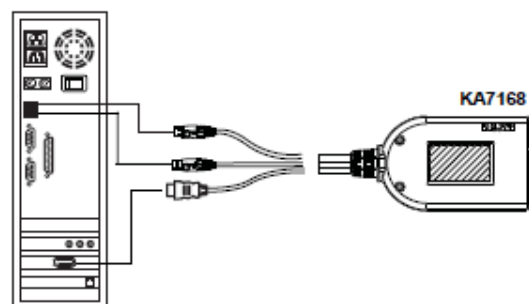
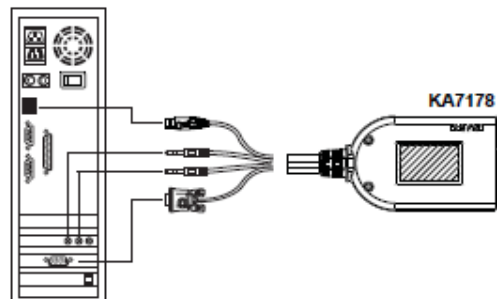
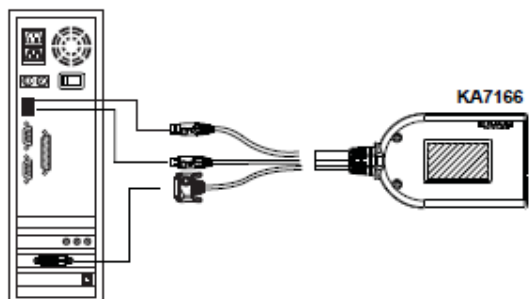
**注意:** 上図は KN8132V を例にとったものです。これ以外の KN8 シリーズの IP-KVM スイッチは KVM ポート数が異なるだけですので、基本的にはこの KN8132V と同様の方法でセットアップすることができます。

---

## コンピューターモジュール 接続図(1/2)



## コンピューターモジュール 接続図(2/2)





## 2 段階カスケード接続のセットアップ

---

KVM スイッチの最大ポート数を超えるサーバーを操作した場合は、最大 16/32 台の KVM スイッチをカスケード接続することで対応が可能です。2 段階のカスケード接続によって、最大 384 台 (KN2124VA/KN4124VA)、または 512 台 (KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA/KN4164V/KN8164V) のコンピューターを操作することができます。

カスケード接続の構成では、本シリーズの製品本体が 1 段階目のユニットとして、また、本製品とのカスケード接続に使用する KVM スイッチが 2 段階目のユニットとしてそれぞれ使用されます。

---

**注意:** 本製品には KH1516A などの KVM スイッチをカスケード接続することができます。対応 KVM スイッチの詳細については p.367 をご参照ください。

---

製品を 2 段階のカスケード接続の構成でセットアップする場合は、p.61 の接続図を参考にしながら以下の手順で作業を行ってください。

1. 製品以外の既存のデバイスを含め、セットアップするすべてのデバイスの電源が切られていることと、接地が適切に行われていることを確認してください。
2. Cat 5e に対応した LAN ケーブルで、1 段階目の KVM スイッチの使用可能なポートにコンピューターモジュール(p.29 参照)を接続してください。
3. 手順 2 で接続したコンピューターモジュールのキーボード、モニター、マウスの各コネクタを、2 段階目のユニットのコンソール部分の対応するポートにそれぞれ接続してください。

---

**注意:** 1 段階目のユニットと 2 段階目のユニットの距離が 40m(または 50m)を超えないようにセットアップしてください。(最大延長距離はコンピューターモジュールの種類により異なりますので、詳細はコンピューターモジュールの仕様をご確認ください。)

---

4. KVM ケーブル(詳細はカスケード接続する KVM スイッチのマニュアルを参照)を使って、2 段階目のユニットとセットアップするコンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポ

ートを接続してください。

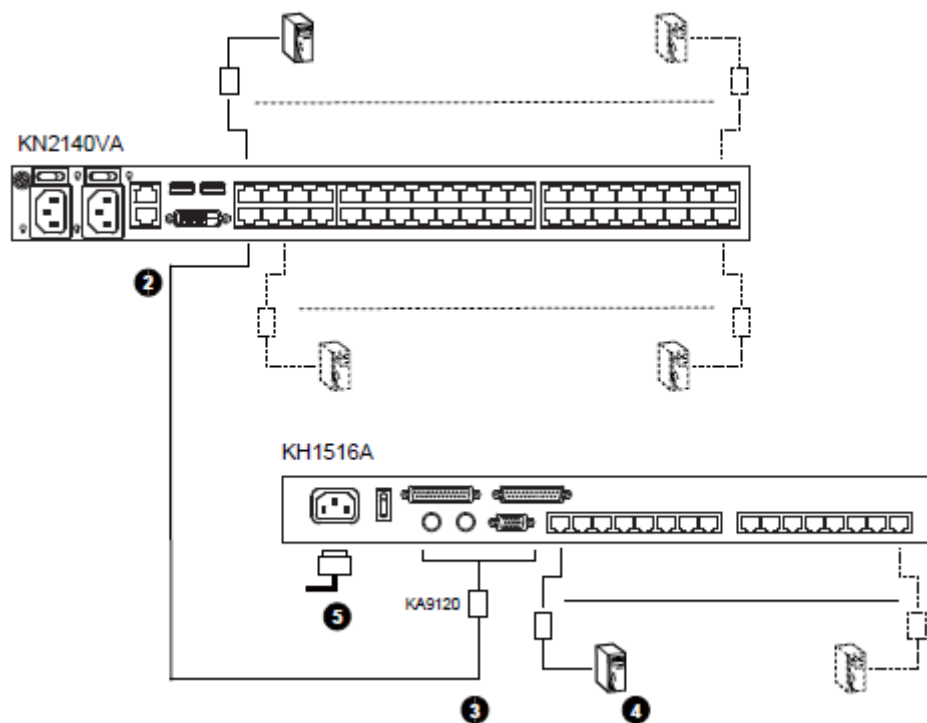
5. 製品同梱の電源ケーブルを 2 段階目のユニットの電源ソケットに接続してから電源に接続してください。
6. 他の KVM スイッチも 2 段階目のユニットとしてセットアップする場合は、同様の方法でセットアップを行ってください。
7. 2 段階目のユニットに電源を入れたら、1 段階目のユニットに電源を入れてください。
8. 製品に接続されているコンピューターに電源を入れてください。

---

**注意:** デバイスに電源を入れる場合は、まず 2 段階目のユニットすべてに電源を入れ、2 段階目のユニットに電源が入っていることを確認してから 1 段階目のユニットに電源を入れてください。すべてのユニットに電源が入ったら、ユニットに接続されているコンピューターに電源を入れることができます。

---

## 2 段階カスケード接続 接続図



---

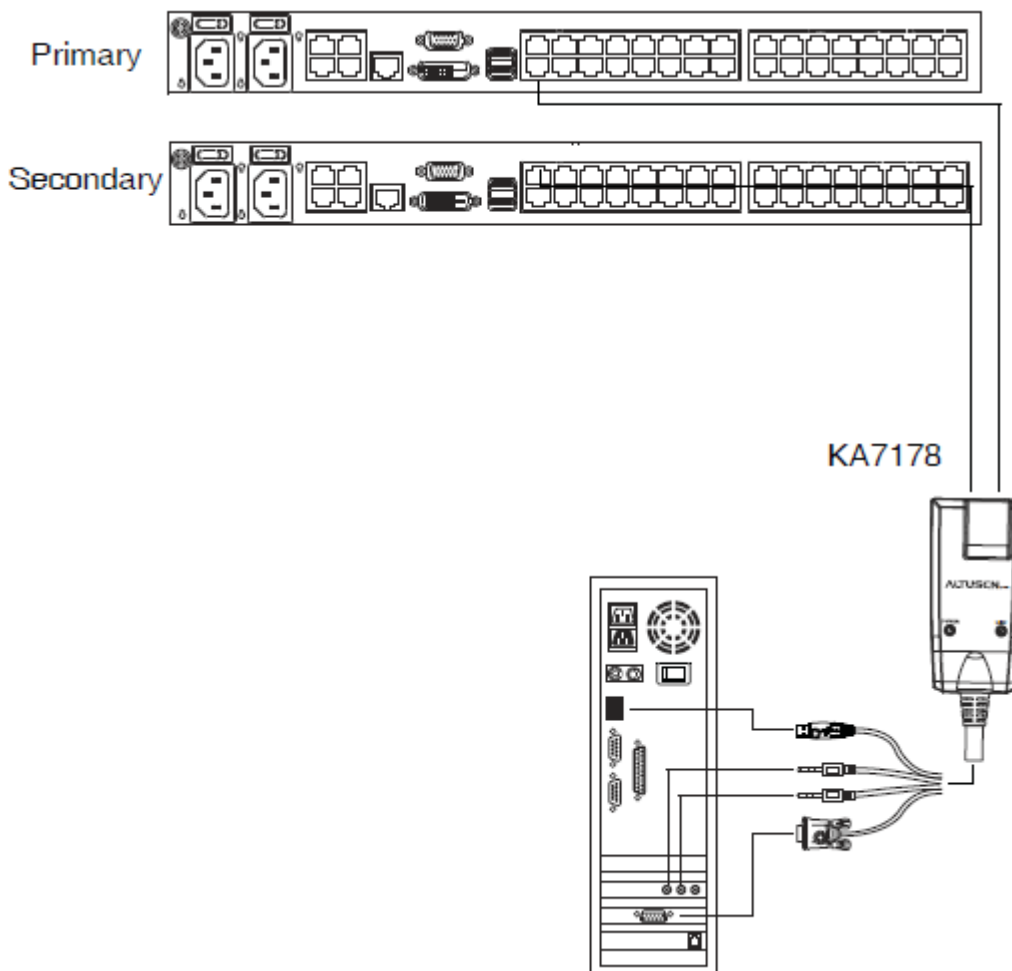
**注意:** 上図は KN2140VA を例にとったものです。これ以外の KN シリーズの IP-KVM スイッチは KVM ポート数が異なるだけですので、基本的にはこの KN2140VA と同様の方法でセットアップすることができます。

---

## チャンネル転送

これら KN シリーズの IP-KVM スイッチにコンピューターモジュール KA7178 を接続して使用すると、1 台のサーバーを 2 台の KVM スイッチに接続して、冗長可能なチャンネル転送機能を提供します。チャンネル転送とは、サーバーに対して最大 8 系統のリモート接続を追加し、KVM スイッチがオフラインになった場合のバックアップとして機能させるものです。

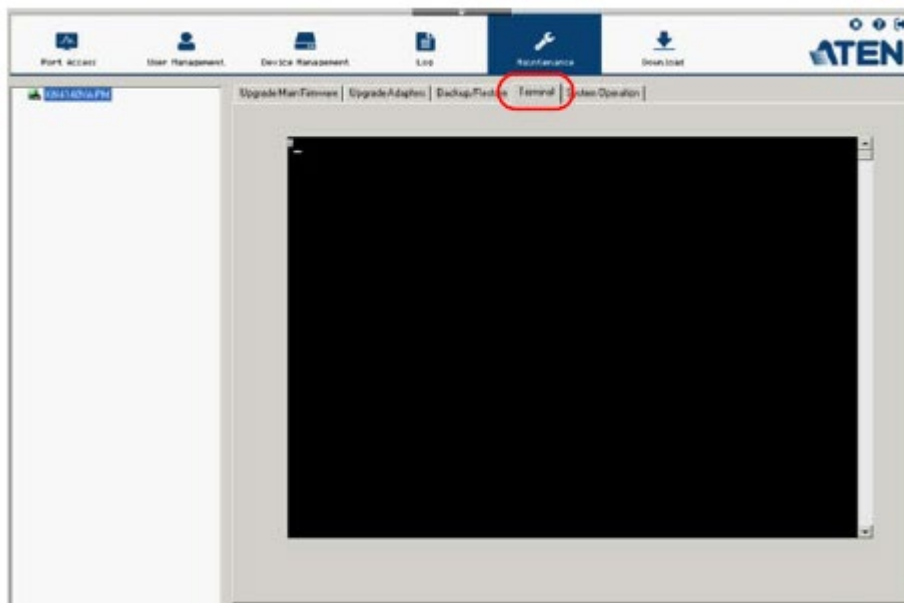
KA7178 をセットアップするには、下図および次のページにある説明を参考にしながら、両方の KVM スイッチに対してチャンネル転送の設定を行ってください。



## チャンネル転送の設定

チャンネル転送機能を設定するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。
2. メニュータブにある「Terminal」(ターミナル)をクリックしてください。



3. プライマリーおよびセカンダリーの KVM スイッチにおけるチャンネル設定を、コマンドラインから次のように行ってください。

プライマリースイッチにおけるチャンネル設定を有効にするには、下記を入力してください。

```
setvchannelmode 1
```

プライマリースイッチの IP アドレスを設定するには、セカンダリースイッチで下記を入力してください。

```
setforward [IP アドレス]
```

## PDU のセットアップ

ATEN の PDU 製品は、IT 管理者が、TCP/IP 接続によるリモートアクセスで、どこからでも、製品に接続された機器の電源をアウトレットレベルで管理することのできる機能を備えた、インテリジェント PDU です。

なお、本セクションでは、次の IP-KVM スイッチについて説明します。

KN2116VA/KN4116VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA/KN8132V/KN4164V/KN8164V

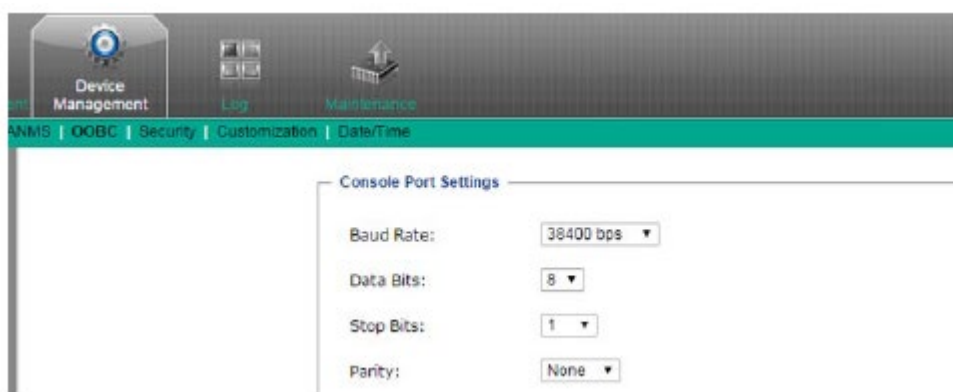
---

**注意:** 例として挙げている PDU の GUI 画面は、PE9216r のものです。他の PDU 製品の一覧については、p.368「対応 PDU」をご参照ください。

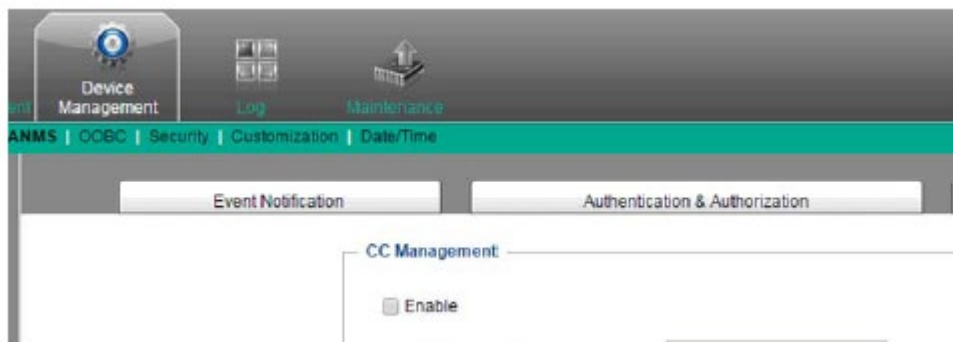
---

互換性のある IP-KVM スイッチに PDU を接続して使用する場合は、下図を参照しながら、以下の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. IP-KVM スイッチと PDU を、イーサネットスイッチに接続してください。
2. PDU の GUI にて、「Device Management」(デバイス管理)画面の「OOBC」メニューをクリックしてください。その画面の「Console Port Settings」(コンソールポート設定)で、ボーレートを 38400bps に設定してください。



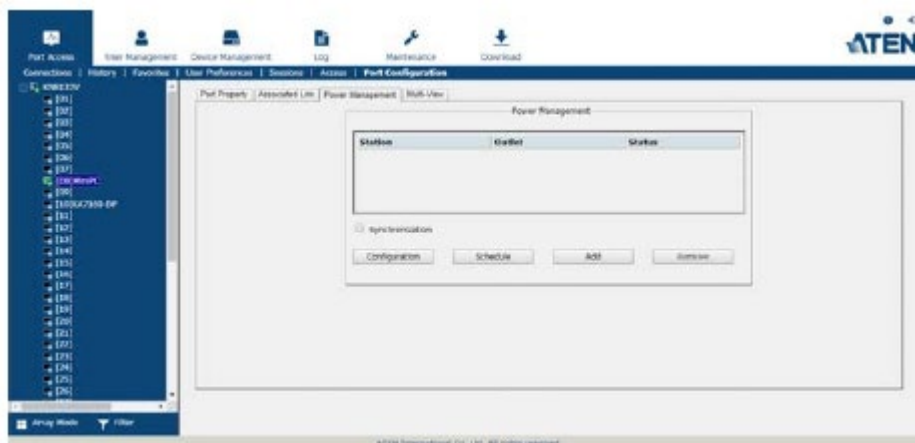
3. 同じく「Device Management」(デバイス管理)画面で、「ANMS」メニューをクリックしてください。その画面の「CC Management」(CC 管理)において、「Enable」(有効にする)のチェックボックスからチェックを外してください。



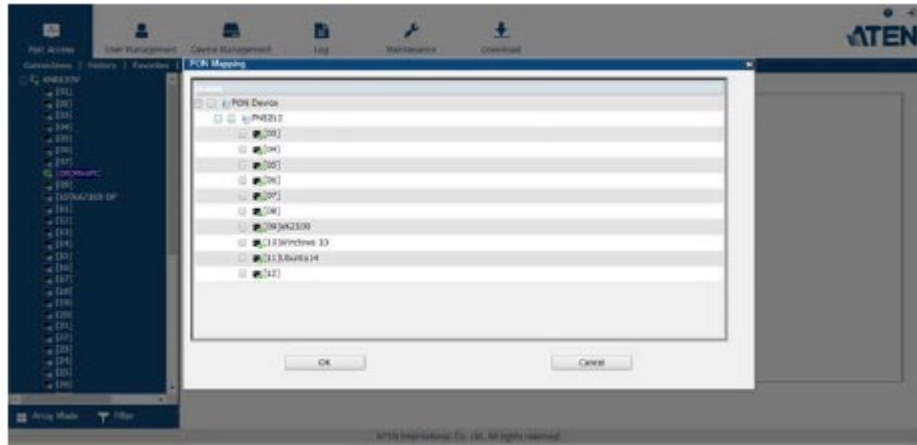
4. 次に、PDU(コンソール PON IN)を、直接 IP-KVM スイッチ (PON)に接続してください。
5. そうしたら、IP-KVM スイッチの GUI で、「Device Management」(デバイス管理)→「ANMS」、メニューにアクセスしてください。こちらでも同様に、「CC Management」(CC 管理)のチェックボックスからチェックを外してください。



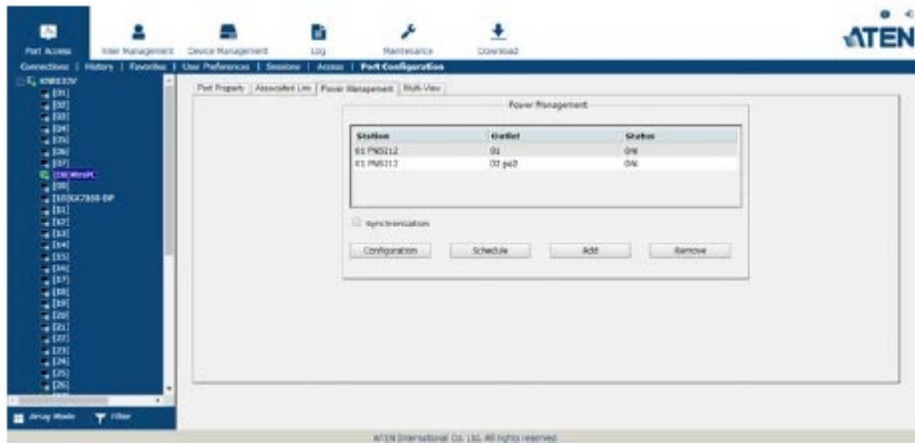
6. 最後に、「Port Access」(ポートアクセス)→「Port Configuration」(ポート設定)の画面から、適切な電源管理の権限が与えられていることを確認してください。関連するポート番号を左側のツリーメニューから選択します。



(電源デバイスの)「Add」(追加)を選択してください。



この操作で、電源アウトレットの操作権限が、選択したポートに割り当てられます。





## ホットプラグ

---

本製品はホットプラグに対応していますので、製品をシャットダウンすることなく、ケーブルを抜き差しするだけでデバイスを付け替えることができます。

---

**注意:** 製品に接続されているコンピューターの OS 自体がホットプラグに対応していない場合、この機能をご利用いただけない場合があります。

---

## モジュール ID 機能

モジュール ID、ポートネーム、OS、キーボード言語、アクセスモードなどのコンピューターモジュールの情報はコンピューターモジュール本体に格納されています。このモジュール ID 機能は、上記のコンピューターモジュールの情報以外に、アクセス権限などのコンピューターモジュールの設定内容を KVM スイッチのデータベース内に保存します。結果的に、コンピューターとコンピューターモジュールを同時に別のポートへと接続した場合、このモジュール ID 機能が新しい場所で設定内容を復元するため、これらの項目を再設定する必要がなくなります。

ただし、これらを別の KVM スイッチに接続した場合は、コンピューターモジュール内に格納されている情報のみが引き継がれますので、それ以外の項目は再設定するか、バックアップ/リストア機能 (p.252 参照) を使ってリストアする必要があります。

ポートの設定はコンピューターモジュール内に格納されていますので、コンピューターモジュールを含めずコンピューターのみを新しいポートに変更した場合、また、使用中のアダプターに別のコンピューターを接続した場合は、手動でそのコンピューターのポート設定を行う必要があります。ポート設定の詳細については p.141「サイドバーユーティリティー」の内容をご参照ください。

## 製品の電源 OFF/再起動

---

製品の電源を切る必要がある場合、また、再起動が必要になった場合は、電源を切り、30 秒程待機してから、製品に電源を入れなおしてください。なお、この操作は接続されているコンピューターに影響を与えることはありませんが、万が一、コンピューターの動作に異常が見られた場合は、そのコンピューターを再起動してください。

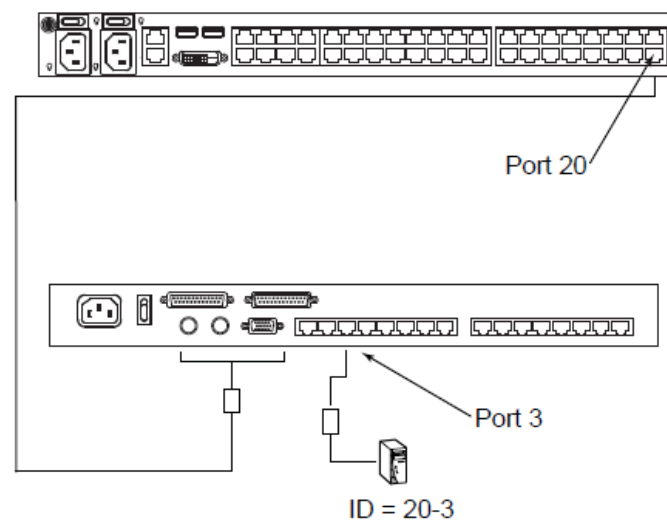
## ポート ID の割り当て

---

製品に接続されているコンピューターには固有のポート ID が割り当てられます。ポート ID は、次の条件によって決められる 1~2 桁の番号です。

- ◆ 1 台目のユニットに直接接続されているコンピューターは、KVM スイッチ上でそのコンピューターが接続しているポートナンバー(1~64)をポート ID として使用します。
- ◆ 2 段階のカスケード接続の構成の場合、ポート ID は前半と後半の 2 つの番号から構成されます。
  - 後半の部分(1~16)は、2 段階目のユニット上で当該コンピューターが接続している KVM ポートのポートナンバーを表します。
  - 最初の部分(1~64)は、2 段階目のユニットが接続している 1 段階目のユニットの KVM ポートのポートナンバーを表します。

例えば、「20-3」というポート ID の場合、2 段階目のユニットが 1 段階目のユニットのポート 20 に接続されており、コンピューターが 2 段階目のユニットのポート 3 に接続されていることを表します。



## ポートの選択

---

ポートの選択は GUI メニューを使って行います。詳細については第 6 章をご参照ください。

# 第3章

## スーパーアドミニストレーターによる 初期設定

### 概要

---

本章では、スーパーアドミニストレーターが製品の初回使用時に行う管理設定方法について説明します。

### 初回使用時に必要なセットアップ

---

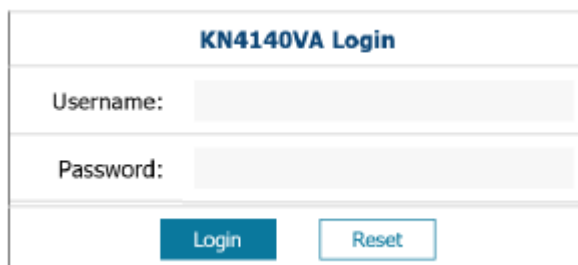
製品のハードウェアのセットアップが完了すると、スーパーアドミニストレーターは他のユーザーが製品を利用できるようにセットアップする必要があります。セットアップには、ネットワーク関連のパラメーターの設定やスーパーアドミニストレーターのデフォルトユーザーネームおよびパスワードの変更といった作業が含まれます。この作業はローカルコンソールから簡単に行うことができます。

---

**注意:** ネットワークの設定をリモートから行う場合は、p.332「IP アドレスの設定」をご参照ください。

---

ローカルコンソールをセットアップし、製品に電源が入ると、コンソールモニターに下図のようなログイン画面が表示されます。



KN4140VA Login	
Username:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

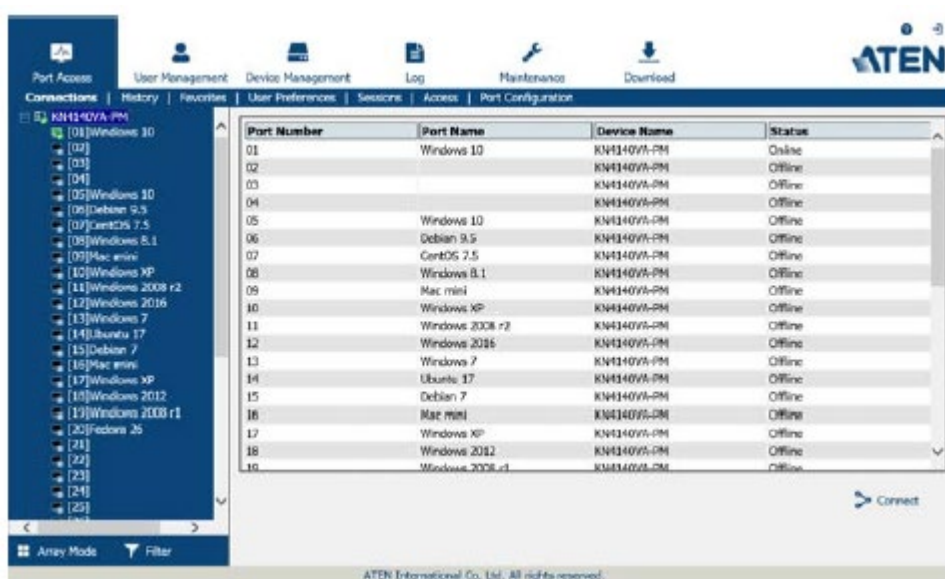
製品に最初にログインする際には、デフォルトのユーザーアカウントを使用してください。ユーザー名は administrator、パスワードは password です。

---

**注意:** 製品へのセキュリティを確保するために、このデフォルトユーザーアカウントは任意のユーザー名とパスワードに変更してください。(詳細については p.73「スーパーアドミニストレーターユーザー名/パスワードの変更」をご参照ください。)

---

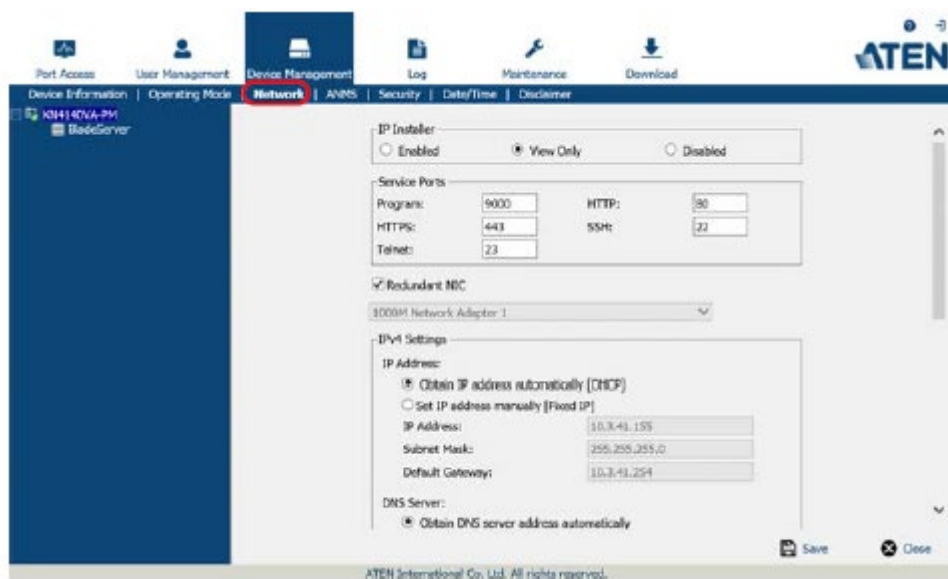
ログインに成功すると、以下のようなローカルコンソールのメイン画面が表示されます。



## ネットワークの設定

ネットワークの設定は、以下の手順で操作してください。

1. 「Device Management」(設定)メニューをクリックしてください。
2. 「Network」(ネットワーク)メニュー (下図の赤い丸で囲まれた部分)をクリックしてください。



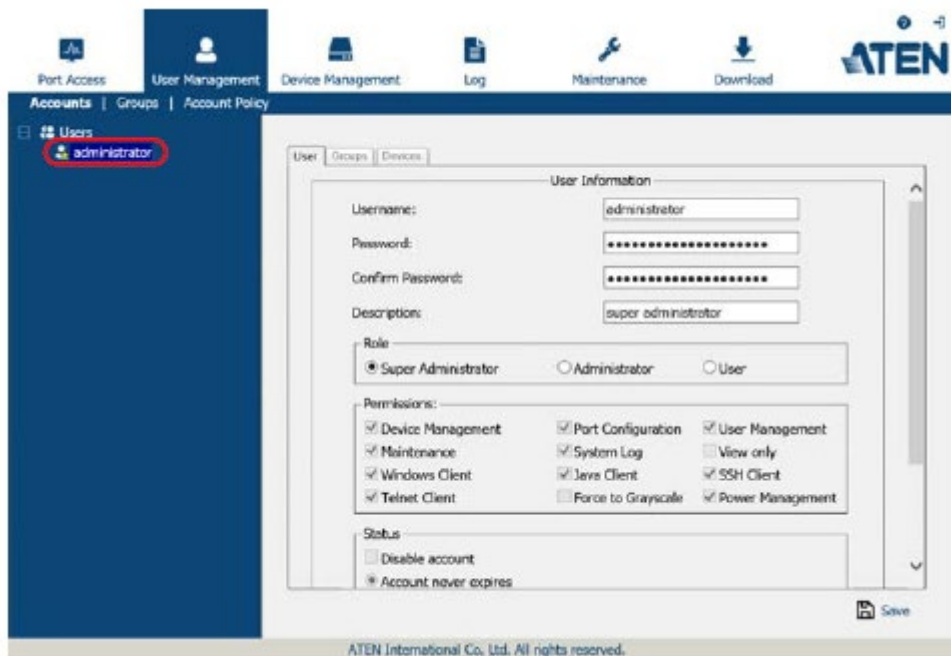
3. p.206「ネットワーク」に記載されている例を参考にしながら、お使いの環境に適した値を入力してください。

## スーパーアドミニストレーターのユーザーネーム/パスワードの変更

デフォルトのスーパーアドミニストレーターのユーザーネームやパスワードを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 画面最上部のメニューにある「**User Management**」(アカウント)メニューをクリックしてください。

このメニューでは、左側のサイドバーにユーザーおよびグループの一覧が表示されます。最初にこのページにアクセスした時には他のユーザーは作成されていませんので、一覧には下図のようにスーパーアドミニストレーターしか表示されません。



2. 左側のパネルから「**administrator**」ユーザーをクリックしてください。  
そうすると、「User Information」(ユーザー情報)画面が表示されます。

**User Information**

Username: administrator

Password: ●●●●●●

Confirm Password: ●●●●●●

Description:

Role

Super Administrator     Administrator     User

Permissions:

<input checked="" type="checkbox"/> Device Management	<input checked="" type="checkbox"/> Port Configuration	<input checked="" type="checkbox"/> User Management
<input checked="" type="checkbox"/> Maintenance	<input checked="" type="checkbox"/> System Log	<input type="checkbox"/> View only
<input checked="" type="checkbox"/> Windows Client	<input checked="" type="checkbox"/> Java Client	<input checked="" type="checkbox"/> SSH Client
<input checked="" type="checkbox"/> Telnet Client	<input type="checkbox"/> Force to Grayscale	<input checked="" type="checkbox"/> Power Management

Status

Disable account

Account never expires

Account expires on [ ]

User must change password at next logon

User cannot change password

Password never expires

Password expires after [ 0 ] days

3. 「Username」(ユーザーネーム)の欄に新しく変更するユーザーネームを、「Password」(パスワード)の欄に新しく変更するパスワードをそれぞれ入力してください。
4. 「Confirm Password」(パスワード確認)の欄に確認用パスワードを入力してください。
5. 「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 変更成功したという内容のメッセージがダイアログに表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
7. ローカルコンソールのメイン画面で別のアイテムをクリックすると、このメニューでの操作を終了します。



## その他の管理メニューを操作する場合は

---

ネットワークの設定と、デフォルトスーパーアドミニストレーターのパスワードの変更が完了すると、ユーザー管理、デバイス管理、ファームウェアアップグレードメンテナンスなどの管理メニューにアクセスできるようになります。

これらのメニューは、製品の GUI ユーティリティ(ローカルコンソール、ブラウザ版の Windows Active X ビューワーおよび Java クライアントビューワー、アプリケーション(スタンドアロン)版の Windows クライアントおよび Java クライアント)からアクセスできます。お使いの環境に適したユーティリティを選んでご利用ください。

---

**注意:** ファームウェアのアップグレードはローカルコンソールからは実行することができませんので、製品にリモートアクセスし、GUI ユーティリティを使用して、アップグレードを行ってください。

---

# 第4章 ログイン

## 概要

---

製品へのアクセスは、ローカルコンソール、またはリモートアクセスするクライアントコンピューター上から、Web ブラウザ、Windows アプリケーション、Java アプリケーションを使って行うことができます。

上記のどの方法でも、製品にアクセスするには有効なユーザーネームとパスワードが必要です。無効なアカウントでログインした場合、画面上には「Invalid Username or Password」(ユーザーネームまたはパスワードが正しくありません)または「Login Failed」(ログイン失敗)のエラーメッセージが表示されます。このような場合は、ユーザーネームとパスワードを正しく入力し、再ログインしてください。

---

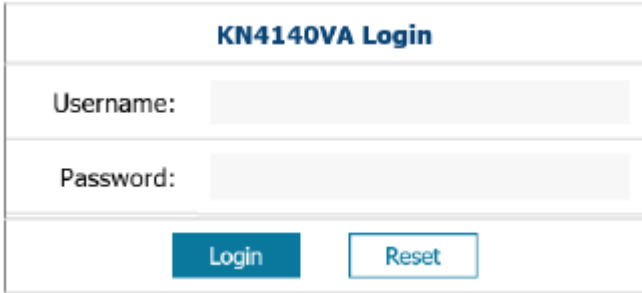
**注意:** ログインに連続して失敗した回数が、スーパーアドミニストレーターによって設定されたログイン再試行可能回数を超えると、タイムアウト機能が作動します。その場合は、次のログインまで、ある一定の時間待機しなければなりません。詳細については p.219 「ログイン失敗」をご参照ください。

---

## ローカルコンソールからのログイン

---

ローカルコンソールのセットアップが完了し、どのユーザーもローカルコンソールを使用していない場合、モニターには以下のようなログイン画面が表示されます。



The image shows a login interface for the KN4140VA device. It features a title 'KN4140VA Login' at the top. Below the title are two input fields: 'Username:' and 'Password:'. At the bottom of the form are two buttons: 'Login' and 'Reset'.

ローカルコンソールのメイン画面を呼び出す場合は、ログイン画面にユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」(ログイン)ボタンをクリックしてください。ローカルコンソールのメイン画面は、Web ブラウザ、Windows クライアント、Java クライアントの各メイン画面と同様の構成です。Web 画面のメイン画面に関する詳細は p.86 をご参照ください。

## ブラウザからのログイン

---

製品には、各種プラットフォームの Web ブラウザからアクセスすることができます。製品にアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

1. リモートアクセスするクライアントコンピューター上で Web ブラウザを起動し、アクセス対象となる製品の IP アドレスを URL バーに入力して[Enter]キーを押してください。

---

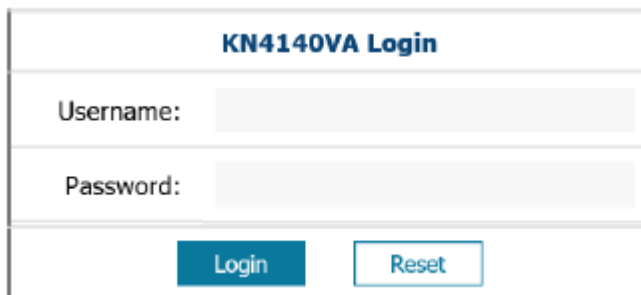
**注意:** 例えば、IP アドレスが「192.168.0.100」に設定されている場合は、URL バーに下記のようにアドレスを入力してアクセスします。

192.168.0.100

お使いの環境における IP アドレスがご不明な場合は、本製品の管理者までお問い合わせください。

---

2. セキュリティ証明書に関する警告メッセージが表示される場合がありますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください(詳細は p.356「信頼された証明書」参照)。同様のメッセージが再表示された場合も、同じように受け入れてください。証明書を受け入れると、以下のようなログイン画面が表示されます。



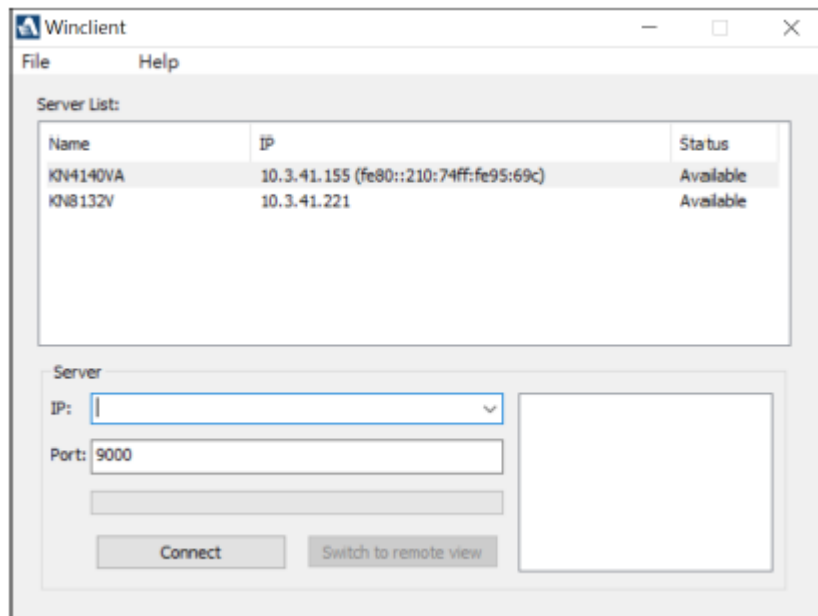
KN4140VA Login	
Username:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

3. 製品で(アドミニストレーターによって設定された)有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」(ログイン)ボタンをクリックしてログインしてください。Web ブラウザのメイン画面に関する詳細は、p.86 をご参照ください。

## Windows クライアントからのログイン

Web ブラウザによる製品へのアクセスが許可されていない環境で、Windows をお使いのユーザーは Windows クライアントアプリケーションを使うことで製品に直接リモートアクセスすることができます(ただし、このアプリケーションは初回のみ Web ブラウザからダウンロードする必要があります。詳細は p.258 をご参照ください)。

この方法で製品に接続する場合は、事前にお使いのコンピューターにダウンロードしておいたアプリケーション版 Windows クライアントのフォルダーに移動し、プログラムのアイコン(WinClient.exe)をダブルクリックしてください。この操作で以下のような Windows クライアント接続画面が起動します。



## 接続画面

接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
メニューバー	<p>メニューバーには「File」(ファイル)、「Help」(ヘルプ)の 2 つのメニューを提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「File」(ファイル)メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルを新規作成したり、保存したり、開いたりすることができます(p.82 参照)。</li> <li>◆ 「Help」(ヘルプ)メニューでは、Windows クライアントのバージョンを確認することができます。</li> </ul>
Server List (サーバーリスト)	<p>Windows クライアントを起動すると、そのツールがインストールされているコンピューターと同じネットワークセグメントにある製品を自動検出し、リストに表示します。製品にアクセスする場合は、対象となるデバイスを<b>ダブルクリック</b>してください(p.80 参照)。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「Enable Device List」(デバイス一覧を有効にする)の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.227「動作モード」の内容をご確認ください。</li> <li>2. 「Device Management」(設定)→「Network」(ネットワーク)→「Access Port」(アクセスポート)の「Program」(プログラム)の設定が、このダイアログボックスの「Server」(サーバー)の「Port」(ポート)に設定された番号と一致しているユニットのみ、このリストに表示されます。</li> </ol>
Server (サーバー)	<p>製品にリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP のリストボックスを開いて、対象となるアドレスを選択してください。このリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、また、ポート番号を「Port」(ポート)欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます。(ポート番号が不明な場合は、お使いの製品の管理者にご確認ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「<b>Connect</b>」(接続)ボタンをクリックしてください(p.80 参照)。</li> <li>◆ 製品での操作が終了し、セッションを切断する場合は「<b>Disconnect</b>」(切断)ボタンをクリックしてください。</li> </ul>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
メッセージパネル	サーバーパネルの右側にあるパネルで、製品との接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューに切替)	製品との接続が確立(p.80 参照)して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、Windows クライアントのメイン画面に切り替わります。Windows クライアントのメイン画面の詳細については p.90 をご参照ください。

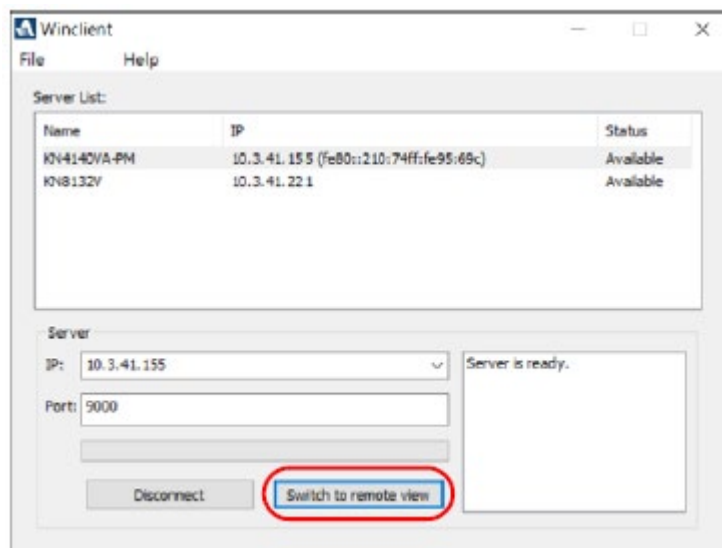
## Windows クライアント AP を使った接続方法

Windows クライアント AP を使って製品に接続する場合は、下記の手順で操作してください。

- 「Server List」(サーバーリスト)から接続対象となるデバイスを選択し、**ダブルクリック**してください。  
 - または -  
 「Server」(サーバー)の「IP」欄にデバイスの IP アドレスを、「Port」(ポート)欄にポート番号をそれぞれ入力してください。
- 「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。ボタンをクリックすると、下図のようなログインダイアログが表示されます。

- 有効なユーザーネームとパスワードをダイアログに入力して、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

4. 認証に成功すると、「Switch to Remote View」(リモートビューに切替)ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックして製品に接続してください。接続されると GUI メイン画面が表示されます。この GUI メイン画面の詳細については p.87 をご参照ください。



## ファイルメニュー

「File」(ファイル)メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルの新規作成を行ったり、また、そのファイルを保存したり開いたりすることができます。この作業ファイルはクライアントセッションで定義された全情報から構成されており、「Server List」(サーバーリスト)と「Server IP」(サーバーIP)の項目やホットキーの設定が保存されています。

ユーザーがクライアントプログラムを起動すると、現在の作業ファイルに書き込まれている値を読み込みます。なお、現在の作業ファイルには、前回プログラムが終了した際に有効だった値が保存されています。

「File」(ファイル)メニューのサブメニューは下表のとおりです。

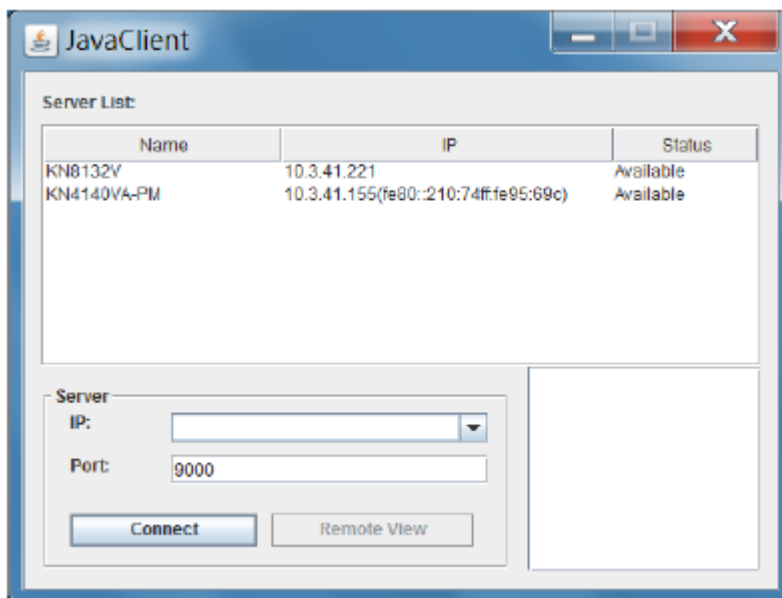
メニュー	説明
New (新規作成)	ファイルの新規作成を行います。このファイルに現在の値を保存しておくことで、後でその値を呼び出して使用することができます。
Open (開く)	過去に保存された作業ファイルを開き、その値を読み込みます。
Save (保存)	現在有効な値を使用中の作業ファイルに保存します。
Exit (終了)	Windows クライアントプログラムを終了します。



## Java クライアントからのログイン

Web ブラウザによる製品へのアクセスが許可されていない環境で、Windows 以外の OS をお使いのユーザーは、Java クライアントアプリケーションを使うことで製品に直接リモートアクセスすることができます(ただし、このアプリケーションは初回のみ Web ブラウザからダウンロードする必要があります。詳細は p.258 をご参照ください)。

この方法で製品に接続する場合は、事前にお使いのコンピューターにダウンロードしておいたアプリケーション版 Java クライアントのフォルダーに移動し、プログラムのアイコン (JavaClient.jar) をダブルクリックしてください。この操作で下図のような Java クライアント接続画面が起動します。



## 接続画面

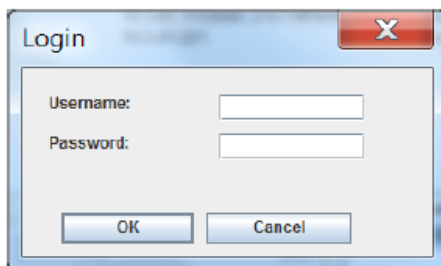
接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Server List (サーバーリスト)	<p>Java クライアントを起動すると、そのツールがインストールされているコンピューターと同じネットワークセグメントにある製品を自動検出し、リストに表示します。製品にアクセスする場合は、対象となるデバイスを<b>ダブルクリック</b>してください(p.80 参照)。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「Enable Device List」(デバイス一覧を有効にする)の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.227「動作モード」の内容をご確認ください。</li> <li>「Device Management」(設定)→「Network」(ネットワーク)→「Access Port」(アクセスポート)の「Program」(プログラム)の設定が、このダイアログボックスの「Server」(サーバー)の「Port」(ポート)に設定された番号と一致しているユニットのみ、このリストに表示されます。</li> </ol>
Server (サーバー)	<p>製品にリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP のリストボックスを開いて、対象となるアドレスを選択してください。IP アドレスのリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、ポート番号を「Port」(ポート)欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます。(ポート番号が不明な場合は、お使いの製品の管理者にご確認ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「<b>Connect</b>」(接続)ボタンをクリックしてください(p.80 参照)。</li> <li>◆ 製品での操作が終了し、セッションを切断する場合は「<b>Disconnect</b>」(切断)ボタンをクリックしてください。</li> </ul>
メッセージパネル	<p>サーバーパネルの右側にあるパネルで、製品との接続に関するステータスメッセージが表示されます。</p>
Switch to Remote View (リモートビューに切替)	<p>製品との接続が確立(p.80 参照)して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、アプリケーション GUI のメイン画面に切り替わります。GUI のメイン画面の詳細については p.90 をご参照ください。</p>

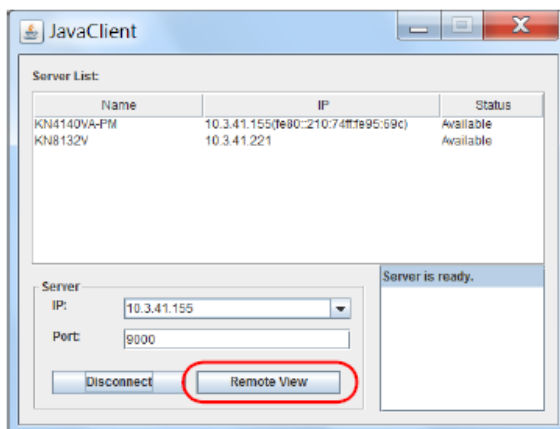
## Java クライアント AP を使った接続方法

Java クライアント AP を使って製品に接続する場合は、下記の手順で操作してください。

1. 「Server List」(サーバーリスト)から接続対象となるデバイスを選択し、**ダブルクリック**してください。  
- または -  
「Server」(サーバー)の「IP」欄にデバイスの IP アドレスを、「Port」(ポート)欄にポート番号をそれぞれ入力してください。
2. 「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください。ボタンをクリックすると、下図のようなログインダイアログが表示されます。



3. 有効なユーザーネームとパスワードをダイアログに入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。
4. 認証に成功すると、「Switch to Remote View」(リモートビューに切替)ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックして製品に接続してください。接続されると GUI メイン画面が表示されます。この GUI メイン画面の詳細については p.87 をご参照ください。



# 第5章

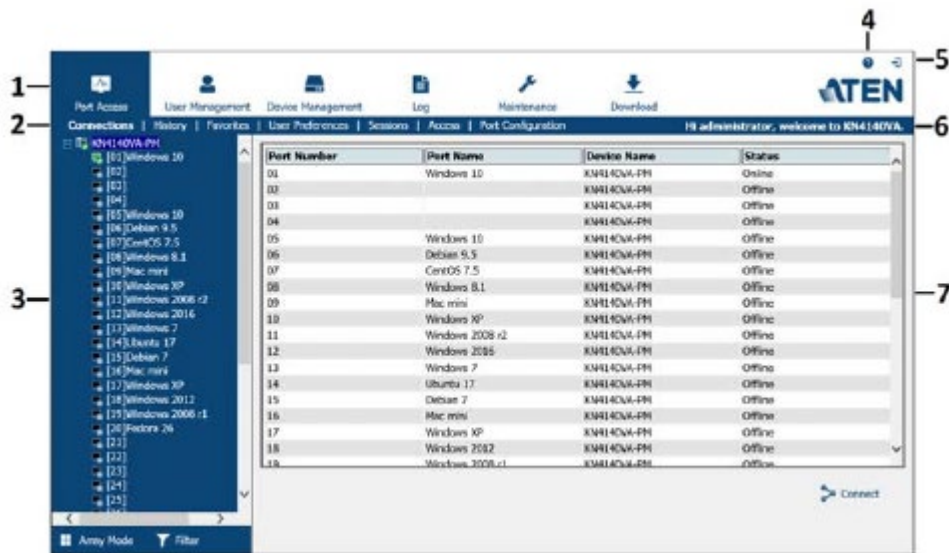
## ユーザーインターフェース

### 概要

製品へのログインに成功すると、メインメニューの画面が表示されます。製品へのアクセス方法によって画面の表示は若干異なりますが、基本機能は共通です。各インターフェースは次のセクションで説明しています。

### Web ブラウザメイン画面

マルチプラットフォーム環境から操作できるように、製品へのアクセスは標準的な Web ブラウザを使って行います。ユーザーのログイン認証 (p.77 参照) が完了すると、Web ブラウザのメイン画面の「Port Access」(ポートアクセス)メニューが初期表示されます。



**注意:** 上図はスーパーアドミニストレーターでログインした場合の表示画面です。ユーザーの種類や権限によっては、表示されないメニューもあります。

## 画面内の構成要素

Web メニューの項目は下表のとおりです。







No.	アイテム	説明
1	タブ	操作のメインカテゴリがメニュー別にタブ表示されます。表示タブはユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
2	メニューバー	タブで選択された操作に関連するサブカテゴリが表示されます。この部分に表示される項目はユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
3	サイドバー	操作中のタブやメニューバーに対応したポートリストがこの部分に表示されます。サイドバーのノードをクリックすると、その詳細画面が表示されます。 サイドバーの下にある「Filter」(フィルター) ボタンを使うと、ツリーに表示されるポートの範囲を変更することができます。フィルター機能については p.139 をご参照ください。
4	About (バージョン情報)	製品に現在インストールされているファームウェアのバージョンに関する詳細が表示されます。
5	ログアウト	現在のセッションからログアウトします。
6	ウェルカムメッセージ	この機能が有効になっている場合 (p.158 参照)、ウェルカムメッセージがこの部分に表示されます。
7	詳細表示パネル	メインの作業領域です。選択されたメニューやサイドバーのノードに応じたメニューが表示されます。

## 製造番号



「MFG 番号」(製造番号)は、ATEN の工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証に影響することはありません。お使いの製品に関して購入後のサービスが必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATEN の営業または技術サポートのスタッフに、この MFG 番号をお伝えください。

## タブメニュー

ページ上部のタブバーに表示されるアイコンの数およびタイプは、ユーザータイプ(スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)や、ユーザーに付与された操作権限によって決定します。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

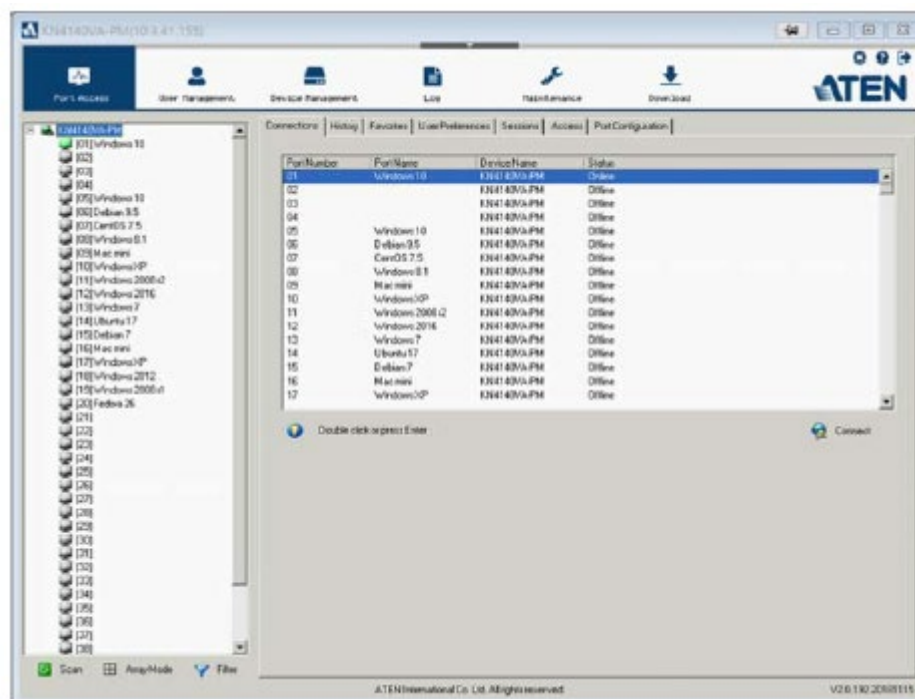
アイコン	機能
	<b>Port Access (ポートアクセス)</b> ：製品に接続されているデバイスへのアクセス・操作を行います。このメニューはすべてのユーザーがアクセス可能です。
	<b>User Management (アカウント)</b> ：ユーザーやグループの作成・管理を行います。また、デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。本メニューの詳細については p.178 をご参照ください。なお、これは、スーパーアドミニストレーターと、ユーザー管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	<b>Device Management (設定)</b> ：製品の操作に関する項目の設定・管理を行います。なお、これはスーパーアドミニストレーター、およびデバイス管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみがアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	<b>Log (ログ)</b> ：ログファイルの内容を表示します。このメニューの詳細については p.239 をご参照ください。
	<b>Maintenance (ファームウェア)</b> ：製品のファームウェアアップグレード、設定およびアカウント情報のバックアップ・リストア、ping ネットワークデバイス診断、デフォルト値のリストアを行います。詳細については p.276 をご参照ください。なお、これはスーパーアドミニストレーター(およびメンテナンス権限のあるアドミニストレーターとユーザー)がアクセス可能なメニューです。それ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。
	<b>Download (ダウンロード)</b> ：権限のあるユーザーはこのメニューから Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーをそれぞれダウンロードすることができます。なお、これはすべてのユーザーがアクセス可能なメニューですが、ダウンロードできるのは操作権限のあるアプリケーションのみです。

これ以外に、画面右上には、以下のアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	現在、製品にインストールされているファームウェアのバージョン情報を表示します。
	現在のセッションからログアウトします。

## クライアントアプリケーションのメイン画面


アプリケーション版の Windows クライアントや Java クライアントから製品にアクセスした場合、ログイン (p.76 参照) すると下図のようなメイン画面が表示されます。



アプリケーション版のメイン画面は Web ブラウザのメイン画面と基本的に同様ですが、以下の点が異なりますので、ご注意ください。

1. アプリケーション版ではタブの下のメニューバーがありません。Web ブラウザ版のメニューバーに表示されているものはアプリケーション版ではタブメニューとして表示されます。なお、このタブメニューは上部のタブに対応したメニューに切り替わります。
2. アプリケーション版では、「Filter」(フィルター) ボタンの他に、「Scan」(スキャン)、「Array Mode」(アレイモード)の各ボタンがサイドバー下部に表示されます。これらの機能については第 6 章「ポートアクセス」をご参照ください。

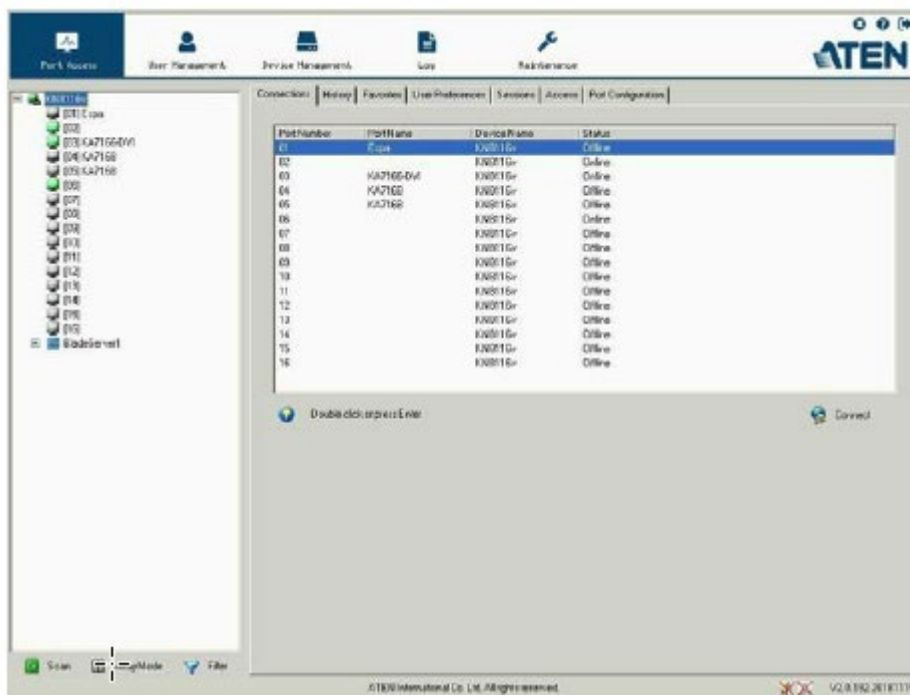


3. アプリケーション版では、画面の上部、または下部にマウスカーソルを移動させるとコントロールパネルが表示されます。デフォルトでは画面上部中央に表示されます。
4. アプリケーション版では画面右上に「閉じる」ボタン  があります。このアイコンをクリックすると、GUI メイン画面を終了し、最後に選択したポートを表示します。
5. アプリケーション版では以下のホットキーを使用することができます。

キー	アクション
Ctrl + P	「Port Access」(ポートアクセス)タブを開きます。
Ctrl + U	「User Management」(アカウント) タブを開きます。
Ctrl + D	「Device Management」(設定) タブを開きます。
Ctrl + L	「Log」(ログ) タブを開きます。
Ctrl + M	「Maintenance」(ファームウェア) タブを開きます。
Ctrl + A	「Download」(ダウンロード) タブを開きます。
F1	「About」(バージョン情報)を参照します。
F2	選択されたポートのポート名前を編集します。
F4	サイドバー(左)パネルを選択します。
F5	メイン(右)パネルを選択します。
F7	GUI を終了します。
F8	ログアウトします。



## ローカルコンソール GUI メイン画面

ローカルコンソールの GUI メイン画面は Java クライアントや Windows クライアントのメイン画面と基本的に同じです。



ただし、ローカルコンソールのメイン画面には「Download」(ダウンロード)タブは表示されません。

これ以外に、画面右下には、以下のアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	スピーカーを表します。製品に接続しているコンピューターから出力された音声をローカルコンソール側で聞くことができます。スピーカー機能を有効または無効にする場合は、このアイコンをクリックしてください。無効になっている場合、このアイコンに赤い×印が表示されます。
	マイクを表します。ローカルコンソール側から入力された音声を製品に接続しているコンピューターに取り込むことができます。マイク機能を有効または無効にする場合は、このアイコンをクリックしてください。無効になっている場合、このアイコンに赤い×印が表示されます。

## コントロールパネル

---

### Windows クライアントコントロールパネル

Windows クライアントのコントロールパネルは、Web ブラウザ版、アプリケーション版ともに、すべてのユーザーインターフェースのコントロールパネルの機能を網羅していますので、本セクションでは Windows クライアントのコントロールパネルについて説明します。他のコントロールパネルは、Windows クライアントのコントロールパネルに比べて機能が少ないですが、使用方法は同じですので、このセクションを参考にしてください。

Windows クライアントのコントロールパネルは画面上部または下部 (通常は画面上部) の中央に隠れていますが、この部分にマウスカursorを移動させると下図のようなメニューが表示されます。



パネルは 2 行で構成されています。



---

**注意:** 上図は全メニューが表示された場合のコントロールパネルの外観です。表示するアイコンはカスタマイズが可能です。詳細については p.131「コントロールパネルの環境設定」をご参照ください。

---

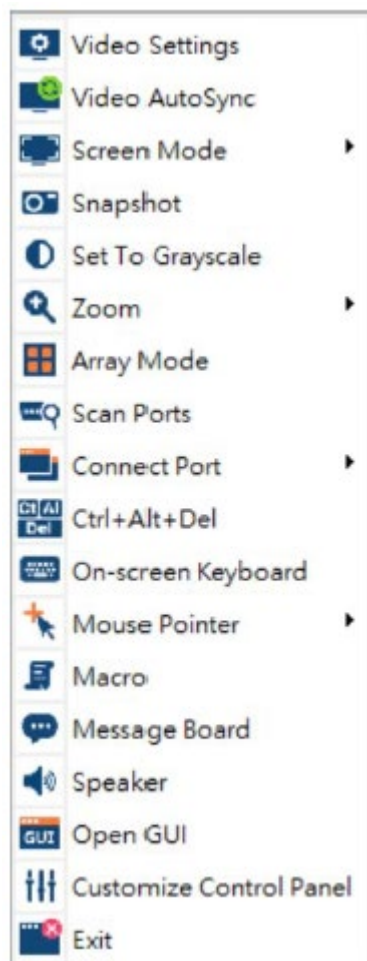
- ◆ 2 行目には、リモートディスプレイの解像度、ユーザーが使用中のバス番号、そして、コントロールパネルのツールバー (メニュー形式版) がクリックできる情報ボタンが表示されます (下図参照)。

**注意:**

1. このバスとユーザーに関する情報はこの機能が有効になっている時のみ表示されます。詳細については p.133「バス情報」をご参照ください。
2. バスアサインメント機能に関する詳細は p.268「マルチユーザーによる操作」をご参照ください。

---









- ◆ コントロールパネルの任意の部分を右クリックすると、コントロールパネルのツールバー(メニュー形式版)が起動します。これらの機能については後のセクションで説明します。












- ◆ コントロールパネルを画面上の別の場所に移動させたい場合は、2行目のマウスポインターをクリックしたままにし、コントロールパネルを目的の位置までドラッグしてください。

## コントロールパネルの機能



コントロールパネルの各機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると、コントロールパネルを常に前面に表示します。もう一度このアイコンをクリックすると、通常の状態に戻します。
	ビデオオプションダイアログを起動します(詳細は p.108「ビデオ設定」参照)。
	ビデオの自動同期を実行します。これは、「Video Options」(ビデオオプション)ダイアログ (p.108 参照)の「Auto-sync」(自動同期)ボタンと同じ機能を提供します。
	画面表示をフルスクリーンモードまたはウィンドウモードに切り替えます。
	リモート画面のスナップショット(画面キャプチャ)を取得します。スナップショットの設定項目に関する詳細は p.133「スナップショット」を参照してください。
	リモート画面の表示をカラーまたはモノクロに切り替えます。
	リモート画面をズーム表示します。 <b>注意:</b> この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードが OFF)の場合にのみご利用いただけます。詳細については p.123「ズーム」をご参照ください。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、パネルアレイモードを起動します (p.266 参照)。
	IP-KVM スイッチはフィルター機能 (p.139 参照)でオートスキャンの対象として選択されているポートへ自動的に切り替えていきます。これによって、コンピューターを手動で切り替えることなく、連続的にポートの状態をモニタリングすることができます。
	接続したいポートを選択します。
	[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号をリモートコンピューターに送信します。
	オンスクリーンキーボード (p.124 参照)を起動します。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	<p>マウスポインターの種類を選択します。</p> <p><b>注意:</b>このアイコンは選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.126「マウスポインタータイプ」参照)。</p>
	<p>マウス同期を自動または手動で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。</li> <li>◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色の×マークが表示されます。</li> </ul> <p>この機能に関する詳細については、p.127「マウスダイナシクモード」をご参照ください。</p>
	<p>マクロダイアログ (p.98 参照) を起動します。</p>
	<p>ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します。マクロへのアクセスやマクロの実行は、「Macro」(マクロ)ダイアログを使うよりもこの機能を使った方が簡単です(「Macro」(マクロ)ダイアログについては上記のマクロの項目、または p.98 のマクロに関する記載を参照してください)。</p>
	<p>メッセージボード (p.115 参照) を起動します。</p>
	<p>「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログを起動します。アイコンの外観は、バーチャルメディア機能の状態に応じて変わります。詳細については p.118 「バーチャルメディア」を参照してください。</p> <p><b>注意:</b>バーチャルメディア機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはモノクロで表示されます。</p>
	<p>このアイコンは、拡張表示の設定 (p.127 参照) で表示する際に使用するモニターを選択します。この機能のセットアップ方法に関する詳細は p.174「拡張表示」を参照してください。</p>
	<p>リモートサーバー側の音声を、クライアントコンピューター側のスピーカーで出力するかどうかを切り替えます。スピーカーが OFF になるとアイコンに禁止マーク (赤い円に斜線が入ったもの) が表示されます。</p>
	<p>ポートにアクセスしている際に GUI メニューを呼び出します。</p>

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	<p>コントロールパネルの環境設定ダイアログを起動します。コントロールパネルの環境設定に関する詳細は、p.131 をご参照ください。</p>
	<p>このアイコンは、リモートコンピューターの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ キーが有効になっていると、そのキーの LED が明るい緑色に点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。</li> <li>◆ キーが無効になっていると、そのキーの LED は暗い緑色に点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。</li> </ul> <p>ロックキーを有効または無効にする場合は、対象のアイコンをクリックして表示を切り替えてください。</p> <p><b>注意:</b>これらのアイコンはローカルキーボードのアイコンと同期します。アイコンをクリックすると、お使いのキーボード上にある当該 LED もこのアイコンに合わせて ON または OFF に切り替わります。キーボードの当該キーを押した時も同様に、このアイコンの表示が切り替わります。</p>

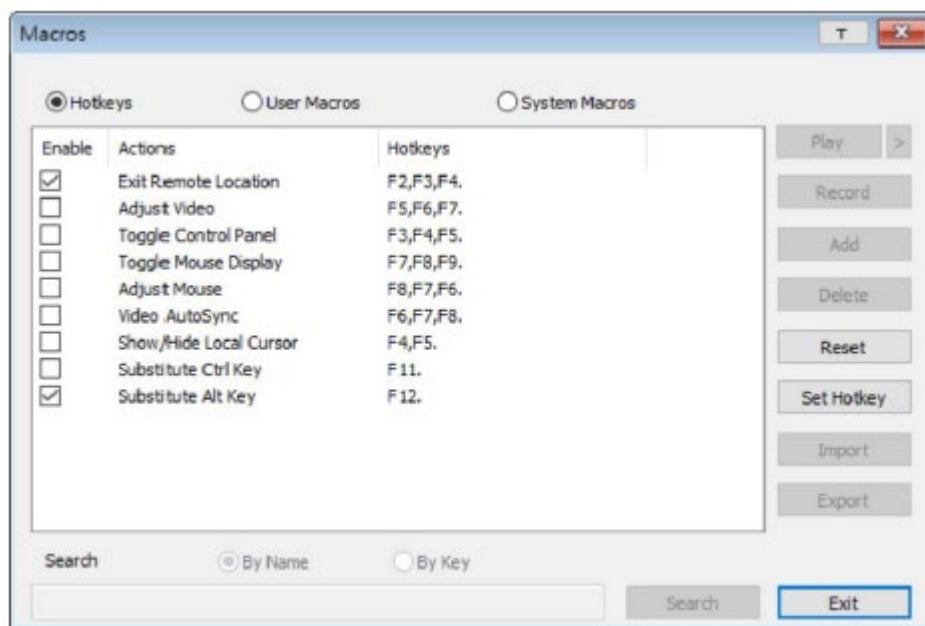
## マクロ

この機能を使うと、「Macros」(マクロ)ダイアログが起動し、ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロの管理を行うことが可能です。これらの機能の詳細については以下のセクションで説明します。

### ホットキー

KVM スイッチへの様々な操作はホットキーを使って実行することができます。ホットキーセットアップユーティリティー(このアイコンをクリックして起動)を使えば、ホットキーがどの操作を実行するのかを設定することができます。

右パネルには実行時のホットキーが表示されます。操作名の左にあるチェックボックスを操作するとホットキーを有効または無効に切り替えることができます。





デフォルトのホットキーでは不都合が生じる場合は、デフォルトの設定を変更することができます。変更手順は以下のとおりです。

1. 変更の対象となる名前の行を選択し、「**Set Hotkey**」(ホットキーの設定) ボタンをクリックしてください。
2. 新しいホットキーを入力してください(キーは一つずつ押してください)。キーを押すと、そのキーの名前が「Hotkeys」(ホットキー)の欄に表示されます。
  - ◆ キーを入力する順番が同じでなければ、同じキーの組み合わせを複数のアクションに割り当てることができます。
  - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」(キャンセル) ボタンを、また、アクションの「ホットキー」欄をクリアする場合は「**Clear**」(クリア) ボタンをそれぞれクリックしてください。
3. キーの入力が終わったら、「**Save**」(保存) ボタンを押してください。

すべてのホットキーの設定をデフォルト値にリセットする場合は「**Reset**」(リセット) ボタンをクリックしてください。

ホットキーが実行できる操作は以下のとおりです。

アクション	説明
Exit Remote Location (リモートロケーションの終了)	製品との接続を終了しクライアントコンピューター操作に戻ります。これはコントロールパネルの「Exit」(終了)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F2,F3,F4」に設定されています。
Adjust Video (ビデオの調整)	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを起動します。これはコントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F5,F6,F7」に設定されています。
Toggle Control Panel (コントロールパネルの切替)	コントロールパネルを OFF または ON に切り替えます。デフォルトでは「F3,F4,F5」に設定されています。

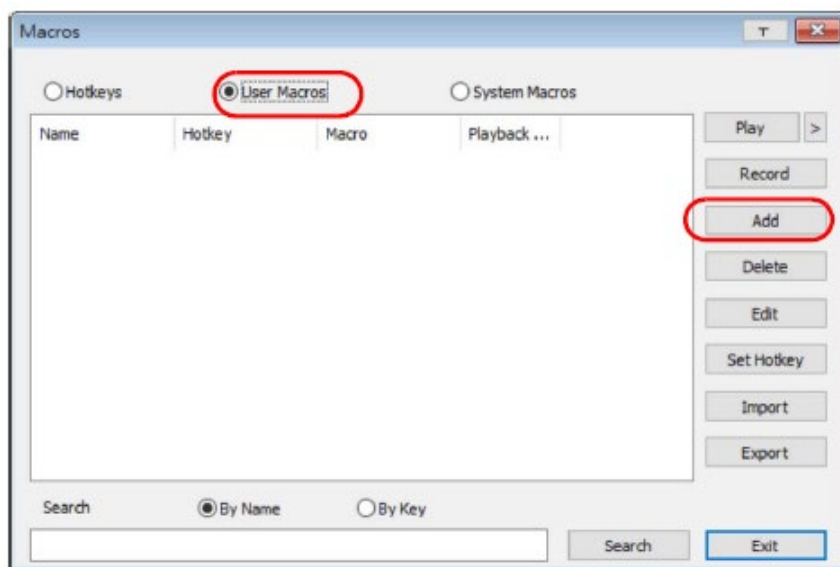
(表は次のページに続きます)

アクション	説明
Toggle Mouse Display (マウス表示の切替)	<p>ローカル、リモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用してマウスポインターを最小化することができます。この機能はトグル式になっておりますので、同じホットキーを再度入力するとマウスポインターを元の状態に戻します。これはコントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Dot」(ドット)ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは「F7,F8,F9」に設定されています。</p> <p><b>注意:</b>Java コントロールパネルにはこの機能はありません。</p>
Adjust Mouse (マウスの調整)	<p>ローカルとリモートのマウスを同期します。デフォルトでは「F8,F7,F6」に設定されています。</p>
Video Auto-Sync (ビデオの自動同期)	<p>ビデオを自動同期します。これはコントロールパネルの「Video Autosync」(ビデオの自動同期)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F6,F7,F8」に設定されています。</p>
Show/Hide Local Cursor (ローカルカーソルの表示/非表示)	<p>ローカルマウスのポインター表示を OFF または ON に切り替えます。Windows/Java クライアントアプリケーションでローカルカーソルを非表示にし、マウスポインターとキーボードの使用をロックし、さらにコントロールパネルを非表示にします。これはコントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Single」(シングル)ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは「F4,F5」に設定されています。</p>
Substitute Ctrl Key (代替 Ctrl キー)	<p>ローカルコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送られるようになります。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11 + 5]キーを入力すると、リモートシステムでは[Ctrl + 5]キーが押されたこととなります。デフォルトではこの代替キーが[F11]キーに設定されています。</p>
Substitute Alt Key (代替 Alt キー)	<p>製品との接続中は基本的にはキーボードの入力は製品側に送られますが、[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Delete]は例外となります。リモートシステムに対して[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。</p> <p>例えば、[F12]を使用すると、上記のキー入力は[F12 + Tab]、[Ctrl + F12 + Delete]で実現できます。デフォルトではこの代替キーが[F12]に設定されています。</p>

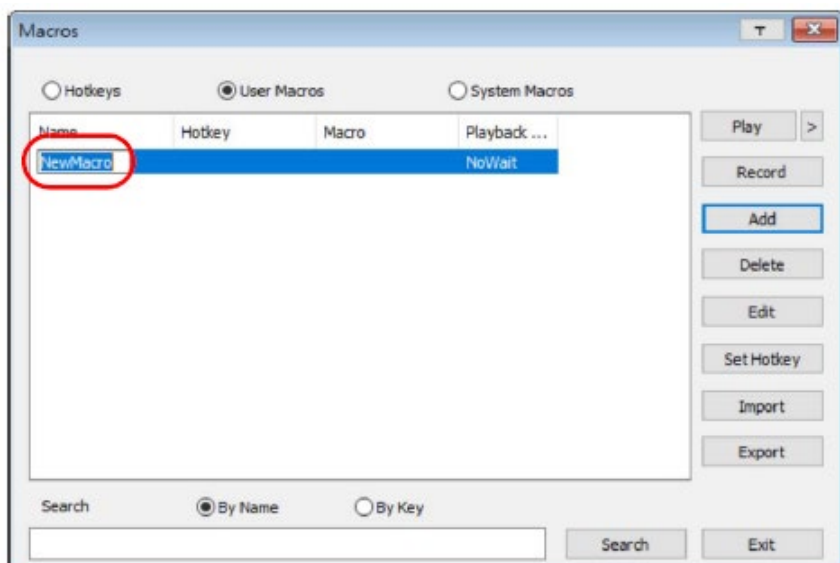
## ユーザーマクロ

「User Macros」(ユーザーマクロ)は、特定のアクションをリモートサーバー側で実行する場合に使用します。マクロを作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「User Macros」(ユーザーマクロ)ラジオボタンを選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「NewMacro」という名前で作成されますので、必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



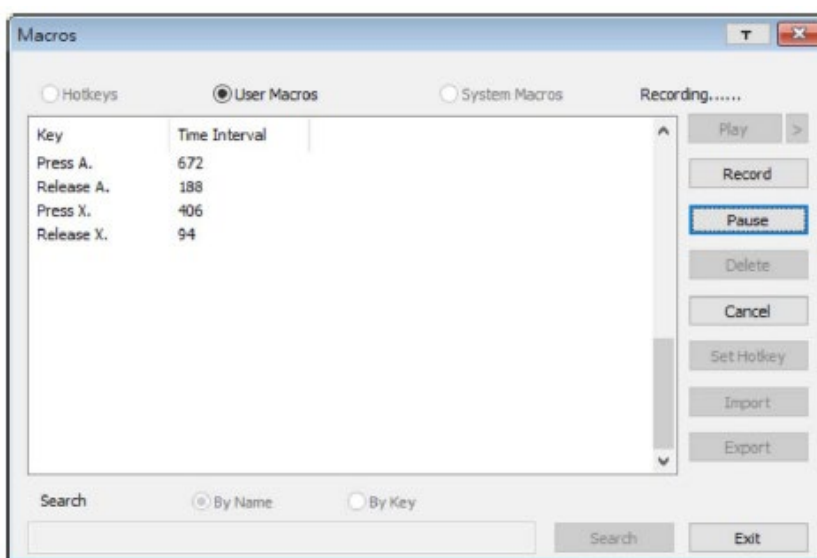
3. 「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。

このボタンをクリックするとダイアログボックスが終了し、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロキーを押してください。

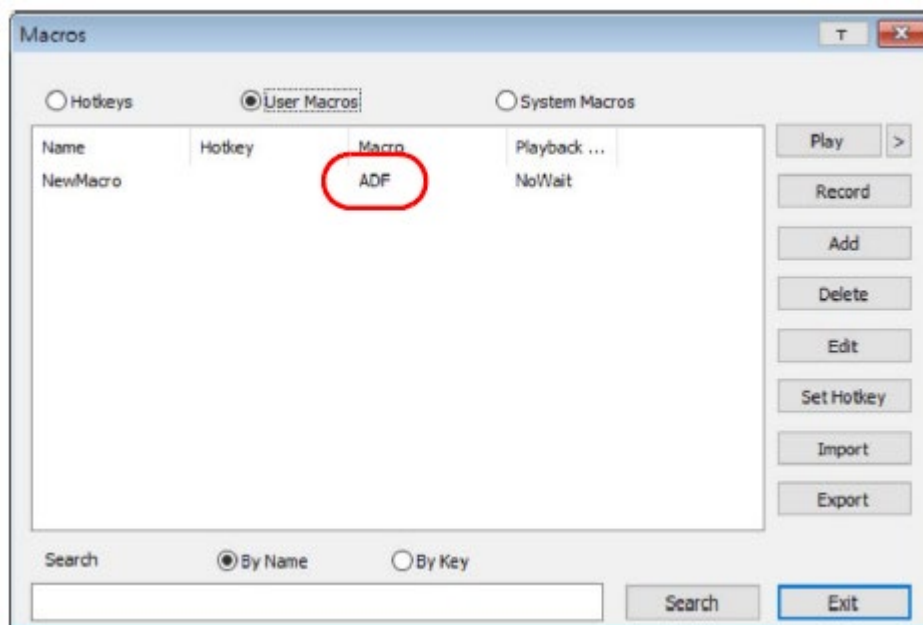
- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開する場合は、「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。
- ◆ 「Show」(表示)ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力と、それぞれに要した時間が一覧に表示されます。



- ◆ 「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックすると、キー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。これは手順 5 で説明している、「Done」(実行)ボタンをクリックする操作に相当します。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。

- 
- 注意:**
1. 大文字・小文字は区別されません。[A]と[a]は同様に処理されます。
  2. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。
-

- 「Show」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に「Done」(終了)ボタンをクリックしてください。この時、「Macros」(マクロ)ダイアログに戻ると、リストには先ほど入力されたユーザーマクロキーが表示されます。



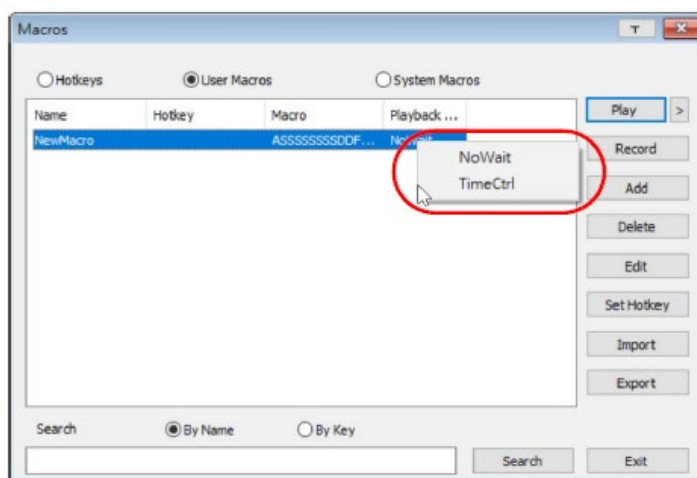
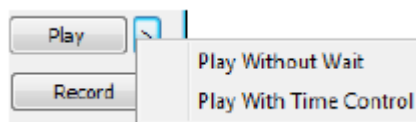
- 入力キーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し「Edit」(編集)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Show」(表示)ボタンを押した時と同様のダイアログが表示され、入力キーの種類や順番を変更することができます。
- 他のマクロを作成する場合は、上記の手順で操作を行ってください。

作成したマクロは、下記のいずれかの方法で実行することができます。

1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、対象となるマクロをクリックする(p.96 参照)。
3. このダイアログを開いて、「Play」(再生)ボタンをクリックする。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定することができます。

- ◆ 「Play Without Wait」(すぐに再生)を選択した場合、マクロは入力キーを遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「Play With Time Control」(時間制御ありで再生)を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力と、その時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「Play」(再生)ボタンの隣にあるボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「Play」(再生)ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの値(「NoWait」(待機なし)か「TimeCtrl」(時間制御))が「Playback Mode」(再生モード)列に表示されます。



この値を変更する場合は、現在の設定値(上図では「NoWait」(待機なし))をクリックした際に表示されるメニューから変更したい内容を選択してください。

- 
- 注意:**
1. 検索機能に関する情報は次のセクションをご参照ください。
  2. ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されるため、マクロの数、マクロ名の長さ、実行ホットキーの構成についての制限はありません。
-

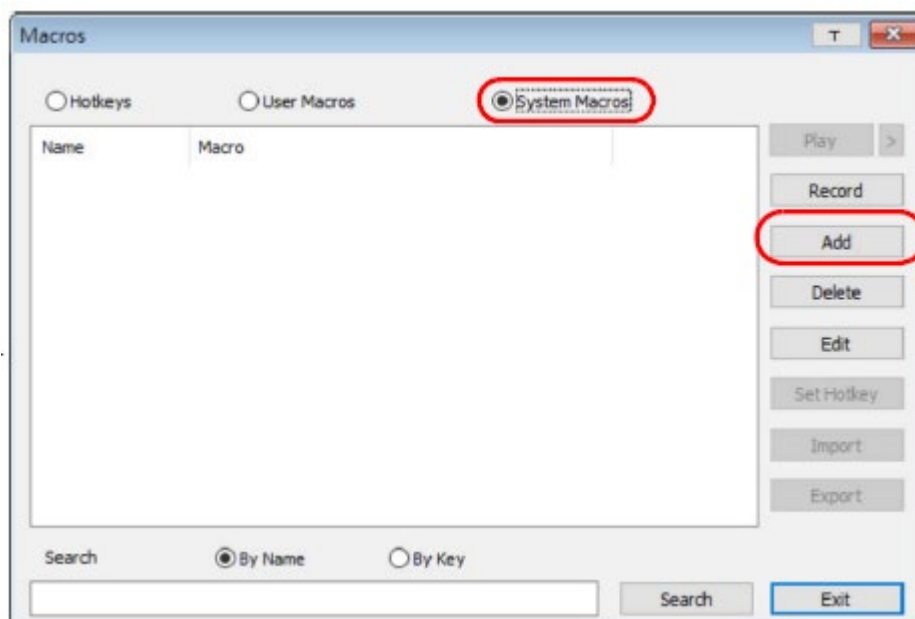
## 検索

ダイアログの下部にある「Search」(検索)ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧から実行したり編集したりするマクロを絞り込むことができます。絞り込み条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力して「Search」(検索)ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するアイテムが上部パネルに表示されます。

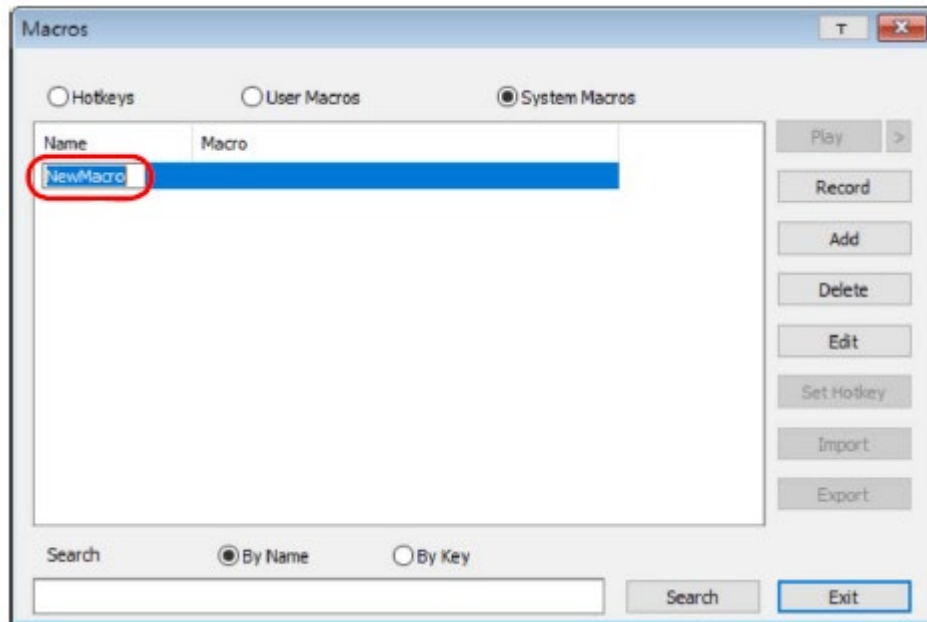
## システムマクロ

システムマクロは、セッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows + L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておく、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができますのでセキュリティを強化することができます。マクロを作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「System Macros」(システムマクロ)ラジオボタンを選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「NewMacro」という名前で作成されますので、必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



3. 「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。  
このボタンをクリックするとダイアログボックスが終了し、画面左上に下図のような小さいパネルが表示されます。



4. マクロキーを押してください。
- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開する場合は、もう一度このボタンを押してください。
  - ◆ 「Show」(表示)ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力と、それぞれに要した時間が一覧に表示されます(p.106 参照)。
  - ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。

---

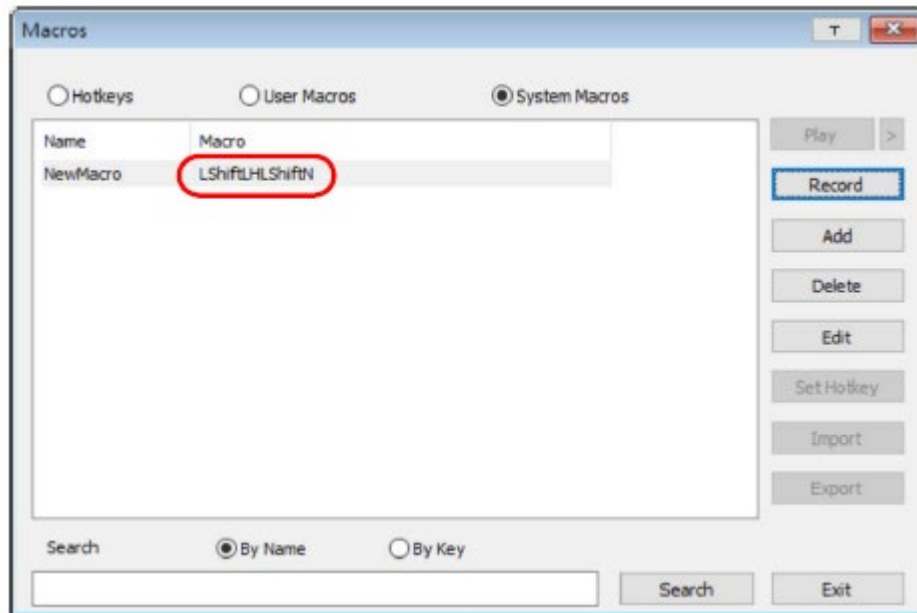
**注意:**

1. 大文字・小文字は区別されません。[A]と[a]は同様に処理されます。
2. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。

---



5. 「Show」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に「Done」(終了)ボタンをクリックしてください。この時、「Macro」(マクロ)ダイアログに戻ると、リストには、先ほど入力されたシステムマクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し「Edit」(編集)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Show」(表示)ボタンを押したときと同様のダイアログが表示され、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順で操作を行ってください。

作成されたシステムマクロは、ポート単位で使用することができます。これらのマクロはポートの「Port Configuration」(ポート設定)→「Port Properties」(ポートプロパティ)画面(p.171「ポートレベル」参照)で選択することができます。

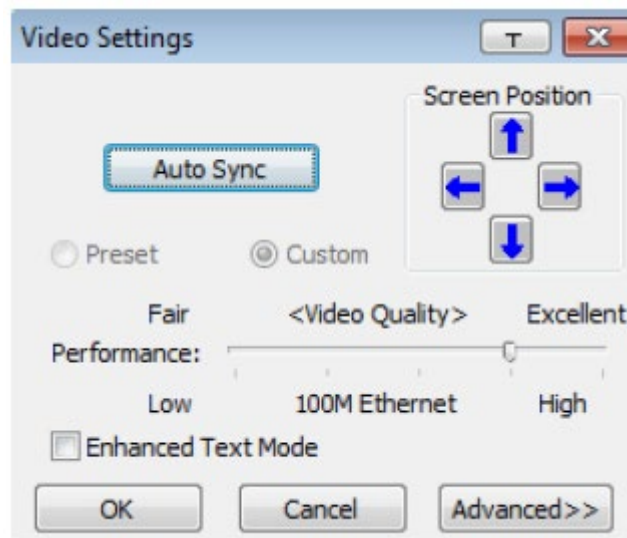
- 
- 注意:**
1. 検索機能に関する情報は p.105 をご参照ください。
  2. ポートごとに選択できるシステムマクロは 1 つだけです。
  3. システムマクロは、製品内部に保存されるため、マクロ名は 64 バイト以内で、ホットキーの組み合わせは 256 バイト以内でそれぞれ設定してください(1 バイトは半角英数字 1 文字です。また、キー 1 つの入力で通常 3~5 バイト使用します)。
-



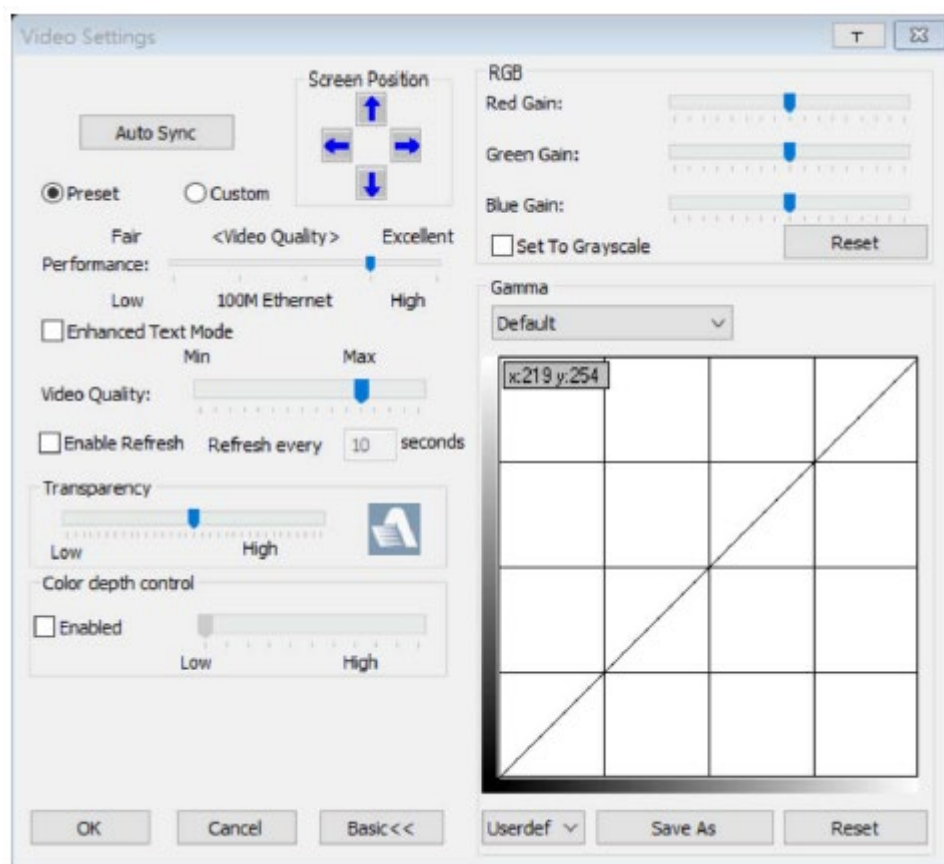
## ビデオ設定

コントロールパネル上のこのアイコンをクリックすると、「Basic Video Settings」(基本ビデオ設定)ダイアログが起動します。このダイアログでのオプションを使うことによって、お使いのモニター上に表示されるリモート画面の位置を調整したり、自動同期やパフォーマンスを設定したりすることができます。「Advanced」(詳細)のボタンをクリックすると、「Advanced Video Settings」(詳細ビデオ設定)ダイアログが開き、下記に示すように、RGB、ガンマ、画質、再描画、透明度、色深度コントロール、ピクセル変化の検出といった詳細なオプションを設定することができます。

### 基本ビデオ設定



## 詳細ビデオ設定



このダイアログの項目の内容は以下のとおりです。

オプション	機能
Screen Position (画面位置)	矢印ボタンをクリックすることでサーバーのウィンドウの水平位置と垂直位置を調整します。
Auto Sync (自動同期)	<p>クリックすると、リモート画面の垂直、水平各方向のオフセット値を検出し、ローカル側の画面に自動的に同期します。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、大半のケースではこの機能を使用することで再び同期します。</li> <li>この機能は明るい画面で実行すると最大の効果を発揮します。</li> <li>満足のいく調整結果が得られなかった場合は、「Screen Position」(画面位置)の方向ボタンでリモート画面の位置を手動で調整してください。</li> </ol>

(表は次のページに続きます)

オプション	機能
RGB	<p>スライドバーをドラッグして RGB(赤、緑、青)の値を調整します。RGBの値の増加に伴って、イメージのRGB要素も増加します。</p> <p>「Set to Grayscale」(グレースケールに設定する)の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。</p> <p>「Reset」(リセット)ボタンをクリックすると、RGB 設定をデフォルト値に戻します。</p>
Gamma (ガンマ)	<p>ビデオ表示のガンマレベルを調節します。この機能については次のセクション(ガンマ調整)で詳しく説明します。</p>
Performance (パフォーマンス)	<p>クライアントコンピューターが使用するインターネット接続タイプを選択します。製品はここで選択した項目によって、「Video Quality」(ビデオ画質)の項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。</p> <p>ネットワークの状態は変化しますので、プリセットの選択項目では不都合が生じる場合があるかもしれません。その際は、「Advanced」(詳細)を選択し、「Video Quality」(ビデオ画質)のスライドバーを使ってお使いの環境に適した値に調節してください。</p>
Enhanced Text Mode (拡張テキストモード)	<p>一部のインターフェースのシステム(例:Sun Blade 1000 などのサーバー)に影響を与えるビデオ解像度に関して、ビデオ表示の問題を解決したい場合は、こちらをクリックしてください。この設定では、一部のディスプレイでイメージ色を改善することができます。</p> <p>デフォルト YUV: 4:1:1</p> <p>拡張テキストモード YUV: 4:4:4</p>
Video Quality (ビデオ画質)	<p>スライドバーをドラッグしてビデオ画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。</p>

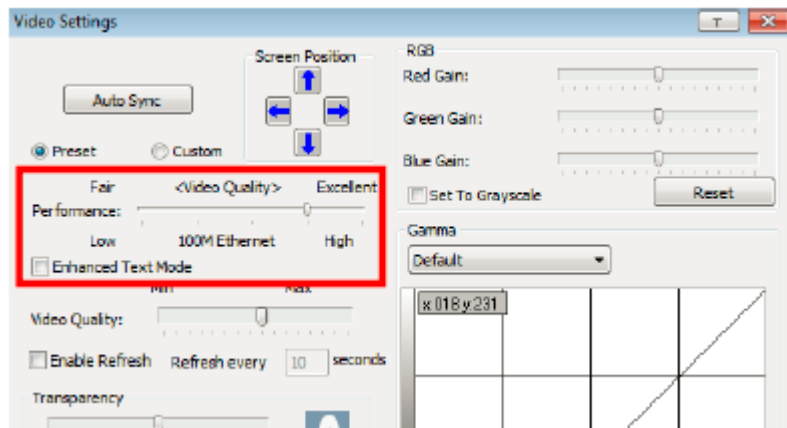
(表は次のページに続きます)

オプション	機能
Enable Refresh (リフレッシュを有効にする)	<p>本製品は、1～99 秒毎に画面を再描画し、ブロックノイズなどの歪みを除去します。「<b>Enable Refresh</b>」(リフレッシュを有効にする)の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を 1～99 の整数で入力してください。製品はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効になっていますので、有効にしたい場合は「Enable Refresh」(リフレッシュを有効にする)の隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックを入れてください。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マウスの動作が止まると、製品はインターバル時間の計測を開始します。</li> <li>2. この機能を有効にするとネットワーク上に送信されるビデオデータの量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。</li> </ol>
Transparency (透明度)	<p>GUI ホットキー(例:[Scroll Lock] [Scroll Lock])を使用した際に表示されるツールバーの透明度を調節します。お好みの透明度になるようにバーをスライドして調整してください。</p>
Color Depth Control (色深度調整)	<p>色情報の値を調整し、ビデオ画面の色深度を調節します。</p>
Preset/Custom (プリセット/カスタム)	<p>このボタンを使用すると、ビデオ設定値を保存したり、デフォルトのビデオ設定値に戻したりすることができます。</p>

## バンド幅に関する注意事項

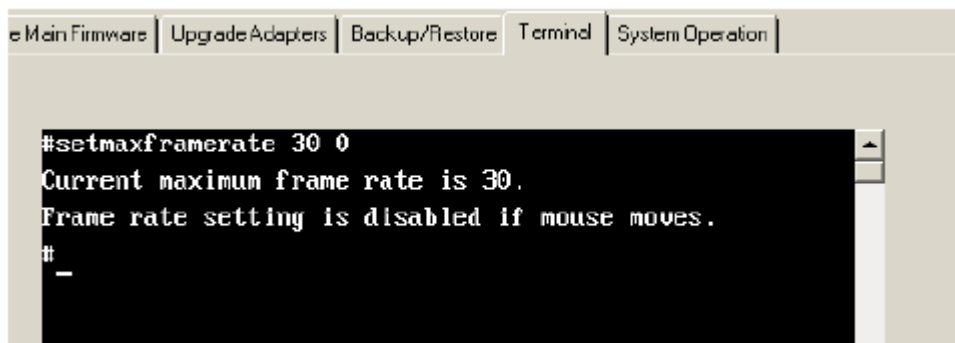
各種ビデオ設定を調整することで、低帯域のネットワークにおけるデータ転送を実現することができます。このような調整を行う場合は、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログで、「Performance」(パフォーマンス)の項目を「100M Ethernet」、または、それより低い値に設定してください。また、「Enhanced Text Mode」(高度なテキストモード)の項目からチェックを外してください。



2. 「Maintenance」(メンテナンス)タブで、「Terminal」(ターミナル)を選択してください。そうしたら、次のコマンドを入力した後、[Enter]キーを押してください。

```
setmaxframerate 30 0
```



**注意:** 上図のように設定を行うと、KVM アクセスに対するビデオパフォーマンスが最低になります。パフォーマンスと高度なテキストモードが制限されると、Motion JPEG ビデオ圧縮は無効になり、ビデオ転送に対するネットワークのバンド幅を大幅に減らすことができます。

## バンド幅の比較表

下表は、ビデオ設定に対する調整が、どのようにネットワークバンド幅を減少させるかを、参考までに示したものです。

設定			
パフォーマンス / 高度なテキストモード	100M Ethernet / 高度なテキストモードが有効	100M Ethernet / 高度なテキストモードが無効	100M Ethernet / 高度なテキストモードが無効
最大フレームレート	0	0	30
ビデオ圧縮	ウェーブレット	JPEG	JPEG
静止画のデータ伝送速度	0.72Mbps	0.72Mbps	0.2Mbps
キーボード/マウスのデータ伝送速度	1.02Mbps	0.97Mbps	0.32Mps
Web 閲覧のデータ伝送速度	7.1Mbps	2.55Mbps	2.0Mbps
ビデオおよび Web 閲覧のデータ伝送速度	64.0Mbps	31.8Mbps	27.2Mbps

---

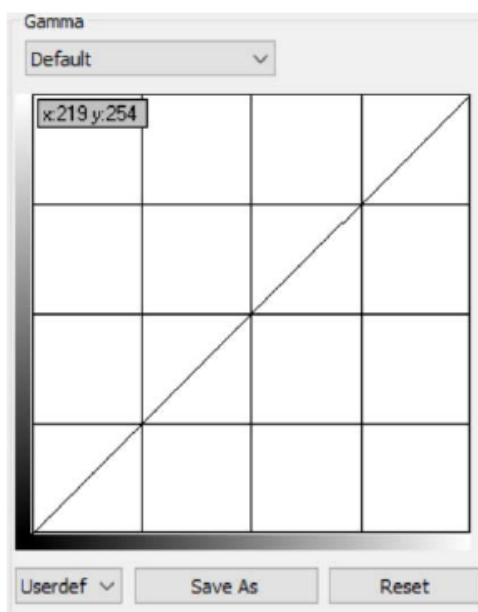
**注意:** リモートアクセスの解像度は 1920×1080@60Hz です。

---

## ガンマ調整

リモート表示画面のガンマレベルを調整する必要がある場合は、「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログの「Gamma」(ガンマ)機能を使用してください。

- ◆ 「Advanced」(詳細)設定では、10 種類の既定値と 4 種類のユーザー定義値を選択することができます。リストボックスをドロップダウンして、最適な値を選択してください。
- ◆ さらに細かい設定を行う場合は、「Advanced」(詳細)ボタンをクリックしてください。クリックすると以下のようなダイアログが表示されます。



- ◆ 画面出力の値を調節する場合は、斜線の部分をクリックしドラッグしてください(複数箇所操作することが可能)。
- ◆ 上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「Save As」(名前を付けて保存)をクリックしてください。ユーザー定義の値は最大 4 種類まで保存することができます。設定された値はリストボックスから選択することができます。
- ◆ 変更内容を破棄し、ガンマラインを元の状態に戻す場合は「Reset」(リセット)ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存し、ダイアログを終了する場合は「OK」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を破棄し、ダイアログを終了する場合は「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** 最適な値で設定するために、リモート画面を見ながら設定値の変更を行ってください。

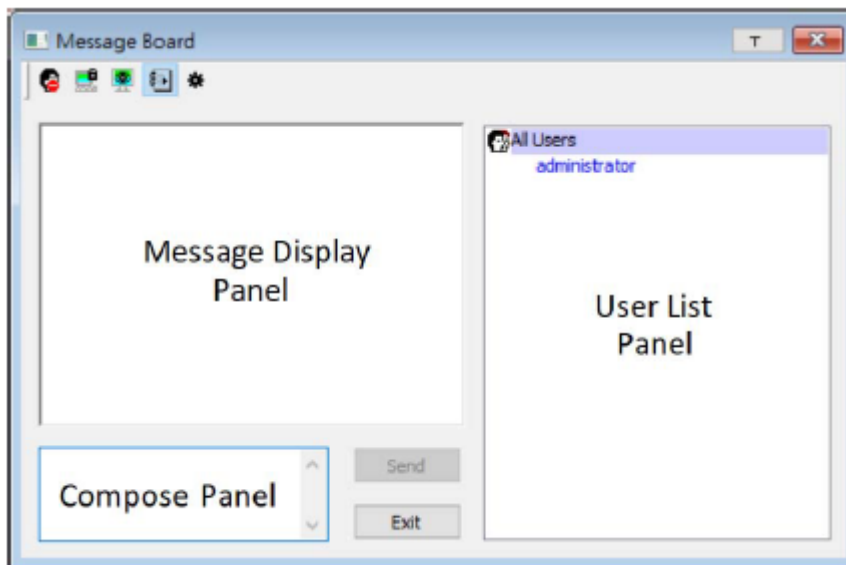
---





## メッセージボード

本製品はマルチユーザーログインに対応していますが、異なるユーザーによる同時アクセスは、アクセスの競合を招くおそれがあります。このため、この問題の回避策として、メッセージボード機能を提供しています。これによって、ログインユーザーは相互にコミュニケーションを取ることができます。



## ボタンバー

ボタンバーにあるボタンは各機能の ON/OFF を交互に切り替えるトグルボタンです。各ボタンの機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になると、メッセージボードに送信されたメッセージは表示されなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、この機能を無効にしているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にチャット無効のアイコンが表示されます。
	キーボード、ビデオ、マウスの占有/開放を行います。ポートが占有モードに設定されていると、このボタンを使ってキーボード、ビデオ、マウスの各操作を占有することができます。あるユーザーがこれらを占有すると、他のユーザーは画面の参照やキーボードとマウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を占有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣に、このアイコンが表示されます。
	キーボードとマウスの占有/開放を行います。ポートが占有モードに設定されていると、このボタンを使ってキーボードとマウスの操作を占有することができます。あるユーザーがこれらを占有すると、他のユーザーは画面の参照はできますが、キーボードとマウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を占有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣に、このアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示/非表示にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが閉じた状態になります。また、ユーザーリストが開いている場合、このボタンは網がけされた状態になります。
	メッセージのポップアップを行います。メッセージ受信時におけるポップアップ表示を有効にするか無効にするかは、チェックボックスで選択することができます。

## メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに送信したメッセージやシステムメッセージはパネルに表示されますが、チャット機能を無効にしている場合は、メッセージが送信されてもメッセージボード上には何も表示されません。

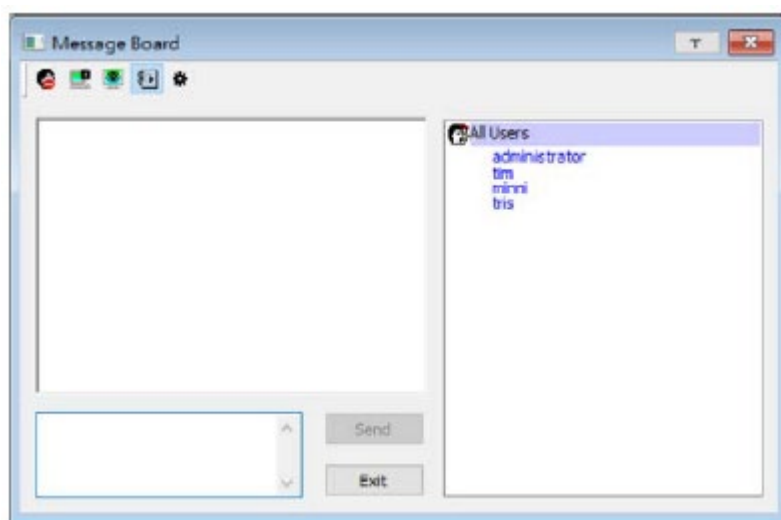
## メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「Send」(送信)ボタンをクリック、または[Enter]キーを押すとメッセージがメッセージボードに送信されます。

## ユーザーリストパネル

現在ログイン中のユーザーのユーザーネームはこのパネルに表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトの設定では、メッセージはすべてのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」(すべてのユーザー)を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。








## バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使うと、リモートユーザーが操作しているクライアントコンピューターのドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスクやスマートカードリーダーなどを、製品に接続されているサーバーでマウントし、仮想ドライブとして使用することができます。

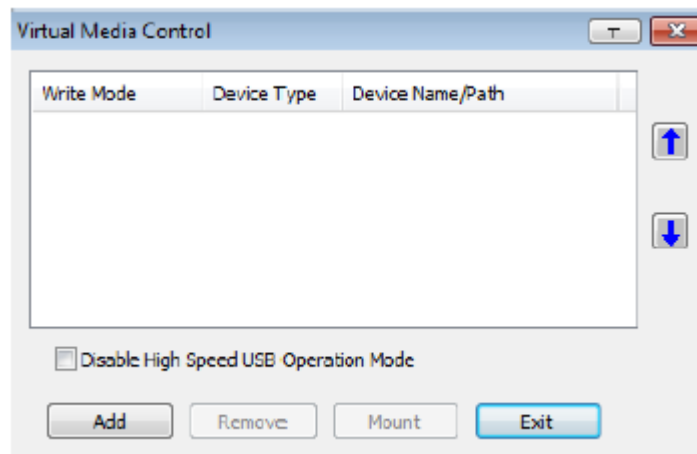
バーチャルメディアのアイコンは、使用ドライブの状態に応じて変化します。各アイコンが示す機能の詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効または利用できない場合、このアイコンが表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。

### バーチャルメディアのマウント

バーチャルメディアデバイスのマウントを行う場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログを起動してください。

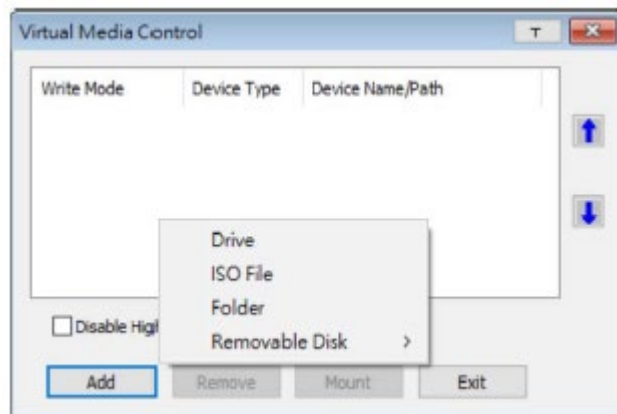


---

**注意:** 右上の「T」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスの透明度を調整するスライダーが表示されます。調整後は、ダイアログの任意の場所をクリックしてスライダーを閉じてください。

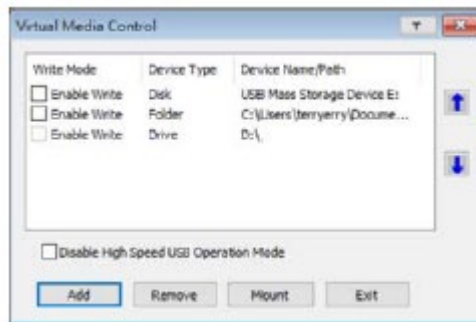
---

2. 「Add」(追加) ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。



選択した項目に応じて、ドライブ、ISO ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクのパスを選択するダイアログが表示されます。対応する各メディアのタイプおよびマウント方法に関する詳細は p.369「バーチャルメディア対応」をご参照ください。

3. お使いのデバイスがフルスピード USB にしか対応していない場合は、「Disable High Speed USB Operation Mode」(高速 USB 操作モードを無効にする)の項目にチェックを入れてください。
4. そのほかのソースメディアも追加する場合は、「Add」(追加) ボタンをクリックして必要となるメディアを追加してください。バーチャルメディアは最大3つまでマウントすることができます。また、リストで上から 3 つめまでの項目は、選択されたデバイスであることを表しています。バーチャルメディアとスマートカードリーダーは同時にマウントすることができます。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動させたいデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックして順序を決定してください。
5. 「Read」(読み取り)は、リモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また、「Write」(書き込み)は、リモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ表しています。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可したい場合は、「Enable Write」(書き込みを有効にする)の項目にチェックを入れてください。

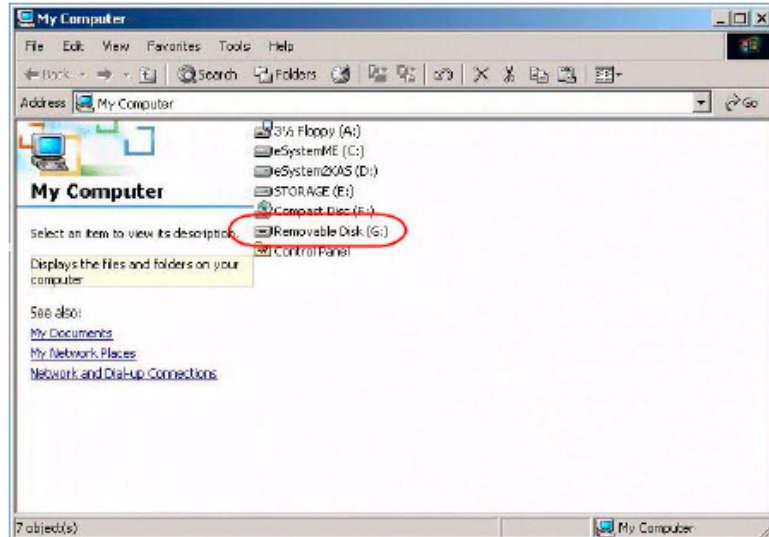


---

**注意:** リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、そのデバイスのチェックボックスはリスト中でグレーに表示されます。

---

6. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択し、「**Remove**」(削除) ボタンをクリックしてください。
7. ソースメディアの選択後に「**Mount**」(マウント) ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。このとき、選択されたバーチャルメディアのデバイスがリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのファイルシステムでドライブ、ファイル、フォルダーなどとして認識されます。



デバイスがマウントされると、そのデバイスをサーバーに実際に挿入されているメディアと同じように扱うことができますので、ファイルのドラッグやドロップを行ったり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりすることもできます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にローカル側のファイルシステムに保存されています。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシ

システム側から移動することになります。

- リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

## バーチャルメディアのマウント - ドラッグ&ドロップ

ドラッグ&ドロップによるバーチャルメディアのマウントは、マウスポインターを「Dual」(デュアル)に設定すると、操作しやすくなります(p.126「マウスポインタータイプ」参照)。

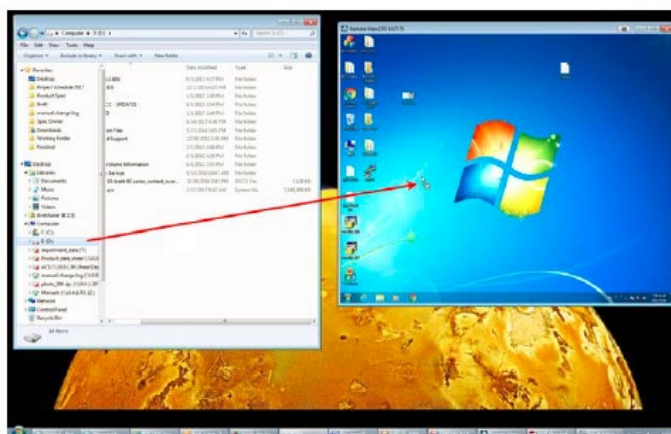
バーチャルメディアのデバイスをドラッグ&ドロップでマウントするには、下記の手順に従って操作してください。

- リモートサーバーでセッションを開いて、バーチャルメディアアイコンが青色になっていることを確認してください。



- ローカルコンピューター側でエクスプローラーのウィンドウを開いたら、マウントしたいメディアソースを選択し、マウスを左クリックしたまま、このメディアソースをリモートビューのウィンドウにドラッグ&ドロップしてください(下図参照)。

- ◆ ドラッグ&ドロップ = バーチャルメディアは読み取り専用
- ◆ ドラッグ&ドロップ + [Ctrl] = バーチャルメディアは読み取り+書き込みが可能

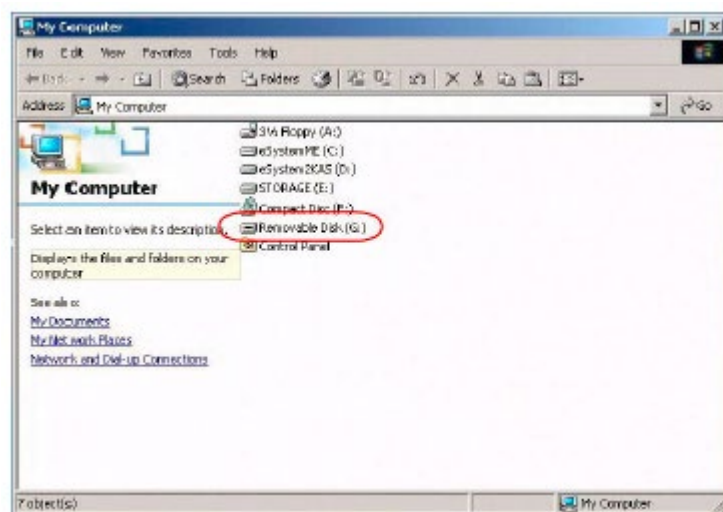


対応バーチャルメディアの種類やマウント方法に関する詳細は、p.369「バーチャルメディア対応」をご参照ください。

3. バーチャルメディアのマウント処理中には、リモートビュー画面に下図のようなメッセージが表示されます。



4. ドラッグ&ドロップしたバーチャルメディアデバイスはリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのファイルシステムでドライブ、ファイル、フォルダーなどとして認識されます。



---

**注意:** リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合は、リスト中ではグレーで表示されます。

---

デバイスがマウントされると、そのデバイスをリモートサーバーに実際に挿入されているメディアと同じように扱うことができますので、ファイルのドラッグやドロップを行ったり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりすることもできます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にローカル側のファイルシステムに保存されています。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシステム側から移動することになります。



5. リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。



## ズーム

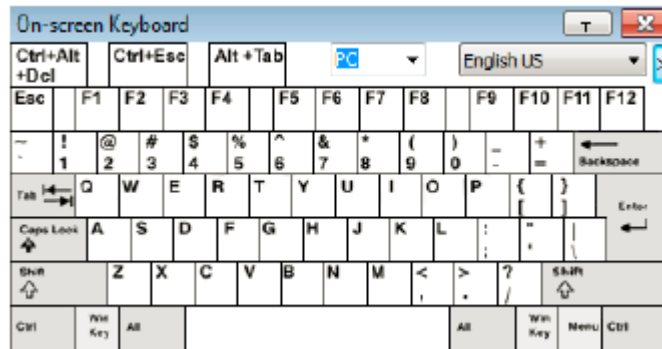
リモートビューのウィンドウをズーム表示します。製品が提供している表示倍率は下表のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは、この表の一番上にある 100%の倍率の設定とは異なり、リモートビューウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させスクロールを使用してください。



## オンスクリーンキーボード

本製品は、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。上のアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードが起動します。



オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、リモート側とローカル側のキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動し、アクセス中のポートに接続されているコンピュータで使用されている言語を選択するだけでオンスクリーンキーボードの利用が可能です。

---

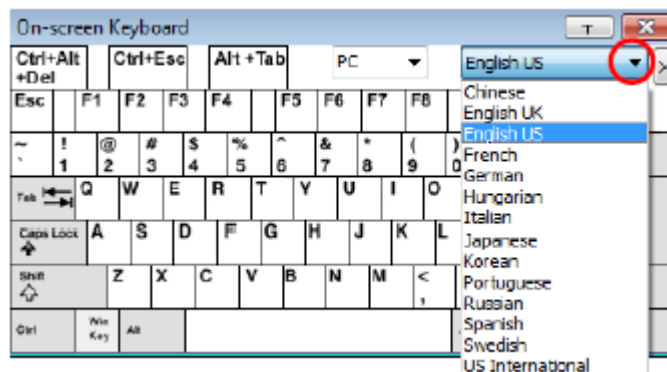
**注意:** オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。

---

### 言語の変更

言語を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



2. 新しい言語をリストから選択してください。

## プラットフォームの選択

このオンスクリーンディスプレイは、PC の他に Sun プラットフォームにも対応しています。プラットフォームを選択する場合は、下記の手順に従って操作してください。

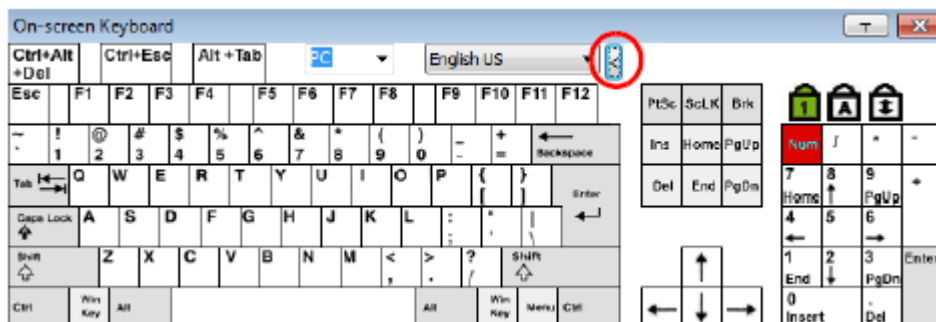
1. 下図に示すプラットフォームリストの隣にある矢印ボタンをクリックして、リストを展開してください。



2. お使いの環境に適したプラットフォームをリストから選択してください。

## 拡張キーボード

拡張したオンスクリーンキーボードを表示または非表示にする場合は、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。





## マウスポインタータイプ

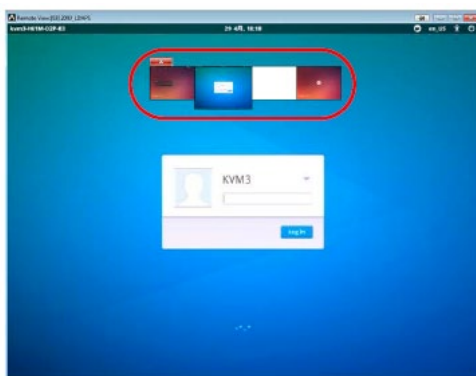
本製品は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



- 
- 注意:**
1. ポートがアクセスされていない場合は、デュアルと十字のみのポインターがWindowsビューワーでご利用いただけます。ポートにアクセスすると、上図の4種類のポインターがご利用いただけます。
  2. シングルポインターは、JavaクライアントビューワーやJavaクライアントではご利用になれません。
  3. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「Toggle mouse display(マウス表示の切替)」のホットキーを実行した時と同じ状態になります(p.99 参照)。
  4. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-

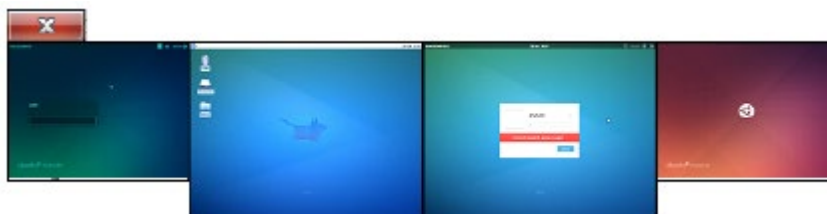
## 拡張表示

拡張表示のアイコンを使うと、拡張表示の設定で画面を見ることができます。このアイコンをクリックすると、下図のように拡張画面を伴った表示パネルのウィンドウが出てきます。



表示パネルウィンドウにおける画面のサイズと数は、設定内容に応じて変わります。詳細は p.174「拡張表示」を参照してください。

### 表示パネルのウィンドウ



オプション	用途
Switch (切り替える)	表示パネルウィンドウにある画面をダブルクリックすると、その拡張表示に切り替えます。
Expand / Collapse (展開する/折りたたむ)	表示パネルウィンドウの枠の上にマウスポインターを移動させ、二重の矢印に変わってから、そのマウスポインターをクリック&ドラッグすると、ウィンドウサイズを拡大または縮小します。
Move (移動する)	表示パネルウィンドウの内側にマウスポインターを移動させ、クリック&ドラッグすると、このウィンドウをコンピューター画面の任意の場所に移動させます。表示パネルウィンドウはリモートセッションの外側に移動させることが可能です。
Close (閉じる)	コントロールパネルの「X」マーク、または複数表示のアイコンをクリックすると、コントロールパネルウィンドウを閉じます。



## マウスダイナシクモード

ローカル/リモートのマウスのポインターは自動または手動で同期させることができます。

### マウスの自動同期(ダイナシク)




マウスダイナシク機能を使用すると、リモート/ローカルマウスのポインターを自動的に同期しますので、定期的にマウスの再同期を行う手間が軽減されます。

---

**注意:** この機能は、使用 OS が Windows または Mac(G4 以降)で、使用しているコンピューターモジュールの属性 OS(attribute OS)の値が Win または Mac に設定されている場合にのみご利用いただけます(p.171 参照)。この場合、使用モジュールが KA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、KA7189 のいずれかであることを確認してください。  
これ以外の環境の場合は、手動でマウスの同期を行ってください(詳細は次のセクションで説明します)。

---

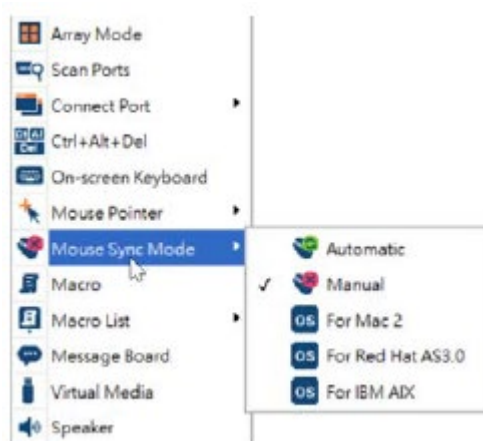
マウスの同期モードを表すツールバーのアイコンは、下表のとおりです。

アイコン	機能
	マウスダイナシク機能が利用できないことを表します。この場合は、手動でマウスを同期させてください。KA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、KA7189 以外のモジュールをお使いの場合は、これがデフォルト設定になっています。
	マウスダイナシク機能が利用可能かつ <b>有効</b> になっていることを表します。マウスダイナシク機能が利用可能である場合は、これがデフォルト設定になります(上記の注意書きを参照)。
	マウスダイナシク機能が利用可能であるものの、 <b>無効</b> であることを表します。

マウスダイナシクが利用可能である場合、このアイコンをクリックするとマウスダイナシクを有効または無効に切り替えます。マウスダイナシクを無効に選択した場合は、次のセクションの手動同期を行う必要があります。

## Mac/Linux 環境の場合

- ◆ Mac(10.4.11 以降)をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法では満足の結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試しください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「Mouse Sync Mode」(マウスシンクモード) →「Automatic for Mac 2」(Mac2 用に自動同期)を選択してください。



- ◆ Linux をお使いの場合、ダイナシクモードはサポート対象外ですが、マウスシンクモードメニュー(Red hat AS3.0)の設定を行うことで同期が可能です。USB タイプのコンピューターモジュール(前頁の注意書き参照)をお使いで、デフォルトのマウス同期の方法では満足の結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0 の設定をお試しください。ただし、上記のいずれの場合においても次のセクションに記載されている手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

## 手動設定によるマウス同期

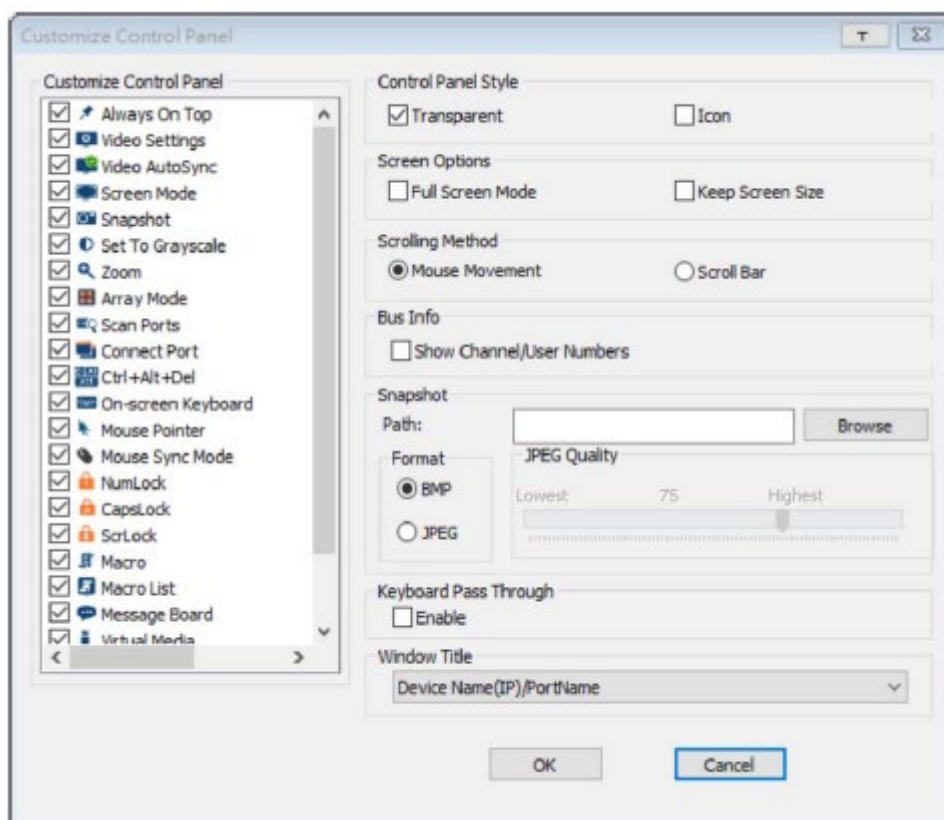
ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. コントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)のアイコンをクリックして、ビデオとマウスのマウス同期を実行してください(p.108 参照)。
2. 「Video Settings」(ビデオ設定)の「Auto Sync」(自動同期)ボタン(p.108 参照)を使って自動同期を実行してください。
3. 「Adjust Mouse」(マウス調整)ホットキーを使ってマウス調整機能(p.100 参照)を起動してください。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして、別の位置に移動させてください。
6. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題のあるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細については p.351 「その他のマウス同期の設定方法」をご参照ください。



## コントロールパネルの環境設定

コントロールパネルのアイコンをクリックすると、コントロールパネルに表示するアイコンや、コントロールパネルの外観の設定を行うことができます。



ダイアログは主に 6 箇所に分かれています。各部分の詳細は以下のとおりです。

アイテム	説明
Customize Control Panel (コントロールパネルの カスタマイズ)	コントロールパネルで表示するアイコンを選択することができます。表示したいアイコンにはチェックを入れ、非表示にしたいアイコンからはチェックを外してください。
Control Panel Style (コントロールパネルの スタイル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Transparent」(透明)の項目にチェックを入れると、コントロールパネルは半透明になります。半透明にすることで、コントロールパネルの下にあるオブジェクトを確認することができます。</li> <li>◆ 「Icon」(アイコン)の項目にチェックを入れると、通常はアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に移動させると、パネル全体が表示されます。</li> </ul>
Screen Options (画面オプション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Full Screen Mode」(フルスクリーンモード)の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。</li> <li>◆ 「Full Screen Mode」(フルスクリーンモード)の項目にチェックが入っていない場合、リモート側の画面はウィンドウ形式で表示されません。リモート画面の解像度が大きくてウィンドウに表示されない部分がある場合は、操作したい部分の近くにあるウィンドウ枠にマウスポインターを動かしてください。画面がスクロールします。</li> <li>◆ 「Keep Screen Size」(スクリーンサイズを保持)の項目にチェックが入っている場合、リモート側の画面はリサイズされません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウの状態画面の中央に表示されます。</li> <li>➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面はモニターの中央部に表示されます。画面に表示されていない部分を操作する場合は、その部分の近くにあるウィンドウ枠にマウスポインターを動かしてください。画面がスクロールします。</li> </ul> </li> <li>◆ 「Keep Screen Size」(スクリーンサイズを保持)の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてリサイズされます。</li> </ul>

(表は次のページに続きます)

アイテム	説明
Scrolling Method (スクロール方法)	<p>リモート画面のサイズがお使いのモニターの解像度を超える場合、画面に表示しきれない領域をスクロールする方法を選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Mouse Movement」(マウス動作)を選択すると、マウスポインターをウィンドウ枠に動かした時に画面がスクロールします。</li> <li>◆ 「Scroll Bars」(スクロールバー)を選択すると、表示しきれない領域にアクセスできるスクロールバーがウィンドウ枠に表示されます。</li> </ul>
Bus Info (バス情報)	<p>この項目にチェックが入っている場合は、コントロールパネルのテキストバー下段に、現在使用しているバスの番号と、そのバスを使用しているユーザー数の合計が左から順に表示されます(表示例は p.93 のコントロールパネルの図を参照)。</p>
Snapshot (スナップショット)	<p>この部分は、製品の画面キャプチャに関連する設定項目です(スナップショットの説明については p.96 参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Path」(パス)では、キャプチャされた画面が自動的に保存されるフォルダーのパスを設定します。パスを指定する場合は、テキストボックスの隣にある「Browse」(参照)ボタンをクリックし、フォルダーの選択ダイアログから適当なフォルダーを選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでパスを指定していない場合は、スナップショットはリモートアクセスに使用しているコンピューターのデスクトップ上に保存されます。</li> <li>◆ キャプチャした画面のイメージの保存形式(BMP または JPEG)をラジオボタンで選択してください。</li> <li>◆ JPEG を選択した場合は、キャプチャした画像の画質をスライドバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。</li> </ul>
Keyboard Pass Through (キーボードパススルー)	<p>この項目が有効になっていると、[Alt + Tab]のキー入力はリモートデバイスに送られて実行されます。この項目が有効になっていないと、[Alt + Tab]のキー操作はローカルクライアントコンピューター上で実行されてしまいます。</p>

(表は次のページに続きます)

アイテム	説明
Window Title (ウィンドウタイトル)	このウィンドウタイトルに表示させたい情報を、次のオプションから選択することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Port Name (ポート名)</li> <li>◆ Port Name/Resolution/Frame Rate/Bandwidth (ポート名/解像度/フレームレート/バンド幅)</li> <li>◆ Device Name (IP)/Port Name (デバイス名 (IP)/ポート名)</li> <li>◆ Device Name (IP)/Port Name/Resolution/Frame Rate/Bandwidth (デバイス名 (IP)/ポート名/解像度/フレームレート/バンド幅)</li> </ul>

## Java コントロールパネル

Java クライアントビューワーと Java クライアントコントロールパネルは基本的に Windows クライアントのコントロールパネルと同じです。



主な相違点は以下のとおりです。

- ◆ 「Macros」(マクロ)ダイアログでは、「Toggle Mouse Display」(マウス表示の切替)の機能はご利用になれません。
- ◆ 「Single」(シングル)のマウスポインターはご利用になれません。
- ◆ Java クライアントビューワーのメッセージボードには、ユーザーリストやメッセージパネルを表示/非表示にする「Show/Hide」(表示/非表示)ボタンがあります。この機能は、メインパネルとユーザーリストパネルの境にあるバーの上部に位置する矢印ボタンをクリックすることでお使いいただけます。
- ◆ バーチャルメディア機能は ISO ファイルとフォルダーにのみ対応しています。詳細については、p.369「Java クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)」をご参照ください。
- ◆ コントロールパネルの「Lock LED」(ロック LED)アイコンはお使いのキーボードに同期するわけではありませんので、最初に接続した際に表示が実際の状況と異なることがあるかもしれません。このような場合には LED アイコンをクリックして正しく表示するようにしてください。
- ◆ スナップショットのフォーマットは BMP の代わりに PNG がご利用いただけます。

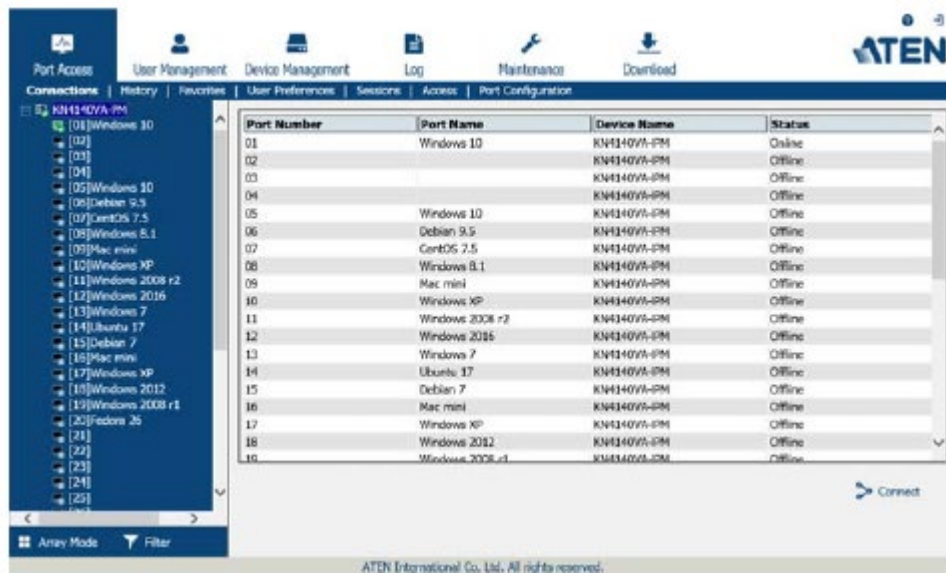


# 第6章 ポートアクセス

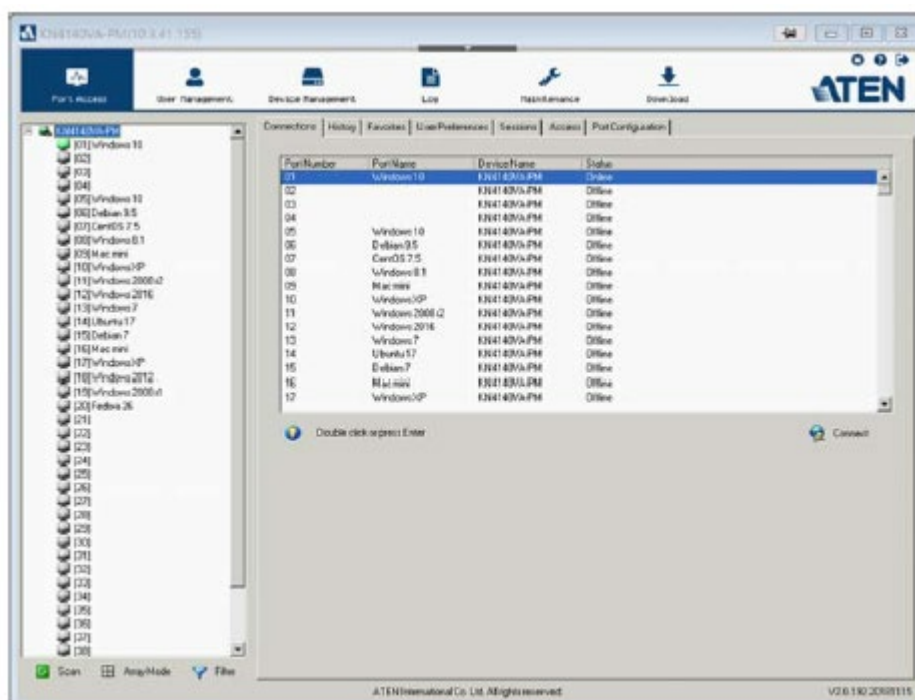
## 概要

製品にログインすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(通信)メニューの画面が初期表示されます。

## Web ブラウザインターフェース



## アプリケーション GUI



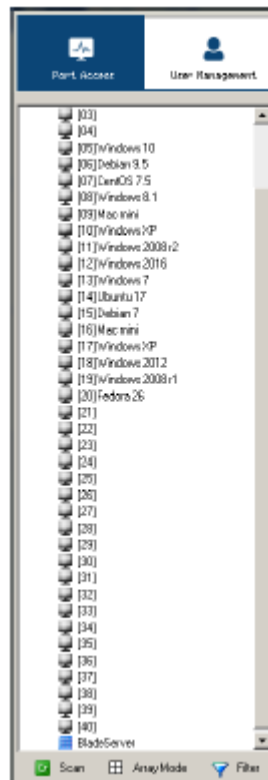
ページは大きく数箇所に分かれており、ユーザーがアクセスを許可された、デバイス、ポート、アウトレットがすべて左側のサイドバーに一覧表示されます。一覧には KN シリーズの IP-KVM スイッチの他に、ポートに割り当てているブレードサーバーがある場合には、この IP-KVM スイッチの下に表示されます。

KVM デバイスやポートの設定・操作方法については、p.144 で、ブレードサーバーの設定・操作方法については p.147 でそれぞれ説明します。

サイドバーでデバイスやポート、アウトレットを選択してから、メニューバー(ブラウザ GUI の場合)またはタブバー(アプリケーション GUI の場合)で項目をクリックすると、そのアイテムに関連した情報や設定内容が画面に表示されます。

## ポート選択バー

すべての KVM スイッチおよびブレードサーバー (ポートとアウトレットを含む) は、画面左側のサイドバーにツリー形式で一覧表示されます。



## ポート選択ツリー

サイドバーのポート選択ツリーには下記の特長があります。

- ◆ ユーザーは自身がアクセス権限を持っている KVM スイッチやポート/アウトレットだけを参照することができます。
- ◆ ポート、アウトレットおよび子機となる KVM スイッチは親機となる KVM スイッチの下に表示されます。ツリーを展開し、子機のポートやアウトレットにアクセスする場合は KVM スイッチの前に表示されている「+」をクリックしてください。また、ツリーを折りたたんで子機側のポートやアウトレットを非表示にする場合は「-」をクリックしてください。
- ◆ 各ポートやアウトレットの ID はポートアイコンの隣にあるカッコの中に表示されます。ポートやアウトレットにそれぞれ固有の名前をつけると識別に便利です(p.142「ポート/アウトレットへの名前設定」参照)。

- ◆ オンラインの KVM スイッチやポートには、モニターが薄緑色になったアイコンが表示されます。モニターが灰色のアイコンはそのデバイスがオフラインであることを表しています。
- ◆ 電源が ON 状態のアウトレットにはオレンジのアイコンが、また、OFF 状態のアウトレットにはグレーのアイコンがそれぞれ表示されます。
- ◆ ポートにアクセスする場合は、対象となるポートのアイコンをダブルクリックしてください。ポートの操作方法に関する詳細は第 12 章で説明します。

- 
- 注意:**
1. Web ブラウザを使ってアクセスした場合、ポートごとにビューワーを起動することができますが、参照できるポートの数は、現在使用している KVM スイッチが対応しているバス数に応じて変わります。例えば、使用している KVM スイッチが最大 4バスに対応している場合、5 番目のビューワーには最初のビューワーがアクセスしているポートが、6 番目のビューワーには 2 番目のビューワーがアクセスしているポートがそれぞれ表示されます。  
これに対し、GUI アプリケーションツールを使用した場合は、一度に 1 ポートしかアクセスすることができません。2 つのポートに同時にアクセスする場合は、ツールを別々に起動する必要があります。
  2. 「CC Management」(CC 管理)機能が有効になっている場合(p.216 参照)、ブレードサーバーが製品上で設定されていたとしても、これらのデバイスはサイドバーには表示されません。というのは、これらのデバイスが CC サーバーによって管理されているためです。
- 



## スキャン

「スキャン」は、アプリケーション版 GUI サイドバーの下部にあるメニューで、サイドバー (p.139 参照) に表示されている全ポートを一定の時間間隔で切替表示を行う機能(オートスキャン)を提供します。この機能により、ユーザーはポート切替を行うことなく自動的にコンピューターの状態を監視することができます(p.263「オートスキャン」参照)。

- 
- 注意:** Web ブラウザで製品にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。Web ブラウザのインターフェースでオートスキャン機能を利用する場合は、リモート画面を表示した後で、ツールバーを起動してください。詳細に関しては p.261 をご参照ください。
-



## アレイモード

「アレイモード」は、アプリケーション版 GUI サイドバーの下部にあるメニューで、画面を分割し、複数のコンピューターの画面を同時に出力します(パネルアレイモード機能)。出力対象となるのは、サイドバーのツリー(p.139 参照)に表示されている、オンラインのポートです。それ以外のポートはブランクで表示されます。詳細に関しては p.266 をご参照ください。

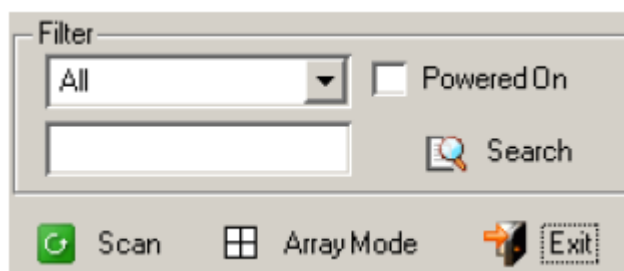
---

**注意:** Web ブラウザで製品にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。Web ブラウザのインターフェースでパネルアレイモード機能を利用する場合は、リモート画面を表示したあと、ツールバーを起動してください。詳細に関しては p.261 をご参照ください。

---

## フィルター

このセクションでは、サイドバーに表示されるポートの数や種類、また、オートスキャンやパネルアレイモードが起動した場合にスキャンの対象とするポートを操作することができます(上記の「スキャン」および「アレイモード」参照)。「フィルター」アイコンをクリックすると、サイドバーの下部は下図のように展開されます。



各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
All (すべて)	デフォルトの表示形式です。フィルターオプションが選択されていない場合は、そのユーザーがアクセス可能である全ポートがサイドバーのツリーに表示されます。 お気に入り設定されている場合(p.153 参照)、リストボックスを展開してお気に入りだけを選択することもできます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択されたアイテムだけがツリーに表示されます。
Powered On (電源オン)	この項目を有効にする(チェックをつける)と、コンピューターに電源が入っているポートのみがツリーに表示されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Search (検索)	<p>検索したい文字列を入力して「<b>Search</b>」(検索)ボタンをクリックすると、ポート名称がその文字列に一致するポートだけがツリーに表示されます。ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「<b>or</b>」キーワードの使用が可能ですので、複数のポートを表示することができます。以下、検索例です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「<b>Web*</b>」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Web Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。</li> <li>2. 「<b>W*1 or M*2</b>」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Mail Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。</li> </ol>
Exit (終了)	このアイコンをクリックするとフィルターダイアログを終了します。

## サイドバーユーティリティ

アプリケーション版の「Port Access」(ポートアクセス)の「Connections」(接続)タブには、サイドバーツリーを操作する便利な方法があります。サイドバーでアイテムを右クリックすると、サブメニューリストがポップアップ表示されます。



**注意:** 上図のスクリーンショットは、あくまでも表示の一例です。ポップアップに表示されるアイテムは、ログインしている場所(リモートまたはローカルコンソール)や、ログインユーザーのタイプや、選択されているデバイスの種類(KVM スイッチまたはポート)によって変わります。

設定項目の詳細は下表のとおりです。

アイテム	ユーザータイプ	説明
Expand (展開) / Collapse (閉じる)	Administrator User	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ デバイスのポートがネストしている(表示されていない)場合、メニューリストには「Expand」(展開)が表示されます。ツリーを開いてポートを表示する場合は「<b>Expand</b>」(展開)をクリックしてください。</li><li>◆ デバイスのポートが表示されている場合、メニューリストには「<b>Collapse</b>」(閉じる)が表示されます。ポートを非表示にする場合は「Collapse」(閉じる)をクリックしてください。</li></ul> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. この項目はKVMスイッチ、またはその先に子機のKVM スイッチが接続しているポートの場合にのみ表示されます。</li><li>2. これはツリービューのアイコンの隣にある「+」または「-」を操作した場合と同じ機能を提供します。</li></ol>
コピー	Administrator User	この項目はポートを選択している時にのみ表示されます。この項目を選択すると、コピーしたポートを「お気に入り」タブに貼り付けることができます。詳細については p.153「お気に入りへの追加」をご参照ください。

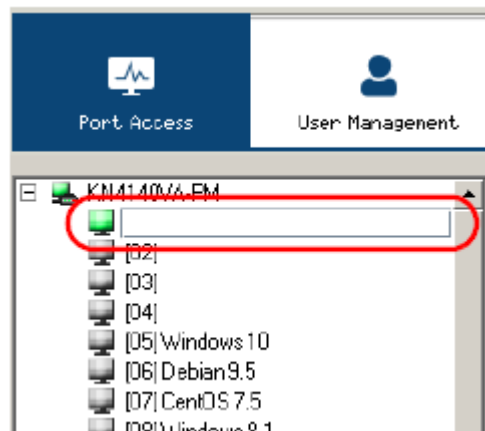
## ポート/アウトレットの名前設定

デバイスの識別を容易にするために、アドミニストレーターおよびポート設定権限を持つユーザーはポートやアウトレットにそれぞれ名前を設定することができます。この機能は、特に大規模なサーバーシステムを管理する際に便利です。ポートやアウトレットの名前を新規作成・編集・削除する場合は下記の手順に従って操作してください。

1. 名前を編集したいアイテムを一度クリックし、しばらくしてからもう一度そのポートをクリックしてください。

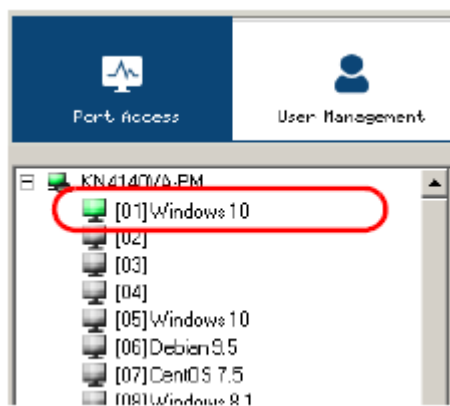
- 
- 注意:**
1. この操作はいわゆるダブルクリックとは異なり、シングルクリックを 2 回に分けて行います。ポートをダブルクリックすると、そのポートに表示を切り替えます。
  2. アプリケーション版の Windows クライアントや Java クライアントでは、名前を編集したいポートを右クリックし、ポップアップメニューから「Rename」(リネーム)を選択するか、ポートを選択して[F2]キーを押してください。
- 

1~2 秒経過すると、ポート名前が入力できるテキストボックスが表示されます。



2. アイテムの名前を入力するか、または既存の名前を変更または削除してください。
  - ◆ 英語(US)キーボードで提供されている文字であれば、どのような組み合わせの文字列でも設定することができます。この場合、最大で 20 バイトまで入力できます。
  - ◆ また、英語以外の文字でも設定することができます。2 バイトエンコーディングを使用している言語であれば、最大で 9 文字まで入力できます。

3. 名前の編集が終わったら、[Enter]キーを押すか、テキストボックスの外側の任意の場所をクリックして操作を終了してください。

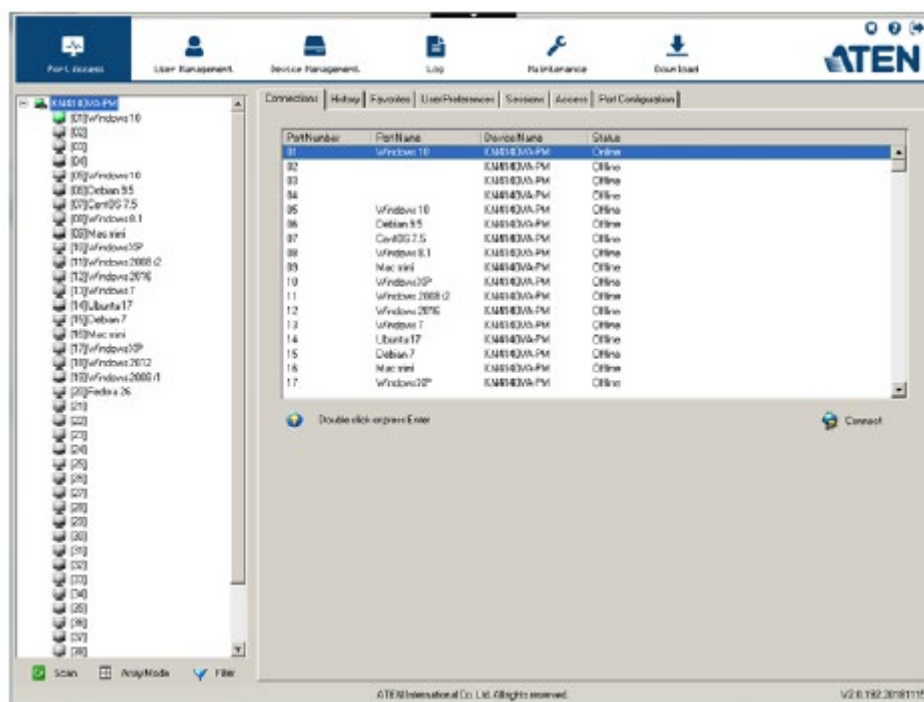


## KVM デバイス・ポート - 接続画面

「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(通信)メニューを操作している際に、左側のツリーでKVMスイッチ等のデバイスが選択されている場合には中央に「Connections」(通信)メニューの内容が、また、ポートが選択されている場合はポート接続の設定オプションがそれぞれ表示されます。

### デバイスレベル

KVM スイッチがサイドバーで選択されていると、ユーザーがアクセス権限や参照権限を持っているデバイスのポート一覧が「Connections」(通信)メニューのページに表示されます。



各デバイスの以下の属性が一覧に表示されます。

- ◆ ポート番号 - KVM スイッチ上のポートナンバーです。
- ◆ ポート名 - ポートに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ デバイス名 - デバイスに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ ステータス - KVM スイッチの現在のステータス(オンラインまたはオフライン)です。

---

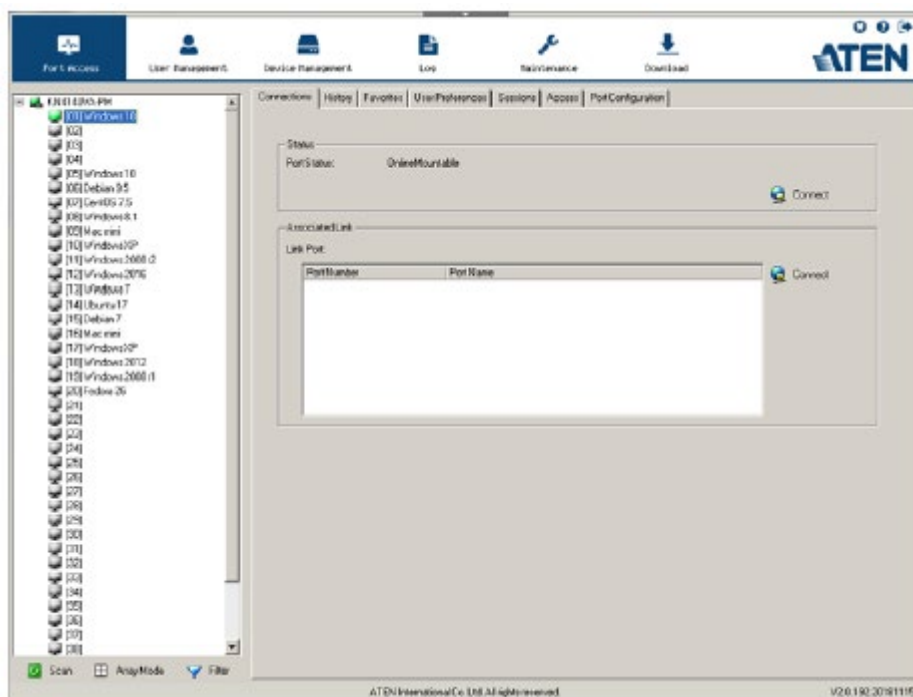
**注意:** Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。

---

メインパネルからポートにアクセスする場合は、対象となるポートの行をダブルクリックするか、その行を選択してから画面下部にある「**Connect**」(接続) ボタンをクリックしてください。

## ポートレベル

サイドバーのツリーでポートが選択されると、「Connections」(通信)メニューはポートの接続と設定オプションを表示する画面に切り替わります。



画面は、主に下記の3つの部分から構成されています。

### ステータス

ポートのオンライン状況、マウント状況など、ポートの現在のステータスに関する情報が表示されます。

製品に組み込まれている Windows ビューワー(Windows Internet Explorer を使用の場合)、または Java ビューワー(その他の Web ブラウザを使用の場合)を使って、ポートに接続されているコンピューターの画面を参照したい場合は、「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください。

### 関連リンク

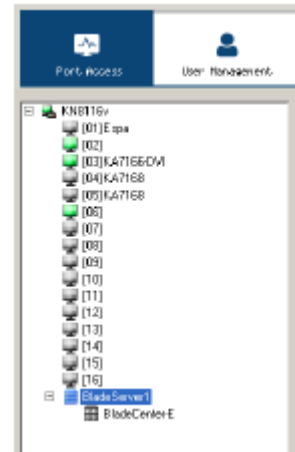
現在選択されているポートに関連付けられたポートを表示します。関連付けは、「Port Access」(ポートアクセス)タブ→「Port Configuration」(ポート設定)メニュー→「Associated Links」(関連付けリンク)タブで設定することができます(詳細は p.173 参照)。



## ブレードサーバー - 接続画面

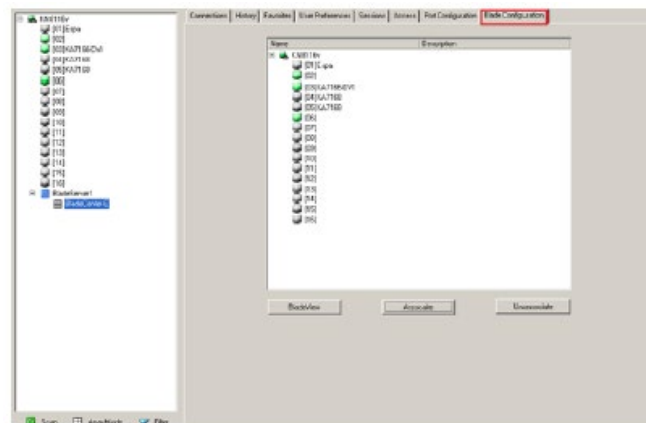
KVM スイッチに接続されているブレードサーバーは、サイドバーで KVM スイッチの下に表示されます。

本セクションでは、ブレードサーバーへのアクセス・設定、そして、KVM スイッチのポートとブレードの関連付けの各方法について説明します。ブレードサーバーやブレードをポートに関連付けしておく、サーバーやブレードはそのポートに接続されているデバイスとしてひとまとまりで表示されます。



### ブレード設定画面

「Blade Configuration」(ブレード設定)画面では、ブレードサーバーと KVM スイッチのポートの関連付けを行います。この画面にアクセスする場合は、対象となるブレードサーバーまたはブレードを選択して、「Blade Configuration」(ブレード設定:メニューバーの右端にあるメニュー)をクリックしてください。



IBMとDellのブレードサーバーは、シャーシ全体がポートに関連付けられ、シャーシの各ブレードはツリー内でその関連ポートの子ポートとして表示されます(右スクリーンショットのポート 08 を参照)。

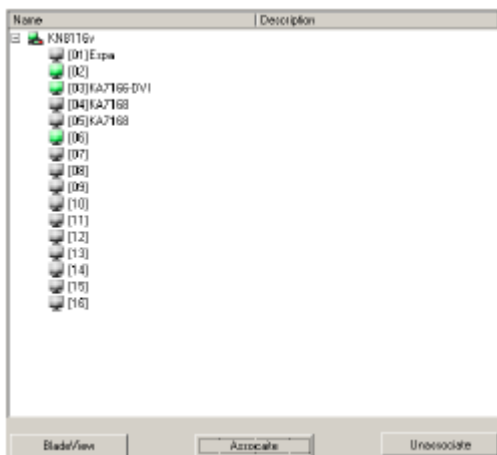
HP のブレードサーバーは、ブレード単位で関連付けを行い、1 ブレードを 1 ポートに関連付けます。

ブレードにアクセスする場合は、ツリーから対象となるポートエントリーをクリックしてください。

## ポートの関連付け

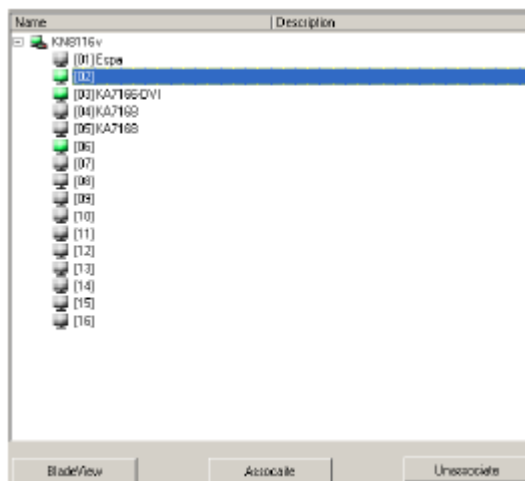
### メインパネルでのデバイス表示

ポートの関連付けを始めるには、メニューバー右端の「Blade Configuration」(ブレード設定)メニューのアイテムをクリックします。このアイテムをクリックすると、「Device View」(デバイスビュー)画面が表示され、KVM スイッチのポートと、これらのポートに既に関連付けられているブレードサーバーや個々のブレードがすべて一覧表示されます。

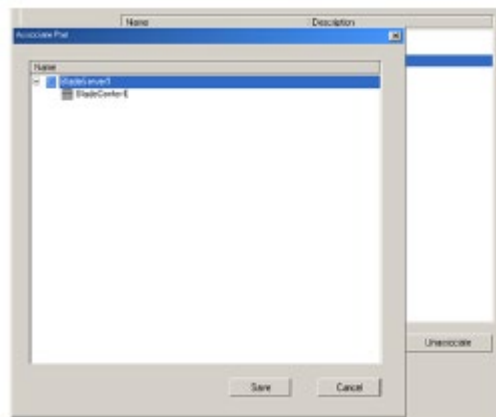


ここから関連付けを行う場合は、KVM ポートを選択し、ブレードサーバーやブレードを選択してから、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メインパネルでポートを選択してください。

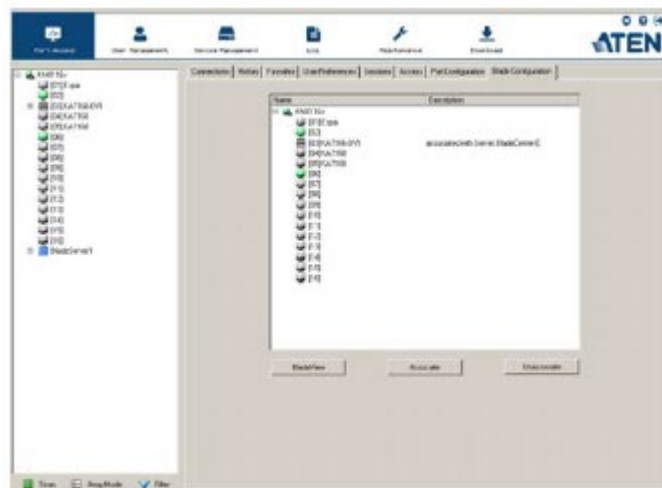


2. 「Associate」(関連付け)ボタンをクリックしてください。
3. 「Associate Port」(ポートの関連付け)画面がポップアップ表示されたら、このポートに関連付けたいブレードサーバーやブレードを選択してください。



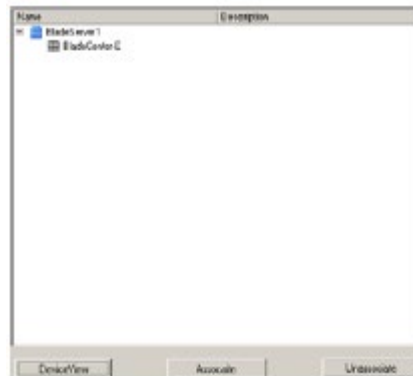
4. 「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

関連付けに成功すると、ブレードアイコンがサイドバーツリーのポートマークとして表示されます。ブレードで稼働しているデバイスにアクセスする場合は、対象となるエントリーをサイドバーでクリックしてください。



## メインパネルでのブレード表示

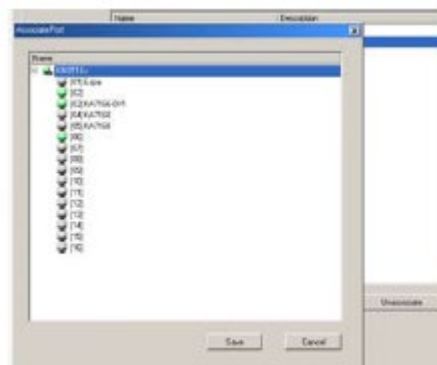
「Device View」(デバイスビュー)メインパネルの下には、「Blade View」(ブレードビュー)という名前のボタンがあります。これは、メインパネルを2つの画面に切り替えるものです。「Blade View」(ブレードビュー)でメインパネルを起動する場合は、これをクリックしてください。



「Blade View」(ブレードビュー)画面では、システムに組み込まれているすべてのブレードサーバーや個々のブレード、そして、これらに関連付けるポートがある場合はこれらのポートが一覧表示されます。

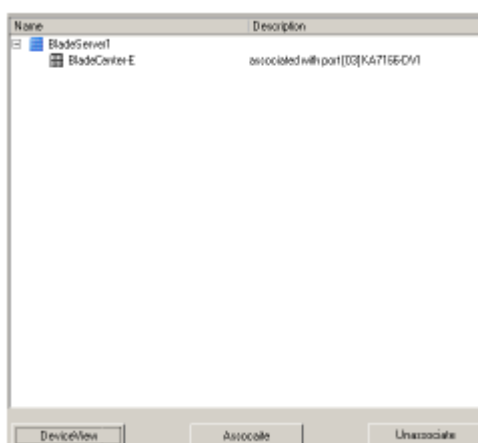
ここから関連付けを行う場合は、ブレードサーバーまたはブレードを選択し、KVM ポートを選択してから、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メインパネルでブレードサーバーまたはブレードを選択してください。
2. メインパネル下部にある「Associate」(関連付け)ボタンをクリックしてください。



3. 画面が表示されたら、これに関連付けたいポートを選択してください。
4. 「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

関連付けに成功すると、ブレードアイコンがサイドバーツリーのポートマークとして表示されます。ブレードで動作するデバイスにアクセスする場合は、サイドバーでこのエントリーをクリックしてください。

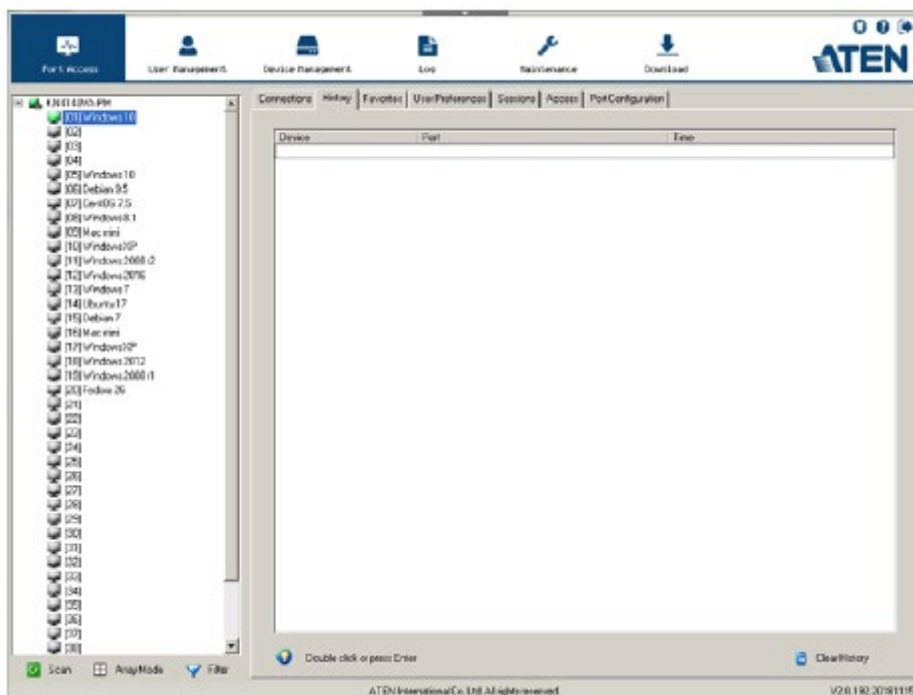


## ポートの関連付け解除

ポートとブレードサーバーまたはブレードとの関連付けを解除する場合は、対象のアイテムをメインパネルから選択し、「**Unassociate**」(関連付け解除)ボタンをクリックしてください。

## 履歴

「History」(履歴)メニューには、ポートへのアクセス時間の履歴が表示されます。このメニューを使うことで、直前に操作されたポートに簡単にアクセスすることができます。対象となるポートをメインパネルでダブルクリックすると、そのポートにアクセスできます。

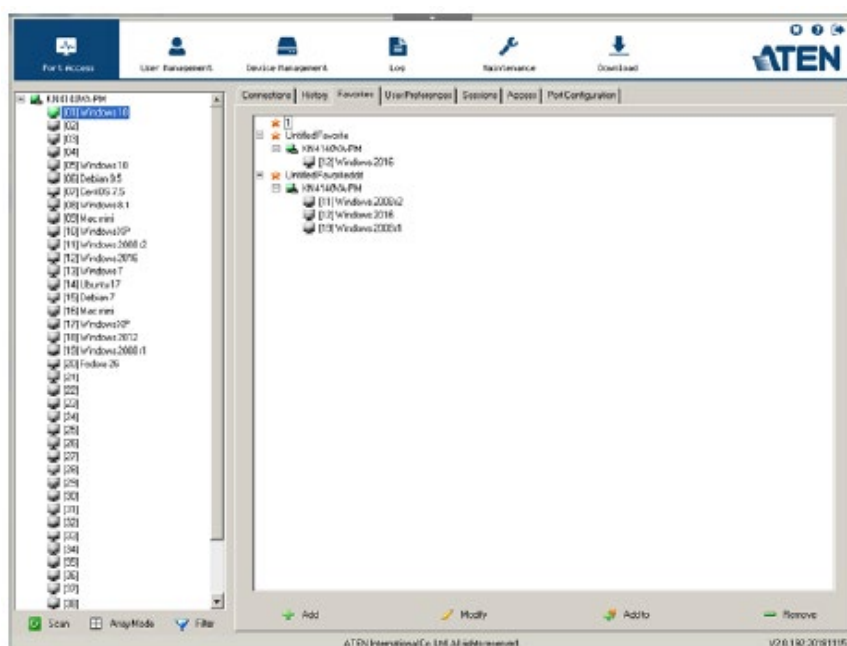


- ◆ 画面に表示されるアイテムが 1 画面を超える場合は、スクロールバーが表示されます。下にあるアイテムはスクロールして表示してください。
- ◆ 履歴を消去する場合は、画面右下にある「Clear History」(履歴のクリア)ボタンをクリックしてください。

**注意:** Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。

## お気に入り

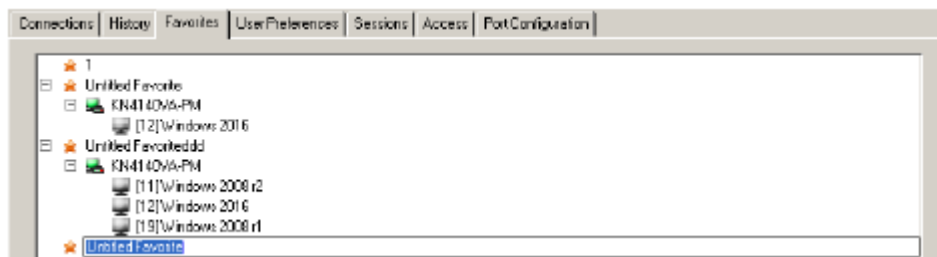
「Favorites」(お気に入り)メニューは、Web ブラウザのブックマークのように、頻繁にアクセスするポートを一覧に登録します。この機能を利用することで、ポートをツリーから探すことなく、簡単にポートを選択することができます。この機能は特に、大規模なシステムで便利にお使いいただけます。



## お気に入りへの追加

ポートをお気に入りに追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで右クリックし、「Add Favorite」(お気に入りの追加)をクリックしてください。  
- または -  
メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。  
「Untitled Favorite」(無題のお気に入り)という名前で作成されます。



2. これは複数のポートをまとめて管理するコンテナのような役割を果たします。アイテムのテキスト部分をクリックし、デフォルトで命名された「Untitled Favorite」の文字列を消して、適当な名前を入力したら、メインパネルの任意の場所をクリックしてください。
  
3. ポートを登録する場合は、  
左側のポート選択リストからお気に入りに登録したいポートをドラッグし、先ほど作成したコンテナの上でドロップしてください。
  - または -  
登録したいポートを右クリックした後、メニューから「Copy」(コピー)を選択し、登録先のコンテナの上で再び右クリックして、メニューから「Paste」(貼り付け)を選択してください。
  - または -  
メインパネルでコンテナを、また、サイドバーからポートをそれぞれ選択したら、メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

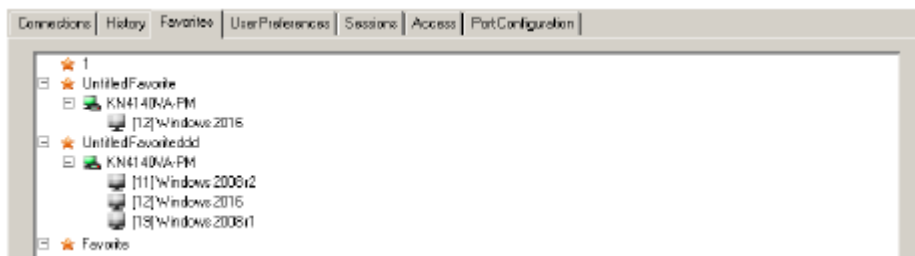
そのポートが属している KVM スイッチがコンテナに登録され、選択されたポートがスイッチの下に追加されます。

---

**注意:** 手順 1~3 では 1 ポートずつお気に入りに追加する方法を紹介しましたが、複数のポートを同時に追加することもできます。複数のポートを追加する場合は、[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを使って複数のポートを選択し、それらのポートをドラッグするか、コピー&ペーストしてください。

---

4. 他にもお気に入りに登録したいポートがある場合は、手順 3 の操作を繰り返してください。



---

**注意:** お気に入りの項目はサイドバーツリーの検索の条件としても使用することができます。詳細に関しては p.139 「フィルター」をご参照ください。

---

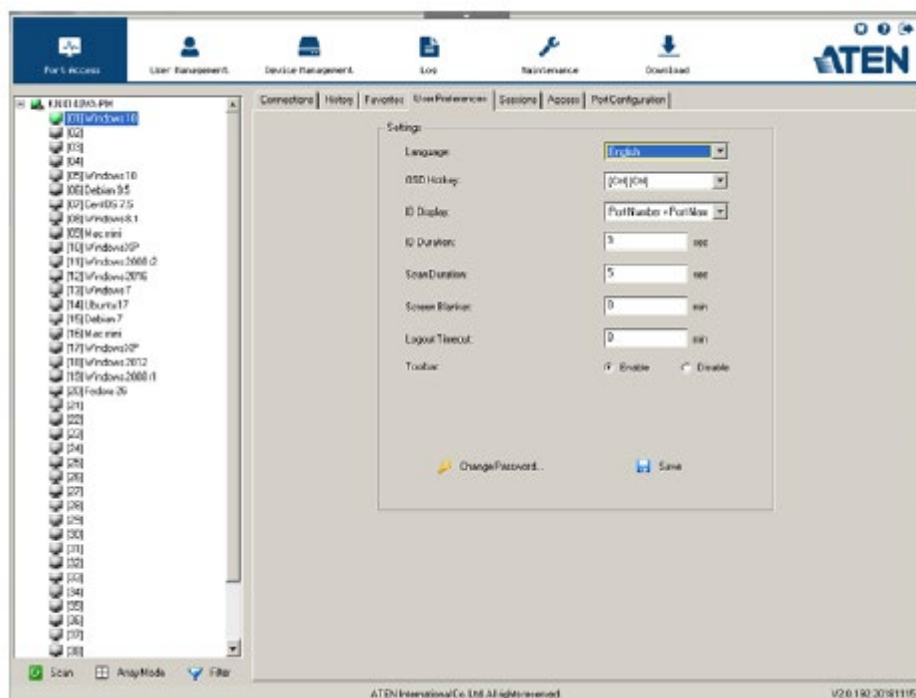


## お気に入りの編集

- ◆ お気に入りを編集する場合は、右クリックで表示されるリストから操作メニューを選択してください。
- ◆ お気に入りの名前を編集する場合は、名前を一度クリックし、少し間を開けてから再度クリックしてください。お気に入りの名前の表示欄がテキストボックスに変わると、名前を編集することができます。方法はポートネームの編集と同様です(p.142 参照)。- または -  
対象となるお気に入りをメインパネルから選択し、画面下部にある「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。

## ユーザー設定

「User Preferences」(ユーザー設定)メニューでは、ユーザー個別の作業環境の設定を行うことができます。製品は、ユーザープロフィールをユーザー別に内部に保存し、ログインユーザーのユーザー名に基づいて作業環境を構築します。



個人の作業環境で設定可能な項目は下表のとおりです。

項目	機能
Language (言語)	メニューの表示言語を選択することができます。
OSD Hotkey (OSD ホットキー)	クライアントアプリケーションで GUI を起動するホットキーを選択することができます。デフォルトでは、[Scroll Lock]キー2度押しに設定されています。これを変更する場合は、ドロップダウンリストからアイテムを選択してください。

(表は次のページに続きます)

項目	機能
ID Display (ID 表示)	ポート ID の表示形式を選択することができます。表示方法は、ポート番号のみ(PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、ポート番号とポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)のいずれかを選択することができます。デフォルトでは、ポート番号とポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)に設定されています。
ID Duration (ID 表示間隔)	ポート切替後のポート ID の表示時間を設定することができます。表示時間は 1～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 3 秒に設定されています。なお、0 を設定すると、ポート ID を常に画面上に表示します。
Scan Duration (スキャン インターバル)	オートスキャンモード(p.263 参照)における、各ポートの表示時間を設定することができます。表示時間は 1～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 5 秒に設定されています。なお、0 を設定すると、スキャン機能を無効にします。
Screen Blanker (スクリーン ブランカー)	<p>コンソールからの入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、画面はブランク表示になります。ブランクまでの時間は 1～30 分の整数値を入力してください。なお、0 を設定するとこの機能を無効にします。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。</p> <p><b>注意:</b>この項目は、ローカル/リモートの両方から設定することができますが、この機能が適用されるのはローカルコンソールのみです。</p>
Logout Timeout (ログアウト タイムアウト)	ユーザーからの入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、ユーザーは自動的にログアウトさせられます。この場合、製品にアクセスするには再ログインが必要です。
Toolbar (ツールバー)	<p>ポートにアクセスする際にポートツールバーを有効にするかどうかを選択します (p.261 「ポートツールバー」参照)。</p> <p>ツールバー機能は GUI コントロールパネル(p.93 参照)でも利用できるため、ここでは無効にすることもできます。</p>

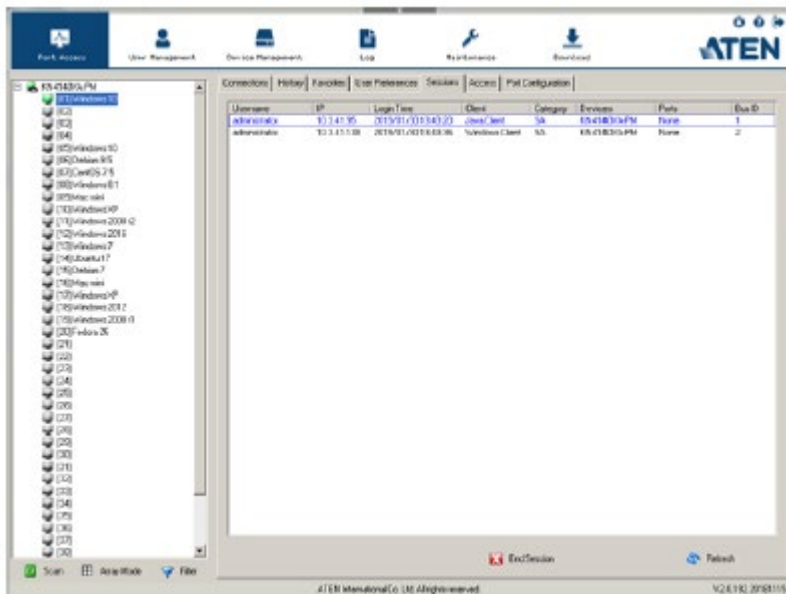
(表は次のページに続きます)

項目	機能
Viewer (ビューアー*)	<p>リモートコンピューターへのアクセス時に使用するビューワーを選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>Auto Detect(自動検出)</b> - ユーザーが使用している Web ブラウザに適したビューワーを自動選択します。Windows の Internet Explorer を使用している場合は Windows クライアントを、その他の Web ブラウザ(例:Firefox)を使用している場合は Java クライアントを使用します。</li> <li>◆ <b>Java Client (Java クライアント)</b> - ユーザーが使用している Web ブラウザの種類にかかわらず、Java クライアントを起動します。</li> </ul>
Welcome Message (歓迎メッセージ*)	<p>サブメニューバーに表示されるウェルカムメッセージを表示または非表示にします。デフォルトでは非表示になっています。</p>
Save (保存)	<p>「User Preferences」(ユーザー設定)メニューで変更した内容を保存する場合は、このアイコンをクリックしてください。</p>
Changing a Password (パスワードの変更)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ブラウザ GUI でパスワードを変更する場合は、既存のパスワードと新しいパスワードをそれぞれ該当するテキストボックスに入力し、このアイコンをクリックして変更内容を反映させてください。</li> <li>◆ アプリケーション GUI では、このアイコンをクリックした後で表示されるダイアログで既存のパスワードと新しいパスワードをそれぞれ該当するテキストボックスに入力し、「Save」(保存)ボタンをクリックして変更内容を反映させてください。</li> </ul>

\* Web ブラウザのメニューでのみご利用いただけます。

## セッション

「Session」(セッション)メニューでは、アドミニストレーター、またはユーザー管理権限のあるユーザーが、KVM スイッチにログイン中のユーザーや、これらのユーザーのセッション情報を確認することができます。



- 注意:**
1. 一般ユーザーはこのメニューを利用することはできません。
  2. 一般ユーザーのセッション情報を確認することができるのは、ユーザー管理権限のあるユーザーだけです。
  3. 「Category」(カテゴリ)列には、現在ログインしているユーザーのユーザータイプが表示されます。「SA」はスーパーアドミニストレーターを、「Admin」はアドミニストレーターを、そして「Normal User」はユーザーをそれぞれ表しています。

一覧のタイトルは文字通りの意味を表します。「IP」列にはログインユーザーの IP アドレスが、「Device」(デバイス)列にはユーザーがアクセスしているデバイスが、そして、「Port」(ポート)列にはユーザーがアクセスしているポートが、それぞれ表示されます。また、「Bus ID」(バス ID)にはユーザーが現在使用しているバス(バス 0 はローカルコンソール)が表示されます。

- 注意:**
1. 表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。
  2. バス ID はコントロールパネルでも表示されます(p.93 参照)。バスに関する詳細については p.270「ユーザーとバス」をご参照ください。

アドミニストレーターは、この画面で選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。対象となるユーザーを選択し、メインパネル下部にある「**End Session**」(セッションの強制終了)ボタンをクリックしてください。

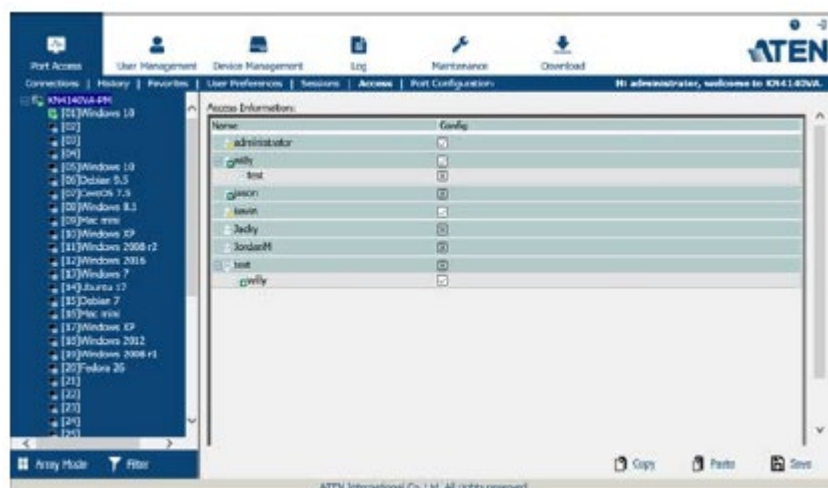
## アクセス

アドミニストレーターはこのメニューでユーザーやグループのアクセス権限、また KVM スイッチ・ポートへの設定権限を設定することができます。

**注意:** このメニューはユーザー管理権限のあるユーザーのみアクセスできます。これ以外のユーザーはご利用いただけません。

## デバイスレベルでのブラウザ GUI インターフェース

KVM スイッチがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



メインパネルの表には、「Name」(名前)列と「Config」(設定)列が表示されます。

- ◆ 「Name」(名前)列には、KVM スイッチに登録されているユーザーとグループがすべて表示されます。
- ◆ 「Config」(設定)列には、設定権限の登録状況が表示されます。この列にチェックがついている場合、ユーザーはシステム設定の変更権限(第 8 章参照)があることを表します。「×」がついている場合、ユーザーは設定変更権限がないことを表します。設定を変更する場合は、このアイコンをクリックして設定内容を切り替えてください(スーパーアドミニストレーターは常に設定権限を持っています)。
- ◆ メインパネルの下部にある「Copy」(コピー)、「Paste」(貼り付け)の各ボタンは、任意のポートの権限設定を他のポートに割り当てることのできるショートカットメニューです。この操作を行う場合は、下記の手順に従ってください。
  1. 他のポートに適用したい権限が設定されているポートを選択してください。

2. 「Copy」(コピー) ボタンをクリックしてください。
  3. 権限の適用先となるポートを選択してください。
  4. 「Paste」(貼り付け) ボタンをクリックしてください。
- ◆ 設定変更が完了したら、「Save」(保存) ボタンをクリックしてください。




## ポートルールでのブラウザ GUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。





ポートアクセスに関する設定項目は下表のとおりです。

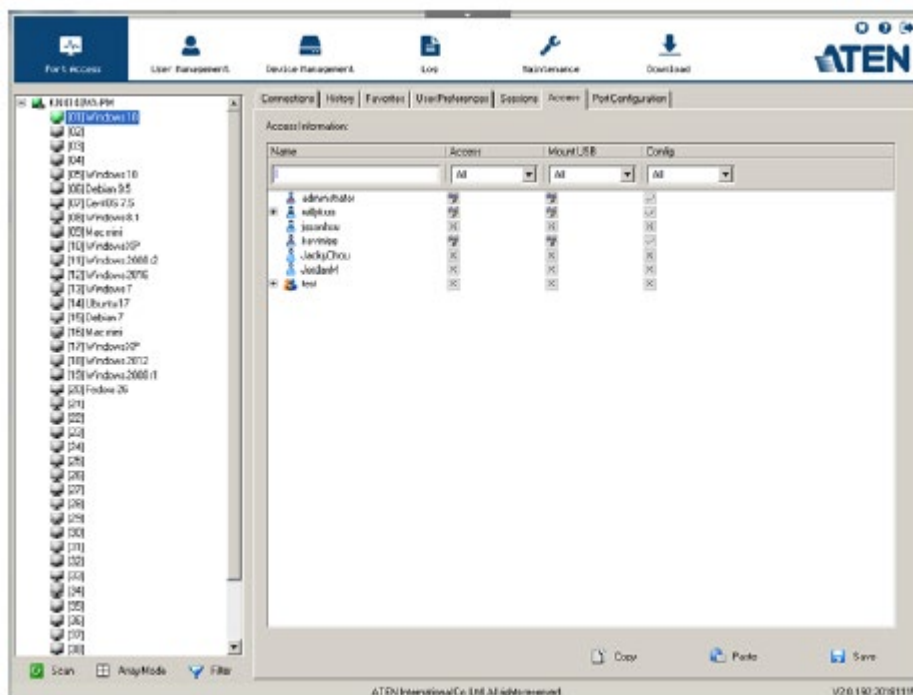
項目	機能	
Name (名前)	現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されます。	
Access (アクセス)	デバイスへのアクセス権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。各アイコンが表す意味は下記の通りです。	
		Full Access (フルアクセス) ユーザーはリモート画面を参照することができます。また、ユーザー自身が使用しているキーボードとモニターを使ってリモートサーバーを操作することができます。
		View Only (参照のみ) ユーザーはリモート画面を参照することができますが、操作をすることはできません。
	No Access (アクセス不可) このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。	
Mount USB (USB のマウント)	<p>リモートサーバーでのバーチャルメディアのマウント権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。アイコンは「Access」(アクセス)列と同じものが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Full Access」(フルアクセス)に設定した場合、ユーザーはバーチャルメディアのマウント、読み取り、書き込みがそれぞれ可能です。</li> <li>◆ 「View Only」(参照のみ)に設定した場合、ユーザーはバーチャルメディアの内容を確認することはできますが(読み取り専用)、操作を行うことはできません。</li> <li>◆ 「No Access」(アクセス不可)に設定した場合、バーチャルメディアがリモートサーバーにマウントされていても、このデバイスを確認することはできません。</li> </ul> <p><b>注意:</b>USB バーチャルメディア機能がサポートされていないKVMスイッチではこのエントリーは表示されません。</p>	
Config (設定)	ポート設定の変更権限を設定します。チェックマーク(✓)はユーザーが権限を持っていることを、また×マークはユーザーが権限を持っていないことをそれぞれ表します。	



フィルター		説明
Name (名前)		<p>ユーザーやグループの名前にフィルターを掛ける場合は、名前の文字列(すべて、または一部)を入力して[Enter]キーを押してください。この条件に合致したユーザーやグループのみがリストに表示されます。</p> <p>検索には、ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使用することができます。</p> <p>例 1: 「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。</p> <p>例 2: 「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。</p> <p>例 3: 「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。</p>
Config (設定)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Permitted (許可)	設定権限のあるユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted (制限)	設定権限のないユーザーとグループのみがリストに表示されます。

## ポートレベルでのアプリケーション GUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



この画面は基本的にはブラウザ GUI の画面 (p.162 参照) と同様ですが、アプリケーション GUI のみ画面上部にフィルター機能を設けております。このフィルター機能を使うことによって、表示するユーザーやグループの範囲を広げたり、制限をかけたりすることができます。この機能の詳細は下表のとおりです。

フィルター	説明
Name (名前)	ユーザーやグループの名前にフィルターを掛ける場合は、名前の文字列(すべて、または一部)やワイルドカード(*)を入力して[Enter]キーを押してください。この条件に合致したユーザーやグループのみがリストに表示されます。

(表は次のページに続きます)

フィルター		説明
Access (アクセス)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	フルアクセス権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	View Only (参照のみ)	参照のみの権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access (アクセス不可)	アクセス不可に設定されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Mount USB (USB の マウント)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	USB バーチャルメディアのマウントに対してフルアクセス権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Read Only (読取専用)	USB バーチャルメディアのマウントに対して読取専用の権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access (アクセス不可)	USB バーチャルメディアのマウントに対して権限を持っていないユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Config (設定)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Permitted (許可)	設定権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted (制限)	設定権限が制限されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。

## 変更内容の保存

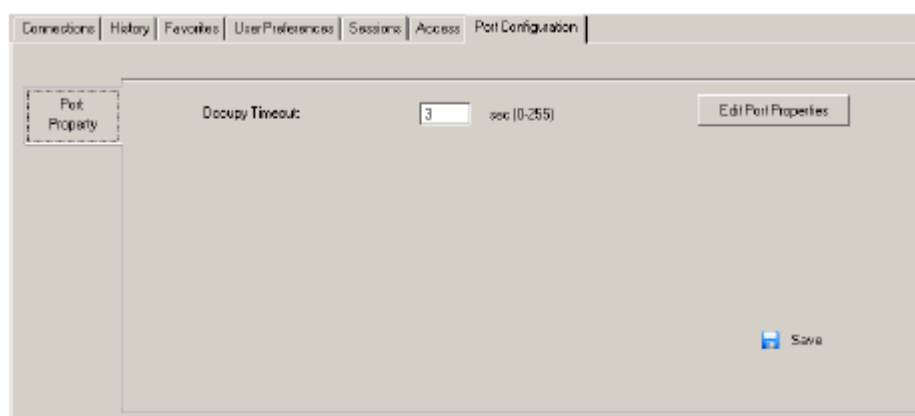
「Access」(アクセス)メニューで変更した項目の内容を反映させる場合は、画面右下の「Save」(保存)アイコンをクリックしてください。

## ポート設定

---

### デバイスレベル

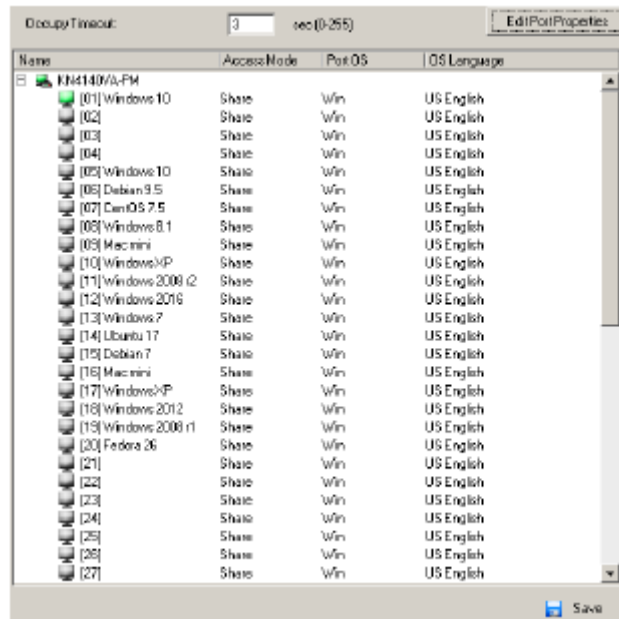
デバイスがサイドバーで選択されている場合、「Port Configuration」(ポート設定)メニューでは、「Port Properties」(ポートプロパティ)タブの「Occupy Timeout」(タイムアウト)の設定と、「Edit Port Properties」(ポートプロパティの編集)ボタンが利用可能です。



この「Occupy Timeout」(タイムアウト)の項目では、アクセスモード(p.172 参照)が「Occupy」(占有)に設定されたポートでユーザーが操作できる時間のしきい値を設定します。ポートでユーザーが何も操作しないまま、ここで設定された時間が経過すると、ユーザーはタイムアウトし、ポートは開放されます。この場合、ポートが開放された後で最初にキーボードやマウスの入力があったユーザーがポートを占有することができます。

この項目には0～255の値を設定することができます。デフォルトでは3秒に設定されています。0を設定すると、入力がなくなるとすぐにポートが開放されます。

「Edit Port Properties」(ポートプロパティの編集)ボタンをクリックすると、下図のようなポート一覧が表示されます。



一覧でポートを選択し、列（アクセスモード、ポート OS、OS 言語）をクリックすると、ドロップダウンメニューが開き、オプションを選択することができます。利用可能なオプションは下表のとおりです。

列	説明
Name (名前)	IP-KVM スイッチ配下にある個々のポートの名前が一覧表示されます。
Access Mode (アクセスモード)	複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。設定できるアクセス方法は以下のとおりです。
Exclusive (排他)	ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。また、このモードに設定されている場合、タイムアウト機能は適用されません。
Occupy (占有)	ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができますが、他のユーザーもそのポートを参照することができます。ポートを操作しているユーザーからの入力がないまま、「Timeout」(タイムアウト)の項目に設定された時間が経過すると、次にマウスやキーボードの入力があったユーザーにそのポートの操作権限が移動します。

(表は次のページに続きます)

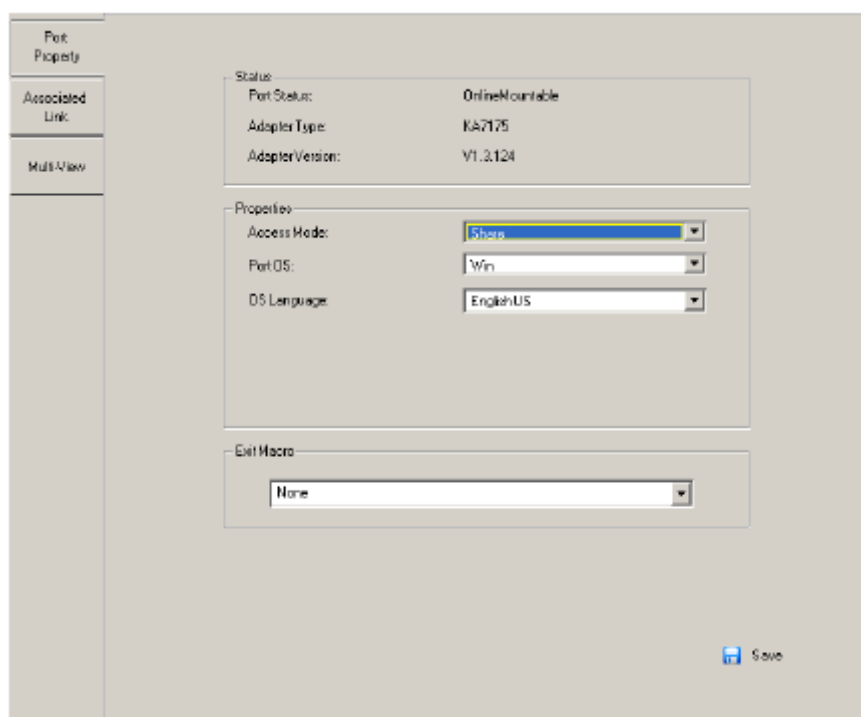
列	説明
Access Mode (アクセスモード) (続き)	Share (共有)  複数のユーザーで同時にポートを共有することができます。ユーザーからの入力キューに格納され、古いものから順に実行されます。ユーザーはメッセージボード機能を使って共有ポートのキーボード/マウス、またはキーボード/モニター/マウスの操作を行うことが可能です。
Port OS (ポート OS)	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS を設定します。設定できる項目は、Win、Mac、Sun、その他です。デフォルトでは Win に設定されています。
OS Language (OS 言語)	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS 言語を設定します。設定する項目をリストから選択してください。デフォルトでは US 英語に設定されています。



## ポートレベル

### ポートプロパティ

ポートがサイドバーで選択されると、「Port Properties」(ポートプロパティ)タブは下図のように表示されます。



- ◆ 「Status」(ステータス)パネルには、ポートのオンライン状況、サーバーやデバイスとの接続に使用しているコンピューターモジュールの種類やファームウェアバージョンに関する情報が表示されます。
- ◆ 「Properties」(プロパティ)パネルでは、選択されたポートのプロパティを設定することができます。ポートプロパティの設定項目に関する説明は次ページに記載されておりますので、詳細はこちらをご覧ください。
- ◆ 「Exit Macro」(終了マクロ)パネルには、ユーザーが作成したシステムマクロがドロップダウンリストに表示されます。ここでは、リモートサーバーからログアウトする際に実行したいマクロをリストから選択することができます。終了マクロの作成方法については p.105「システムマクロ」をご参照ください。

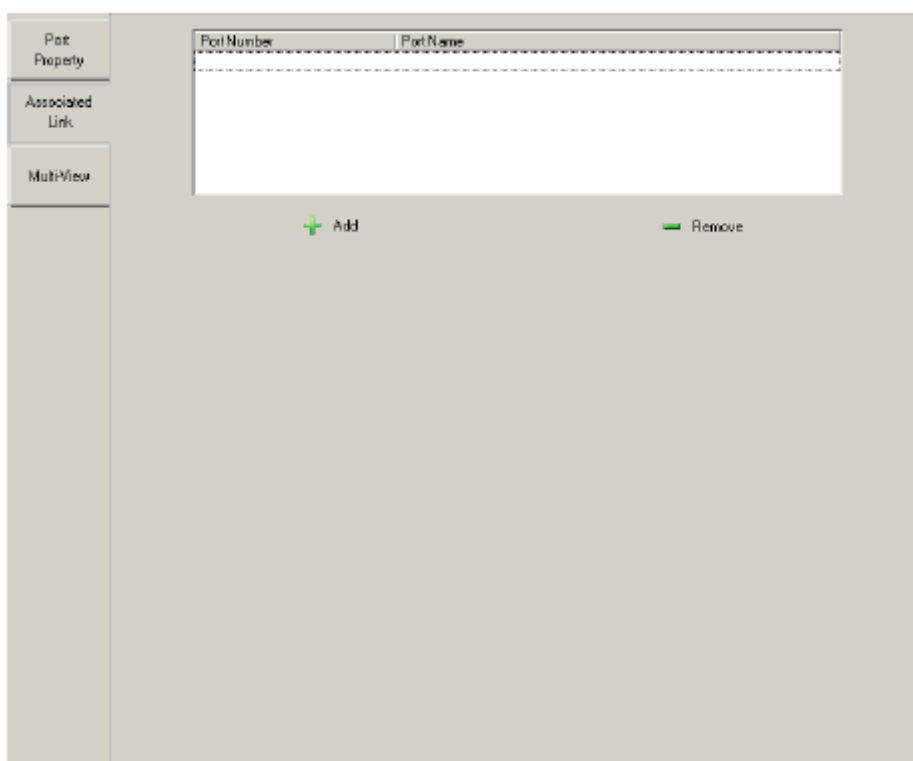
各設定項目の詳細に関しては下表をご参照ください。

項目	説明
Port OS (ポート OS)	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS を設定します。設定できる項目は、Win、Mac、Sun、その他です。デフォルトでは Win に設定されています。
OS Language (OS 言語)	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS 言語を設定します。設定する項目をリストから選択してください。デフォルトでは US 英語に設定されています。
Access Mode (アクセスモード)	<p>複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。設定できるアクセス方法は以下のとおりです。</p> <p><b>Exclusive (排他)</b> : ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。また、このモードに設定されている場合、タイムアウト機能は適用されません。</p> <p><b>Occupy (占有)</b> : ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができますが、他のユーザーもそのポートを参照することができます。ポートを操作しているユーザーからの入力がないまま、「Timeout」(タイムアウト)の項目に設定された時間が経過すると、次にマウスやキーボードの入力があったユーザーにそのポートの操作権限が移動します。</p> <p><b>Share (共有)</b> : 複数のユーザーで同時にポートを共有することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。占有、共有の各モードでは、ユーザーはメッセージボード機能を使って共有ポートのキーボード/マウス、またはキーボード/モニター/マウスの操作を行うことが可能です(p.115 参照)。</p>

設定変更が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

## 関連付けリンク

「Associated Links」(関連付けリンク)タブでは、現在選択されているポートに、同じ KVM スイッチの他のポートを関連付けることができます。この機能は、1 台のサーバーの KVM ポートとシリアルポート(KA7140)を KVM スイッチに結び付けるのに使用します。

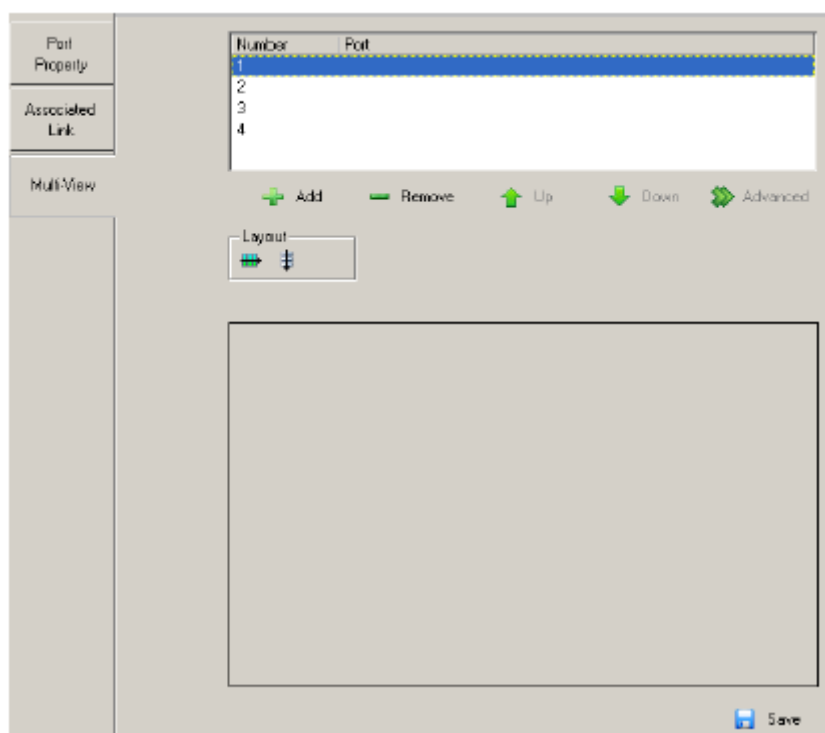


- ◆ 現在選択されているポートに別のポートを関連付ける場合は、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。ダイアログが表示されたら、関連付けを行うポートのポート番号を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。追加すると、このポート番号とポート名がメインパネルに表示されます。
- ◆ ポートの関連付けを削除する場合は、対象のアイテムをメインパネルから選択し、「Remove」(削除)ボタンをクリックしてください。

## 拡張表示

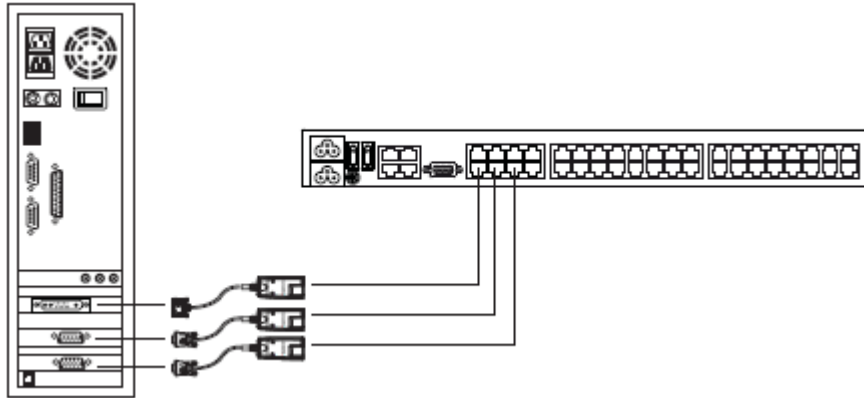
「Multiple View」(複数表示)タブは、リモート KVM セッションの拡張モニターを参照する方法を設定するのに使用します。1 台のコンピューターのディスプレイ最大 4 台を KVM スイッチに接続して、これらのディスプレイをリモートセッションで個別に参照することができます。

このタブを開くと、下図のような画面が表示されます。



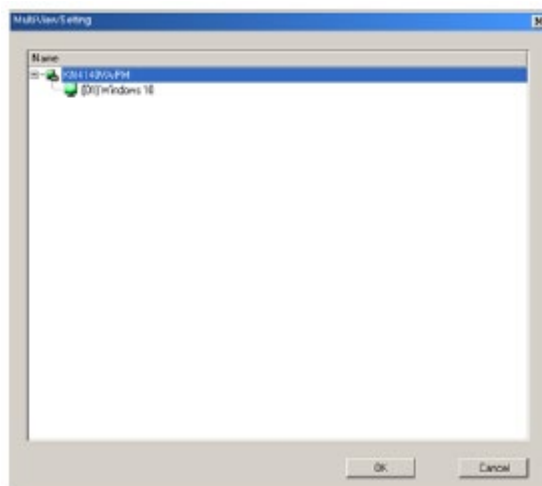
拡張表示のセットアップは下記の手順に従って作業してください。

1. コンピューターモジュール(最大 4 台)をコンピューターのビデオポートに接続したら、このコンピューターを Cat 5e ケーブルで製品本体の KVM ポートに接続してください。

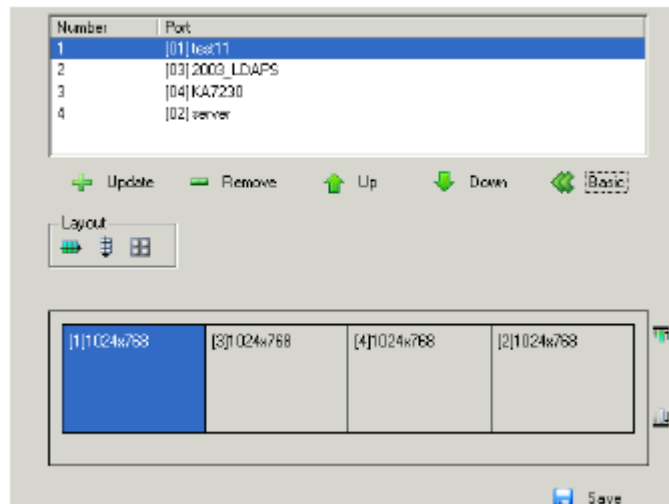


そうしたら、拡張ディスプレイに接続するKVMポートを下記の手順に従って設定してください。

2. 「Multiple Views」(複数表示)タブで「Add」(追加)をクリックしてください。
3. 「Setup Extended Display Setting」(拡張表示の設定)ウィンドウに KVM ポートの一覧が表示されます。




4. 拡張表示されているコンピューターに接続されている KVM ポートを選択したら、「OK」をクリックしてください。拡張表示されているコンピューターが他にもある場合は、これらのコンピューターすべてに対して、同様の操作を行ってください。
5. 追加された KVM ポートは、ポートリストとプレビューウィンドウに表示されます。



オプション	説明
Port List (ポートリスト)	<p>拡張表示用に追加された KVM ポートを表示します。KVM ポートは最大 4 つ追加可能で、これらはすべて同一コンピュータのポートである必要があります。</p> <p><b>Number</b> (番号) : プレビューウィンドウに各 KVM ポートを表示する順番(左→右)を一覧表示します。</p> <p><b>Port</b> (ポート) : 拡張表示の設定に追加された KVM ポートの名前を一覧表示します。</p>
Add (追加)	「Setup Extended Display Setting」(拡張表示設定)ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスからはコンピュータに接続された KVM ポートを選択することができます。
Remove (削除)	ポートリストから KVM ポートを削除します。
Up / Down (上 / 下)	ポートリストの KVM ポートを上方向や下方向に移動します。また、プレビューウィンドウにおける KVM ポートの画面位置を変更する際にも使用します。
Advanced (詳細)	詳細なレイアウトオプションを表示します。
Basic (基本)	基本的なレイアウトオプションを表示します。

(表は次のページに続きます)

オプション	説明
Layout (レイアウト)	3 種類のレイアウトオプション(「Horizontal」(水平)、「Vertical」(垂直)、Boxed(ボックス))が提供されています。ここでは、プレビューウィンドウと同様に、リモートセッションにおける表示パネルウィンドウの見え方を定義します。
Preview Window (プレビューウィンドウ)	プレビューウィンドウでは、表示パネルウィンドウ*とその内部の画面がリモートセッションでどのように見えるのかをサンプル表示します。各画面にはモニターの解像度が表示されます。 <b>注意:</b> 複数表示アイコンをクリックすると、リモートセッションに表示パネルウィンドウが表示されます(p.127 参照)。
	「Advanced」(詳細)が選択されていると、プレビューウィンドウの周辺に、このようなアイコンが表示されます。画面の上下左右にあるアイコンをクリックすると、その方向に画面の位置を揃えます。これらのオプションは、選択したレイアウトに応じて、プレビューウィンドウの上または右に表示されます。
Save (保存)	設定に対する変更を保存します。

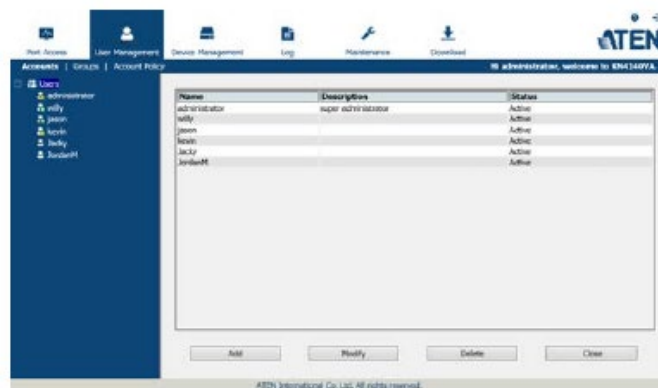
6. レイアウトを設定したら、「Save」(保存)をクリックしてください。
7. リモートセッションにおける拡張表示を確認する場合は、p.127「拡張表示」をご参照ください。

# 第7章 ユーザー管理

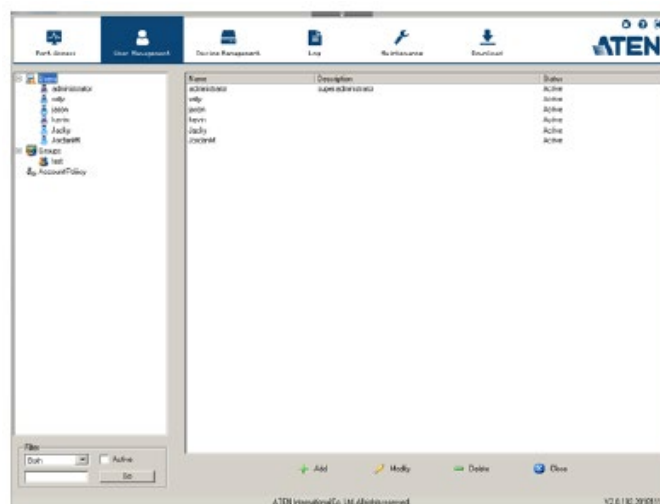
## 概要

「User Management」(ユーザー管理)タブをクリックすると、サイドバーから「Users」(ユーザー)が選択された状態で表示されます。

## Web ブラウザインターフェース



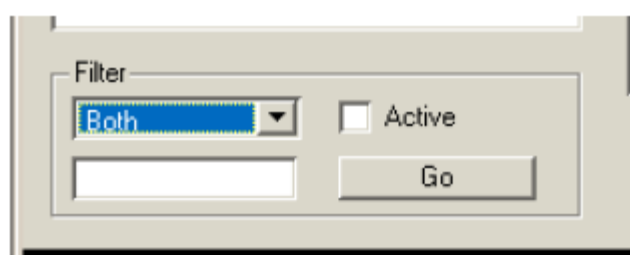
## GUI インターフェース





この画面は、左側のサイドバーと右側のメインパネルの2つの部分から構成されています。

- ◆ ユーザーとグループは画面左側のパネルに表示されます。右側の大きいパネルには、各ユーザーのより詳細な情報が表示されます。
  - ブラウザ GUI では、アカウント(ユーザー)やグループに対して別々のメニューバーエントリが提供されています。サイドバーには、選択されているメニューに応じて、ユーザーまたはグループが一覧表示されます。
  - アプリケーション GUI ではメニューエントリはありませんが、ユーザーとグループはサイドバーで別々に一覧表示されます。
- ◆ ブラウザ GUI では、表示される情報の並び順は、メインパネルの列をクリックして変更することができます。
- ◆ アプリケーション GUI では、サイドバーの下にある「フィルター」セクションで一覧を操作します。



- リストボックスの右側の三角ボタンをクリックすると、表示するカテゴリを選択することができます。選択できるカテゴリは、「すべて」、「ユーザーリスト」、「グループ」です。
- 「Active」(アクティブ)の項目にチェックを入れると、アカウントが非アクティブなユーザーを除外することができます。
- ユーザー名が特定の文字列に一致したユーザーまたはグループを検索したい場合は、検索文字列を「検索」ボタンの左隣にあるテキストボックスに入力し、「Go」(検索)ボタンをクリックしてください。条件に一致したユーザーとグループだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は\*)や、「or」キーワードを使うことができます。

例 1: 「h\*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。

例 2: 「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。

例 3: 「h\*ds or h\*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。

- ◆ メインパネルの下側にあるボタンは、ユーザーおよびグループを管理する際に使用します。詳細は次のセクションで説明します。

## ユーザー

本製品では、以下の3種類のユーザータイプを提供しています。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポート/デバイスへのアクセス、権限のあるポート/デバイスへの管理、個人の作業環境の設定が可能です。 <b>注意:</b> このタイプのユーザーでも権限が与えられている場合は、他のユーザーの管理を行うことができます。

## ユーザーの作成

ユーザーを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. (ブラウザ GUI の場合) メニューバーから「Accounts」(アカウント)を選択してください。  
- または -  
(アプリケーション GUI の場合) サイドバーから「Users」(ユーザー)を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。下図のような画面が表示されます。

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Username (ユーザーネーム)	「Account Policy」(アカウントポリシー)の設定に応じて、1～16 文字で設定してください(p.199「アカウントポリシー」参照)。
Password (パスワード)	「Account Policy」(アカウントポリシー)の設定に応じて、0～20 文字で設定してください(p.199「アカウントポリシー」参照)。
Confirm Password (パスワード確認)	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。ここにはパスワードの欄に入力された文字列と同じものを入力してください。
Description (記述)	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Role (ロール)	<p>スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリの中から選択することができます。システム上作成可能なユーザー数の範囲内であれば、各カテゴリとも作成するアカウントの数に上限はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定や保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てがそれぞれ可能です。スーパーアドミニストレーターの権限(p.183 参照)は、システムによって自動的に割り当てられているため、変更することはできません。</li> <li>◆ アドミニストレーターには、グレースケール表示以外の権限がデフォルトで与えられていますが、権限のチェックボックスにチェックを入れたり、ここからチェックを外したりすることで権限の設定を変更することができます。</li> <li>◆ ユーザーには、Windows、Java、SSH の各クライアントの操作権限がデフォルトで与えられていますが、権限のチェックボックスにチェックを入れたり、ここからチェックを外したりすることで権限の設定を変更することができます。</li> </ul> <p><b>注意:</b>ユーザー管理の権限が与えられたユーザーであっても、グループにアクセスしたり、グループの設定をしたりすることはできません。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
<p>Permissions (パーミッション)</p> <p><b>注意:</b> 一般ユーザーは、デバイス管理、ポート設定、メンテナンスの各権限に加え、そのユーザーが管理できるデバイスやポートに対する権限を設定する必要があります。詳細については p.194「デバイスの割り当て」をご参照ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Device Management」(デバイス管理)の項目にチェックを入れると、KVM スイッチの操作全体にかかわるパラメーターの設定や制御が可能になります(p.201 参照)。</li> <li>◆ 「Port Configuration」(ポート設定)の項目にチェックを入れると、各ポートにかかわるパラメーターの設定や制御が可能になります(p.168 参照)。</li> <li>◆ 「User Management」(ユーザー管理)の項目にチェックを入れると、ユーザーやグループアカウントの作成・変更・削除が可能になります。</li> <li>◆ 「Maintenance」(メンテナンス)の項目にチェックを入れると、「Maintenance」(メンテナンス)タブで提供されている操作がすべて利用可能になります(p.276 参照)。</li> <li>◆ 「System Log」(システムログ)の項目にチェックを入れると、システムログへのアクセスが可能になります(p.239 参照)。</li> <li>◆ 「View Only」(参照のみ)の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品に接続されたデバイス画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。</li> <li>◆ 「Windows Client」(Windows クライアント)の項目にチェックを入れると、Windows クライアントソフトウェアのダウンロードや、これを使った製品へのアクセスが可能になります。</li> <li>◆ 「Java Client」(Java クライアント)の項目にチェックを入れると、Java クライアントソフトウェアのダウンロードや、これを使った製品へのアクセスが可能になります。</li> <li>◆ 「SSH Client」(SSH クライアント)の項目にチェックを入れると、SSH セッション経由でのログインやアクセスが可能になります。</li> <li>◆ 「Telnet Client」(Telnet クライアント)の項目にチェックを入れると、Telnet セッション経由でのログインやアクセスが可能になります。</li> <li>◆ 「Force to Grayscale」(グレースケール表示する)の項目にチェックを入れると、ユーザーが表示しているリモート画面をグレースケールに変更します。この操作によって、低帯域のネットワーク環境でのレスポンス向上を図ることができます。</li> </ul>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Status (ステータス)	<p>ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理することができます。詳細は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Disable Account」(アカウントを無効にする)の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止することができます。この機能ではユーザーは物理的に削除されることがありませんので、後に必要となった場合でも簡単に設定を戻すことができます。</li> <li>◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は「Account never expires」(アカウントを失効させない)の項目を選択してください。また、アカウントに有効期限を設ける場合は「Account expires on」(アカウント失効日)の項目を選択し、有効期限の日付をテキストボックスに入力してください。</li> <li>◆ ユーザーが次回ログインする際にパスワードの変更を要求する場合は、「User must change password at next logon」(ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する)の項目にチェックを入れてください。この項目を使うことで、初回ログインは管理者によって発行された一時パスワードを使用し、2回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用することができます。</li> <li>◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「User cannot change password」(ユーザーによるパスワード変更不可)の項目にチェックを入れてください。</li> <li>◆ セキュリティのために、アドミニストレーターはユーザーに定期的なパスワードの変更を要求することも可能です。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ パスワードに有効期限を設けない場合は、「Password never expires」(パスワードを失効させない)の項目を選択してください。これによって、ユーザーはパスワードの有効期限の制限を受けることがありません。</li> <li>➤ パスワードに有効期限を設ける場合は、「Password expires after」(パスワード有効日数)の項目を選択し、パスワードの有効日数を入力してください。ここで設定した日数が経過すると、新しいパスワードを設定しなければなりません。</li> </ul> </li> </ul>

4. ユーザーの作成時に、メインパネルの「Groups」(グループ)タブで新しいユーザーをグループに登録することもできます(p.190 参照)。「Devices」(デバイス)タブではユーザーにポートアクセス権限を割り当てることができます(p.194 参照)。

---

**注意:** グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

---

5. 各項目への入力が終わったら「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「Operation Succeeded」(オペレーション成功)と表示されます。ダイアログの「**OK**」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「**Users**」(ユーザー)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいユーザーが表示されます。
  - ◆ サイドバーのユーザーリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「**Users**」(ユーザー)の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
  - ◆ 首に黒い二重のバンドがついているアイコンはスーパーアドミニストレーターを、また、首に赤い一重のバンドがついているアイコンはアドミニストレーターをそれぞれ表します。
  - ◆ 大きいメインパネルにはユーザーの名前、アカウント作成時に設定された説明、アカウントの状態(有効/無効)が表示されます。

## ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「**User**」(ユーザー)リストから、編集対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
  - または -メインパネルで、編集対象となるユーザーの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メイン画面の「**User**」(ユーザー)タブで内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

---

**注意:** 「**User**」(ユーザー)タブに関する詳細は p.180 に、「**Groups**」(グループ)タブに関する詳細は p.190 に、「**Devices**」(デバイス)タブに関する詳細は p.194 にそれぞれ記載されています。

---

## ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、削除対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。
3. 「OK」ボタンをクリックしてください。



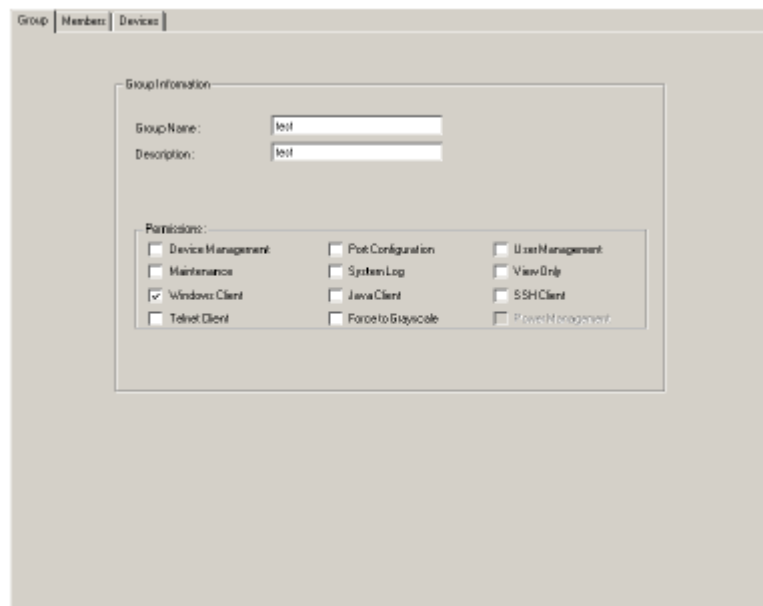
## グループ

管理者はこのメニューを使ってユーザーやデバイスを簡単かつ効率的に管理することができます。グループ単位で設定を行うことで、デバイスのアクセス権限はグループの全メンバーに適用されますので、管理者は個々のユーザーに対して権限を設定する手間が省けます。複数のグループを定義して、複数のユーザーに特定のデバイスへのアクセスを許可したり、反対に、特定のデバイスへのアクセスを禁止したりすることができます。

### グループの作成

グループを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. (ブラウザ GUI の場合) メニューバーから「Groups」(グループ)を選択してください。  
- または -  
(アプリケーション GUI の場合) サイドバーから「Groups」(グループ)を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。下図のような画面が表示されます。



The screenshot shows a web-based form for creating a group. At the top, there are tabs for 'Group', 'Members', and 'Devices'. The main form is titled 'Group Information' and contains the following fields and options:

- Group Name:** A text input field containing the value 'test'.
- Description:** A text input field containing the value 'test'.
- Permissions:** A section containing a grid of checkboxes for various permissions:
  - Device Management
  - Maintenance
  - Windows Client
  - Telnet Client
  - Port Configuration
  - System Log
  - Java Client
  - Force to Gayscale
  - User Management
  - View Only
  - SSH Client
  - Power Management

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Group Name (グループネーム)	最大 16 文字で設定してください。
Description (説明)	グループに関する付加情報があれば、最大 63 文字でこの欄に入力してください。
Permissions (パーミッション)	グループに対する操作許可と操作制限は、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。これらの権限は「Users」(ユーザー)タブの権限と同じです。詳細については p.183 をご参照ください。

4. グループの作成時に、「Members」(メンバー)タブで新しいユーザーをグループに登録することができます(p.192 参照)。「Devices」(デバイス)タブではグループにポートアクセス権限を割り当てることができます(p.194 参照)。

**注意:** グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「オペレーション成功」と表示されます。ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「Group」(グループ)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいグループが表示されます。
- ◆ サイドバーのグループリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「Groups」(グループ)の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
  - ◆ 大きいメインパネルにはグループの名前、グループ作成時に設定された説明が表示されます(「Status」(ステータス)欄は無効になっています)。

他にも追加するグループがある場合は、上記の操作手順を繰り返してください。

**注意:** 新しいグループを追加する前に、必ず手順 7 の操作を行ってください。この操作を行わないと、作成したばかりのグループが新規に作成しようとしているグループに置き換わってしまいます。

## グループの編集

グループを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「Group」(グループ)リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。
  - または -メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メイン画面の「Group」(グループ)タブで内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

---

**注意:** 「Group」(グループ)タブに関する詳細は p.187 に、「Members」(メンバー)タブに関する詳細は p.192 に、「Devices」(デバイス)タブに関する詳細は p.194 にそれぞれ記載されています。

---

## グループの削除

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーで、「Groups」(グループ)アイコンをクリックしてください。
2. 削除対象となるグループの名前をメインパネルから選択してください。
3. 「**Delete**」(削除)ボタンをクリックしてください。
4. 「**OK**」ボタンをクリックしてください。

## ユーザーとグループ

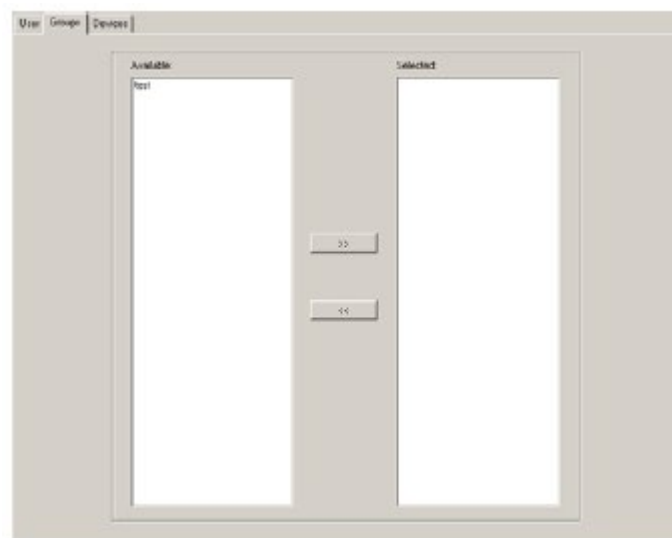
ユーザーやグループの管理は、「User」(ユーザー)タブ、「Group」(グループ)タブのどちらからでも操作することができます。

**注意:** ユーザーをグループに割り当てる前に、必要となるユーザーとグループを事前に作成しておいてください。詳細については p.180 をご参照ください。

### ユーザータブを使ってユーザーをグループに登録するには

「User」(ユーザー)タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。  
- または -  
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Groups」(グループ)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



3. 「Available」(有効)リストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。
4. **右矢印**のボタン(>>)をクリックして、手順 4 で選択したグループを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
5. 他にもユーザーの所属グループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。

6. グループの選択が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

---

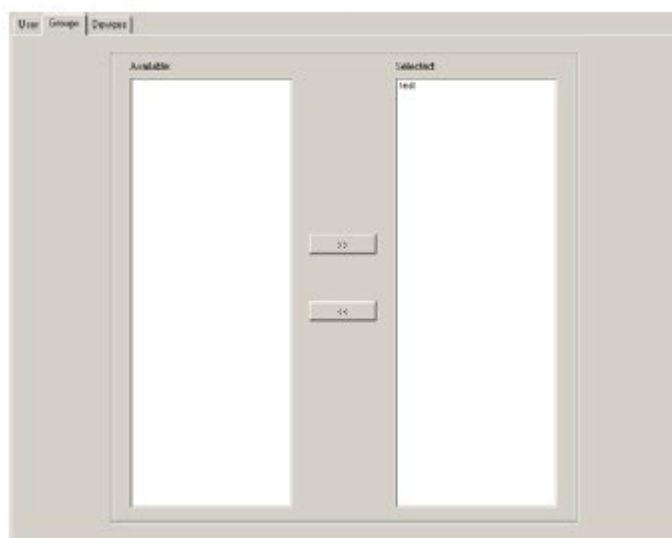
**注意:** グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

---

## ユーザータブを使ってグループからユーザーを削除するには

「User」(ユーザー)タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。  
- または -  
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択し、「Modify」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Groups」(グループ)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

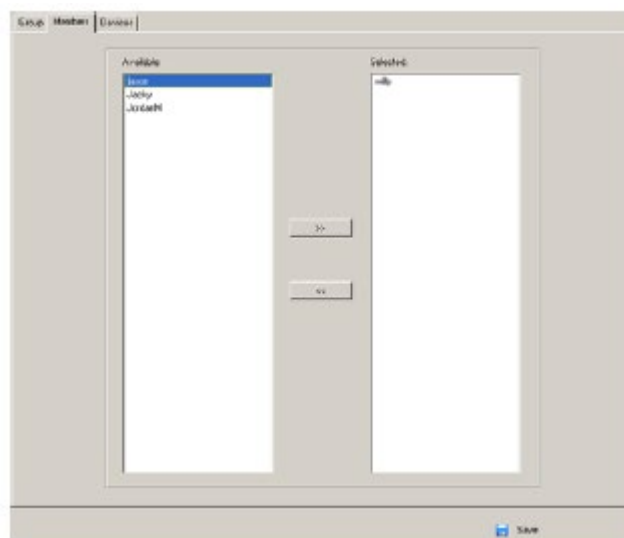


3. 「Selected」(選択)リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
4. **左矢印**のボタン(←)をクリックして、手順4で選択したグループを削除してください。(選択されたグループは「Available」(有効)リストに戻ります。)
5. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. ユーザーの選択が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

## グループタブを使ってユーザーをグループに登録するには

「Group」(グループ)タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、対象となるグループの名前をクリックしてください。  
- または -  
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Members」(メンバー)タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



3. 「Available」(有効)リストから、手順 1 で選択したグループのメンバーとなるユーザーを選択してください。
4. **右矢印**のボタン(>>)をクリックして、手順 4 で選択したユーザーを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
5. 他にも追加したいメンバーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. メンバーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

---

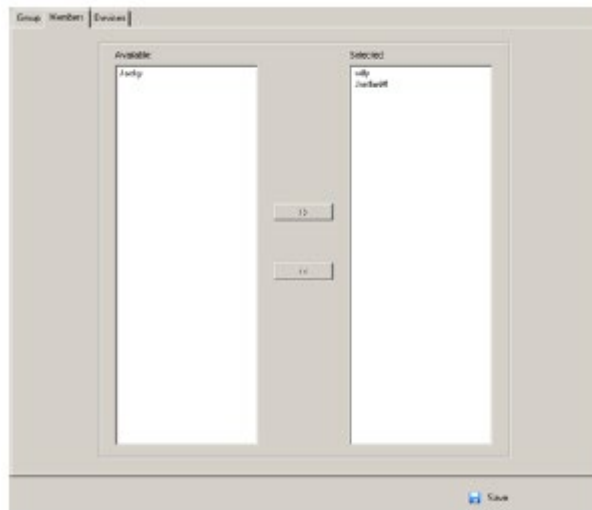
**注意:** グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

---

## グループタブを使ってグループからユーザーを削除するには

「Group」(グループ)タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、対象となるグループの名前をクリックしてください。
  - または -メインパネルで、対象となるグループの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Members」(メンバー)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



3. 「Selected」(選択)リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
4. **左矢印**のボタン(←)をクリックして、手順4で選択したグループを削除してください。(選択されたグループは「Available」(有効)リストに戻ります。)
5. 他にもグループから除外したいユーザーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
6. ユーザーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

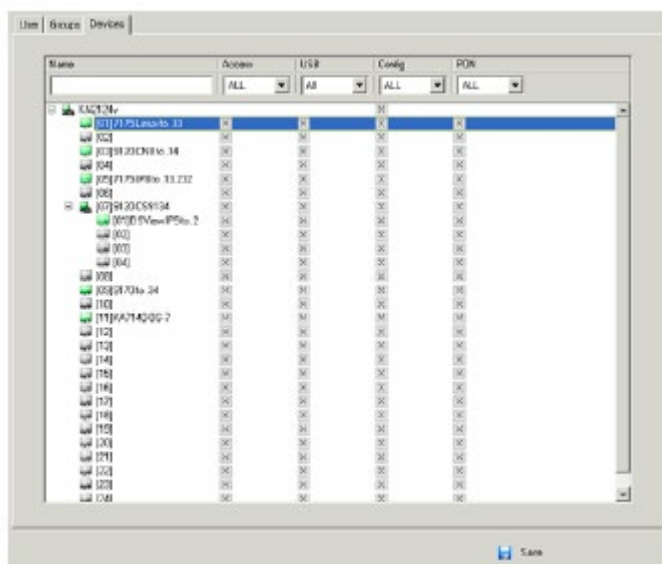
## デバイスの割り当て

ユーザーが製品にログインすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブの画面が最初に表示され、そのユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて、画面左側のサイドバーに一覧表示されます。ポートやポートに接続されたデバイスに対するアクセス権限は、「User Management」(ユーザー管理)タブの「User」(ユーザー)または「Group」(グループ)リストからポートごとに割り当てられます。

### ユーザータブからデバイスの操作権限を割り当てるには










「User」(ユーザー)タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。  
- または -  
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Devices」(デバイス)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。





3. 下記を参考にしながら、各ポートの権限設定を行ってください。

項目	機能			
Name (名前)	現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されま す。			
Access (アクセス)	デバイスへのアクセス権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場 合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてくださ い。各アイコンが表す意味は下記の通りです。			
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="466 616 592 792"></td> <td data-bbox="592 616 821 792">Full Access (フルアクセス)</td> <td data-bbox="821 616 1343 792">ユーザーはリモート画面を参照することが できます。また、ユーザー自身が使用して いるキーボードとモニターを使ってリモート サーバーを操作することができます。</td> </tr> </table>		Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照することが できます。また、ユーザー自身が使用して いるキーボードとモニターを使ってリモート サーバーを操作することができます。
		Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照することが できます。また、ユーザー自身が使用して いるキーボードとモニターを使ってリモート サーバーを操作することができます。	
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="466 810 592 943"></td> <td data-bbox="592 810 821 943">View Only (参照のみ)</td> <td data-bbox="821 810 1343 943">ユーザーはリモート画面を参照することが できますが、操作をすることはできません。</td> </tr> </table>		View Only (参照のみ)	ユーザーはリモート画面を参照することが できますが、操作をすることはできません。
	View Only (参照のみ)	ユーザーはリモート画面を参照することが できますが、操作をすることはできません。		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="466 956 592 1088"></td> <td data-bbox="592 956 821 1088">No Access (アクセス不可)</td> <td data-bbox="821 956 1343 1088">このポートへのアクセス権限はなく、ポート はユーザーのメイン画面にも表示されませ ん。</td> </tr> </table>		No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポート はユーザーのメイン画面にも表示されませ ん。	
	No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポート はユーザーのメイン画面にも表示されませ ん。		
USB	<p>リモートサーバーでのバーチャルメディアのマウント権限を設定します。 USBバーチャルメディア機能がサポートされていないモデルではこのエント リは表示されません。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行 いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Full Access」(フルアクセス)に設定した場合、ユーザーはバーチャ ルメディアのマウント、読み取り、書き込みがそれぞれ可能です。</li> <li>◆ 「View Only」(参照のみ)に設定した場合、ユーザーはバーチャルメ ディアの内容を確認することはできますが(読み取り専用)、書き込み 操作を行うことはできません。</li> </ul>			
Config (設定)	<p>ポート設定の変更権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合 は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてくださ い。</p> <p>チェックマーク(✓)はユーザーがこの権限を持っていることを、また×マーク はユーザーがこの権限を持っていないことをそれぞれ表します。</p>			
PON	電源管理デバイスが接続されているポートの電源管理操作に関する権限 を設定します。チェックマーク(✓)はユーザーが権限を持っていることを、ま た×マークはユーザーが権限を持っていないことをそれぞれ表します。			

4. 内容を設定したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。
5. 確認ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** 各列の値は、[Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のポートの属性を同時に定義することができます。選択されたポートで各列のアイコンをクリックすると、その列の設定内容を同時に切り替えます。

---

## フィルター

「Name」(名前)列に表示されているポートの表示範囲を絞り込むフィルターは 5 種類あります。詳細は下表のとおりです。

フィルター		説明
Name (名前)		<p>ポートネームにフィルターを掛ける場合は、ポートネーム(すべて、または一部)を入力し、[Enter]キーを押してください。その文字列に一致したポートが一覧に表示されます。</p> <p>検索には、ワイルドカード(1 文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使用することができます。</p> <p>例 1:「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。</p> <p>例 2:「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。</p> <p>例 3:「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。</p>
Access (アクセス)	All (すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	フルアクセスに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	View Only (参照のみ)	参照のみに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	No Access (アクセス不可)	アクセス不可に設定されているポートだけが一覧に表示されます。

(表は次のページに続きます)

フィルター		説明
USB	All (すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	USB バーチャルメディアデバイスに対する権限がフルアクセスに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	Read Only (読取専用)	USB バーチャルメディアデバイスに対する権限が読取専用設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	No Access (アクセス不可)	USB バーチャルメディアデバイスに対する権限がアクセス不可に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
Config (設定)	All (すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Permitted (許可)	設定が「許可」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	Restricted (制限)	設定が「制限」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
PON	All (すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Permitted (許可)	PON が「許可」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	Restricted (制限)	PON が「制限」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。

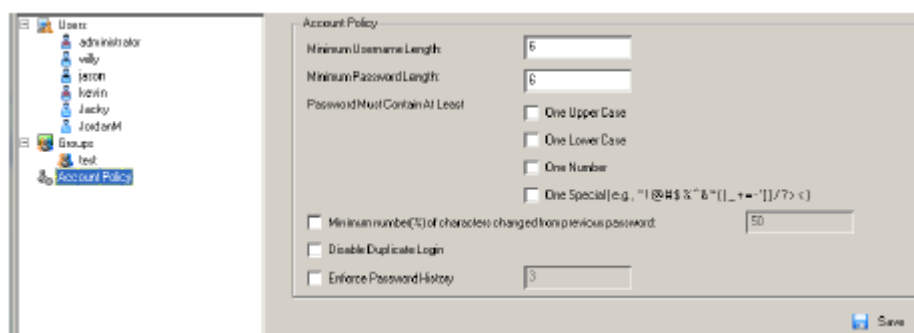
## グループタブからデバイスの操作権限を割り当てるには

「Group」(グループ)タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「Groups」(グループ)リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。  
- または -  
メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
2. メインパネルから「Devices」(デバイス)タブを選択してください。
3. 「User」(ユーザー)メニューからデバイスの操作権限を割り当てる場合と同じ画面が中央に表示されますので、p.194 の手順に従ってデバイスに操作権限を割り当ててください。  
p.194 の手順ではユーザー単位でしか操作権限が割り当てられないのに対し、この手順ではグループ全体に同じ操作権限を割り当てることができます。  
p.194「ユーザータブからデバイスの操作権限を割り当てるには」の内容に従って、お使いの機器を割り当ててください。

## アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定することができます。



このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Minimum Username Length (ユーザー名最小文字数)	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 1～16 です。デフォルトでは 6 に設定されています。
Minimum Password Length (パスワード最小文字数)	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 0～20 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要になり、ユーザーはユーザーネームだけでログインできるようになります。デフォルトでは 6 に設定されています。
Password Must Contain At Least (パスワードには以下が必須です)	これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。 One Upper Case (大文字 1 文字) - 半角英字の大文字を 1 文字以上入力 One Lower Case (小文字 1 文字) - 半角英字の小文字を 1 文字以上入力 One Number (数字 1 文字) - 半角数字を 1 文字以上入力  <b>注意:</b> このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Disable Duplicate Login (シングルログイン)	同一アカウントで二重にログインするのを許可しない場合は、この項目にチェックを入れてください。
Enforce Password History (パスワード履歴を実行する)	この項目では、ユーザーがパスワードを再設定する際に、古いパスワードを繰り返して使用しないよう、制限をかけることができます。この機能を有効にする場合は、この項目にチェックを入れた後、古いパスワードを再度使用できるようにするまでに、固有のパスワードを設定しなければならない回数をテキストボックスに入力してください。

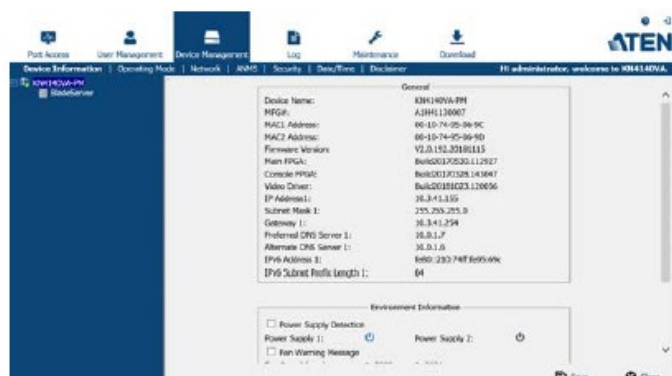
# 第8章 デバイス管理

## KVM デバイス

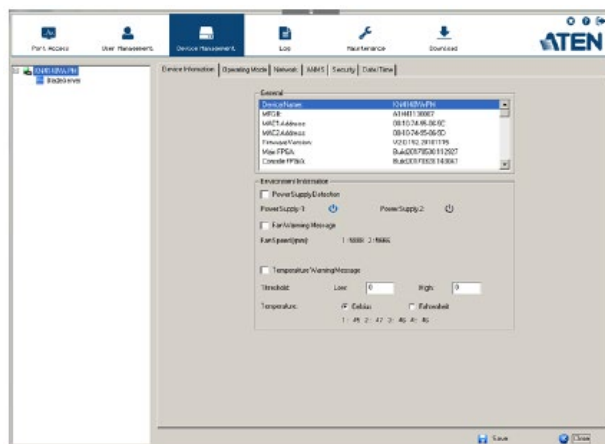
### デバイス情報

「Device Management」(デバイス管理)タブを開くと、サイドバーでは1台目にあるKVMスイッチが、また、メニューバーでは、そのKVMスイッチの「Device Information」(デバイス情報)が、それぞれ選択された状態で画面が表示されます。

### ブラウザ GUI



### アプリケーション GUI



## 全般

「Device Information」(デバイス情報)画面の「General」(全般)セクションには、選択デバイスの名前、ファームウェアバージョン、FPGA、およびネットワーク設定に関する情報がそれぞれ表示されます。

---

**注意:** アプリケーション GUI には、ブラウザ版と同じ情報が表示されます。リストの内容を確認する場合は、スクロールバーを操作してください。

---

## 環境情報

パネルの下部には、デバイスの環境に関する情報が表示されます。詳細は下表のとおりです。

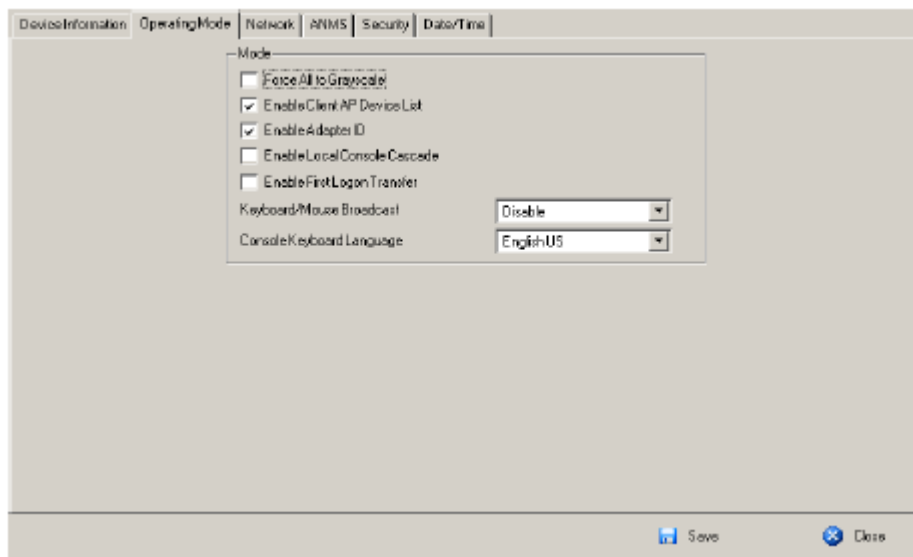
項目	説明
Power Supply Detection (電源検出)	<p>電源1、電源2のアイコンは、電源に電流が供給されていない場合は灰色、また、電流が供給されている場合は青色でそれぞれ表示されます。</p> <p>この機能が有効になっている(項目にチェックが入っている)場合、片方の電源にしか電流が供給されていないと、問題を通知するビープ音が出力されます。</p> <p>ローカルコンソールから操作している場合は、片方の電源しか使用していないことを確認するメッセージが表示されます。片方の電源を実際に使用している場合は、以下の方法でビープ音を止めることができます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) チェックボックスからチェックを外すことで電源に関する警告を無効にします。常にこの機能を無効にしたい場合は、この方法でビープ音を無効にしてください。</li><li>2) ダイアログボックスでビープ音を有効または無効にするかを選択することができます。一時的にこの機能を無効にしたい場合は、こちらの方法でビープ音を無効にしてください。この方法で無効にした場合、次にシステムリセットを行った場合に警告機能が再度有効になります。</li></ol> <p>デフォルトの設定では、この機能は有効になっています。</p>

(表は次のページに続きます)



項目	説明
Fan Warning Message (ファンエラー メッセージ)	<p>ファンに関する警告メッセージを有効にする場合は、この項目にチェックを入れてください。この機能が有効になっていると、ファンが回転しなくなった時に、システムログにイベントが記録されます。この機能が無効になっている場合、イベントは記録されません。</p> <p><b>注意:</b>ファンは温度がしきい値を下回った場合にも停止しますので、警告が出たとしても、ファンで必ずしもエラーが発生しているわけではありません。</p> <p>デフォルトの設定では、この機能は有効になっています。</p>
Fan Speed (ファンスピード)	<p>ファンの速度が表示されます。詳細は p.363「ファンの位置と速度」をご参照ください。</p>
Temperature Warning Message (温度警告メッセージ)	<p>温度警告メッセージを有効にする場合は、この項目にチェックを入れてください。この機能が有効になっていると、デバイスの温度が最低しきい値を下回った場合、または、最高しきい値を上回った場合に、イベントがシステムログに記録されます。この機能が無効になっている場合、イベントは記録されません。</p> <p>デフォルトの設定では、この機能は有効になっています。</p>
Temperature (温度)	<p>KVM スイッチ内蔵のセンサーで感知した温度が摂氏、華氏の両方の単位で表示されます。詳細は p.363「ファンの位置と速度」をご参照ください。</p>

## 操作モード



この画面では、下記のパラメーターを設定します。

- ◆ 「Force all to grayscale」(グレースケール表示する)の項目を有効にすると、KVM スイッチに接続されている全デバイスのリモート画面がモノクロで表示されます。これによって、低帯域のネットワーク環境でも I/O 転送速度を上げることができます。
- ◆ 「Enable Client AP Device List」(デバイス一覧を有効にする)の項目を有効にすると、Windows クライアントや(p.78 参照)Java クライアント(p.83 参照)の各アプリケーションを使っている時に、この KVM スイッチがサーバーリストに表示されるようになります。このオプションが無効になっていると、KVM スイッチには接続はできるものの、KVM スイッチにつけられた名前はサーバーリストには表示されません。
- ◆ 「Enable Adapter ID」(アダプターID を有効にする)の項目を有効にする(デフォルト)と、KVM スイッチの本体に各ポートのコンピューターモジュールに関する情報が格納されます。このため、コンピューターモジュールを別のポートに接続した場合でも、そのコンピューターモジュールのポートプロパティに関する情報が新しい接続ポートでも有効になります(p.67 参照)。
- ◆ 「Enable Local Console Cascading」(ローカルコンソールのカスケード接続を有効にする)の項目を有効にすると、IP-KVM スイッチを子機として KM0532/KM0932 からカスケード接続することができます。IP-KVM スイッチが上記の方法でカスケード接続され、KM0532/KM0932 側からアクセスされた場合、認証と権限付与は KM0532/KM0932 側で処理されます。ローカルコン

ソールのカスケード接続は、KA7170 のコンピューターモジュールを使用したときにのみ利用可能です。

---

**注意:** IP-KVM スイッチはカスケード接続されていても、ブラウザまたはアプリケーションから直接アクセスすることができます。この場合、認証と権限付与は IP-KVM スイッチ自体のデータベースを通して行われます。

---

- ◆ 「Enable First Logon Transfer」(第一ログオン転送を有効にする)の項目を有効にすると、バスの最初のユーザーだけがポートを切り替えることができます。それ以外のユーザーはアクセスしたいポートにすでに接続されたバスがない限り、または利用可能なフリーバスがない限り、ポートを切り替えることができません(ユーザーとバスに関する詳細は、p.270 「ユーザーとバス」を参照してください)。
  
- ◆ 「Keyboard/Mouse Broadcast」(キーボード/マウスのブロードキャスト)ドロップダウンメニューから、「Keyboard」(キーボード)、「Mouse」(マウス)、「Keyboard/Mouse」(キーボード/マウス)のいずれかの値を選択してください。
  - キーボードのブロードキャスト機能が有効なビューワーでポートを開いた場合、オンライン状態の接続サーバーすべてに対してキー入力の信号が送られます。
  - マウスのブロードキャスト機能が有効なビューワーでポートを開いた場合、オンライン状態の接続サーバーすべてに対してマウスクリックの信号が送られます。
  - キーボード/マウスのブロードキャスト機能が有効なビューワーでポートを開いた場合、オンライン状態の接続サーバーすべてに対して、キー入力とマウスクリックの信号が送られます。
  - ローカルコンソールのビューワーでポートを開いた場合、ブロードキャストの開始/終了アイコンがツールバーメニューで利用できるようになります。詳細については p.262「ツールバーアイコン」を参照してください。ツールバーメニューを起動するには、GUI ホットキー(例:[Scroll Lock]キーを 2 回連続で押す。GUI ホットキーの変更方法については p.156 「OSD ホットキー」を参照)。

- 
- 注意:**
1. 本製品からカスケード接続されている KVM スイッチでは、一度に一つのポートでしかキーボード/マウスのブロードキャスト機能を使用することができません。
  2. マウスのブロードキャスト機能を使う場合は、全サーバーで同じ OS が稼働しており、モニターがすべて同じ解像度に設定されており、画面がすべて同じレイアウトになっていなければなりません。
  3. 詳細については、p.261「ポートツールバー」を参照してください。
-

- ◆ 「Console Keyboard Language」(コンソールキーボード言語)の項目では、ローカルコンソールで使うキーボードのキーボードマッピングを設定します。隣にあるリストから設定内容を選択してください。

## ネットワーク

「Network」(ネットワーク)メニューでは、製品のネットワークに関連する項目を設定することができます。

The screenshot displays the 'Network' configuration page of a device. At the top, there are tabs for 'Device Information', 'Operating Mode', 'Network', 'ANMS', 'Security', and 'Date/Time'. The 'Network' tab is active. Below the tabs, there are three main sections: 'IP Installer', 'Service Ports', and 'NIC Settings'.  
1. 'IP Installer' section: Contains radio buttons for 'Enabled' (selected), 'View Only', and 'Disabled'.  
2. 'Service Ports' section: Contains input fields for 'Programs' (9000), 'HTTP' (80), 'HTTPS' (443), and 'SSH' (22).  
3. 'NIC Settings' section: Contains a checked 'Redundant NIC' checkbox and a dropdown menu showing '1000M Network Adapter 1'. Below this are two columns of settings:  
- 'IPv4 Settings': Includes radio buttons for 'Obtain IP address automatically (DHCP)' (selected) and 'Set IP address manually (Fixed IP)'. Fields include 'IP Address' (10.3.41.155), 'Subnet Mask' (255.255.255.0), 'Default Gateway' (10.3.41.254), 'DNS Server' (Obtain DNS server address automatically selected), 'Preferred DNS server' (10.0.1.7), and 'Alternate DNS server' (10.0.1.6).  
- 'IPv6 Settings': Includes radio buttons for 'Obtain IPv6 address automatically (DHCP)' (selected) and 'Set IPv6 address manually (Fixed IP)'. Fields include 'IPv6 Address' (fe80::210:74ff:fe95:69c), 'Subnet Prefix Length' (64), 'Default Gateway', 'DNS Server' (Obtain DNS server address automatically selected), 'Preferred DNS server', and 'Alternate DNS server'.  
At the bottom of the NIC Settings section, there is a 'Network Transfer Rate' field set to '99999 Kbps'.  
The bottom of the window features 'Save' and 'Close' buttons, and a footer with 'ATEN International Co. Ltd. All rights reserved.' and 'v2.0.192.201.01115'.

この画面における各項目については、後のセクションで説明します。

## IP インストーラー

IP インストーラーは、製品に外部から IP アドレスを設定することのできる、Windows 用ソフトウェアです。

IP インストーラーの用途に応じて、「Enable」(有効)、「View Only」(監視のみ)、「Disable」(無効)のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IP インストーラーの詳細については p.207 をご参照ください。

- 
- 注意:**
1. 「View Only」(参照のみ)を選択した場合、製品は IP インストーラーのデバイスリストで確認することができますが、この IP インストーラーから IP アドレスを変更することはできません。
  2. セキュリティを保護するために、IP インストーラーの使用後には、この項目を「View Only」(参照のみ)または「Disable」(無効)に設定することを強く推奨します。
- 

## サービスポート

セキュリティの面からシステムにファイアウォールが導入されている場合、管理者はファイアウォールの設定で許可されたポート番号を製品側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートを使っている場合、ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部として、このポート番号を入力しなくてはなりません。入力するポート番号が正しくなかったり、入力されていなかったりすると、製品を検索しても表示されません。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Program (プログラム)	Windows クライアントや Java ビューワー、Windows/Java アプリケーションプログラム、またバーチャルメディアから製品に接続する際に使用するポート番号です。デフォルトでは 9000 に設定されています。
HTTP	ブラウザログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは 80 に設定されています。
HTTPS	SSL 通信に使用するポート番号です。デフォルトでは 443 に設定されています。
SSH	SSH によるアクセスで使用するポートです。デフォルトでは 22 に設定されています。
Telnet	Telnet でのアクセスに使用するポートです。デフォルトでは 23 に設定されています。

- 
- 注意:**
1. 各サービスポートで有効な値は 1～65535 です。
  2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。
  3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
- 

## NIC 設定

### ◆ Redundant NIC (冗長化 NIC)

本製品にはネットワークインターフェースを 2 ポート搭載しています。この項目が有効になっていると(デフォルト設定)、両方のインターフェースでネットワークアダプター1 の IP アドレスを使用することができます。

この設定を行った場合、セカンドインターフェースは通常、非アクティブな状態になっていますが、第1インターフェースにネットワーク障害が発生した場合は、製品は自動的に第2インターフェースに切り替わります。

- 冗長ネットワーク有効 - 両方のインターフェースに同じ IP アドレスを設定  
冗長ネットワークを有効にするには、以下の手順で操作してください。
  1. 「Redundant NIC」(冗長化 NIC)の項目にチェックを入れてください。
  2. 「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)がネットワークアダプターリストで選択され、リストボックスは無効になります(「1000M Network Adapter 2」(1000M ネットワークアダプター2)の項目は設定できません)。
  3. 「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください(次のセクションを参照)。
  
- 冗長ネットワーク無効 - 両方のインターフェースに異なる IP アドレスを設定  
冗長ネットワークを無効にすると、両方のインターフェースに異なる IP アドレスを設定することができます。ユーザーは製品へのアクセスの際に両方の IP アドレスを使用することが可能です。この方法で製品をセットアップする場合は、以下の手順で操作してください。
  1. 「Redundant NIC」(冗長化 NIC)の項目にチェックが入っている場合は、クリックしてチェックを外してください。
  2. ネットワークアダプターのリストボックスから「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)を選択してください。
  3. 「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください(次のセクションを参照)。

4. ネットワークアダプターのリストボックスから「Network Adapter 2」(ネットワークアダプター2)を選択してください。
5. 「Network Adapter 2」(ネットワークアダプター2)で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。

#### ◆ IPv4 設定

##### ➤ IP アドレス

IPv4 は IP アドレスの従来の設定方法です。製品には DHCP を使用して動的 IP アドレスを設定することも、固定 IP アドレスを設定することも可能です。

- ◇ 動的 IP アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically」(IP アドレスを自動的に取得する)のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。
- ◇ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually」(IP アドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

- 
- 注意:**
1. 「Obtain IP address automatically」(IP アドレスを自動的に取得する)の項目を選択し、DHCP を使って製品の IP アドレスを自動的に取得する場合、製品は起動後に DHCP サーバーからの IP アドレスの割り当てを待機します。1 分経過しても IP アドレスが割り当てられない場合は、工場出荷時にデフォルトで設定された IP アドレス(192.168.0.60)に自動的に戻ります。
  2. 製品が、DHCP がアドレスを割り当てるネットワークに接続されていて、なおかつ IP アドレスを確認する必要がある場合は、p.332 の「IP アドレスの設定」をご参照ください。
- 

##### ➤ DNS サーバー

- ◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。
- ◇ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

- 
- 注意:** 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。
-

## ◆ IPv6 設定

### ➤ IP アドレス

IPv6 は IP アドレス設定の新しいフォーマット(128 ビット)です(詳細については p.335「IPv6」参照)。製品には、DHCP を使用して動的 IPv6 アドレスを設定することも、固定 IPv6 アドレスを設定することも可能です。

◇ 動的 IPv6 アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IPv6 address automatically [DHCP]」(IPv6 アドレスを自動的に取得する [DHCP])のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。

◇ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IPv6 address manually [Fixed IP]」(IPv6 アドレスを手動で設定する[固定 IP])のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

### ➤ DNS サーバー

◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。

◇ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

---

**注意:** 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。

---

## ネットワーク転送速度

製品がリモートコンピューターにデータを転送する速度を設定することで、ネットワークのトラフィック状況を最適化し、データ転送量を調節することができます。設定できる値の範囲は 4～99999KBps です。

## 操作が完了したら

ネットワーク設定の変更を行ったら、ログアウトする前に「Maintenance」(メンテナンス)タブ→「System Operation」(システム操作)メニューの「Reset on exit」(終了時にリセット)の項目(p.256 参照)が有効になっている(チェックボックスにチェックが入っている)ことを確認してください。これによって、製品を再起動することなくネットワークの設定をデバイスに反映することができます。



## ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。このメニューは複数のカテゴリから構成されています。各カテゴリの内容については、後のセクションで説明します。

### イベント送り先

The screenshot shows the ANMS configuration window with the following sections:

- SMTP Settings:**
  - Enable report from the following SMTP Server
  - SMTP Server: [ ]
  - Service Port: 25
  - My server requires secure connection (SSL)
  - My server requires authentication
  - Account Name: [ ]
  - Password: [ ]
  - From: [ ]
  - To: [ ]
- Log Server:**
  - Enable
  - MAC Address: E0D895C11534
  - Service Port: 9001
- SNMP Trap:**
  - Enable
  - Server IP: 10.21.64.5
  - Service Port: 162
- Syslog Server:**
  - Enable
  - Server IP: [ ]
  - Service Port: 514

#### ◆ SMTP Settings (SMTP 設定)

SMTP サーバーからのレポートをユーザーにメール通知する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable report from the following SMTP server」(以下の SMTP サーバーからの通知を有効にする)の項目にチェックを入れ、お使いの SMTP サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。また、「Service Port」(サービスポート)に、お使いの環境に適したサービスポートの値を入力してください。
2. お使いの SMTP サーバーに SSL 接続が必要な場合は、「My server requires secure connection (SSL)」(サーバーはセキュアな接続が必要)の項目にチェックを入れてください。

3. サーバーで認証が必要な場合は、「My server requires authentication」(サーバー認証が必要)の項目にチェックを入れて、「Account Name」(アカウント名)、「Password」(パスワード)の各欄にお使いの環境に適した値を設定してください。

4. レポートの差出人となるメールアドレスを「From」欄に入力してください。

---

**注意:** 1. 「From」欄に設定できるメールアドレスは一つだけです。64 バイト以内で設定してください。  
2. 1 バイトは半角英字 1 文字に相当します。

---

5. レポートの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。

---

**注意:** 複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、宛先のアドレス全体で 256 バイト以内になるように設定してください。

---

#### ◆ Log Server (ログサーバー)

ログインや内部ステータスメッセージ等、製品内部で発生した重要なイベントは、自動的にログファイルに記録されます。

▶ ログサーバーが動作しているコンピューターの MAC アドレスを「MAC address」(MAC アドレス)欄に入力してください。

▶ ログサーバーが動作しているコンピューターがログデータをリスンしているポートの番号を「Service Port」(サービスポート)欄に入力してください。入力可能な値の範囲は 1～65535 で、デフォルトでは 9001 に設定されています。

---

**注意:** このポート番号は、「Program」(プログラム)で指定されたポートとは別のポートを使用してください(p.207「プログラム」参照)。

---

ログサーバーのセットアップ方法については第 13 章をご参照ください。また、ログファイルについては p.239 で説明しています。

#### ◆ SNMP Trap (SNMPトラップ)

SNMPトラップイベントの通知を受ける場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Enable SNMP Agent」(SNMP エージェントを有効にする)の項目にチェックを入れてください。

2. SNMPトラップイベントの通知を受けるコンピューターの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを「Server IP」(サーバーIP)欄に入力してください。

3. 「Service Port」(サービスポート)欄にポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1～65535 です。

---

**注意:** SNMPトラップイベントで通知されるログは、「Log」(ログ)タブの「通知設定」メニューで設定することができます。詳細については p.244 をご参照ください。

---

◆ Syslog Server (Syslog サーバー)

製品内部で発生した全イベントを記録し、Syslog サーバーに書き込む場合は、下記の手順に従って設定してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを「Server IP」(サーバー IP) 欄に入力してください。
3. 「Service Port」(サービスポート) 欄にポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1~65535 です。

## 認証

The screenshot shows a configuration window with tabs for Device Information, Operating Mode, Network, ANMS, Security, and Date/Time. The Security tab is active, and the left sidebar has 'Authentication' selected. The main area contains three sections:

- (Disable Device Authentication)**: A checkbox that is unchecked.
- RADIUS Settings**:
  - Enable: Unchecked
  - Preferred RADIUS: A dropdown menu.
  - Server IP: A text input field.
  - Port: 1645
  - Server preferred setting: Unchecked
  - Authentication Type: CHAP (dropdown)
  - Timeout: 3 sec
  - Retries: 3
  - Shared Secret (at least 8 characters): A text input field.
- AD/LDAP Settings**:
  - Enable: Unchecked
  - Preferred LDAP: A dropdown menu.
  - Server IP: A text input field.
  - Port: 389
  - Server preferred setting: Unchecked
  - Secure LDAP (uses secure connection/SSL): Unchecked
  - Timeout: 0 sec
  - Admin DN: A text input field.
  - Admin Name: A text input field.
  - Password: A text input field.
  - Search DN: A text input field.
- CC Management**:
  - Enable: Checked
  - Server IP: 10.3.166.11
  - Port: 8000

◆ Disable Local Authentication (ローカル認証を無効にする)

このオプションを選択すると、ローカルコンソールにおけるユーザー認証を無効にします。この設定によって、製品は LDAP、LDAPS、MS Active Directory、RADIUS、CC デバイス統合管理システム経由以外からはアクセスできなくなります。

◆ RADIUS Settings (RADIUS 設定)

RADIUS サーバー経由で製品への認証を行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 優先 RADIUS サーバーと代替 RADIUS サーバーのいずれかを選択してください。
3. 優先 RADIUS サーバーまたは代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号をそれぞれ入力してください。IP の各欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかで設定してください。
4. 「Authentication Type」(認証の種類)の項目に対して、PAP または CHAP のいずれかを選択してください。
5. 「Timeout」(タイムアウト)の項目に、製品が RADIUS サーバーの応答を待機する最大時間(秒)を入力してください。
6. 「Retries」(再試行)の項目に、RADIUS サーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
7. 「Shared Secret」(共有シークレット)の項目に、RADIUS サーバーとの認証で使用する共有シークレットの文字列を 6 文字以上で入力してください。
8. RADIUS サーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。
  - ユーザーエントリを「**su/xxxx**」として設定する。  
「xxxx」の部分は、製品でアカウントを作成した際にユーザーに与えられたユーザーネームに置き換えてください。
  - RADIUS サーバー側と製品側で同じユーザーネームを使用する。
  - RADIUS サーバー側と製品側で同じグループネームを使用する。
  - RADIUS サーバー側と製品側で同じユーザーネーム、グループネームを使用する。
 いずれの方法においても、ユーザーのアクセス権限は、グループユーザーが製品で作成された際に割り当てられた権限になります。(p.180「ユーザーの作成」参照)

◆ LDAP/LDAPS 設定

製品にログインするユーザーの認証および権限設定を LDAP/LDAPS で行う場合は、以下の表をご参照ください。

項目	説明
Enable (有効にする)	LDAP/LDAPS による認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。
Type (タイプ)	この機能を有効にした時に、LDAP と LDAPS のどちらを使って認証を行うかをラジオボタンで選択してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Server IP/Port (サーバーIP/ポート)	LDAP/LDAPS サーバーの IP アドレスやポート番号を入力してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「Server IP」(サーバーIP) 欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名を使って設定できます。</li> <li>◆ LDAP サーバーのデフォルトポート番号は 389、LDAPS サーバーのデフォルトポート番号は 636 です。</li> </ul>
Admin DN (アドミニストレーターDN)	この項目に入力する値は LDAP/LDAPS サーバーの管理者にご確認ください。以下、設定例です。  ou=kn8132,dc=aten,dc=com
Admin Name (アドミニストレーター名)	LDAP アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	LDAP アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Search DN (サーチ DN)	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始する DNS 名です。
Timeout (タイムアウト)	製品が LDAP/LDAPS サーバーの応答を待機する時間(秒)を設定してください。

LDAP/LDAPS サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

- ◆ Active Directory スキーマを使用
- ◆ スキーマを使用せず、製品上で使用されているユーザーネームだけを LDAP/LDAPS サーバー上の名前に一致させる。ユーザー権限は製品上で設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、製品上で使用されているグループだけを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループに設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、Active Directory のユーザーネームとグループを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループとユーザーに設定されている権限と同じ。

---

**注意:** 1. セットアップを完全に行うには LDAP 属性が必要です。LDAP 属性は、ターミナルインターフェースから GET コマンドを実行することで取得できます。詳細については p.254「ターミナル」を参照してください。その属性に対して、一

---

---

意の X500 オブジェクト ID (OID) が所属先から割り当てられたり、自分で定義したものを割り当てたりすることができます (例:

1.3.6.1.4.1.21317.1.3.1.3)。

2. LDAP に関する詳細は、弊社 Web サイトより LDAP 取扱説明書をダウンロードしてご参照ください。
- 

## CC 管理の設定

CC(Control Center)サーバー経由で製品の認証を行う場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れ、CC サーバーの IP アドレスと通信に使用するポートを入力してください。「Server IP」(サーバーIP)欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかで設定することができます。

## SNMP エージェント

「SNMP Agent」(SNMP エージェント)では、弊社 Web サイトからダウンロードした MIB ファイルを使用して、デバイス管理の大半の設定を MIB ブラウザ経由で定義することができます。MIB ファイルを MIB ブラウザにインポートすると、次のデバイス管理項目が設定されます。

操作モード : モード、COM 設定

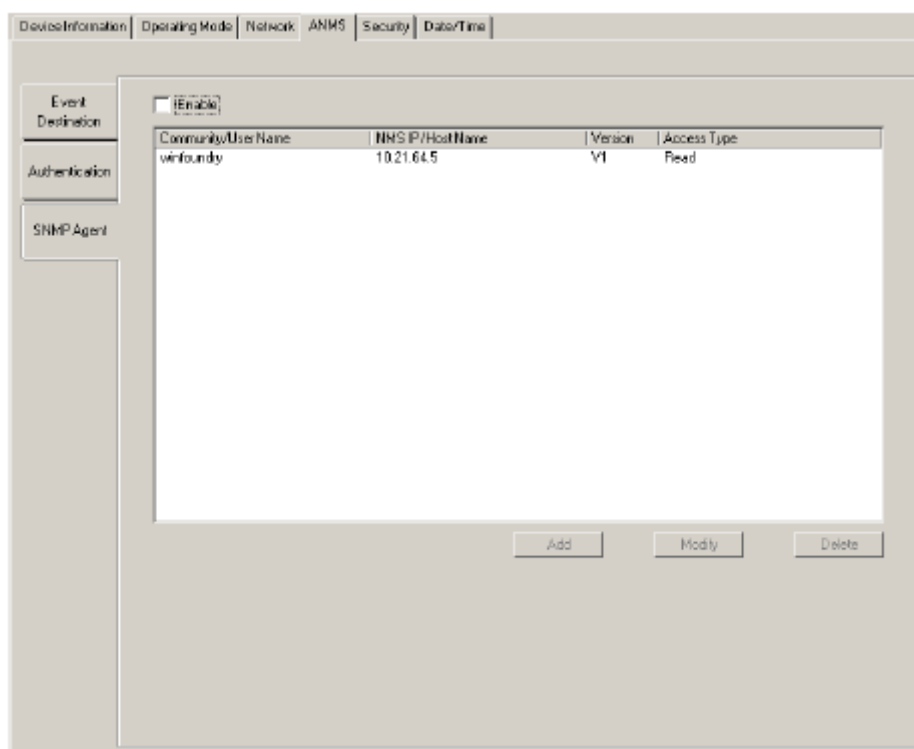
ネットワーク : IP インストーラー、サービスポート、IPv4 設定、IPv6 設定

ANMS - イベント送り先 : ログサーバー、SNMPトラップ、

認証 : CC 管理

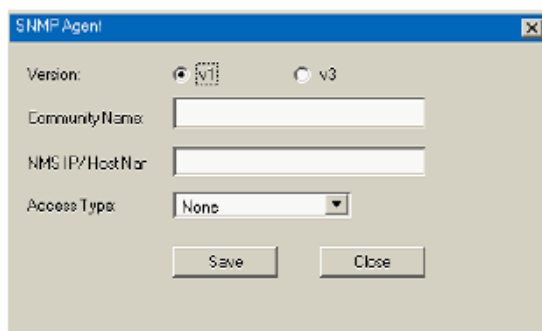
まず、弊社 Web サイトにアクセスし、「サポート&ダウンロード」メニューから「ダウンロード」を選択してください。そうしたら、「他の製品の資料をダウンロードする」のセクションの下にあるテキストボックスに製品型番を指定して「実行」をクリックし、「ソフトウェアとドライバー」セクションから **MIB ファイル**をダウンロードしてください。

MIB ブラウザ経由で IP-KVM スイッチに接続する場合は、下記の手順で SNMP エージェントを追加して、IP-KVM スイッチの設定定義に使用するコンピューターからのアクセスを許可するようにしてください。



SNMP エージェントを設定するには、以下の手順に従って操作してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 「**Add**」(追加)をクリックしてください。下図のようなウィンドウが表示されます。



3. 「Version」(バージョン)を選択してください。
4. 「Community Name」(コミュニティー名)を入力してください。
5. 「NMS IP/Host Name」(NMS IP/ホスト名)を入力してください。ここには MIB ブラウザ経由で IP-KVM スイッチにアクセスするのに使用するコンピューターの IP アドレスを入力してください。
6. 「Access Type」(アクセスタイプ)を選択し、「**Save**」(保存)をクリックしてください。
7. MIB ブラウザから MIB ファイル\*をインポートして、IP-KVM スイッチの IP アドレスを入力してください。

---

**注意:** KN 用の MIB ファイルは、弊社 Web サイトの「サポート&ダウンロード」メニューからダウンロードしてください。ダウンロードページへのアクセス手順は前のページに記載されています。

---

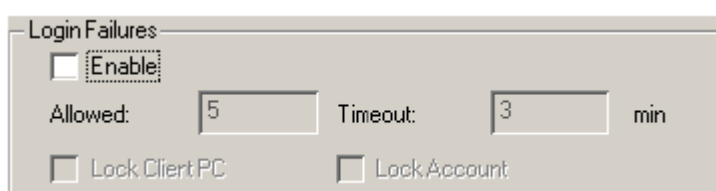


## セキュリティ

「Security」(セキュリティ)メニューは 7 つのメインパネルから構成されています。これらのパネルについては、後のセクションで説明します。

### ログイン失敗

セキュリティを強化するために、このセクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。



The screenshot shows a configuration window titled "Login Failures". It contains the following elements:

- A checked checkbox labeled "Enable".
- A text input field for "Allowed" with the value "5".
- A text input field for "Timeout" with the value "3" and the unit "min" to its right.
- An unchecked checkbox labeled "Lock Client PC".
- An unchecked checkbox labeled "Lock Account".

これらのポリシーを設定する場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れてください(デフォルトではこの項目にチェックが入っています)。各項目が表す内容は下表のとおりです。

項目	説明
Allowed (許可)	リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは 5 回に設定されています。
Timeout (タイムアウト)	ログイン連続試行可能回数を超過してしまった場合に、次のログインまでに待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは 3 分に設定されています。
Lock Client PC (ロッククライアント PC)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのコンピューターは自動的に締め出され、そのコンピューターからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。  <b>注意:</b> この機能はクライアントコンピューターの IP アドレスに基づいて処理されています。IP アドレスが変更されると、このコンピューターはロックされなくなります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Lock Account (ロックアカウント)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、そのアカウントからのログインは拒否されてしまいます。ログイン連続試行回数を超過してしまったユーザーネームとパスワードではログインすることができません。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。

---

**注意:** このセクションの項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティを維持するためにも、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを設定されることを推奨します。

---

## フィルター

The screenshot shows a 'Filter' dialog box with the following elements:

- IP Filter Section:**
  - Checkbox:  Enable IP Filter
  - Radio buttons:  Include,  Exclude
  - List box: Empty
  - Buttons: Add, Modify, Delete
- Login String:** A text input field.
- MAC Filter Section:**
  - Checkbox:  Enable MAC Filter
  - Radio buttons:  Include,  Exclude
  - List box: Empty
  - Buttons: Add, Modify, Delete

### ◆ IP/MAC フィルター

IP/MAC フィルター機能は、製品への接続を試みるコンピューターの IP アドレスや MAC アドレスに基づいて、このユニットへのアクセスを制御するものです。フィルターは IP、MAC 各フィルターともそれぞれ最大で 100 項目作成することができます。フィルターは設定されると、IP フィルターの場合は上部のリストボックスに、MAC フィルターの場合は下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

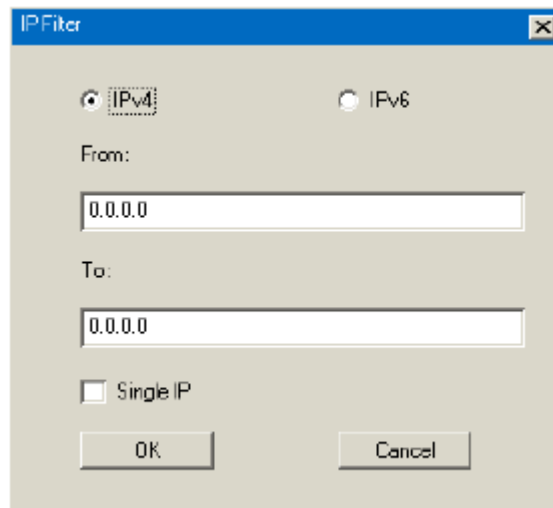
IP フィルターの機能を有効にする場合は「Enable IP Filter」(IP フィルター有効)の項目に、また、MAC フィルターの機能を有効にする場合は「Enable MAC Filter」(MAC フィルター有効)の項目にそれぞれチェックを入れてください。

- ◆ 「Include」(含む)ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの製品へのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて拒否されます。
- ◆ 「Exclude」(除く)ボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの製品へのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可されます。

◆ フィルター項目の追加

IP アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのどちらでフィルターを掛けるかをラジオボタンで選択してください。
3. 「From」欄にフィルタリングの対象となる IP アドレスを入力してください。
  - IP アドレスが 1 つだけの場合は、「Single IP」(単独 IP)の項目にチェックを入れてください。
  - 複数の IP アドレスの範囲を指定する場合は、その範囲の始点となる IP アドレスを「From」欄に、終点となる IP アドレスを「To」欄にそれぞれ入力してください。

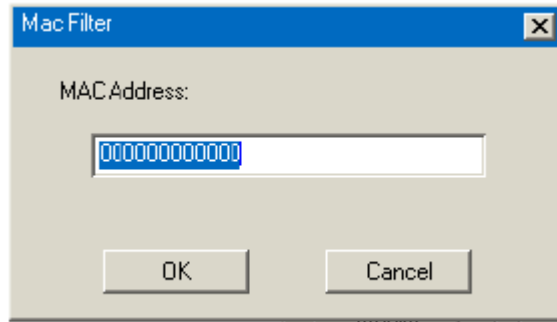
---

**注意:** アプリケーション GUI では上記の方法で操作できます。ブラウザ GUI をお使いの場合、下記の点が異なります。

1. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを選択できるラジオボタンは表示されず、IPv4 の「From」欄と「To」欄のみ表示されます。
  2. 「Single IP」(単独 IP)のチェックボックスは表示されません。IPv4 アドレスを 1 つだけフィルタリングする場合は、「From」欄と「To」欄に同じ IP アドレスを入力してください。
- 
4. IP アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
  5. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

MAC アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. MAC アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
3. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

◆ IP アドレスと MAC アドレスの設定が一致しない場合

あるコンピューターが IP アドレスによるフィルタリングではアクセスが許可されているにもかかわらず、MAC アドレスによるフィルタリングではアクセスが禁止されているといったように、フィルタリングの内容に矛盾がある場合、そのコンピューターからのアクセスはブロックされます。

◆ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「Modify」(変更) ボタンをクリックしてください。フィルター追加時に表示されるダイアログと同様のダイアログが表示されますので、新しいアドレスに変更してください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「Delete」(削除) ボタンをクリックしてください。

## ログイン文字列

スーパーアドミニストレーターは、「Login String」(ログイン文字列)の項目を使って、ユーザーが Web ブラウザでアクセスする際に IP アドレス以外に必要なログイン文字列を設定します。

例えば、製品に「192.168.0.126」という IP アドレスが、ログイン文字列に「abcdefg」という文字列がそれぞれ設定されている環境では、アドレスバーに下記の URL を入力してアクセスします。

192.168.0.126/abcdefg

- 
- 注意:**
1. IP アドレスとログイン文字列の間はスラッシュ(/)で区切ってください。
  2. ログイン文字列が設定されていないと、誰でも製品の IP アドレスを指定するだけでログイン画面までアクセスできてしまいます。セキュリティレベルを維持するためにも、この文字列の設定を推奨します。
- 

このログイン文字列は、半角文字を使用して入力してください。入力可能な文字の種類は下記の通りです。

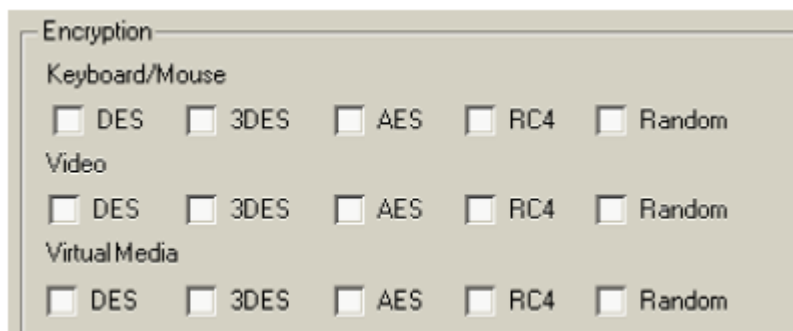
**0-9 a-z A-Z ~ ! @ \$ % & \* ( ) \_ - = + [ ] .**

また、下記の文字は使用できません。

- **% ^ " ' : / ? # \ ' { } ; ' < >**
- 半角スペース
- アクセント付き文字や複合文字 ( É Ç ñ など)

セキュリティを維持するために、この文字列を定期的に変更されることを推奨します。

## 暗号化



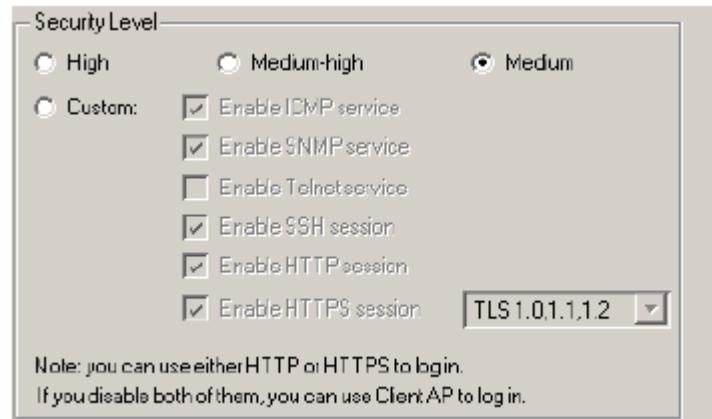
本製品では、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号の暗号化の形式を個別に設定することができます。これらの信号はそれぞれ、DES、3DES、AES、RC4、ランダム of 各方式を単独または組み合わせて暗号化することができます。

暗号化機能を有効にすると、システムパフォーマンスに影響を与え、暗号化を複雑にすればするほど、暗号化がシステムにもたらす弊害も大きくなります。暗号化を有効にする場合は、以下の点を考慮して設定を行ってください。

- ◆ システムパフォーマンスに与える影響は、RC4、DES、3DES、AES の順に大きくなります。
- ◆ 暗号化の組み合わせのうち、RC4 と DES の組み合わせが最もシステムに与える影響が小さいです。

## セキュリティレベル

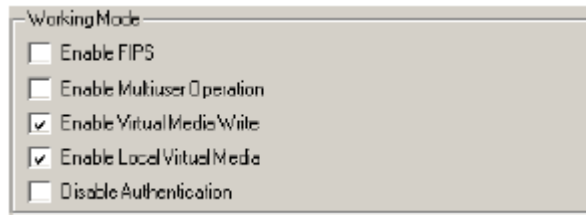
セキュリティを強化するために、セキュリティ機能を「High」(高)、「Medium-high」(中高)、「Medium」(中)、「Custom」(カスタム)から選択することができます。



1. High(高) (SSHv2、HTTPS(TSL v1.2)を除く、すべてのサービスを無効化)
2. Medium-high(中高) (SSHv2 を有効にし、HTTPS を HTTPS、HTTPS(TSL v1.2)、ICMP にリダイレクト)
3. Medium(中) (SSHv2 を有効にし、HTTPS を HTTPS、HTTPS(TSL v1.0、1.1、1.2)、ICMP にリダイレクト) (デフォルト)
4. Custom(カスタム): 次のセキュリティオプションから、適用したいものをクリックしてチェックを入れてください。
  - ◆ Enable ICMP service (ICMP サービスを有効にする)
  - ◆ Enable SNMP service (SNMP サービスを有効にする)
  - ◆ Enable Telnet service (Telnet サービスを有効にする)
  - ◆ Enable SSH session (SSH セッションを有効にする)
  - ◆ Enable HTTP session (HTTP セッションを有効にする)
  - ◆ Enable HTTPS session (HTTPS セッションを有効にする)  
(「TLS 1.2」、「TLS 1.0、1.1、1.2」のいずれかから選択)



## 動作モード

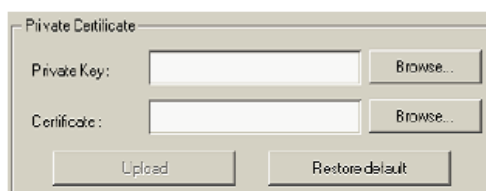


このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Enable FIPS (FIPS を有効にする)	この項目にチェックを入れると、FIPS 140-2 Level 1 セキュリティ標準を有効にします。
Enable Multiuser Operation (マルチユーザーオペレーションを有効にする)	この項目を有効にすると、最大 32 ユーザーが同時ログインし、リモートバスを共有することができます。この項目が有効になっていないと、一度にログインできるのは 1 ユーザーだけとなります。デフォルトでは有効に設定されています。
Enable Virtual Media Write Operation (バーチャルメディア書き込みを有効にする)	この項目を有効にすると、ユーザーシステムのリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスから、リモートサーバーにデータを送信することができます。また、リモートサーバーからのデータをこれらのデバイスに書き込むこともできます。
Enable Local Virtual Media (ローカルバーチャルメディアを有効にする)	この項目を有効にすると、製品に接続された USB ストレージデバイス(CD、DVD、ハードディスク、フラッシュメモリなど)を、リモートサーバーにマウントすることができます。
Disable Authentication (認証を無効にする)	この項目を有効にすると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーは、ユーザーネームとパスワードを入力するだけで、アドミニストレーターとしてアクセスすることができます。  <b>注意:</b> この設定はセキュリティ面において極めて危険な影響を及ぼすことがありますので、特別な環境以外では設定しないようにしてください。

## プライベート証明書

SSL 接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトの ATEN 証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化することができます。



プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

### ◆ 自己署名済み証明書の作成

自己署名済み証明書を作成する場合は、「openssl.exe」というフリーツールをインターネットでダウンロードして使うことができます。OpenSSL を使って自身のプライベートキーと SSL 証明書を作成する方法の詳細については p.361「自己署名(プライベート)証明書」をご参照ください。

### ◆ CA 署名済み SSL サーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局の Web サイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。CA から証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適当なフォルダーに保存してください。

### ◆ プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Private Key」(プライベートキー)の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログからプライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
2. 「Certificate」(証明書)の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログから証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「Upload」(アップロード)ボタンをクリックして操作を完了してください。

- 
- 注意:**
1. 「Restore Default」(デフォルト設定の復元)ボタンをクリックすると、デバイスは、デフォルトの ATEN 証明書を使うようになります。
  2. プライベート暗号キーと署名済み証明書は同時にインポートしてください。
-

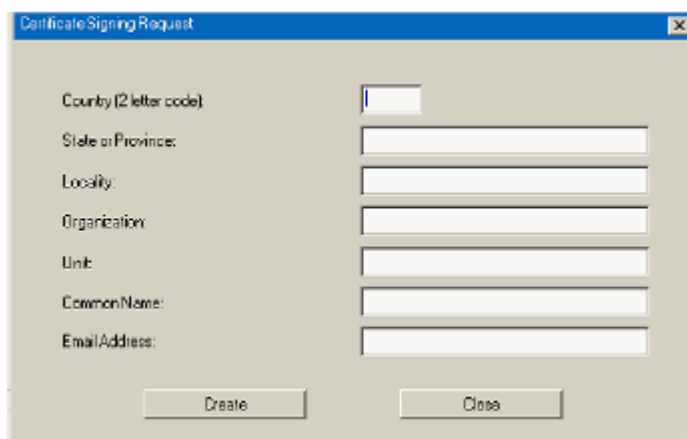
## CSR 証明書署名要求

このセクションでは、CA に署名された SSL サーバー証明書の取得およびインストールを行うことができます。



操作方法は下記の通りです。

1. 「**Create CSR**」(証明書署名要求を生成する)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。



2. 下表の例を参考にしながら、お使いの環境で有効な値をダイアログの項目に入力してください。

項目	例
国名(2 バイトコード)	TW
State or Province (都道府県)	Taiwan
Locality (市区町村)	Taipei
Organization (組織/会社)	Your Company, Ltd.
Unit (部署)	Techdoc Department
Common Name (コモンネーム)	mycompany.com  <b>注意:</b> ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正しく入力してください。例えば、サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」の場合、「mycompany.com」だけを設定しても、その証明書は有効になりません。
Email Address (メールアドレス)	administrator@yourcompany.com

3. 項目への入力が終わったら(全項目入力必須)、「**Create**」(生成)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、先ほど入力した情報に基づいて作成された自己署名証明書が、製品内部に保存されます。
4. 「**Get CSR**」(CSRを取得する)ボタンをクリックし、証明書ファイル(csr.cer)を、お使いのコンピューターの適当な場所に保存してください。  
このファイルは、サードパーティーCA に署名済み SSL 証明書の申請を行う際に提出するものです。

5. CA から証明書が送られてきたら、このファイルをお使いのコンピューターの適当な場所に保存してください。「参照」ボタンでファイルを探し、「Upload」(アップロード)ボタンでこのファイルを製品の内部に保存してください。

---

**注意:** ファイルをアップロードすると、製品側でこのファイルをチェックし、ファイルで設定されている情報が一致するかどうかを確認します。情報が一致している場合は、ファイルが受け入れられますが、一致しない場合は却下されます。

---

ドメイン名の変更で新しい証明書が必要になった等の理由で証明書を削除する場合は、「Remove CSR」(証明書署名要求を削除する)ボタンをクリックしてください。

## 日付/時刻

このメニューでは、製品内部の日付や時刻に関する項目の設定を行います。

The screenshot shows a web interface for configuring the device's date and time. The menu is titled "Date/Time" and is part of a larger system menu including "Device Information", "Operating Mode", "Network", "RNMS", "Security", and "Date/Time".

The "Time Zone" section has a dropdown menu set to "GMT+08:00 Taipei" and a checkbox for "Daylight Savings Time" which is currently unchecked.

The "Date" section features a calendar for January 2019. The days of the week are listed as Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, and Sat. The dates 1 through 31 are displayed in a grid, with the 30th of January highlighted in blue.

The "Time" section shows a digital clock displaying "21:19:54" and a "Set" button.

The "Network Time" section includes a checkbox for "Enable auto adjustment" which is unchecked. Below this are two sets of fields for "Preferred time server" and "Alternate time server". Both are currently set to "AU|ntp1.cs.mtu.D2.AU". There are also checkboxes for "Preferred custom server IP" and "Alternate custom server IP" which are unchecked.

At the bottom of the "Network Time" section, there is an "Adjust time every" field set to "1" and a unit dropdown set to "days", along with an "Adjust Time Now" button.

項目の設定は、以下の内容に従って行ってください。

### タイムゾーン

- ◆ 製品がセットアップされている場所のタイムゾーンを設定する場合は、現在の設置場所から最も近いものを「Time Zone」(タイムゾーン)のリストボックスの中から選択してください。
- ◆ 製品をお使いの地域でサマータイムが導入されている場合は、「Daylight Saving Time」(サマータイム)の項目にチェックを入れてください。

## 日付

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ 表示されたカレンダーから適切な日を選択してください。
- ◆ 時刻は、24 時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで「時間」欄に入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「Set」(同期) ボタンをクリックしてください。

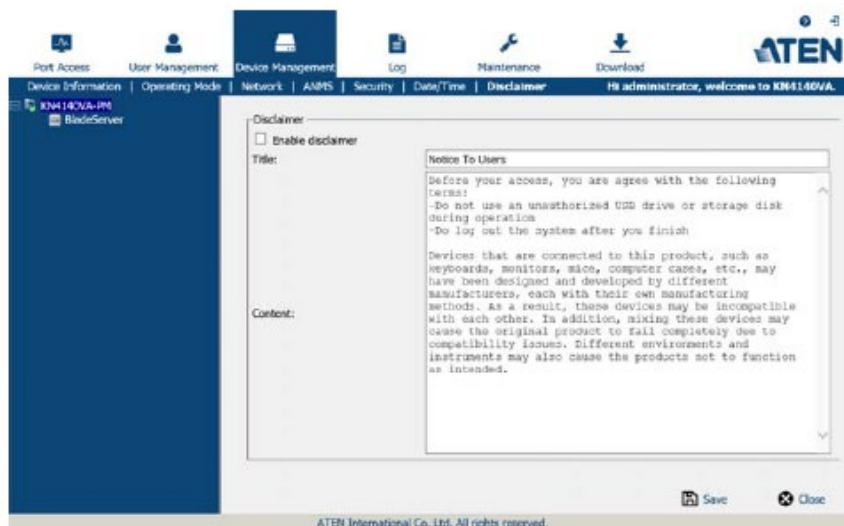
## ネットワーク時間

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Enable auto adjustment」(自動調整を有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 「Preferred time server」(プライマリタイムサーバー)リストから、お使いの環境に適したプライマリタイムサーバーを選択してください。
  - または -「Preferred custom server IP」(プライマリカスタムサーバーIP)の項目にチェックを入れて、使用するタイムサーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「Alternate time server」(代替タイムサーバー)の項目にチェックを入れて、手順 2 の要領で代替タイムサーバーの項目を設定してください。
4. 何日おきに同期を実行するかを「Adjust time every」(次の期間毎に時間を調整する)の欄に入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「Adjust Time Now」(今すぐ時間を調整する)ボタンをクリックしてください。

## 免責事項(ブラウザインターフェースのみ)

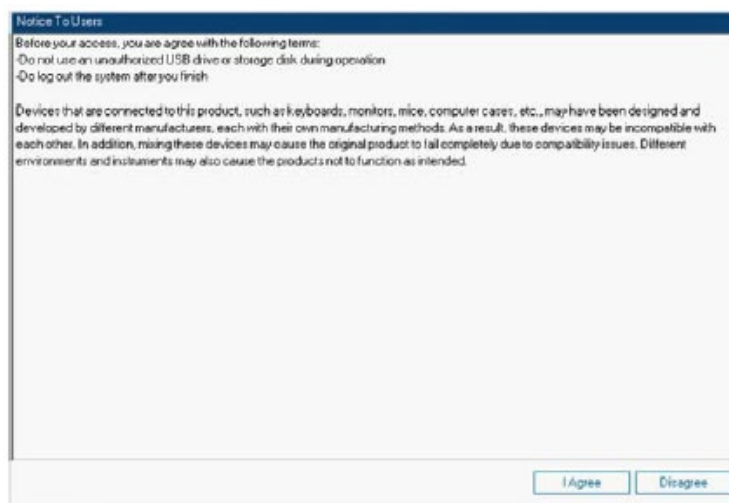
免責事項は下図のような画面で設定することができます。



ログイン時に免責事項を有効にするには、「Enable disclaimer」(免責事項を有効にする)の項目にチェックを入れてください(デフォルトでは無効)。

そうしたら、免責事項のタイトルと内容を入力し、「Save」(保存)をクリックして、内容を保存してください。

設定が行われると、ログイン時に免責事項が表示されるようになります。下図は、Windows クライアント AP を使用してログインした際に表示される画面の例です。



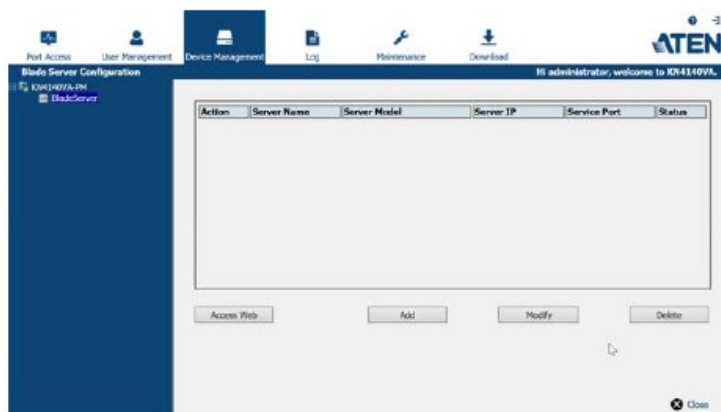


## ブレードサーバー

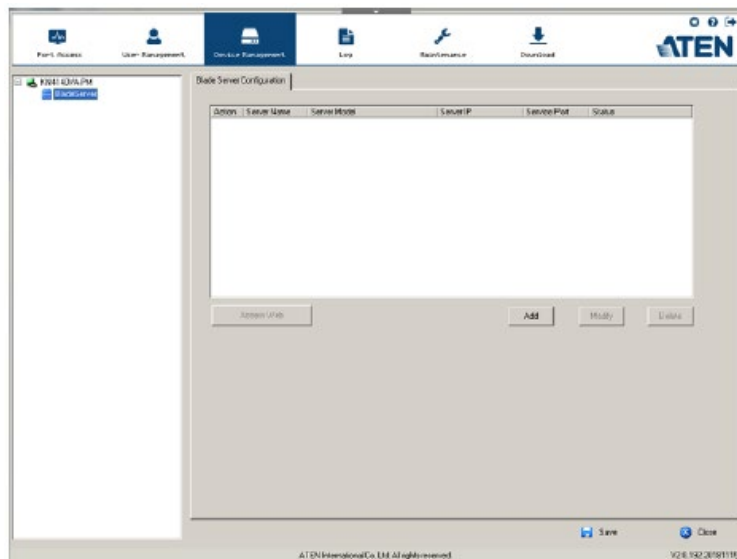
### 設定画面

スーパーアドミニストレーターで操作している時に、サイドバーからブレードサーバーを選択すると、下図のような設定画面が表示されます。

### ブラウザ GUI



### アプリケーション GUI



## ブレードサーバーの設定

### ブレードサーバーの追加

新しいブレードサーバーを設定する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーからアイコンを選択し、メインパネルで「Add」（追加）ボタンをクリックしてください。「Step1」タブが選択された状態で、「Setup Blade Server」（ブレードサーバーの設定）ダイアログが表示されます。

2. 下表を参考にしながら、各項目に値を入力してください。

項目	説明
Server Model (サーバーモデル)	ブレードサーバーのシャーシモデルをリストから選択してください。お使いのブレードサーバーの機種が、サポートサーバーのリストにない場合は、販売代理店にお問い合わせください。
Include KVM (KVM を含める)	この項目は読取専用ですので、設定を変更することはできません。サーバーが KVM 機能をサポートしている場合、この項目にチェックが入ります。KVM 機能がサポートされていない場合にはチェックがついていません。
Server Name (サーバー名)	識別のために、サーバーに名前を設定することができます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Server IP (サーバーIP)	シリアル接続(Telnet または SSH)経由でサーバーにアクセスする場合は、サーバーの IP アドレス(IPv4、IPv6、ドメイン名のいずれか)をこの欄に入力してください。
Service Port (サービスポート)	シリアルアクセスに使うポート番号を入力してください。
User Name (ユーザーネーム)	シリアルアクセスの認証に必要なユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	シリアルアクセスの認証に必要なパスワードを入力してください。
Scan Interval (スキャンインターバル)	製品がサーバーをスキャンするインターバル時間です。
Timeout (タイムアウト)	製品がスキャンを停止するまでにサーバーからの応答を待機する時間です。
Web URL	ブラウザ経由でサーバーにアクセスする場合は、サーバーの IP アドレス(IPv4、IPv6、ドメイン名のいずれか)をこの欄に入力してください。
Login Name (ログインネーム)	ブラウザ認証で必要となるユーザーネームを入力してください。
Login Password (ログインパスワード)	ブラウザ認証で必要となるパスワードを入力してください。

- 項目への入力完了したら、「Next」(次へ)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Step2」タブが表示された状態でダイアログが表示されます。
- 「Step2」タブには、組み込まれているブレードの数などを含む、ブレードサーバーの設定概要が表示されます。ブレードサーバーを追加したい場合は、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

## ブレードサーバーの変更・削除

- ◆ ブレードサーバーの設定を変更する場合は、対象となるブレードサーバーをサイドバーから選択して、「Modify」(変更)ボタンをクリックし、「Setup Blade Server」(ブレードサーバーの設定)ダイアログで変更を加えてください。
- ◆ ブレードサーバーを削除する場合は、対象となるブレードサーバーをサイドバーから選択し、「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。

## Web アクセス

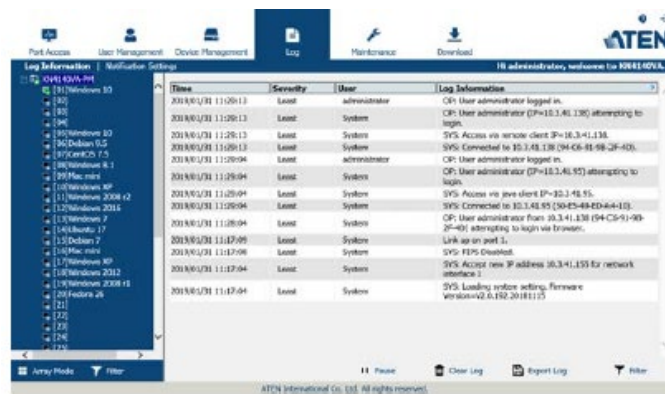
ブレードサーバーにアクセスする場合は、対象となるブレードサーバーをサイドバーから選択し、「**Access Web**」(Web にアクセス) ボタンをクリックしてください。

# 第9章 ログ

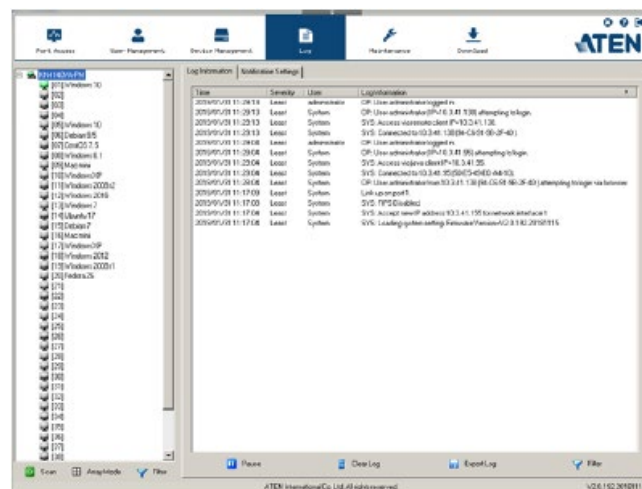
## 概要

発生した全イベントは、製品内部でログとして記録されます。ログの内容を確認する場合は、「Log」(ログ)タブをクリックしてください。タブをクリックすると、下図のようにデバイスのログ情報が表示されます。

## ブラウザ GUI



## アプリケーション GUI



## ログ情報

「Log Information」(ログ情報)メニューでは、製品内部で発生したイベントや、イベントの時刻、重要度、ユーザーの概要、またログ情報がそれぞれ表示されます。列の見出しをクリックすると、その項目で並べ替えを変更します。

ログファイルは、最大512件のイベントを記録します。記録されたイベントの数が512件に達すると、新しいイベントが発生した際に、一番古いイベントが切り捨てられます。画面下部にあるボタンの詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Pause (ポーズ)	このボタンをクリックすると、新しいイベントの表示を中断します。表示が一時停止されると、ボタンの表示は「Resume」(レジューム)に切り替わります。イベントの表示を再開する場合は、この「 <b>Resume</b> 」(レジューム)ボタンをクリックしてください。
Clear Log (ログのクリア)	ログファイルの内容を消去します。
Export Log (ログのエクスポート)	ログの内容をお使いのコンピューター上にファイルとして保存します。
Filter (フィルター)	日付、特定の文字列などでイベントを検索します(次のセクションに記載)。

## フィルター

この機能を使うと、表示されるログイベント情報を、発生時間、メッセージに含まれているキーワード、ユーザー名などの条件で絞り込むことができます。この機能呼び出すと、画面下部に下図のようなメニューが表示されます。



この画面に表示される各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Time (時間)	<p>特定の時間に発生したイベントを検索します。指定できる条件は下記の通りです。</p> <p><b>Today Only(本日のみ)</b>: 現在の日付で発生したイベントのみ表示します。</p> <p><b>Device Time(デバイス時刻)</b>: 製品本体で設定された時刻に基づいてイベントを表示します。</p> <p><b>Start Date/Time(開始日付/時刻)</b>: 特定の日時から現在の間で発生したイベントを検索します。アプリケーション GUI の場合、チェックボックスにチェックを入れると、カレンダーコントロールが表示されますので、開始日時を設定してください。ここで指定された日時から現在までの間に発生した全イベントが表示されます。</p> <p>Web ブラウザインターフェースの場合、チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスをクリックすると、カレンダーコントロールが表示されます。日時を選択したら、カレンダーパネルの右下にある「A」アイコンをクリックしてください。</p> <p><b>End Date/Time(終了日付/時刻)</b>: 特定の期間に発生したイベントを検索します。最初に、「Start Date/Time」(開始日付/時刻、上記参照)を選択したら、「End Date/Time」(終了日付/時刻)の隣にあるチェックボックスにチェックを入れて、終了日時を設定してください。</p> <p>Web ブラウザインターフェースの場合、チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスをクリックすると、カレンダーコントロールが表示されます。日時を選択したら、カレンダーパネルの右下にある「A」アイコンをクリックしてください。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Information (通知)	<p>特定のキーワードを含むイベントを検索します。キーワードはテキストボックスに入力してください。その文字列を含むイベントだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。</p> <p>例 1:「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。</p> <p>例 2:「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。</p> <p>例 3:「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。</p>
User (ユーザー)	<p>特定のユーザーに関連するイベントを検索します。この条件で検索する場合は、「User」(ユーザー)チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスに対象ユーザーのユーザーネームを入力して「Apply」(適用)ボタンをクリックしてください。この文字列を含むユーザーネームに関連したイベントのみが表示されます。</p> <p><b>注意:</b>このチェックボックスにチェックが入っていない状態で検索すると、検索結果の一覧に「User」(ユーザー)列が表示されなくなります。</p>
Severity (重要度)	<p>イベントの重要度に基づいてイベントを検索します。イベントの重要度が「Least」(少ない)の場合は青色で、「Most」(最大)の場合は赤色でそれぞれ表示されます。</p> <p>この条件で検索する場合は、「Severity」(重要度)のチェックボックスにチェックを入れてから、指定したい条件のチェックボックスにチェックを入れてください(複数指定可能)。指定した重要度に一致したイベントのみが表示されます。</p> <p><b>注意:</b>このチェックボックスにチェックが入っていない状態で検索すると、検索結果の一覧に「Severity」(重要度)列が表示されなくなります。</p>
Apply (適用)	<p>指定された条件で検索を行います。</p>

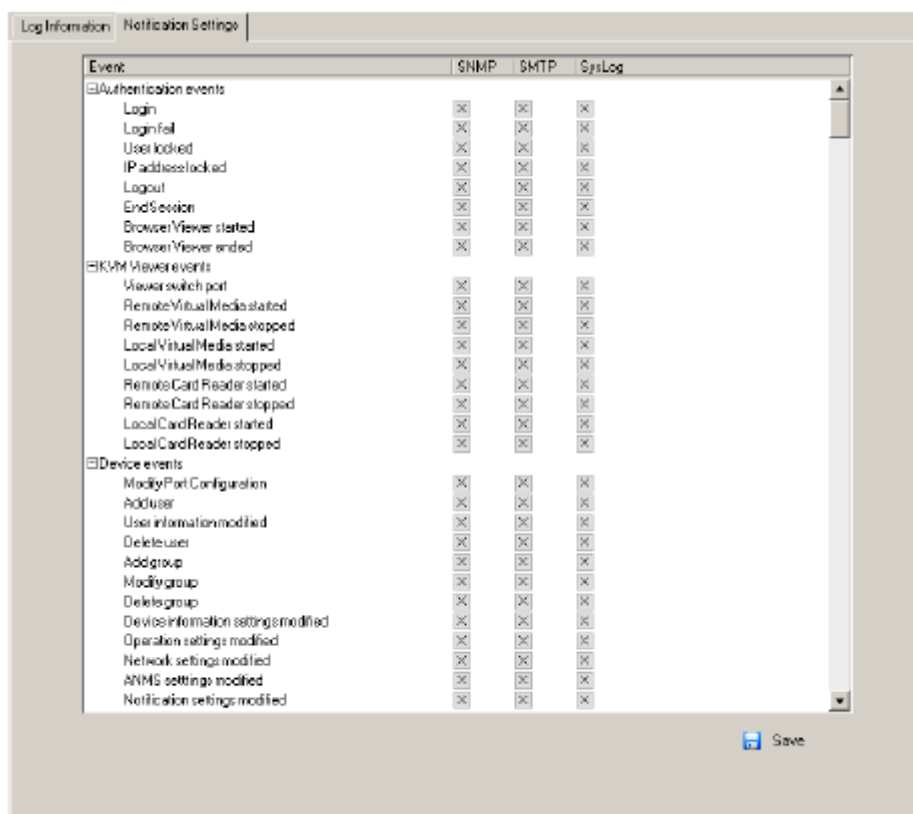
(表は次のページに続きます)



項目	説明
Reset (リセット)	検索条件をデフォルトの状態に戻します。
Exit (終了)	ログフィルター機能を終了します。

## 通知設定

このメニューでは、通知のトリガーとなるイベントを選択したり、イベントの通知方法について設定したりすることができます。



イベント通知は、SNMPトラップ、SMTPメール、Syslogファイル、また、これらの方法を組み合わせて行うことができます。チェックマーク(✓)がついている場合、イベントの通知がその列に記載されている方法で行われることを表します。また、×印が付いている場合、その通知機能が無効になっていることを表します。

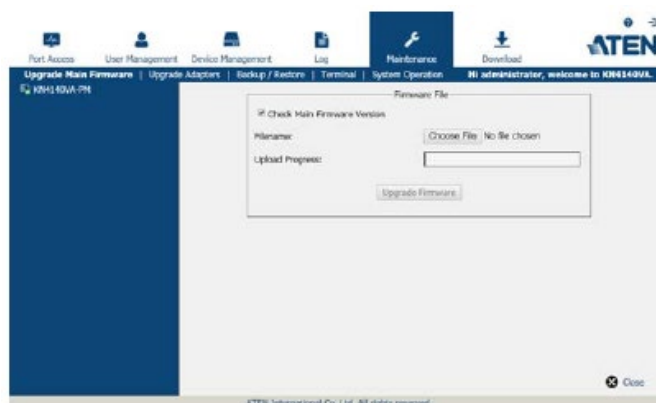
**注意:** [Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のイベント通知の設定を同時に定義することができます。各列の印をクリックすると、その列の設定内容を同時に有効または無効に切り替えます。

# 第 10 章 メンテナンス

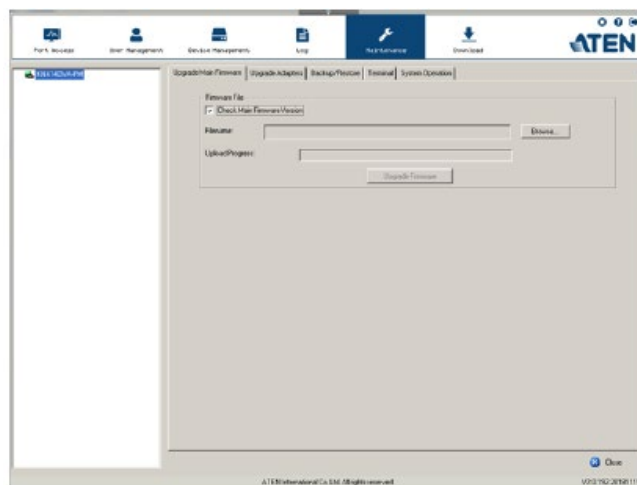
## 概要

「Maintenance」(ファームウェア)タブでは、ファームウェアのアップグレード、設定内容およびアカウント情報のバックアップ/リストア、ターミナルコマンドの送信、ping ネットワーク診断やデフォルト値への復元を行います。

## ブラウザ GUI



## アプリケーション GUI



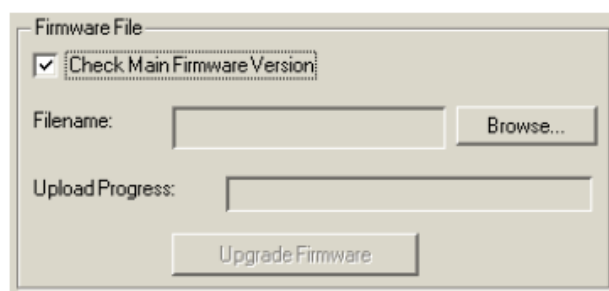
## メインファームウェアのアップグレード

この機能を使うと、製品本体のメインファームウェアのアップグレードだけでなく、製品に接続されているブレードサーバーのアップグレードも実行することができます。新しいバージョンのファームウェアがリリースされると、Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。このサイトを定期的にご確認いただき、最新のファームウェアにアップグレードしてください。

<https://www.aten.com/jp/ja/>

ファームウェアをアップグレードするには、下記の作業を行ってください。

1. 弊社 Web サイトから本製品の新しいファームウェアファイル(KVM スイッチ、PON、またはブレードサーバーモジュール)をダウンロードし、お使いのコンピューターのハードディスクの適当な場所に保存してください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
2. 製品にログインし、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。「Upgrade Main Firmware」(メインファームウェアのアップグレード)メニューが選択された状態で表示されます。



3. 「参照…」ボタンをクリックし、手順 1 で保存したファイルをダイアログから選択してください。
4. 「Upgrade Firmware」(ファームウェアアップグレード)ボタンをクリックし、アップグレードを実行してください。
  - ◆ 「Check Main Firmware Version」(本体のファームウェアバージョンを確認する)の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、メッセージが表示

され、アップグレードを続行するか中止するかを選択を促されます。

- ◆ 「Check Main Firmware Version」(本体のファームウェアバージョンを確認する)の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
- ◆ アップグレードの進行状況は、「アップロード中」で確認することができます。
- ◆ アップグレードに成功すると、製品がリセットされます。

5. 製品に再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されていることを確認してください。

---

**注意:** ファームウェアのアップグレードに失敗した場合は、下記の「ファームウェアアップグレードのリカバリー」をご参照の上、リカバリーを行ってください。

---

## ファームウェアアップグレードのリカバリー

---

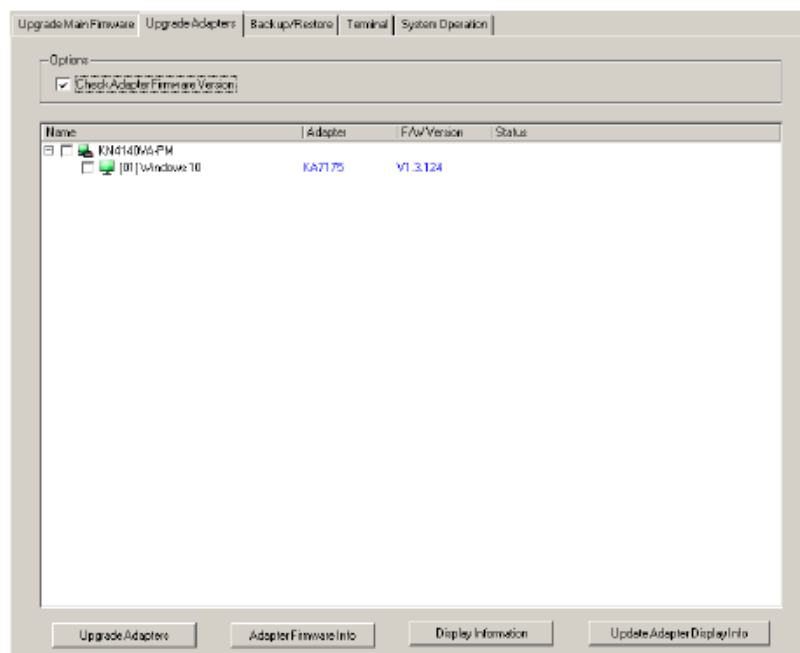
製品のメインのファームウェアのアップグレードに失敗し、製品が使用できなくなってしまった場合は、以下のリカバリー方法で問題が解決する場合があります。

1. 製品の電源を切ってください。
2. リセットスイッチ (p.36 参照)を長押ししてください。
3. リセットスイッチを押したまま、製品に電源を入れてください。

上記の操作によって、製品のメインファームウェアは工場出荷時のバージョンに戻ります。製品が操作可能な状態になったら、Web ブラウザから製品にログインし、再度ファームウェアのアップグレードを実行してください (p.246 参照)。

## コンピューターモジュールのファームウェアアップグレード

「Upgrade Adapters」(アダプターのアップグレード)メニューでは、コンピューターモジュールのファームウェアやディスプレイ情報の参照や更新を行うことができます。本セクションでは、接続サーバーに EDID ディスプレイ情報を提供するコンピューターモジュールについて説明します。この EDID 情報があることによって、ローカルコンソールモニターへのビデオ出力が可能になります。



### コンピューターモジュールのアップグレード

「Upgrade Adapters」(アダプターをアップグレードする)ボタンは、コンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードする際に使用します。

アップグレードを実行する場合は、以下の手順に従って操作してください。

1. 製品にログインしたら、「Maintenance」(ファームウェア)タブをクリックし、「Upgrade Adapters」(アダプターをアップグレードする)メニューを選択してください。
2. 「Adapter Firmware Info」(アダプターファームウェア情報)ボタンをクリックし、メインファームウェアによって保存されているコンピューターモジュールのファームウェアバージョンを確認してください。メインファームウェアを更新している場合は、現在コンピューターモジュールにインス

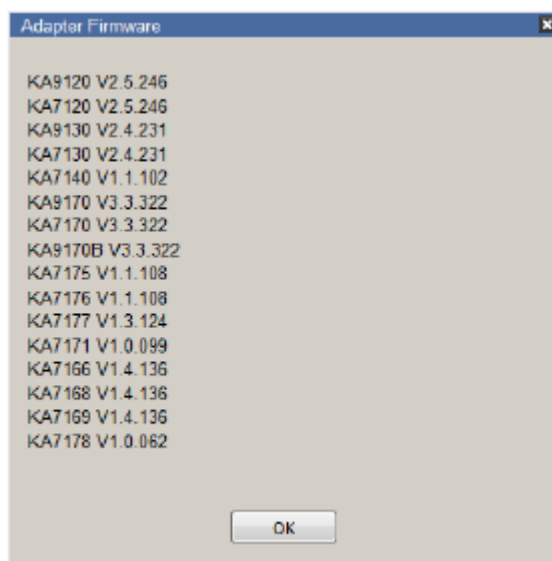
トールされているバージョンよりも新しいバージョンのファームウェアが含まれていることがあります。

3. コンピューターモジュールのファームウェア情報と、メインパネルの「F/W Version」(ファームウェアバージョン)列に表示されているバージョンを比較して、メインファームウェアに保存されているバージョンがコンピューターモジュールのバージョンよりも新しいことを確認してください。メインファームウェアに保存されているバージョンの方が新しい場合は、アップグレードを実行することができます。
4. メインパネルの「Name」(名前)列で、コンピューターモジュールのアップグレードを行うポートにチェックを入れてください。
5. 「**Upgrade Adapters**」(アダプターをアップグレードする)ボタンをクリックして、アップグレードを開始してください。
  - ◆ 「Check Adapter Firmware Version」(モジュールのファームウェアバージョン確認)の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、コンピューターモジュールの「Progress」(状況)列にメッセージが表示され、ファームウェアの更新不要のためアップグレードを中断するという内容のメッセージが表示されます。
  - ◆ 「Check Adapter Firmware Version」(モジュールのファームウェアバージョン確認)の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
  - ◆ アップグレードに成功すると、新しく適用されたファームウェアのバージョンが表示されます。

- 
- 注意:**
1. コンピューターモジュールのファームウェアバージョンが最新でない場合でも、製品に接続してお使いいただくことは可能ですが、最適な互換性を確保するために、お使いのコンピューターモジュールのファームウェアを製品にインストールされたバージョンに合わせてアップグレードされることを推奨します。
  2. コンピューターモジュールを追加した際にアップグレードを実行し、最新バージョンのファームウェアで動作していることを確認することができます。
  3. ファームウェアのアップグレードに失敗した際のリカバリーの方法については p.251「コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードリカバリー」をご参照ください。
-

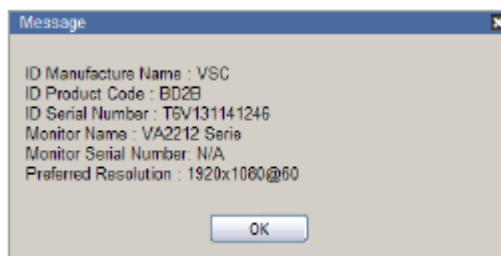
## モジュールファームウェア情報

「Adapter Firmware Info」(モジュールファームウェア情報)ボタンを押すと、製品のメインファームウェアに保存されたコンピューターモジュールのファームウェアが一覧で表示されます。この情報を使うと、接続されたコンピューターモジュールに一覧表示されたファームウェアバージョンとの比較を行うことができます。最適な互換性を確保するために、お使いのモジュールのファームウェアを、製品本体に保存されたメインファームウェアに合うようにアップグレードすることを推奨します。



## ディスプレイ情報

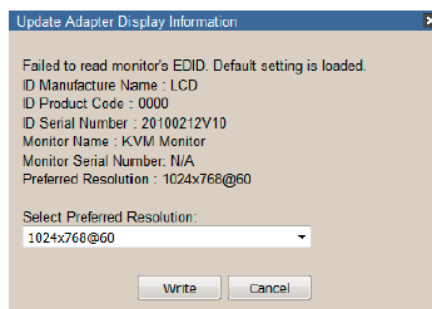
「Display Information」(ディスプレイ情報)ボタンをクリックすると、ローカルに接続されたモニターの EDID 情報を取得して、下図のような画面に表示します。





## モジュールディスプレイ情報の更新

「Update Adapter Display Info」(モジュールディスプレイ情報の更新) ボタンをクリックすると、ローカルモニターの EDID 情報を取得して、コンピューターモジュールでこの情報を更新します。EDID 情報は、サーバーのビデオカードに、接続ディスプレイ(この場合、KVM コンソールに接続されたモニター)のハードウェア情報を伝達します。下図は、モニターが KVM コンソールに接続されている場合の例です。



「Display Information」(ディスプレイ情報) ボタンをクリックして、ローカルモニターの優先解像度(オプション)を取得し、これを「Select Preferred Resolution」(優先解像度を選択する)ドロップダウンメニューで適用してから、「Write」(書き込む)をクリックしてください。ローカルコンソールにモニターが接続されていない場合、デフォルト EDID の設定がコンピューターモジュールに読み込まれません。

## コンピューターモジュールのファームウェア

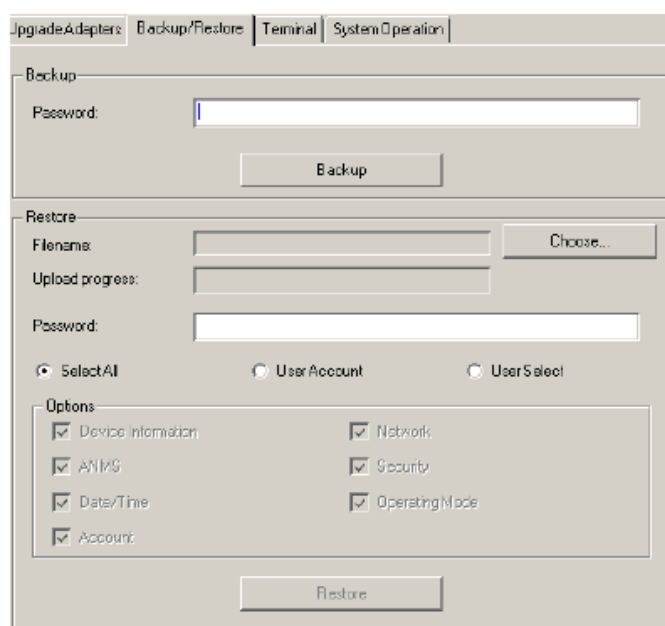
### アップグレードリカバリー

コンピューターモジュールのファームウェアのアップグレードに失敗し、そのモジュールが使用できなくなってしまった場合は、以下のリカバリー方法で問題が解決する場合があります。

1. コンピューターモジュールをコンピューターから取り外してください。
2. RJ-45 ポートの隣にあるファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」の位置にスライドさせてください。
3. コンピューターモジュールをコンピューターに接続し直してください。
4. コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの手順を繰り返してください。
5. コンピューターモジュールのアップグレードに成功したら、コンピューターからコンピューターモジュールを外し、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「NORMAL」の位置に戻してから、コンピューターモジュールを接続し直してください。

## バックアップ/復元

ブラウザのメニューバーから「Backup/Restore」(バックアップ/復元)を選択すると、製品の設定とユーザープロファイルの情報のバックアップを作成することができます。



### バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Password」(パスワード)の項目に、ファイルのリストアに必要なパスワードを入力してください。

---

**注意:**

1. パスワードの設定は任意です。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードなしでリストアされます。
2. パスワードを設定する場合、リストアの際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。

---

2. 「**Backup**」(バックアップ)ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適切な場所に保存してください。

## リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「参照…」ボタンをクリックし、バックアップファイルが保存されているフォルダーを選択してください。

---

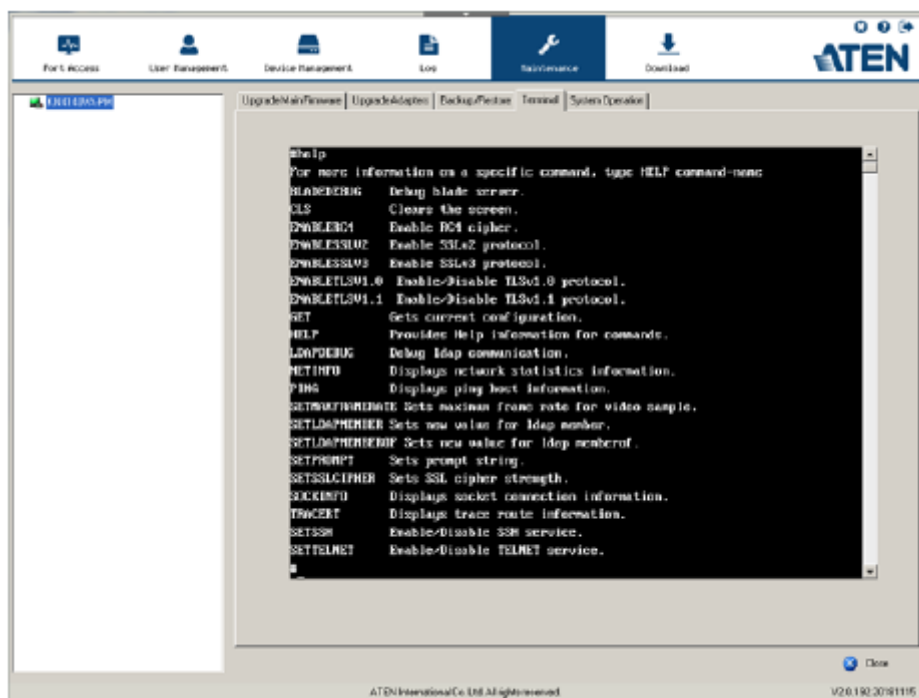
**注意:** デフォルトで設定されたファイル名を変更しても、新しい名前そのままお使いいただけますので、元の名前に変更する必要はありません。

---

2. バックアップファイルの作成時にパスワードを設定している場合は、「Password」(パスワード)欄に、そのパスワードと同じ文字列を入力してください。
3. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください。
4. 「Restore」(復元)ボタンをクリックしてください。  
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

## ターミナル

このメニューで提供されるコマンドラインを使うと、ターミナルのようなインターフェースを介してオプションを実行することができます。コマンドを実行する場合は、ウィンドウでコマンドを入力し、[Enter]キーを押してください。



使用できるコマンドは下記のとおりです。

- ◆ BLADEDEBUG → ブレードサーバーのトラブルシューティングを行います。
- ◆ CLS → 画面をクリアします。
- ◆ ENABLERC4 → RC4による暗号化を有効にします。
- ◆ ENABLESSLV2 → SSLv2 プロトコルを有効にします。
- ◆ ENABLESSLV3 → SSLv3 プロトコルを有効にします。
- ◆ GET → 現在の設定情報を取得します。
- ◆ HELP → コマンドのヘルプ情報を提供します。
- ◆ LDAPDEBUG → LDAP 通信のトラブルシューティングを行います。
- ◆ NETINFO → ネットワーク統計情報を表示します。
- ◆ PING → ping ホスト情報を表示します。
- ◆ SETAMFRAMECOLOR ¥[RGB カラーコード] → パネルレイモードにおけるフレーム色を設定します。色は RGB で指定できるものなら、どんな色でも設定可能です。以下は RGB 色コ

ードの設定例です。

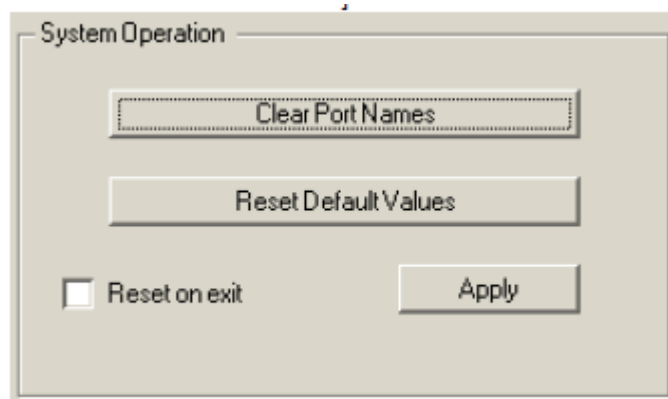
- 値 : ff0000 = レッド
- 値 : 00ff00 = グリーン
- 値 : 0000ff = ブルー

- ◆ SETCABLELEN [チャンネル] [値] → ケーブル長を設定します。
  - チャンネル : ローカルコンソールは 0 を設定、リモートコンソールは 01~08 を設定
  - 値 : 0 = 自動、1 = 無効、2 = ショート、3 = ロング
- ◆ SETFORWARD [IP アドレス] → チャンネル転送機能用に、セカンダリースイッチでプライマリースイッチの IP アドレスを設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBER → LDAP メンバーの新しい値を設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBEROF → LDAP の memberof の新しい値を設定します。
- ◆ SETMAXFRAMERATE [フレームレート] [マウスの動作オプション] → 最大フレームレートとマウスの動作オプションを設定します。
  - フレームレート : 1~30 を設定
  - マウス動作オプション : 0 = マウスが動いた場合にフレームレートの設定を無効化、1 = マウスが動いてもフレームレートの設定を維持
- ◆ SETPROMPT → プロンプト文字列を設定します。
- ◆ SETSSLCIPHER → SSL 暗号化文字列を設定します。
- ◆ SETUSERINFOEXT [値] → 各ポートに対するユーザーログインの詳細情報をイベントログに保存するかどうかを定義します。
  - 値 : 0 = 無効(保存しない)、1 = 有効(保存する)
- ◆ SETVCHANNELMODE [値] → チャンネル転送機能を有効にします。
  - 値 : 0 = 無効、1 = 有効
- ◆ SOCKINFO → ソケット通信の情報を表示します。
- ◆ TRACERT → trace route 情報を表示します。

## システム運用

---

このメニューを使うと、製品上で変更された設定情報を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。



この画面では下記の機能が実行できます。

### ポート名称のクリア

「Clear Port Names」(ポート名称のクリア)ボタンをクリックすると、そのポートに割り当てられたポート名称を削除します。

### デフォルト設定に戻す

「Reset Default Values」(デフォルト設定に戻す)ボタンをクリックすると、「Device Management」(デバイス管理)タブにおける設定項目(ポート名称以外)や、ネットワーク転送速度の変更を取り消し、これらのパラメーターを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

### 終了時にリセット

ログアウトする際に製品本体をリセットし、新しい設定内容を反映させる場合は、「Reset on exit」(終了時にリセット)の項目にチェックを入れて「Apply」(適用)ボタンをクリックしてください。(リセット後は、30～60 秒ほど経ってから再ログインしてください。)

製品の IP アドレスを変更する(p.206 参照)と、チェックボックスには自動的にチェックが入り、ログアウトした際に製品本体のリセットを行います。ログアウトする前にこのチェックを外してしまうと、IP

アドレスの変更が適用されず、変更前の IP アドレスが引き続き有効になります。

---

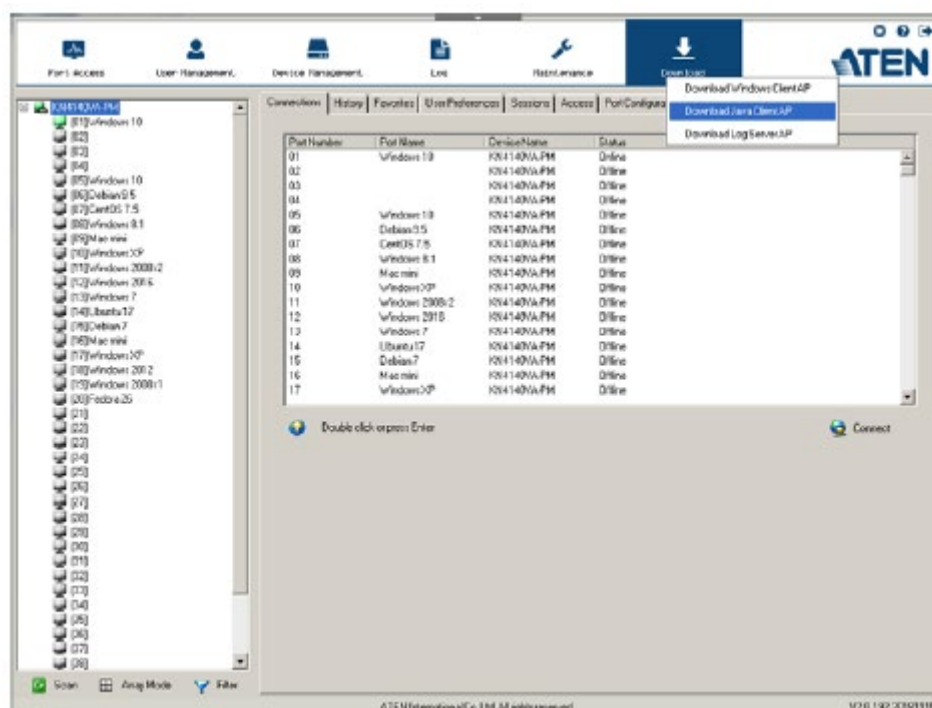
**注意:** 変更された IP アドレスは本体には適用されませんが、画面上の設定欄にはそのまま残っています。これは、次にこの画面を開いた際に、「Reset on exit」(終了時にリセット)のチェックボックスに自動的にチェックが入り、製品本体がリセットした際には、破棄されたと思っていた新しい IP アドレスの設定が製品本体で使われることになります。この問題を避けるためにも、ネットワーク設定画面に戻り、この欄に表示されている IP 設定が使用したいものであるかどうかを確認してください。

---

# 第11章 ダウンロード

## 概要

「Download」(ダウンロード)タブでは、アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーの各ツールをダウンロードすることができます。



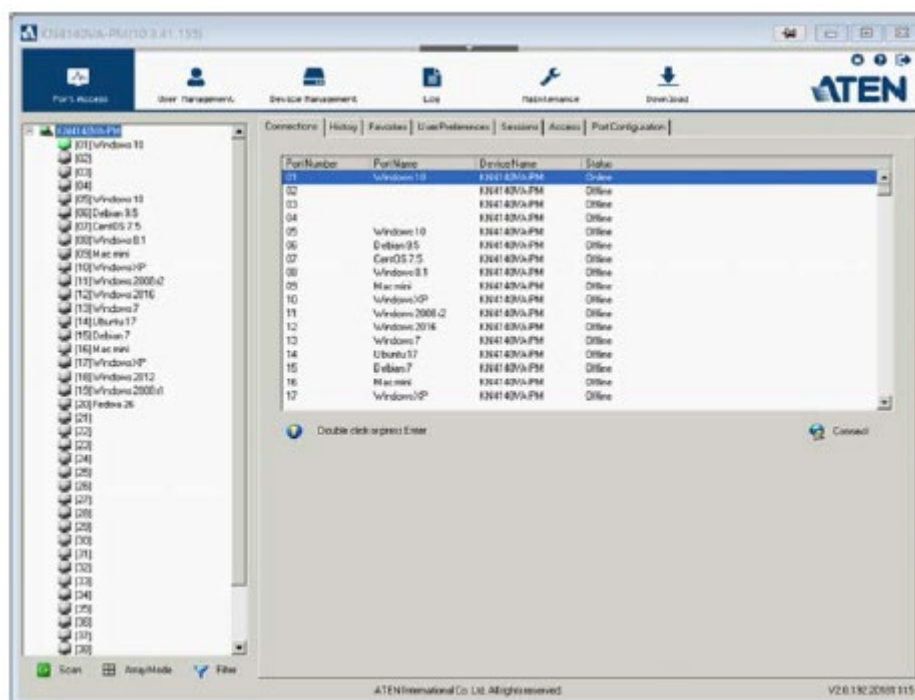
ダウンロードしたいプログラムをクリックし、お使いのハードディスクの適当な場所に保存して、そこからこのプログラムを起動してください。



# 第12章 ポート操作

## 概要

ログイン(p.76 参照)に成功すると、製品のメイン画面は、一番目にある KVM スイッチがサイドバーで選択された状態で「Port Access」(ポートアクセス)タブが表示されます。



- 注意:**
1. アプリケーション版の Windows クライアントと Java クライアントでは、画面の上部中央または下部中央にマウスカーソルを移動すると、コントロールパネルが表示されます。これに対し、Web ブラウザ版では、ポートを切り替えた後にしかコントロールパネルが表示されません。コントロールパネルに関する詳細は p.93 をご参照ください。
  2. 「Port Access」(ポートアクセス)タブに関する詳細は、p.144「KVM デバイスとポート - 接続画面」をご参照ください。

## ポートへの接続

---

ユーザーがアクセスできるポートはすべて、ページの左側にあるサイドバーに一覧表示されます。

- ◆ サイドバーでデバイスが選択されている時にポートに接続する場合は、サイドバーで対象となるポートのアイコンをダブルクリックするか、メインの中央パネルでこの行のアイテムの任意の場所をダブルクリックするか、これを選択してから画面右下にある「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。
- ◆ サイドバーでポートが選択されている時にポートに接続する場合は、ステータスパネル(p.146参照)右側にある「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。

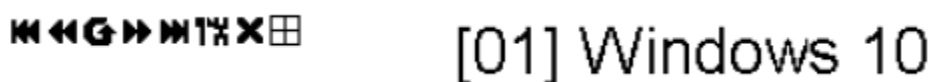
ポートを切り替えると、リモートのデスクトップ画面がモニターに表示され、キーボードやマウスで操作できるようになります。



## ポートツールバー

---

製品は、選択中のポートからポート操作ができるツールバー機能を提供しています。ツールバーを起動する場合は、GUI ホットキー([Scroll Lock]キーまたは[Ctrl]キー)を2回押してください。画面左上に下図のようなツールバーが表示されます。



「ID Display」(ID 表示、p.156 参照)の項目で選択された値に応じて、ポートナンバーやポートネームがツールバーの右に表示されます。ツールバー上の各アイコンの内容については p.262 の表をご参照ください。









ツールバーが表示されると、マウスからの入力はツールバー上でのみ有効となり、キーボードからの入力はポートに接続されたコンピューター上で無効になります。そのコンピューターでの操作を実行する場合は、「X」のアイコンをクリックしてツールバーを閉じてください。

「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューに戻る場合は、このメニューのアイコン(p.262 参照)をクリックするか、もう一度 GUI ホットキーを押してください。

- 
- 注意:**
1. ツールバーの透明度は設定で変更することができます(p.108 参照)。
  2. ツールバーの機能やアイコンもコントロールパネルに組み込まれています。コントロールパネル(p.131 参照)でこれらを有効にする場合は、ツールバー(p.156 参照)を無効にすることができます。ツールバーが表示されていない場合に「Port Access」(ポートアクセス)の「Connections」(接続)メニューを呼び出す場合は、GUI ホットキーを2回押してください。
-

## ツールバーアイコン

ツールバーにおける各アイコンの詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最初にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、一つ前のアクセス可能なポートに移動します。
	オートスキャンモードを開始します。製品は、オートスキャンの対象となるポートをポート選択とフィルター機能 (p.139 参照) の条件に従って自動的に切り替えます。これによって、コンピューターを手動で切り替えることなく継続してポートの状態をモニタリングすることができます。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、次のアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最後にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出します。
	ツールバーを終了します。
	パネルアレイモードを起動します (p.266 参照)。

## ツールバーホットキーによるポート切替

ツールバーが表示されると、ホットキーを使ってキーボードから直接ポートを切り替えることができます。本製品のホットキーには以下の特長があります。

- ◆ ポートナンバーを入力し、[Enter]キーを押して直接切替
- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモードによるポート切替

オートスキャンのホットキーは[A]キーおよび [P]キーを、また、スキップモードのホットキーはカーソルキーをそれぞれ使用します。

- 
- 注意:**
1. ホットキーを実行するには、ツールバーを表示しておく必要があります(p.261 参照)。
  2. ホットキーとして割り当てられているキー(例:[A]キー、[P]キー等)をホットキー以外の目的で使用する場合は、ツールバーを閉じてください。
  3. オートスキャンモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.268 をご参照ください。
- 

## オートスキャン

スキャン機能によって、現在ログインしているユーザーがアクセスできる全ポートを、一定の時間間隔で自動的に切り替えて表示することができるので、ユーザーはポートの状況を自動的にモニタリングすることができます。また、ユーザーはサイドバーのツリーでフィルター機能を利用することでスキャン対象となるポートの数を制限することもできます。詳細は、p.144 「KVM デバイス・ポート接続画面」および p.139 「フィルター」を参照してください。

- ◆ スキャンインターバルの設定  
オートスキャンで各ポートを表示する時間は「Scan Duration」(スキャンインターバル)の項目で設定することができます(p.157 参照)。
- ◆ オートスキャンの起動  
オートスキャンを起動する場合は、ツールバーを表示した状態で、[A]キーを押してください。オートスキャン機能は、現在の機器構成における最初のポートから順にポート切替を行います。ポート ID の前に表示された **S** は、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを表しています。

◆ オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードの実行中に[P]キーを押すと、特定のコンピューターを表示するためにスキャンを一時停止することができます。オートスキャンモードが一時停止されている間は、ポートIDの前に表示されている[S]マークが点滅します。

スキャンを停止して特定のコンピューターの画面を一旦表示させたい場合、オートスキャンモードを終了してしまうと次回のスキャンの際には最初のポートからスキャンし直すのに対し、一時停止機能を利用した場合は次回のスキャンの際にはそのポートからスキャンを再開しますので、後者の方法の方が便利です。

オートスキャンの一時停止後、スキャンを再開したい場合は、[Esc]キーとスペースキー以外の任意のキーを押してください。スキャンを中断したポートからスキャンを再開します。

◆ オートスキャンの終了

オートスキャンモードの実行中は、通常のキーボードの機能はサスペンド状態になります。キーボードを通常の方法で使用したい場合は、オートスキャンモードを終了する必要があります。オートスキャンモードを終了する場合は[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは停止します。

### スキップモード

スキップモードでは、コンピューターを手動で切り替えて表示することができます。オートスキャンモードでは一定のインターバルで自動的にポートを切り替えるのに対し、スキップモードでは時間の制限を受けることなく、特定のポートを表示させておくことができます。スキップモードで使用できるホットキーは上下左右の4種類のカーソルキーです。各キーの機能については下表のとおりです。

カーソルキー	動作
←	現在のポートから、一つ前のアクセス可能ポートに移動します。
→	現在のポートから、次のアクセス可能ポートに移動します。
↑	現在のポートから、現在の機器構成で最初にアクセス可能なポートに移動します。
↓	現在のポートから、現在の機器構成で最後にアクセス可能なポートに移動します。

## ポートアクセスタブの再呼び出し

ツールバーを終了し、「Port Access」(ポートアクセス)タブに再度アクセスする場合は、以下のいずれかの方法で操作してください。

- ◆ GUIホットキーを1回押す。
- ◆ ツールバーから「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すアイコン(p.262 参照)をクリックする。

ツールバーが終了すると、「Port Access」(ポートアクセス)タブが表示されます。

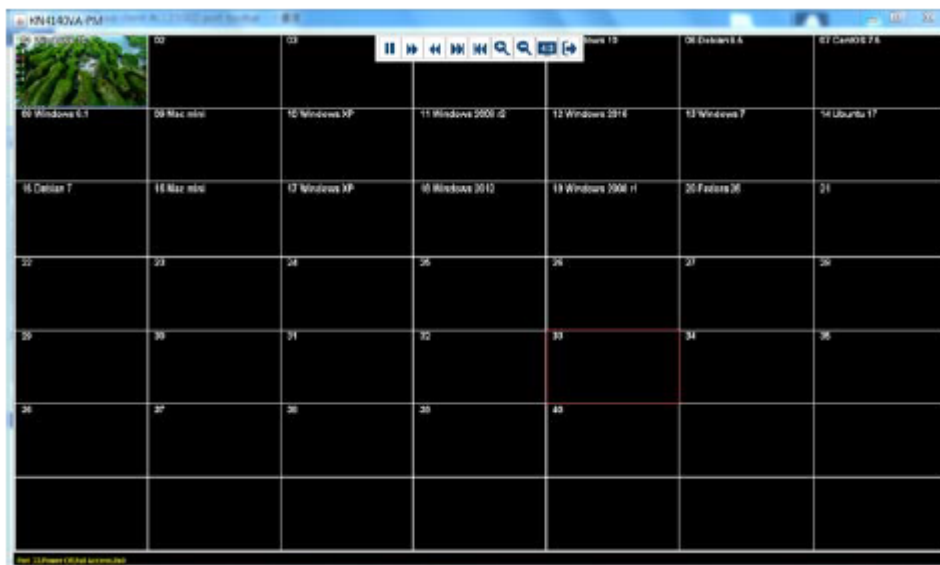
## GUIホットキー一覧表

下表は、ポートアクセス後のGUIホットキーの動作についてまとめたものです。GUIホットキーの設定方法については p.156「GUIホットキー」をご参照ください。

目的		操作
ツールバーを開く		GUIホットキーを2回押す。
「Port Access」(ポートアクセス)タブを開く	ツールバーが表示されている場合	GUIホットキーを1回押す。
	ツールバーが表示されていない場合	GUIホットキーを3回押す。

## パネルアレイモード

ツールバーのパネルアイコンをクリックすると、パネルアレイモードを起動します。このモードでは、画面が最大 64 分割され、製品に接続された各コンピューターの画面が一度に表示されます。



- ◆ 各パネルは、製品の各ポートに接続されているコンピューターの画面を表示します。左上から右に向かって、ポート 1、ポート 2…という順序で表示されます。
- ◆ 画面に表示されるパネルの数は、パネルアレイツールバーの「**Show More Ports**」(表示ポートを増やす)をクリックして増やしたり、「**Show Fewer Ports**」(表示ポートを減らす)をクリックして減らしたりすることができます(p.267 参照)。
- ◆ パネルアレイモードが起動すると、ポート選択とフィルター機能(p.139 参照)でオートスキャンの対象にされたポートをスキャンします。現在スキャン中のポートを表示しているパネルの枠は色が強調表示されます。
- ◆ 画面に表示されるのは、ユーザーがアクセスできるポートのみです。アクセスできないポートのパネルはブランクで表示されます。
- ◆ ポートに接続されているサーバーがオンライン状態の場合、パネルにはそのサーバーのコンソール画面が表示されます。オフラインの場合は、パネルがブランクで表示されます。
- ◆ パネルにマウスカーソルを移動させると、そのポートに関する情報(ポートネーム、オンライン状況、ポートアクセスの状況、解像度)が表示されます。
- ◆ パネルをマウスでクリックすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブを使ってポート切替を行ったときと同様、そのポートに接続されているコンピューターにアクセスすることができます。



## パネルレイツールバー

パネルレイツールバーを使うことによって、パネルレイモードの機能を簡単に実行することができます。このツールバーは通常画面上部中央に表示されますが、ドラッグして画面の好きな場所に移動させることもできます。また、アイコンの上にマウスを移動させると、そのアイコンの機能の概要がツールチップで表示されます。各アイコンの機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	ツールバーを移動させる場合は、このアイコンをクリックしてドラッグしてください。 <b>注意:</b> このアイコンは Windows クライアントでのみ使用できます。Java クライアントのツールバーを移動させたい場合は、ツールバーのアイコンのない部分をクリックしてドラッグしてください。
	現在表示中のパネルでスキャンを一時停止します。
	次のパネルに移動します。
	前のパネルに移動します。
	4 つ先のパネルに移動します。
	4 つ前のパネルに移動します。
	Show More Ports : 画面に表示するパネルの数を増やします。
	Show Fewer Ports : 画面に表示するパネルの数を減らします。
	アスペクト比 4:3 に切り替えます。
	パネルレイモードを終了します。

**注意:** パネルレイモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.268 をご参照ください。

## マルチユーザーによる操作

本製品はマルチユーザーによる操作に対応しています。複数のユーザーがクライアントコンピューターから同時にアクセスした場合における優先順位に関するルールは下表のとおりです。

操作	ルール
通常操作時	各バスは独立しています。ユーザーをバスに割り当てる方法については次のセクション「ユーザーとバス」をご参照ください。各ユーザーは、別々の GUI メイン画面を開くことができます。
オートスキャンモード実行中	<p>あるユーザーがオートスキャンモード (p.263 参照) を起動し、別のユーザーがログオンして同じバスに割り当てられると、そのバスに割り当てられたユーザーは、最初は GUI のメイン画面が表示されますが、ポートにアクセスすると同時に自動的にオートスキャンモードに切り替わります。これは、最初にオートスキャンモードを起動したユーザーと同じバスを使用していることに起因します。</p> <p>同じバスを使用しているユーザーであれば、GUI メイン画面を呼び出すことでオートスキャンモードを終了することができます。このとき、オートスキャンモードは停止し、同一バスにいる他のユーザーはオートスキャンモードが停止した際にアクセスしていたポートに切り替わります。</p>
パネルレイモード実行中	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ あるユーザーがパネルレイモード (p.266 参照) を起動し、別のユーザーがログオンして同じバスに割り当てられると、そのバスに割り当てられたユーザーは、最初は GUI のメイン画面が表示されますが、ポートにアクセスすると同時に自動的にパネルレイモードに切り替わります。これは、最初にパネルレイモードを起動したユーザーと同じバスを使用していることに起因します。</li> <li>◆ パネルレイモードは、そのモードを最初に起動したユーザーが停止するまで継続しますが、アドミニストレーターはパネルレイモードの操作を優先的に行うことができます。</li> <li>◆ パネルレイモードを実行したユーザーだけがスキップモード (p.264 参照) を実行することができます。</li> </ul>

(表は次のページに続きます)

操作	ルール
パネルレイモード実行中 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ パネルレイモードを実行したユーザーのみポートを切り替えることができます。その他のユーザーは、パネルレイモードの実行ユーザーが選択したポートに自動的に切り替わりますが、そのポートへのアクセス権限のないユーザーはポートを参照することができません。</li> <li>◆ 各ユーザーはパネルレイモードで参照するパネルの数を増減させることができますが、パネルの数を減らすと画質が劣る場合があります。</li> </ul>

## ユーザーとバス

- ◆ KN8164V/KN8132V でサポートされるリモートバスの数は 8 です。1・9・17…番目にログインしたユーザーはバス 1 に、2・10・18…番目にログインしたユーザーはバス 2 に、3・11・19…番目にログインしたユーザーはバス 3 に、4・12・20…番目にログインしたユーザーはバス 4 に、5・13・21…番目にログインしたユーザーはバス 5 に、6・14・22…番目にログインしたユーザーはバス 6 に、7・15・23…番目にログインしたユーザーはバス 7 に、そして、8・16・24…番目にログインしたユーザーはバス 8 にそれぞれ割り当てられます。
- ◆ KN4116VA/KN4124VA/KN4132VA/KN4140VA/KN4164V でサポートされるリモートバスの数は 4 です。1・5・9…番目にログインしたユーザーはバス 1 に、2・6・10…番目にログインしたユーザーはバス 2 に、3・7・11…番目にログインしたユーザーはバス 3 に、4・8・12…番目にログインしたユーザーはバス 4 にそれぞれ割り当てられます。
- ◆ KN2116VA/KN2124VA/KN2132VA/KN2140VA でサポートされるリモートバスの数は 2 です。奇数番目にログインしたユーザーはバス 1 に、偶数番目にログインしたユーザーはバス 2 にそれぞれ割り当てられます。
- ◆ 本製品は個別バス切替に対応しています。個別バス切替機能を使うと、あるユーザーが別のバスのユーザーが使用しているポートに切り替えた場合、ポートの切替を行ったユーザーだけが新しいポートに移動し、新しいバスに移動します。他のユーザーはポート切替の影響を受けることなく、そのままのバスでポートを操作することができます。

---

### 注意:

1. 同じバスのユーザーがオートスキャンモードまたはパネルアレイモードを実行している場合は、個別バス切替機能はご利用いただけません。
  2. 「Enable First Logon Transfer」を有効にしている場合 (p.205 参照)、バスを最初に使用したユーザーだけがアクセスしていないポートに切り替えることができます。同一バスを使用している他のユーザーは、アクセスしたいポートに接続されたバスがないか、利用できるバスがない限り、ポートを切り替えることができません。
- 

- ◆ パネルアレイモードを実行するユーザーは、画面の分割数を 4 以上に設定することを推奨します。これより小さい値に設定すると、他のユーザーの画面では正しく表示されないおそれがあります。

# 第13章

## ログサーバー

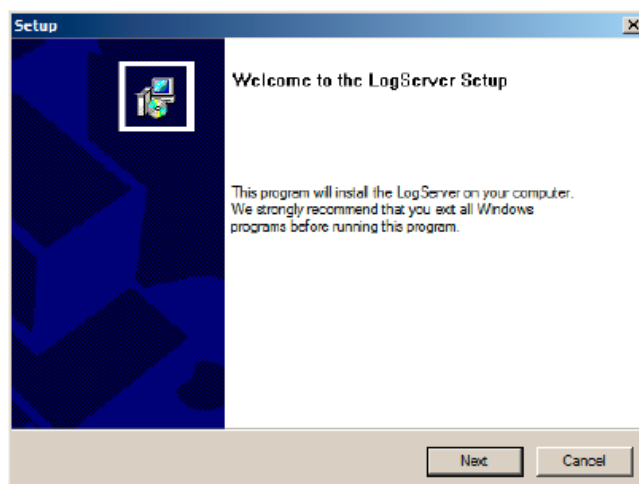
Windows ベースのログサーバーは、製品内部で発生したイベントを記録し、検索可能なデータベースにデータを書き込む管理者向けのツールです。本章ではログサーバーのインストール方法および設定方法について説明します。

### インストール

1. ログサーバーとして使用するコンピューターで、Web ブラウザを使って製品にログインしてください(p.77 参照)。
2. 画面上部の「Download」(ダウンロード)タブをクリックし、ログサーバープログラムをダウンロードしてください。
3. ログサーバーをダウンロードしたフォルダーに移動し、「LogSetup.exe」のアイコンをダブルクリックしてください。この操作によって**セットアップ**画面が立ち上がります。

**注意:** ブラウザからファイルを実行できない場合、ファイルをディスクに保存し、ディスクからファイルを実行するようにしてください。

以下のようなログサーバーのインストーラーの画面が表示されます。

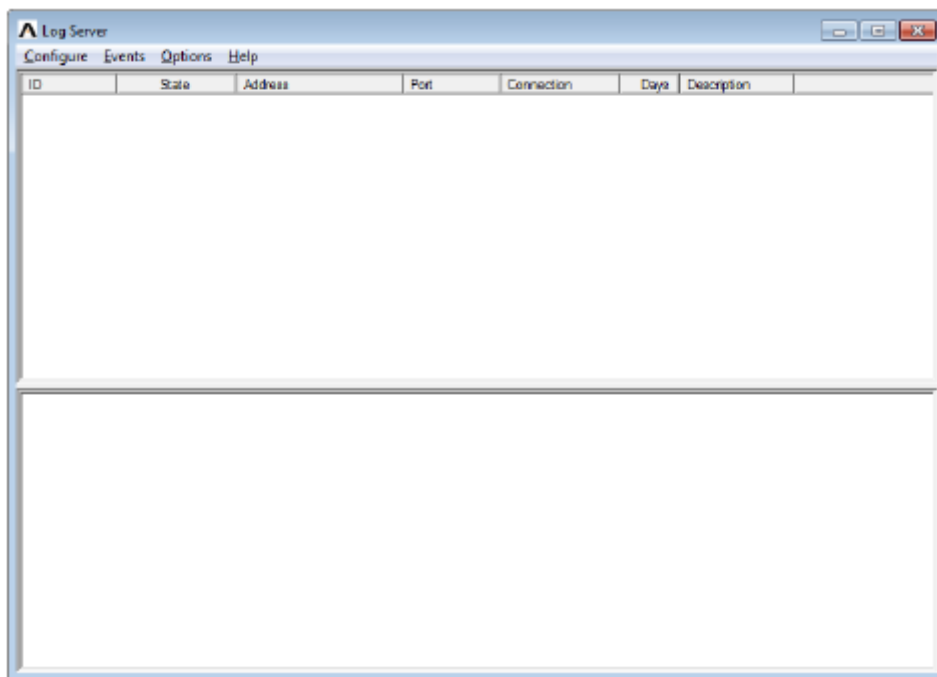


4. 「Next」(次へ) ボタンをクリックし、インストーラーの画面の指示に従ってインストールしてください。インストールが完了すると、ログサーバーのアイコンがお使いのコンピューターのデスクトップ上に作成されます。

## ログサーバーの起動

---

ログサーバーを起動する場合は、ログサーバーのアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからログサーバーのフルパスを入力して実行してください。ログサーバーを起動すると以下のような画面が表示されます。



- 
- 注意:**
1. ログサーバーとして使用するコンピューターの MAC アドレスは、あらかじめ製品の「Device Management」(デバイス管理)タブの「ANMS」メニューで設定しておく必要があります(p.212 参照)。
  2. ログサーバーを使用する場合、Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーがインストールされていないとなりません。プログラムが起動できない場合は、p.328 「ログサーバープログラムが起動しない」を参照してください。
- 

この画面は以下の 3 つの部分から構成されています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央の製品一覧表示パネル(p.278 参照)
- ◆ 下部のイベントリストパネル

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

## メニューバー

メニューバーは以下の4項目から構成されています。

- ◆ Configure (設定)
- ◆ Events (イベント)
- ◆ Options (オプション)
- ◆ Help (ヘルプ)

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

---

**注意:** メニューバーが無効になっているように見える場合は、一覧のウィンドウをクリックして手前に表示することで有効にしてください。

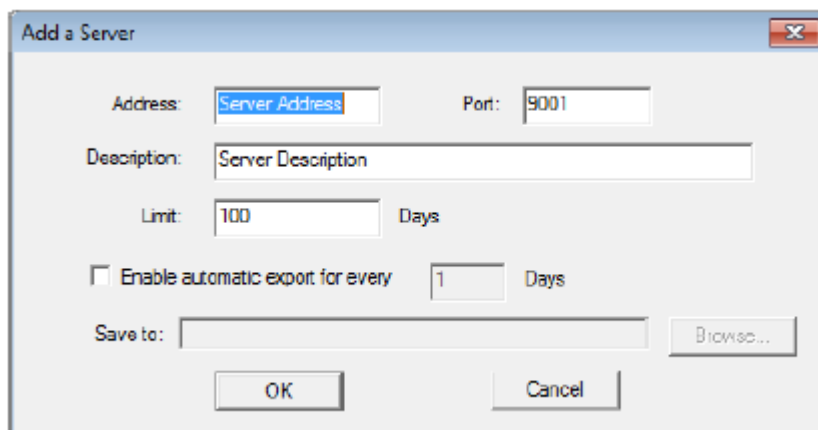
---

## 設定

「Configure」(設定)メニューは、「Add」(追加)、「Edit」(変更)、「Delete」(削除)の各サブメニューから構成されています。これらのサブメニューによって、リストへの新規ユニットの追加、既に一覧に追加されているユニット情報の編集、リストからのユニットの削除を行うことができます。

- ◆ 一覧にユニットを追加する場合は「Add」(追加)をクリックしてください。
- ◆ 一覧表示されたユニットを編集する場合は「Edit」(変更)を、また、削除する場合は「Delete」(削除)をそれぞれクリックしてください。

「Add」(追加)または「Edit」(変更)を選択すると、以下のようなダイアログが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Add a Server". It contains the following fields and controls:

- Address:** A text box containing "Server Address".
- Port:** A text box containing "9001".
- Description:** A text box containing "Server Description".
- Limit:** A text box containing "100" followed by the label "Days".
- Enable automatic export for every:** A checkbox that is currently unchecked, followed by a text box containing "1" and the label "Days".
- Save to:** A text box with a "Browse..." button to its right.
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

ダイアログ内における各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Address (アドレス)	ログサーバーが稼働しているコンピューターの IP アドレスまたは DNS 名(ネットワーク管理者によって DNS 名が設定されている場合)を入力します。
Port (ポート)	「Device Management」(デバイス管理)でログサーバーに割り当てられたポート番号を入力します(p.212 参照)。
Description (説明)	ユニットに補足説明を設定したい場合は、ここに入力します。
Limit (期限)	ログサーバー内にイベントを保管する日数を設定します。ここで設定された日数が経過すると、メンテナンス機能で削除することができます(p.276 参照)。
Enable Automatic Export for every <i>n</i> Days/ Save to ( <i>n</i> 日おきの自動エクスポート実行を有効にする/～に保存する)	システムに自動でログファイルをエクスポートさせる場合は、「Enable Automatic Export for every <i>n</i> Days」( <i>n</i> 日おきの自動エクスポート実行を有効にする)の項目にチェックを入れて、実行間隔となる日数を入力してください。また、「参照」ボタンをクリックして、ログファイルのエクスポート先となるディレクトリを選択してください。

項目の入力または編集が終わった場合は、「OK」ボタンをクリックして操作を終了してください。

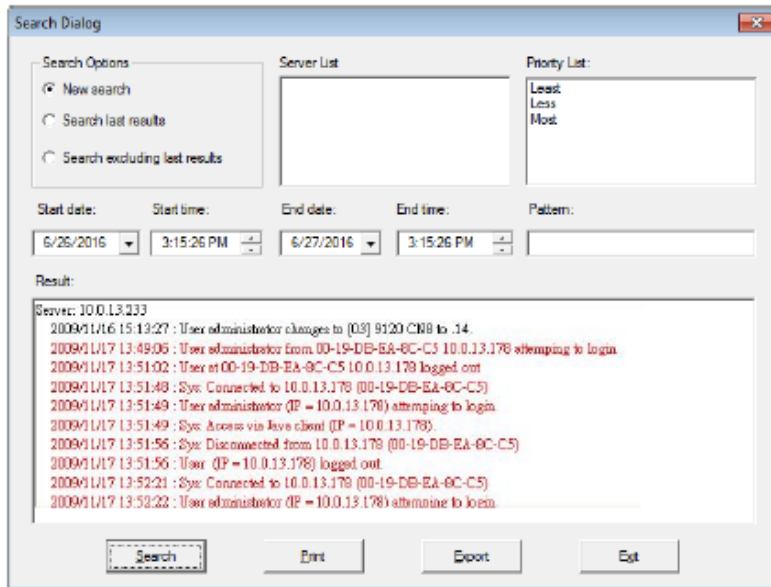
## イベント

「Events」(イベント)メニューは、「Search」(検索)、「Maintenance」(メンテナンス)の各メニューから構成されています。

### 検索

「Search」(検索)メニューでは、特定の文字列を含むイベントを検索することができます。このメニューを開くと、以下のような画面が表示されます。





画面の各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Search Options (検索オプション)	検索範囲のオプションを選択するラジオボタンを提供します。
New Search (新しい検索)	この項目が選択されると、選択されたユニットに対して、データベース内の全イベントを対象に検索します。
Search last results (前回の結果から検索)	前回の検索結果を対象に二次検索を行います。
Search excluding last results (前回の結果以外から検索)	前回の検索結果以外を対象に二次検索を行います。
Server List (サーバーリスト)	製品は IP アドレスに従って一覧表示されます。検索の対象となるユニットをこの一覧から選択してください。ここでは複数のユニットを選択することも可能です。ユニットが選択されていない場合は、全ユニットを対象に検索を行います。
Priority (優先度)	表示する検索結果の詳細の度合いを設定します。「Least」を選択すると概要を、「Most」を選択すると詳細をそれぞれ表示します。結果表示の色分けはそれぞれ、「Least」は黒、「Less」は青、「Most」は赤となっております。

(表は次のページに続きます)

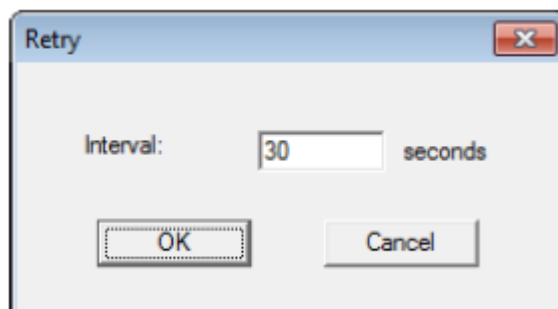
項目	説明
Start Date (開始日)	検索の対象となる期間の開始日(日付)を設定します。 YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。例: 2009/11/04
Start Time (開始時刻)	検索の対象となる期間の開始日(時刻)を設定します。 HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
End Date (終了日)	検索の対象となる期間の終了日(日付)を設定します。 YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。
End Time (終了時刻)	検索の対象となる期間の終了日(時刻)を設定します。 HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
Pattern (パターン)	検索したい文字列を指定します。ワイルドカード(%)を使った検索にも対応しています。例えば、「h%ds」という文字列を検索すると、「hands」と「hoods」の 2 件がヒットします。
Results (結果)	条件に合致するイベントが一覧表示されます。
Search (検索)	検索を開始します。
Print (印刷)	検索結果を印刷します。
Export (エクスポート)	検索結果をファイルに保存します。
Exit (終了)	ログサーバーを終了します。

## メンテナンス

このメニューから、管理者は期限が切れていないレコードを削除するなど、データベースのメンテナンスを手動で行うことができます。

## オプション

「Network Retry」(ネットワーク再試行)の項目では、接続に失敗した場合にログサーバーが再接続を待機しなければならない時間(秒)を設定することができます。この項目をクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



秒数を入力したら、「OK」ボタンをクリックしてダイアログを終了してください。

## ヘルプ

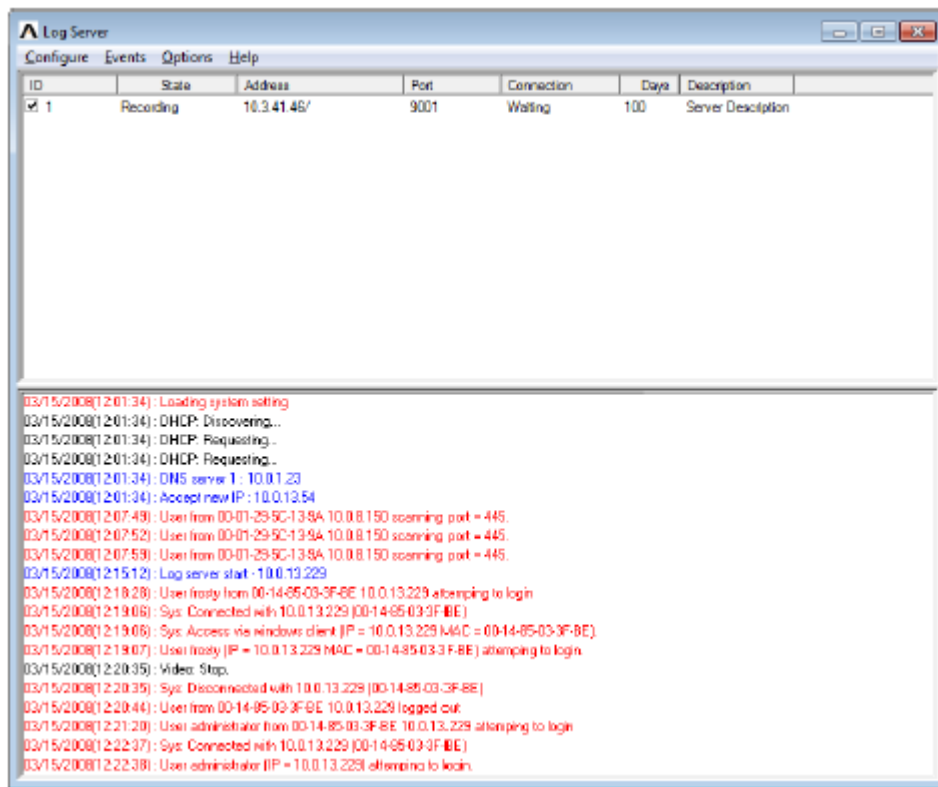
Windows のオンラインヘルプファイルを呼び出す場合は、「Help」(ヘルプ)メニューの「Contents」(コンテンツ)サブメニューをクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、トラブルシューティングの各方法について記載されています。

## ログサーバーのメイン画面

### 概要

ログサーバーのメイン画面は2つのメインパネルに分かれています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、ログサーバーがログの記録対象としているユニットをすべて表示します(p.273 参照)。
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在選択中のユニットに関する情報が表示されます(複数のユニットがある場合、色が反転しているものが選択されたユニットであることを表しています)。
- ◆ 一覧からユニットを選択する場合は、そのユニットを選択してください。



## リストパネル

リストパネルには以下の項目が表示されます。

項目	説明
ID/State (ID/状態)	デバイスの ID 番号が表示され、ログサーバーがこのユニットのログを記録するかどうかを決定します。「ID」列にチェックボックスにチェックが入っていると、「State」(状態)列には「Recording」(記録中)と表示され、ログが記録されます。チェックが入っていないと、「State」(状態)列には「Paused」(一時停止)と表示され、ログは記録されません。  <b>注意:</b> リスト上で選択されていないユニットであっても、チェックボックスにチェックが入っている場合、そのユニットはログサーバーのログ記録の対象となります。
Address (アドレス)	ユニットがログサーバーに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です(p.273 参照)。
Port (ポート)	ユニットに割り当てられたアクセスポート番号です(p.273 参照)。
Connection (接続)	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ログサーバーがユニットに接続されている場合、この項目には「Connected」(接続済み)と表示されます。</li><li>◆ ログサーバーが接続されていない場合、この項目には「Waiting」(待機中)と表示されます。これは、ログサーバーの MAC アドレスが正しく設定されていないことを意味しますので、「Device Management」(デバイス管理)タブの「ANMS」メニューで正しく設定してください (p.212 参照)。</li></ul>
Days (日数)	記録されたイベントログがデータベース内に保存される期間を日数で表示します(p.273 参照)。
Description (説明)	ログサーバーへの登録時にユニットに設定された説明が表示されます (p.273 参照)。

## イベントパネル

下部パネルには現在選択されているユニットのイベントログが表示されます。複数のユニットをお使いの際に、ログサーバーのリストパネルでは選択されていない(色が反転していない)ものでも、「Recording」(記録中)にチェックが入っていれば、そのユニットはログサーバーのログはデータベースに記録されます。

# 付録

## 製品仕様

### KN2116VA

機能	KN2116VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	16
最大	256 (カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	2
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×16
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-Sub 15ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール(LUC)ポート	USB Mini-B メス×1

(表は次のページに続きます)

機能	KN2116VA
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	16 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V～240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:32.97W AC220V:33.18W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	最大 1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.56 kg ( 12.25 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN2116VA
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応



## KN4116VA

機能	KN4116VA
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
<b>コンピューター接続数</b>	
最大	256 (カスケード接続)
ダイレクト	16
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	4
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×16
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-Sub 15ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN4116VA
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	16 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1~255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V~240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
<b>消費電力</b>	
シングル電源	49.06W
デュアル電源	24.93W (電源毎)
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0~40°C
保管温度	-20~60°C
湿度	0~80% RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.60 kg ( 12.33 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN4116VA
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN2124VA

機能	KN2124VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	24
最大	384(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	2
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクター</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×24
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-I メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
LAN ポート	RJ-45 メス×2
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール(LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN2124VA
<b>LED</b>	
オンライン/選択 (KVM ポート)	24 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1~255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V~240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:34.3W AC220V:34.3W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0~40°C
保管温度	-20~60°C
湿度	0~80%RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.48 kg ( 12.07 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
同梱品	電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)

機能	KN2124VA
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
<b>カスケード対応製品</b>	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
<b>注意</b>	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN4124VA

機能	KN4124VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	24
最大	384(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×24
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-I メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
LAN ポート	RJ-45 メス×2
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN4124VA
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	24 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V～240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:38.2W AC220V:38.5W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度
リモート	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80%RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.51 kg ( 12.14 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
同梱品	電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)



機能	KN4124VA
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
<b>カスケード対応製品</b>	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
<b>注意</b>	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN1132V

機能	KN1132V
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	32
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	1
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×32
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-sub15 ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN1132V
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	32 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V～240V; 50～60Hz; 1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:26.88W AC220V:27.83W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80%RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.54 kg ( 12.2 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN1132V
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN2132VA

機能	KN2132VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	32
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	2
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、 シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×32
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-sub15 ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN2132VA
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	32 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V～240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:39.5W AC220V:39.7W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80%RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.69 kg ( 12.53 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN2132VA
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN4132VA

機能	KN4132VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	32
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×32
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-Sub 15ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)



機能	KN4132VA
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	32 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V～240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:48.4W AC220V:47W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>※</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>※</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80%RH 結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.73 kg ( 12.62 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN4132VA
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN8132V

機能	KN8132V
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	32
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	8
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×32
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-Sub 15ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN8132V
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	32 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒 (ユーザー設定)
電源仕様	AC 100～240V、50/60Hz、1A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:69.83W AC220V:68.04W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>**</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.80 kg ( 12.78 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN8132V
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN4164V

機能	KN4164V
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	64
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×64
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-Sub 15ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN4164V
<b>LED</b>	
オンライン/選択 (KVM ポート)	64 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1~255 秒 (ユーザー設定)
最大電源仕様	AC 100~240V、50/60Hz、1A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:64.24W AC220V:61.27W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0~40°C
保管温度	-20~60°C
湿度	0~80% RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	7.00 kg ( 15.42 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×88 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN4164V
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
カスケード対応製品	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
注意	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応



## KN8164V

機能	KN8164V
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	64
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	8
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Sun)、シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×64
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-D メス×1、D-Sub 15ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1 リモートコンソールポート(予備用):RJ-45 メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
シリアル	RJ-45 メス×1
LAN ポート	RJ-45 メス×2
PON	RJ-45 メス×1
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール(LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN8164V
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	64 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒 (ユーザー設定)
最大電源仕様	AC 100～240V、50/60Hz、1A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:75.18W AC220V:73.5W
<b>ビデオ</b>	
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度、最大延長距離 50m
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	7.07 kg ( 15.57 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×88 mm
ネットワークプロトコル	10Base-T、100Base-T、1000Base-T、Auto-Sence、TCP、IP、 HTTP、HTTPS、DNS、DHCP、PPP、UDP、ARP、ICMP、SMTP、 RADIUS、LDAP、LDAPS

(表は次のページに続きます)

機能	KN8164V
同梱品	SA0142 シリアルアダプター×2 電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
<b>カスケード対応製品</b>	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
<b>注意</b>	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN2140VA

機能	KN2140VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	40
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	2
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、 シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×40
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-I メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
LAN ポート	RJ-45 メス×2
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

機能	KN2140VA
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	40 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V～240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:36.5W AC220V:36W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80%RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.54 kg ( 12.2 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
同梱品	電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)

機能	KN2140VA
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
<b>カスケード対応製品</b>	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
<b>注意</b>	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## KN4140VA

機能	KN4140VA
<b>コンピューター接続数</b>	
ダイレクト	40
最大	512(カスケード接続)
<b>コンソール接続数</b>	
ローカル	1
リモート	4
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、 シリアル
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:USB
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI
<b>コネクタ</b>	
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター/スピーカー/マイク:RJ-45 メス×40
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1 マウス:USB Type-A メス×1 モニター:DVI-I メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2
LAN ポート	RJ-45 メス×2
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3
ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	USB Mini-B メス×1
<b>スイッチ</b>	
ポート選択	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×2

(表は次のページに続きます)

機能	KN4140VA
<b>LED</b>	
オンライン/ 選択 (KVM ポート)	40 (Green/Orange)
電源	2 (Blue)
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2 (Red/Orange/Green)
<b>エミュレーション</b>	
キーボード/マウス	PS/2、USB
スキャンインターバル	1~255 秒(ユーザー設定)
電源仕様	AC 100V~240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力	AC110V:41.2W AC220V:41.5W
<b>ビデオ</b>	
ローカル	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
リモート	1920×1200@60Hz <sup>*</sup> 、24 ビット色深度
<b>動作環境</b>	
動作温度	0~40°C
保管温度	-20~60°C
湿度	0~80%RH、結露なきこと
<b>ケース</b>	
ケース材料	メタル
重量	5.56 kg ( 12.25 lb )
サイズ(W×D×H)	434×413×44 mm
同梱品	電源コード(3P,100V)×2 ラックマウントキット×1 ケーブル抜け防止ホルダー(10pcs)×2 ケーブル抜け防止ホルダー用取付工具×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)



機能	KN4140VA
<b>対応 ATEN 製品</b>	
コンピューターモジュール	《PS/2 モジュール》 KA7120  《USB モジュール》 KA7170 KA7175 (バーチャルメディア対応) KA7176 (バーチャルメディア&オーディオ対応) KA7177 (バーチャルメディア&スマートカードリーダー対応) KA7178(2 バス・バーチャルメディア・オーディオ対応) KA7166(スマートカードリーダー・DVI 対応) KA7168(スマートカードリーダー・HDMI 対応) KA7169(スマートカードリーダー・DisplayPort 対応)  《シリアルモジュール》 KA7140
SUN システム専用モジュール (D-SUB15 ピン+USB)	KA7170
MAC 用モジュール	KA7170
<b>カスケード対応製品</b>	CS9134、CS9138、KH1508A、KH1516A (カスケード接続された KVM スイッチの機能によって、本製品の機能が一部対応できないことがあります。)
<b>注意</b>	※KA7166/KA7168/KA7169/KA7175/KA7176/KA7177 使用時のみ対応

## トラブルシューティング

### 製品全般に関するトラブルシューティング

問題	解決法
「ローカル」と「リモート」の概念がよくわからない。	詳細については p.19 をご参照ください。
動作に異常が見られる。	1 台目のステーションは、カスケード接続されたステーションよりも先に電源を入れる必要があります。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. マスターステーションから順に電源を入れてください。</li><li>2. マスターステーションよりも先にカスケード接続されたスイッチの方に電源を入れた場合は、カスケード接続されたステーションをリセットまたは再起動してください。</li></ol> リセットスイッチを 1 回押してください(p.36 参照)。
アカウントを与えられたものの、製品にログインできない。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ユーザーネームとパスワードが正しいことを確認してください。</li><li>2. 管理者がそのユーザーに対して設定した権限が正しいことを確認してください。</li><li>3. 本製品がデバイス統合管理システム CC2000 と併用されているかどうかを、管理者に確認してください。CC2000 と併用されている場合、CC 管理機能を無効にする (p.216 参照)か、CC サーバーで本製品の選択を解除する(CC2000 のユーザーマニュアル参照)ことで解決する場合があります。</li></ol>
正しい IP アドレスとポート番号を指定しても製品にアクセスできない。	製品がルーターの内側にセットアップされている場合は、ルーター側でポート転送(またはバーチャルサーバー)機能を使って設定する必要があります。ポート転送に関する詳細は p.337 をご参照ください。
Web ブラウザからログインした際に、「404 Object Not Found」のエラーが発生する。	ログイン文字列が設定されている場合は、Web ブラウザでアクセスする際に、製品の IP アドレスの後ろにスラッシュを続け、その後ろに正しい文字列を入力してください(p.224 参照)。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
突然ネットワークの通信が遮断される。	製品とのセッションを終了し、30 秒程度待機してから再ログインしてください。
クライアントコンピューターでリモートのサーバー画面が表示されない。	サーバーに接続されているコンピューターモジュールのファームウェアのバージョンが、製品のメインファームウェアのバージョンと同じであることを確認してください。コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの詳細については p.248 をご参照ください。 サーバーの解像度を 1280×1024 以下に設定してください。
クライアントコンピューターでリモートのサーバー画面は表示されないが、ローカルコンソールでマウスは表示される。ただし、このマウスをクリックしても何の反応もない。	左[Alt]キーを1度押してから、右[Alt]キーを1度押してください。
クライアントコンピューターの表示に歪みが見られ、自動同期を実行しても解決しない。	解像度の異なるコンピューターが接続されているポートに一旦切り替えてから、元のポートを表示し直してください。この方法でも解決しない場合は、そのポートに接続されているコンピューターの解像度とリフレッシュレートを変更してください。変更し終わったら、新しい解像度に設定することも、元の解像度に戻すことも可能です。
現在使用しているキーボードのロックキーの状態とコントロールパネルのロックキーLED ランプの状態が一致しない。	初回接続時には、コントロールパネルの LED ランプが実際にお使いのキーボードの状態と一致していない場合があります。この問題を解決するには、お使いのキーボードの状態と合うようにコントロールパネルの LED アイコンをクリックしてください。一度同期すれば、その後はお使いのキーボードの状態に合わせて、コントロールパネルの LED ランプの表示が切り替わります。
ログインすると、Web ブラウザ上に CA ルート認証が信頼されていない、または、認証エラーのメッセージが返ってくる。	証明書の名前が信頼済み証明書リストにないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。詳細については p.356 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
<p>複数のユーザーで操作している際に、操作中のポートに排他(ないしは占有)の権限を持っていたにもかかわらず、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出し、占有していたポートに戻ると、別のユーザーに操作権限が移っていた。なぜこのような現象が起るのか？</p>	<p>ツリーから再度選択してポートに戻ろうとした場合、製品側では、ユーザーがそのポートに初めてアクセスしようとしていると認識されてしまいますので、別のユーザーがポートの操作を待機していた場合は、そのユーザーが優先的にポートを操作することになります。正常な方法でそのポートに戻りたい場合は、「Port Access」(ポートアクセス)メニューの右上にある「Close」(閉じる)ボタンをクリックしてください。</p>

## マウスに関するトラブルシューティング

問題	解決法
マウスやキーボードの操作に対する反応がない。	<p>コンピューターモジュールのファームウェアのバージョンが製品のメインファームウェアのバージョンと同じであることを確認してください。詳細は p.248 をご参照ください。</p> <p>コンソールポートからマウスやキーボードのコネクターを一旦外して、接続し直してください。</p>
マウスの動きが極端に遅い。	データの転送量が多いため、接続処理が追い付けない状態になっています。画質を下げる(p.108 参照)と、ビデオデータの転送量を減らすことができます。
サーバーに接続すると、マウスポインターが 2 つ表示される。	ポインターの種類は変更することができます。詳細については p.126 をご参照ください。
マウスポインターがシングルポインターモードの場合、コントロールパネルにアクセスできない。	コントロールパネルの起動直後に、ポインターをデュアルモードに変更してください。
なぜデュアルポインターモードがあるのか？	マウスダイナシクモードでない場合、サーバーとクライアントコンピューターの各マウスポインターの位置を確認するために 2 つのポインターが必要です。ポインターが 2 つ表示されていないと、マウスの操作中にネットワークのタイムラグによってサーバーのポインターがクライアントコンピューターのポインターの位置からずれる可能性があります。
マウスのポインターが混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて混乱する場合は、マウス表示の切替機能を使って片方のポインターを小さくすることができます。マウス表示の切替機能については p.99 を、また、マウスポインターの種類については p.126 をそれぞれご参照ください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
Windowsにログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「Mouse Sync Mode」(マウス同期モード)の設定状況を確認してください(p.127 参照)。「Automatic」(自動)に設定されている場合は、「Manual」(手動)に変更してください(マウス同期に関する詳細は p.130 を参照)。</li> <li>2. 「Manual」(手動)モードの場合は、自動同期機能を使ってローカルとリモートのモニターを同期させてください(p.108 参照)。</li> <li>3. 上記の方法でも解決しない場合は、マウス調整機能(p.100 参照)を使ってポインターを同期させてください。</li> <li>4. 上記の方法でも解決しない場合は、p.351 を参照にしながら、これ以外のマウス同期の方法を試してみてください。</li> </ol>
Mac にログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	自動でマウス同期を行うには、「default」(デフォルト)または「Mac2」に設定します。「default」(デフォルト)ではマウス同期がうまくいかない場合は、「Mac2」に設定してみてください(p.129 参照)。
Sun にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシクによる同期は、Windows および Mac(G4以降)の USB マウスにのみ対応しています。Sun をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.127「マウスダイナシクモード」、p.130「手動によるマウス同期」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.351「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Sun 用の設定を行ってください。
Linux にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシクによる同期は、Windows および Mac(G4以降)の USB マウスにのみ対応しています。Linux をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.127「マウスダイナシクモード」、p. 130「手動によるマウス同期」、p.129「Mac/Linux」をお使いの場合」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.351「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Linux 用の設定を行ってください。

## バーチャルメディアに関するトラブルシューティング

問題	解決法
バーチャルメディアが動作しない。	サーバーのメインボードが USB に対応していないことに起因しています。サーバーのメインボードのファームウェアまたは BIOS に新しいバージョンのものが提供されており、それらが USB に対応している場合は、サーバーのファームウェアや BIOS をアップグレードしてみてください。
コントロールパネルにバーチャルメディアのアイコンが表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バーチャルメディア機能は、KA7166、KA7168、KA7169、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、KA7189 のコンピューターモジュールを使用したときにのみ、ご利用いただけます。</li> <li>2. ローカルクライアントコンピューター上で管理者権限が与えられている必要がありますが、これは Windows 側の制限事項です。</li> </ol>
バーチャルメディアのドライブからサーバーをブートすることができない。	サーバーの BIOS が USB ドライブからのブートに対応していないことが考えられます。お使いのコンピューターのメインボードの最新のファームウェアと BIOS バージョンを確認し、メインボードの BIOS をアップグレードしてください。
USB フロッピードライブをサーバーに接続すると、サーバーをブートすることができるのに、そのドライブをバーチャルメディアドライブとしてマッピングするとサーバーをリモートからブートすることができない。	USB フロッピーのドライブには、EFI と CBI の 2 種類のフォーマットタイプがあります。これらは両方とも OS レベルの操作でバーチャル機能を使用することができますが、現時点では、ブート等の BIOS レベルの操作に対応しているのは EFI のみです。
フォルダーをバーチャルメディアデバイスとしてマウントできない。	実際のフォルダーが FAT16 ファイルシステムでフォーマットされている場合、サイズが 2GB を超えたものはマウントすることができません。

## Web ブラウザに関するトラブルシューティング

問題	解決法
ファームウェアをアップグレードした後、Web ブラウザでログインすると、新しいファームウェアを適用する前のバージョン情報が表示される。	製品には実際に新しいバージョンのファームウェアが適用されていますが、Web ブラウザにはキャッシュされたページが表示されている可能性があります。以下の方法でキャッシュをクリアしてください。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>IE</b> をお使いの場合:[ツール]→[インターネットオプション]→[インターネット一時ファイル]→[ファイルの削除]</li><li>◆ <b>Firefox</b> をお使いの場合:[ツール]→[プライバシー情報の消去]</li></ul>
Firefox では Java クライアントビューワーしか開くことができず、Windows クライアント Active X ビューワーを開くことができない。	Windows クライアント Active X ビューワーの動作環境には Active X が必要です。Firefox では Active X がサポートされていないので、Java クライアントビューワーをお使いください。



## Windows クライアントに関するトラブルシューティング

問題	解決法
Windows クライアントアプリケーションを起動すると、製品がサーバーリスト画面に表示されない。	「Device Management」(デバイス管理)タブの「Access Port」(アクセスポート)セクションの「Program」(プログラム、p.207 参照)で設定されているポートと、このダイアログの「Server」(サーバー)欄にある「Port」(ポート)の項目の値が同じであるユニットだけが、サーバーリストに表示されます。この 2 つの項目の値を確認してください。
Windows クライアントの Active X ビューワーと Windows クライアントアプリケーションが製品に接続できない。	Direct X (8.0 以降のバージョン)がお使いのコンピューターにインストールされている必要があります。
ファームウェアのアップグレード後に、Windows クライアント Active X ビューワーや Windows クライアントアプリケーションが起動しない。	この現象は、.ocx ファイルの古いバージョンが削除されていないことに起因するため、古いファイルを削除する必要があります。ファイルを削除するには、以下の 2 種類の方法があります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>Active X ビューワーを使用している場合: IE を起動→[ツール]→[アドオンの管理]を選択し、Windows クライアントに一致するものをすべて無効にするか削除してください。</li> <li>Windows クライアントアプリケーションを使用している場合: エクスプローラーを起動し、「WinClient.ocx」を検索し、一致するものをすべて削除してください。</li> </ol>
リモートウィンドウの一部がモニターに表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>自動同期を実行してください(p.95 参照)。</li> <li>「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックが入っていない場合(p.132 参照)は、自動同期機能(p.108 参照)を使ってローカルとリモートのモニターを同期してください。</li> <li>「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックが入っている場合は、画面からはみ出している部分もスクロールすることで表示できます。</li> </ol>
リモート画面が 90° 回転している。	「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックを入れてください(p.132 参照)。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
Windows クライアントを起動していると、Net Meeting を起動できない。	「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックを入れてください(p.132 参照)。
ログイン後に Windows クライアント ActiveX ビューワーを開くことができない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows クライアントのアドオンをクライアントコンピューターにインストールする権限がないことが考えられます。このソフトウェアをインストールする場合は、クライアントコンピューターの管理者に初回だけ起動してもらうようにしてください。2 回目以降は自身でプログラムを起動できるようになります。</li> <li>2. Vista をお使いの場合、この製品の URL アドレスを、信頼されたサイトのリストに追加してください。 Internet Explorer の場合は、[ツール]→[インターネットオプション]→[セキュリティ]→[信頼済みサイト]→[サイト]で追加することができます。</li> </ol>
Vista で、Windows クライアント ActiveX ビューワーを起動した後、ドライバーやリムーバブルディスクをマウントしようとする、「ドライバーが準備できていません」という内容のメッセージが表示される。	<p>これは、Vista の UAC(ユーザーアカウントコントロール)に起因するものです。この問題を解決するには、下記の 2 つの方法があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クライアントコンピューターの管理者の場合は、このプログラムのアイコンを右クリックし、「別のユーザーとして実行する」を選択してください。その後でダイアログが表示されますので、ここから管理者のアカウントを選択して、このユーザーとしてプログラムを実行してください。</li> <li>2. クライアントコンピューターの管理者ではない場合は、管理者に依頼して、UAC を無効にするようにしてください。</li> </ol>

## Java アプレットと Java クライアント AP に関するトラブルシューティング

問題	解決法
製品に接続することができない。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. お使いのクライアントコンピューターに最新バージョンの Java をインストールしてください。</li> <li>2. アクセスに使用する IP アドレスとポート番号が正しいことを確認してください(詳細は p.83 参照)。</li> <li>3. Java を再起動して、操作をもう一度やり直してください。</li> </ol>
最新バージョンの Java JRE をインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性の面に問題がある。	まれに最新のバージョンの Java の使用時に、製品の動作が安定しない場合がありますので、この場合はバージョンが 1 つ、ないし 2 つ古いものをインストールしてみてください。
ファームウェアをアップグレードしたにもかかわらず、Java クライアントビューワーや Java クライアントアプリケーションでログインすると、新しいファームウェアを適用する前のバージョン情報が表示される。	<p>ログアウトしてから、以下の手順に従って Java のインターネット一時ファイルを削除してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コントロールパネルから「Java」メニューを開いてください。</li> <li>2. 「インターネット一時ファイル」パネルから、「設定」ボタンをクリックしてください。</li> <li>3. 「ファイルの削除」ボタンをクリックしてください。</li> <li>4. 「一時ファイルの削除」ダイアログで、「了解」ボタンをクリックしてファイルを削除してください。</li> </ol>
英語以外の言語を入力すると文字が表示されない。	<p>お使いのコンピューターのキーボード言語を確認してください。</p> <p>本製品が提供しているオンスクリーンキーボード機能を使って、オンスクリーンキーボードの言語を他のシステムが使用している言語と同じになるように設定してください(p.124 参照)。</p>
Java のパフォーマンスが悪い。	プログラムを一旦終了し、再起動してください。
Windows の「メニュー」ボタンを押しても反応しない。	Java では Windows のメニューキーはサポートされていません。
デスクトップにフォルダーを追加して、バーチャルメディアドライブとしてマウントしようとする、このフォルダーが選択できない。	フォルダー選択の入力欄で、追加したいフォルダーのルートディレクトリを入力してください。その後で、ルートディレクトリの配下にあるフォルダーが表示され、選択したいフォルダーに移動できるようになります。

## Sun に関するトラブルシューティング

問題	解決法
D-sub15 ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する（例：Sun Blade 1000 Server）*。	ディスプレイの解像度は 1024×768@60Hz に設定する必要があります。 <b>テキストモードの場合：</b> <ol style="list-style-type: none"><li>OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre><pre>reset-all</pre></li></ol> <b>XWindow の場合：</b> <ol style="list-style-type: none"><li>コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre></li><li>ログアウトします。</li><li>もう一度ログインします。</li></ol>
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。（例：Sun Ultra Server）*	ディスプレイの解像度は 1024×768@60Hz に設定する必要があります。 <b>テキストモードの場合：</b> <ol style="list-style-type: none"><li>OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre><pre>reset-all</pre></li></ol> <b>XWindow の場合：</b> <ol style="list-style-type: none"><li>コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>fbconfig -res 1024x768x60</pre></li><li>ログアウトします。</li><li>もう一度ログインします。</li></ol>

- \* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

## Mac に関するトラブルシューティング

問題	解決法
Safari を使って製品にログインした際に、スナップショット機能を使用するとブラウザが応答なしになる。	Safari を強制終了し、再起動してください。この場合、スナップショット機能は使用しないでください。
	Safari でスナップショット機能を使用する場合は、Mac OS 10.4.11、Safari3.0.4 にアップグレードしてください。

## Red Hat に関するトラブルシューティング

問題	解決法
サーバーとしてインストールされた Red Hat 9.0 (2.4.20-8) を、KA7175 もしくは KA7176 で本体に接続した場合、キーボード・マウスが正常に動作しない。	マウス同期モードとして「AS3.0」を選択してください。詳細については p.129「Mac/Linux 環境の場合」をご参照ください。
デスクトップシステムとしてインストールされた Red Hat 9.0 (2.4.20-8) を、KA7175 もしくは KA7176 で本体に接続した場合、キーボード・マウスが正常に動作しない。	お使いのキーボードとマウスを USB2.0 ハブに接続してから、このハブを Red Hat 9.0 サーバーに接続してください。

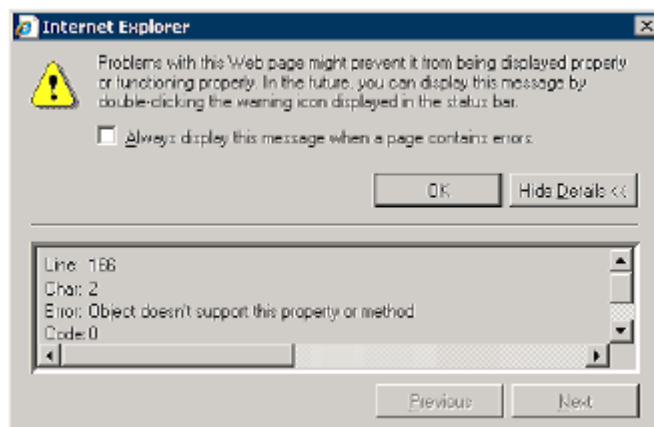
## ログサーバーに関するトラブルシューティング

問題	解決法
ログサーバープログラムが起動しない。	<p>ログサーバーはデータベースにアクセスするのに Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。</p> <p>このドライバーは Windows ME、2000、XP には自動的にインストールされています。</p> <p>Windows 98 または NT の場合、Microsoft のダウンロードサイト (<a href="http://www.microsoft.com">http://www.microsoft.com</a>) から「MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)」ドライバーファイルをダウンロードしてください。</p> <p>このドライバーは Windows Office Suite に使用されるので、Windows Office Suite をインストールしてもこのドライバーを入手することができます。ドライバーファイルまたは Windows Office Suite がインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。</p>

## パネルアレイモードに関するトラブルシューティング

問題	解決法
パネルアレイモードが低解像度で表示される。	この現象は、画面がパネルに合うように縮小されることに起因します。画面に表示されるパネル数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニターは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を最低でも4分割に変更してください。
1つ前、または1つ後ろのポートに移動しようとする、画面が2つ前のポートに移動したり、ポートが移動しなかったりする場合があります。	ネットワークのタイムラグが原因でこのような現象が見られる場合があります。パネルは、一定の時間間隔でポートを自動的に表示していきますが、ユーザーからの入力がある前に、製品は1つ後ろのポートに移動しているものの、表示処理が追いついていない場合は、ポートが切り替わっていないように見える場合があります。 したがって、ユーザーがポートを切り替えると、自動に切り替えられたポートから、さらに1ポート先に進みますので、2ポート先に移動したように見えたり、自動的に切り替えられたポートから1ポート後ろに戻るのに移動していないように見えたりするという現象が発生することになります。

Q1:ビューワーを開くと、Web ページが表示されなかったり、正常に動作しなかったりすることがあり、下図のようなエラーメッセージが表示される。



1. Internet Explorer のセキュリティ設定をリセットし、アクティブスクリプト、ActiveX コントロール、Java アプレットを有効にしてください。

デフォルトでは、Internet Explorer 6 や Internet Explorer 5.x は、制限付きサイトには「高」のセキュリティレベルが、また、Windows Server 2003 の場合は、制限付きサイトとインターネットゾーンに「高」のセキュリティレベルがそれぞれ設定されています。アクティブスクリプト、ActiveX コントロール、Java アプレットを有効にする場合は、下記の手順に従って操作してください。

- a) Internet Explorer を起動してください。
  - b) 「ツール」メニューで「インターネットオプション」をクリックしてください。
  - c) 「インターネットオプション」ダイアログで、「セキュリティ」タブをクリックしてください。
  - d) デフォルトレベルをクリックしてください。
  - e) 「OK」ボタンをクリックしてください。
2. アクティブスクリプト、ActiveX、Java がそれぞれブロックされていないことを確認してください。一部のクライアントコンピューターではうまくいくものの、その他のコンピューターではうまくいかない場合は、クライアントコンピューターの Internet Explorer、またはウイルス対策プログラムやファイアーウォールのような別のプログラムが、スクリプトや ActiveX コントロール、または Java アプレットをブロックするように設定されていないことを確認してください。
  3. お使いのウイルス対策プログラムが、インターネット一時ファイルや「Downloaded Program Files」フォルダーをスキャンするように設定されていないことを確認してください。



4. インターネット一時ファイルを削除してください。  
お使いのクライアントコンピュータからインターネット一時ファイルを削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。
  - a) Internet Explorer を起動してください。
  - b) 「ツール」メニューで、「インターネットオプション」をクリックしてください。
  - c) 「全般」タブをクリックしてください。
  - d) 「削除」をクリックしてください。
  - e) 「ファイルの削除」をクリックしてください。
  - f) 「OK」をクリックしてください。
  - g) 「Cookie」にチェックをつけ、「削除」をクリックしてください。
  - h) 「OK」をクリックしてください。

---

**注意:** 削除メニューは、お使いの IE のバージョンによって異なる場合があります。詳細は IE のヘルプとサポートを参照してください。

---

5. Microsoft DirectX の最新バージョンがインストールされていることを確認してください。これは Microsoft の Web サイトからダウンロードすることができますので、Microsoft 社の Web サイトをご確認ください。  
<http://www.microsoft.com/windows/directx/default.aspx?url=/windows/directx/downloads/default.htm>
6. Java JRE の最新バージョンがインストールされていることを確認してください。これは Java の Web サイト(www.java.com)からダウンロードすることができます。

## IP アドレスの設定

---

管理者として最初にログインした場合には、他のユーザーが TCP/IP ネットワーク経由でログインできるように製品に IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は全部で 3 種類ありますが、どの方法でも設定に使用するコンピューターは製品と同一のネットワークセグメントにセットアップされていなければなりません。製品に接続しログインすると、製品に固定 IP アドレスを設定する必要があります(p.206 参照)。

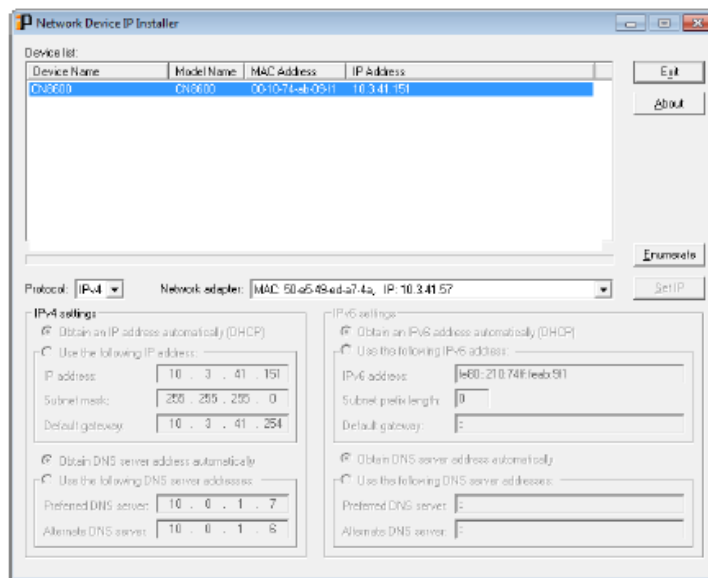
### ローカルコンソール

最も簡単な IP アドレスの設定方法はローカルコンソールから設定する方法です。設定方法の詳細については p.70 をご参照ください。

### IP インストーラー

Windows がインストールされたコンピューターをお使いの場合は、IP インストーラーというツールを使用して製品に IP アドレスを設定することができます。IP インストーラーは弊社 Web サイトのダウンロードページからダウンロードすることができます。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される（表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される）「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。IP インストーラーをお使いのコンピューターにダウンロードしたら、以下の手順に従って製品に IP アドレスを設定してください。

1. ダウンロードしたファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適切なフォルダーに解凍してください。
2. 手順 1 で IP インストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IP インストーラーの実行ファイル (IPInstaller.exe) を起動してください。以下のようなダイアログが表示されます。



3. 「Device List」(デバイスリスト)から IP アドレスを設定する製品を選択してください。

**注意:**

1. 一覧に何も表示されない、また、対象となる製品が表示されない場合は、「Enumerate」(一覧表示)をクリックして、「Device List」(デバイスリスト)を更新してください。
2. 一覧に複数のデバイスが表示されている場合は、製品に記載されている MAC アドレスを使って識別してください。製品の MAC アドレスは製品の底面に張られているラベルに記載されています。

4. ドロップダウンメニューを使って「Protocol」(プロトコル)を IPv4 または IPv6 のいずれかに選択し、その下にある IP の設定を定義してください。
5. DHCP を使って IP アドレスを自動的に取得する場合は「Obtain an IP address automatically (DHCP)」(IP アドレスを自動取得する)を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Use the following IP address」(次の IP アドレスを使用する)をそれぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力してください。
6. お使いのネットワーク環境に合わせて、「Obtain DNS server address automatically」(DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する)、または、「Use the following DNS server addresses」(次の DNS サーバーのアドレスを使用する)のいずれかを選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーのアドレスを、それぞれ該当欄に入力してください。

7. 「Set IP」(IP を設定する)ボタンをクリックしてください。
8. IP アドレスが「Device List」(デバイスリスト)に表示されたら、「Exit」(終了)ボタンをクリックしてください。IP インストーラーについての詳細は p.207 をご参照ください。

## ブラウザ

1. お使いのコンピューターの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。  
「XXX」の部分には、1～255 の範囲の任意の整数値を使用してください。ただし、60 は製品のデフォルトの IP アドレス(192.168.0.60)に使用されていますので、これ以外の値を使用してください。
2. Web ブラウザのアドレスバーに製品のデフォルト IP アドレス(192.168.0.60)を指定し、製品にアクセスしてください。
3. 製品がセットアップされているネットワークで有効な固定 IP アドレスを設定してください。
4. 必要であれば、手順 1 で設定を変更したコンピューターの IP アドレスをログアウト後に元の値に戻しておいてください。

## IPv6

---

現在、本製品では、IPv6 の「リンクローカルアドレス」と「ステートレス自動設定」、「ステートフル自動設定(DHCPv6)」の 3 種類に対応しています。

### リンクローカルアドレス

製品に電源を入れると、自動的に IPv6 のリンクローカルアドレスが設定されます(例: fe80::210:74ff:fe61:1ef)。このリンクローカルアドレスの内容を確認する場合は、製品に IPv4 のアドレスでログインし、「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)メニューを開いてください。アドレスが「General」(全般)リスト(p.202 参照)に表示されます。

製品の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザや Windows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、サーバーパネルの「IP」欄(p.78 参照)でアドレスを次のように入力してください。

`fe80::2001:74ff:fe6e:59%5`

- 
- 注意:**
1. IPv6 リンクローカルアドレスを使ってログインする場合には、クライアントコンピューターが製品と同一のローカルネットワークセグメントにセットアップされている必要があります。
  2. 「%5」の部分は、クライアントコンピューターによって使用される「%インターフェース」です。クライアントコンピューターの IPv6 アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。

`ipconfig /all`

「%」値は IPv6 アドレスの最後に現れます。

---

## ステートレス自動設定

製品がセットアップされているネットワーク環境で、IPv6 ステートレス自動設定機能に対応したデバイス(例:ルーター)を使用している場合、製品はIPv6 アドレスを生成するために、このデバイスからプレフィックス情報を取得することができます。例えば、「2001::74ff:fe6e:59」です。

先に述べたように、アドレスは「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)メニューの「General」(全般)リスト(p.202 参照)に表示されます。

製品のIPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「Server」(サーバー)パネルの「IP」欄(p.78「Windows クライアント接続画面」参照)にアドレスを次のように入力してください。

`2001::74ff:fe6e:59`

## ポートの転送

---

製品がルーターの内側にセットアップされている場合、指定されたポートとデバイス宛に送信されたデータをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。ポート転送のパラメーターを設定することによって、特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送すればよいのかを、ルーターに判別させることができます。

例えば、特定のルーターに接続された製品に「192.168.1.180」という IP アドレスが設定されている場合、ルーターの設定プログラムにログインした後、ポート転送(場合によってはバーチャルサーバー)の設定画面にアクセスし、先ほどの IP アドレス「192.168.1.180」および開放したいポート(例えばインターネットアクセスでは 9000 番を使用)を設定します。









ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルをご参照ください。

## キーボードエミュレーション

---

### Mac キーボード

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボードから Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15







**注意:** 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

---



## Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	Meta

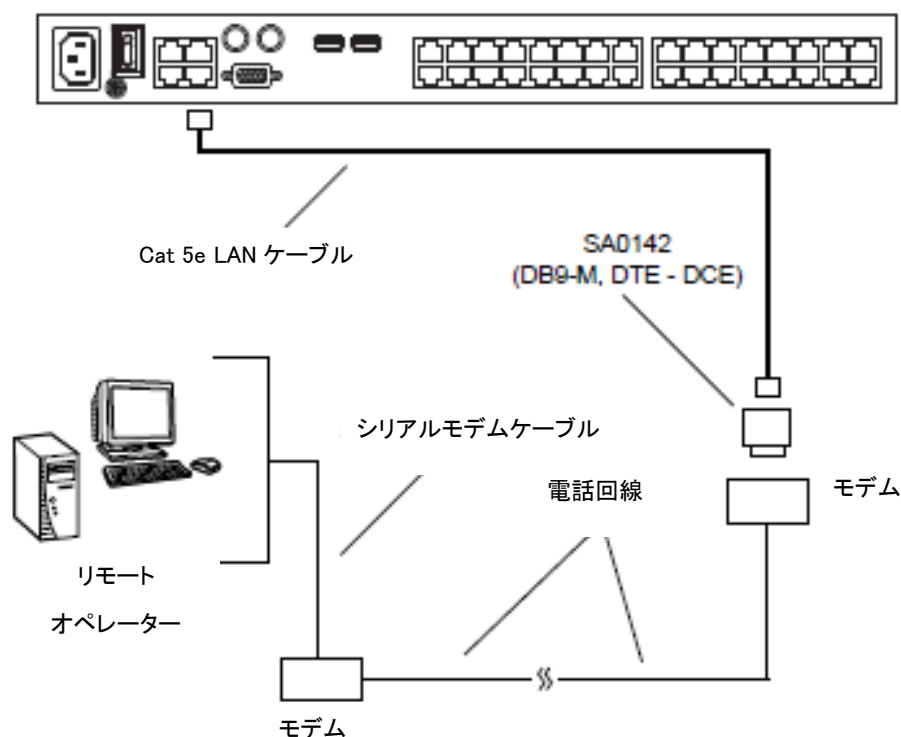
**注意:** 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー（[Ctrl]キー）を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

# PPP モデム操作

## 基本セットアップ

IP-KVM スイッチの本体にシリアルポートが搭載されている場合は、PPP ダイアルイン接続を使ってRS-232ポート経由でアクセスすることができます。この方法で接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. お使いの製品および関連機器を下図のようにセットアップしてください。



2. お使いのコンピューターから、モデムダイアルインプログラムを使って製品のモデムにダイアルイン接続してください。

- 
- 注意:**
1. 製品のモデムに設定されているシリアル関連のパラメーターがご不明な場合は、製品の管理者にお問い合わせください。
  2. Windows XP でのダイアルインプログラムの設定例は p.342 をご参照ください。
-

3. 接続が確立したら、Web ブラウザを立ち上げ、アドレスバーに「192.168.192.1」を入力し、アクセスしてください。

- 
- 注意:**
1. デフォルトでは、モデム接続のユーザーネーム、パスワードともに空白で設定されています。
  2. モデムセッションでは、KVM スイッチには「192.168.192.1」を、ユーザー側には「192.168.192.101」を、それぞれ IP アドレスとして使用します。
- 

これ以降の操作は、Web ブラウザや専用アプリケーションを使用した操作方法と同じです。

## ダイヤルイン接続 セットアップ例(Windows XP)

Windows XP からの製品へのダイヤルイン接続の設定は、以下の手順で操作してください。

1. Windows 上で、[スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]を開き、「新しい接続を作成する」をクリックしてください。
2. 「新しい接続ウィザードの開始」ダイアログが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックしてください。
3. 「ネットワーク接続の種類」画面で、「職場のネットワークへ接続する」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
4. 「ネットワーク接続」画面で、「ダイヤルアップ接続」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
5. 「接続名」画面で、この接続につける名前(例:TPE-KN8132-01)を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
6. 「接続の利用範囲」画面で、ダイヤル接続を全ユーザーに許可する場合は「すべてのユーザー」を、現在操作しているユーザーのみに許可する場合は「自分のみ」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

---

**注意:** お使いのコンピューターに現在ログインしているユーザーしか登録されていない場合は、このダイアログは表示されません。

---

7. 「ダイヤルする電話番号」画面で、製品に接続されているモデムの電話番号(必要であれば国番号や市外局番をつけること)を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
8. 「新しい接続ウィザードの完了」画面で、「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」のチェックボックスにチェックを入れて、「完了」ボタンをクリックしてください。

以上で接続に必要なセットアップは完了です。PPP 接続で製品にアクセスする場合は、デスクトップに作成したショートカットアイコンをダブルクリックしてください。

## KA7140 の設定および操作

KA7140 は製品とシリアルデバイスの接続に使用するコンピューターモジュールです。

### 設定方法

KA7140 を使ってシリアルデバイスを接続する場合は、そのシリアルデバイスのパラメーターと同じ値を製品側で設定する必要があります。以下の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Port Access」(ポートアクセス)タブのサイドバーで、KA7140 が接続されているポートを選択してください。
2. メニューバーから「Port Configuration」(ポート設定)を選択してください。  
「Port Properties」(ポートプロパティ)画面が選択された状態で画面が開きます。

Status	
Port Status:	Online
Adapter Type:	KA7140
Adapter Version:	V1.1.101

Properties			
Bits per second:	9600	Data bits:	8
Parity:	None	Stop bits:	1
Flow control:	None	Access Mode:	share

Exit Macro

None

Save

3. 「Properties」(プロパティ)セクションで、各リストをドロップダウンさせ、接続されているシリアルコンソールデバイスで使用している値になるようにポートプロパティの値を選択してください。  
KA7140 で設定できるポートプロパティの項目は下表のとおりです。

項目	説明
Bits per second (Baud Rate) (bps、ボーレート)	ポートのデータ転送速度を設定します。ドロップダウンで提供している 300～38400 の範囲の項目のうち、お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは 9600 に設定されています(この値は大半のシリアルコンソールデバイスにおける基本的な設定値です)。
Data Bits (データビット)	データ 1 文字を転送する際に使用するビット数を設定します。お使いのシリアルコンソールデバイスのデータビットの設定に合うように、7 または 8 を設定してください。デフォルトでは 8 に設定されています(この値は大半のシリアルコンソールデバイスでのデフォルト値として設定されています)。
Parity (パリティ)	転送されたデータの整合性を確認する際に、この項目で設定されたパリティビットを使用します。設定できる値は、「None」(なし)、「Odd」(奇数)、「Even」(偶数)です。お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは「Odd」(奇数)に設定されています。
Stop Bits (ストップビット)	文字が転送されたことを表すストップビットを設定します。お使いのシリアルコンソールデバイスのストップビットの設定に合うように、1 または 2 を設定してください。デフォルトでは 1 に設定されています(この値は大半のシリアルコンソールデバイスでのデフォルト値として設定されています)。
Flow Control (フロー制御)	データフローの制御方法を設定します。設定できる値は、「None」(なし)、「Hardware」(ハードウェア)、「XON/XOFF」です。お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは「None」(なし)に設定されています。  <b>注意:</b> 「None」(なし)はボーレートが 9600 以下に設定されたときのみ有効な値です。ボーレートが 9600 を超える値に設定されている環境では、この項目を「Hardware」(ハードウェア)、または「XON/XOFF」に設定してください。
Access Mode (アクセスモード)	シリアルコンソールデバイスのアクセスモードを設定します。設定できる値は、「Share」(共有)、「Occupy」(占有)、「Exclusive」(排他)です。デフォルトでは「Share」(共有)に設定されています。この機能に関する詳細は p.172「アクセスモード」をご参照ください。

4. 各項目の設定が終わったら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

## 操作方法

ポートに接続されたデバイス进行操作する場合は、「Port Access」(ポートアクセス)タブでそのポートをダブルクリックし、ポートが切り替わったらそのデバイス呼び出すコマンドを実行してください。

## KA7140 ピンアサイン

KA7140 のピンアサインの詳細は下表のとおりです。

ピン	ピンアサイン
1	DCD
2	RXD
3	TXD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	N/A

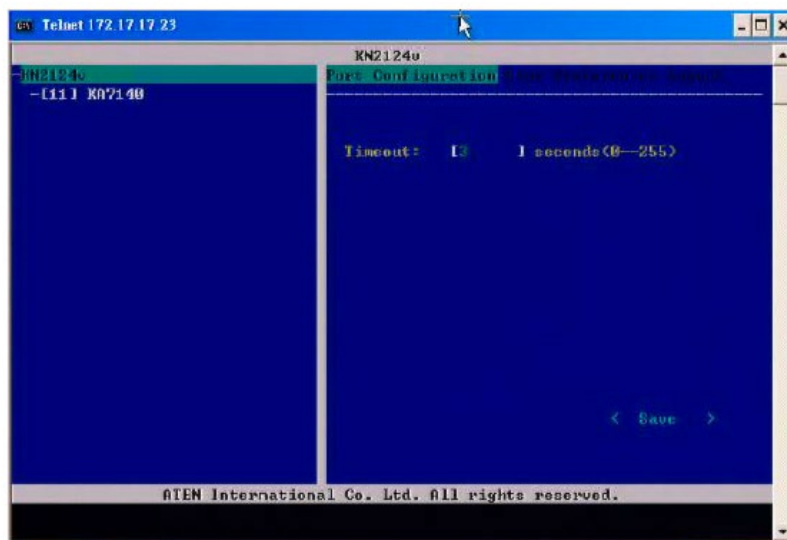
The diagram shows a DB9 female connector with a 2x5 grid of pins. Pin 1 is at the top right, pin 5 is at the top left, pin 6 is at the bottom right, and pin 9 is at the bottom left. There are two circular holes on the sides of the connector housing.

DB9 ピン メス

## 内部シリアルインターフェースの設定

本製品では、接続デバイスのシリアルインターフェースのパラメーターを、アクセスサーバーから設定できる機能を提供しています。パラメーターの設定を行う場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. アクセスサーバーから、コマンドライン(ターミナル)セッションを開くか、ハイパーターミナルや PuTTY といったサードパーティーのシリアルアプリケーションを起動してください。
2. 製品に設定された IP アドレスに Telnet 接続、または SSH 接続してください。
3. 普段お使いのアカウントのユーザーネームとパスワードを使ってログインし、アクセス画面を立ち上げてください。



### ナビゲーション

左側のパネルの一番上には KVM スイッチが表示され、その下に、この KVM スイッチに接続されているシリアル機器が表示されます。また、右側のパネルの一番上には設定パラメーターが表示され、その下の部分には設定内容が表示されます。

- ◆ ハイライトバーを左右のパネル間で動かしたり、設定パラメーターを選択したりする場合は、左右のカーソルキーを使ってください。
- ◆ 左側のパネルで KVM スイッチとシリアル機器を切り替えたり、右側のパネルで設定アイテムを選択したりする場合は、上下のカーソルキーを使ってください。



## 操作方法

- ◆ 左側のパネルでデバイスを選択する場合は、上下のカーソルキー(↑および↓)を移動させてください。[Enter]キーを押すと、そのデバイスでコマンドライン(ターミナル)セッションを開きます。
- ◆ セッションを終了する場合は、アクセスページに戻るホットキー(p.347 および p.349 参照)を押してください。
- ◆ この機能を終了する場合は、ハイライトバーを画面右側のパネルにある「Logout」(ログアウト)に移動させ、下カーソルキーで「Exit」まで移動して、[Enter]キーを押してください。

## スイッチレベルでの設定

左側のパネルで KVM スイッチが選択されている際に右側のパネルで設定可能な項目は下表のとおりです。

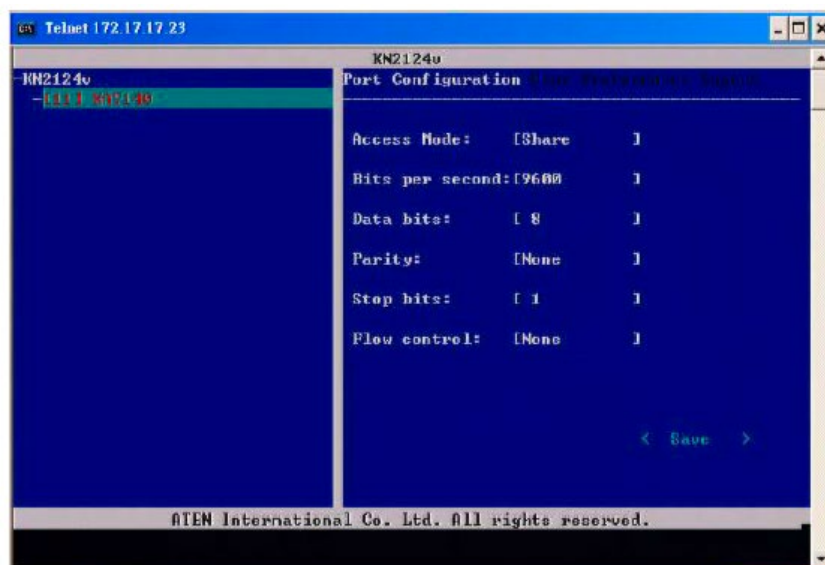
項目	説明
Port Configuration (ポート設定)	<p>ポート設定が選択されている時は、下カーソルキーを押して現在のタイムアウト値を選択してください。現在の値を上書きする場合は、新しいタイムアウト値を入力してください。</p> <p><b>注意:</b> 入力値を消去する方法はありません。値を変更したい場合は、上カーソルキーを使ってそのフィールドを離れ、下カーソルキーで戻ってきてください。戻ってくると新しい値を入力することができます。</p> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、[Enter]キーを押してください。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
User Preferences (ユーザー設定)	<p>現在作業しているセッションから、アクセス画面に戻るホットキーを設定することができます。</p> <p>ユーザー設定が選択されている場合、下カーソルキーを使って、現在のホットキーの文字に移動してください。現在のホットキーの文字を上書きする場合は、新しい文字を入力してください。</p> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、[Enter]キーを押してください。</p>
Logout (ログアウト)	<p>ログアウトが選択されている場合は、下カーソルキーを使って「Exit」(終了)に移動し、[Enter]キーを押してください。</p>

## ポートルベルでの設定

シリアルインターフェースデバイスが左側のパネルで選択されている場合は、下図のような画面が表示されます。



シリアル機器が選択されている際に右側のパネルで設定可能な項目は下表のとおりです。

項目	説明
Port Configuration (ポート設定)	<p>シリアルパラメーターを設定する場合は、下記の手順に従って操作してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上下のカーソルキーを使って、目的のアイテムまで移動してください。</li> <li>2. <b>[Enter]</b>キーを押して、リストを展開してください。</li> <li>3. 上下のカーソルキーを使って項目を選択したら、<b>[Enter]</b>キーを押してください。</li> </ol> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、<b>[Enter]</b>キーを押してください。</p>
User Preferences (ユーザー設定)	<p>現在作業しているセッションから、アクセス画面に戻るホットキーを設定することができます。</p> <p>ユーザー設定が選択されている場合、下カーソルキーを使って、現在のホットキーの文字に移動してください。現在のホットキーの文字を上書きする場合は、新しい文字を入力してください。</p> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、<b>[Enter]</b>キーを押してください。</p>
Logout (ログアウト)	<p>ログアウトが選択されている場合は、下カーソルキーを使って「Exit」(終了)に移動し、<b>[Enter]</b>キーを押してください。</p>

## その他のマウス同期方法

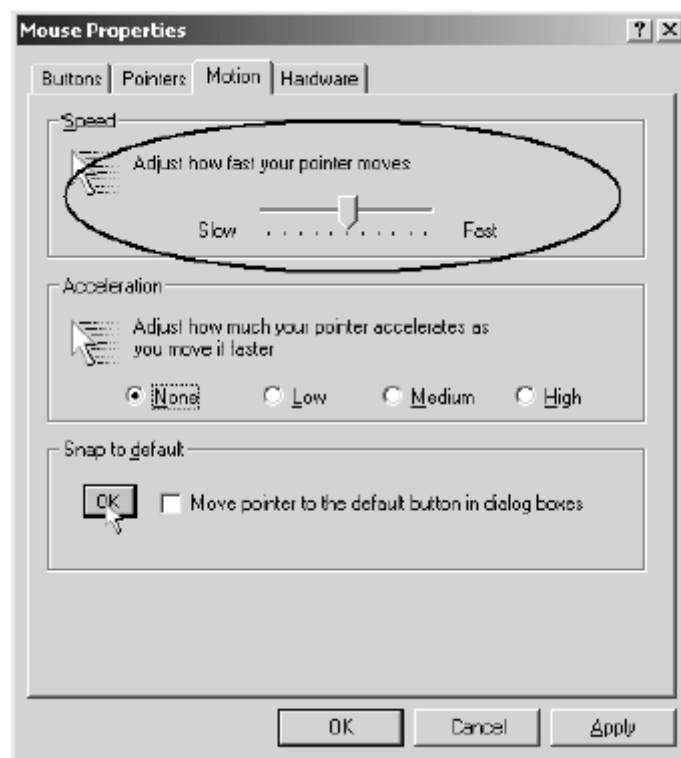
---

手動でマウスを同期させる場合は、製品に接続されているリモートサーバーで以下の操作を実行する必要があります。

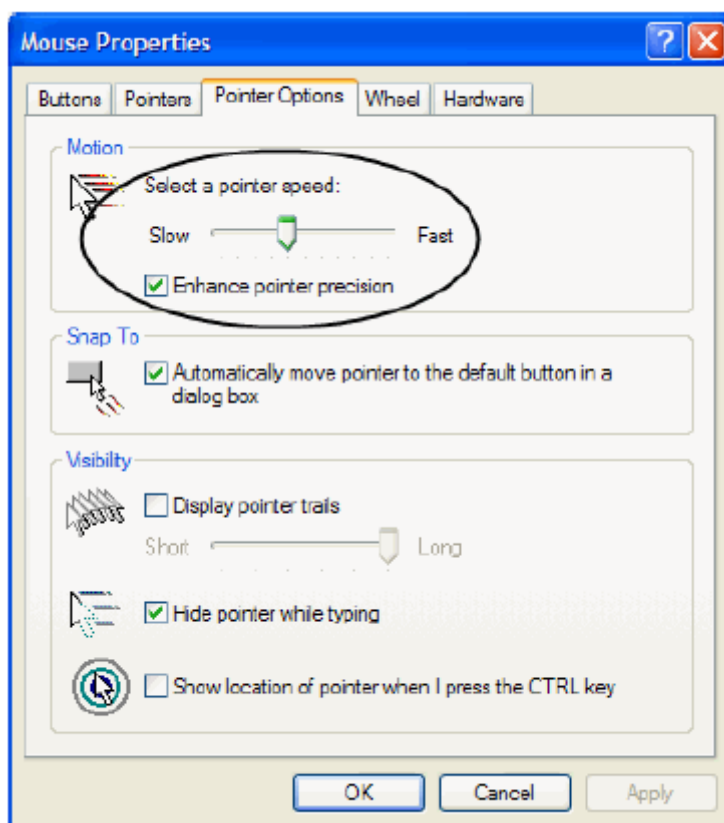
- 
- 注意:**
1. 以下の操作は、製品のポートに接続されているコンピューター側で実行してください。このコンピューターは、製品へのアクセスに使っているコンピューターとは異なりますので、ご注意ください。
  2. ローカルおよびリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバーを使用する必要があります。したがって、マウスに付属されているドライバーなどのサードパーティーのドライバーを使用している場合は、これを削除しなければなりません。
-

## Windows

1. Windows2000 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
  - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
  - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください([コントロールパネル]→[マウス])。
  - b) 「ポインターオプション」タブを開いてください。
  - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
  - d) 「ポインターの精度を高める」の項目のチェックを外してください。



3. Windows ME がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックする必要があります)。
4. Windows NT、Windows 98 または Windows 95 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定してください。

## Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun の場合: `xset m 1`

Linux の場合: `xset m 0` または `xset m 1` (どちらかを試してください。)

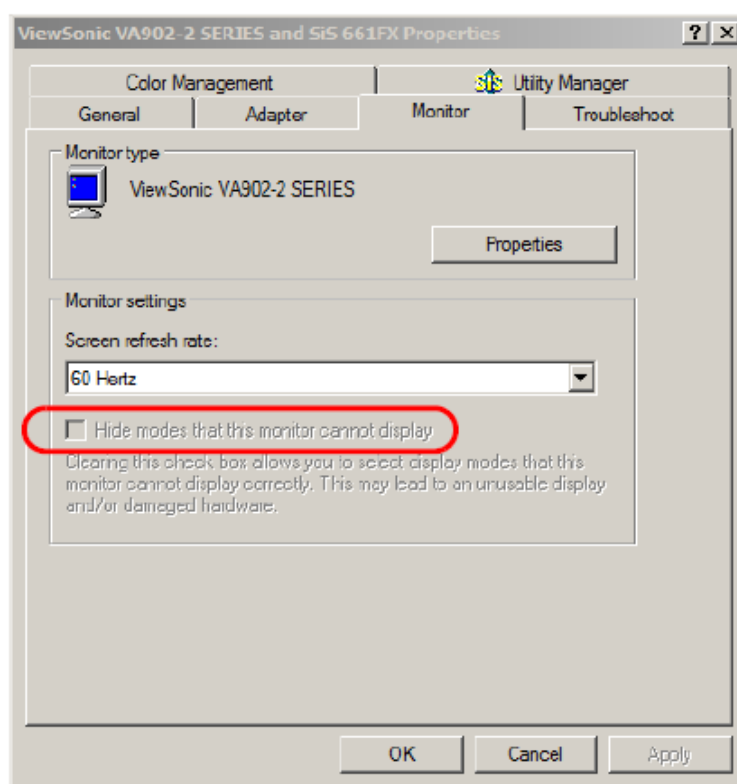
Linux (Red Hat AS3.0 マウスモードを使用) の場合: `xset m 1`



## その他のビデオ解像度の設定

Windows がインストールされたコンピューターをお使いで、なおかつ、特殊なリフレッシュレートに設定してご利用になる場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1. [コントロールパネル]→[画面]→[設定]→[詳細設定]→[モニター]を開いてください。
2. 表示されたダイアログで、「このモニターでは表示できないモードを隠す」のチェックボックスにチェックが入っていないことを確認してください。



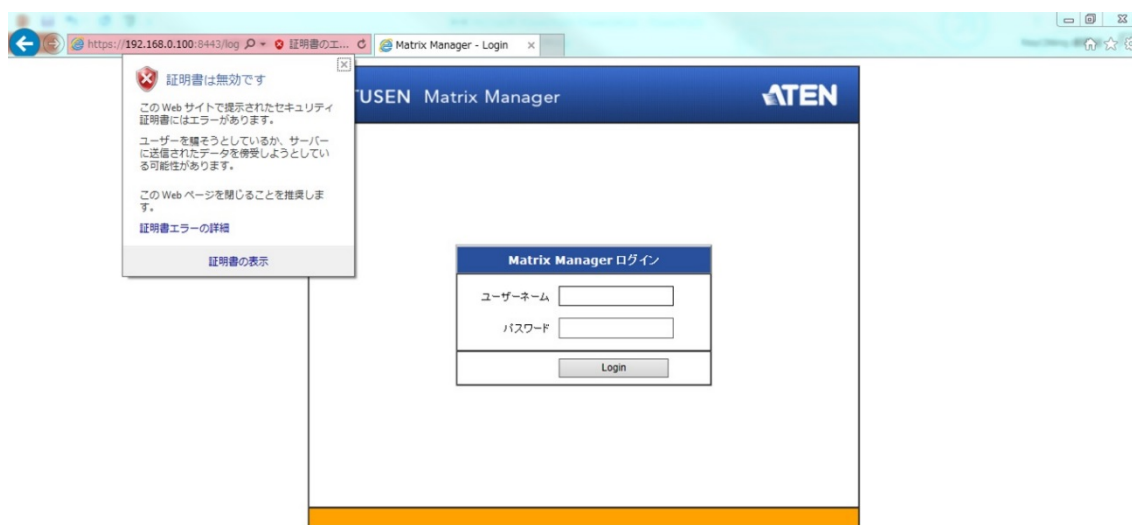
3. 「画面のリフレッシュレート」リストの右端の矢印ボタンをクリックして、お使いの環境で使用するリフレッシュレートをリストから選択してください。

**注意:** 選択されたリフレッシュレートがお使いのモニターで対応していることをご確認ください。サポート外の解像度を選択すると、お使いのモニターに深刻なダメージを与えることがあります。

# 信頼された証明書

## 概要

ブラウザ経由で製品にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



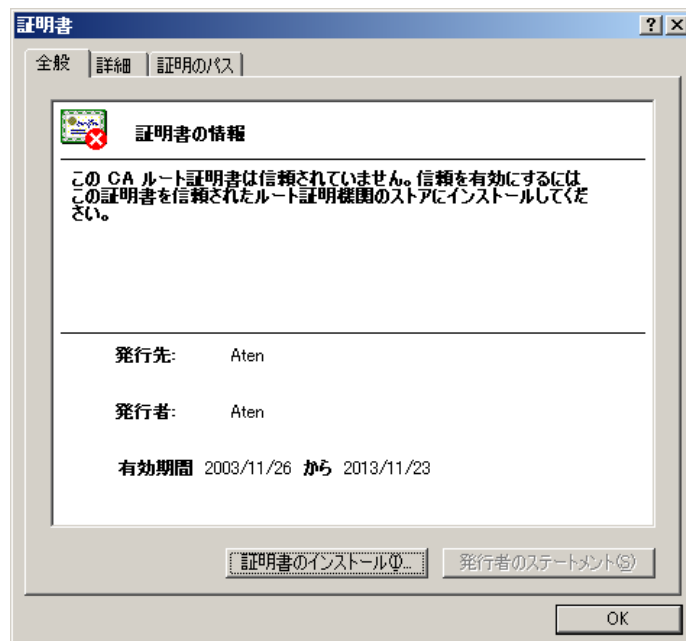
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
  - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから操作している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションでのみ受け入れてください。
  - ◆ ご自身のコンピューターから操作している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

## 証明書のインストール

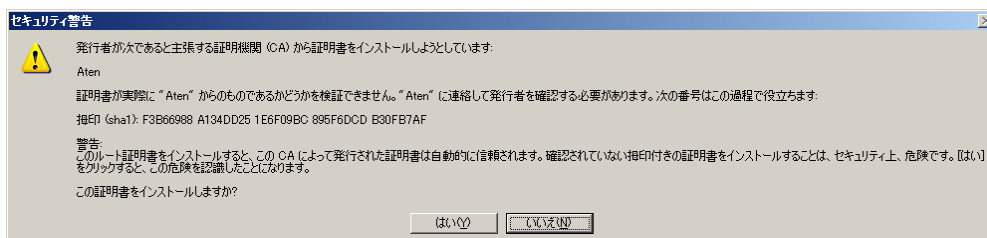
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



**注意:** 上図内の赤い枠で囲まれている「X」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

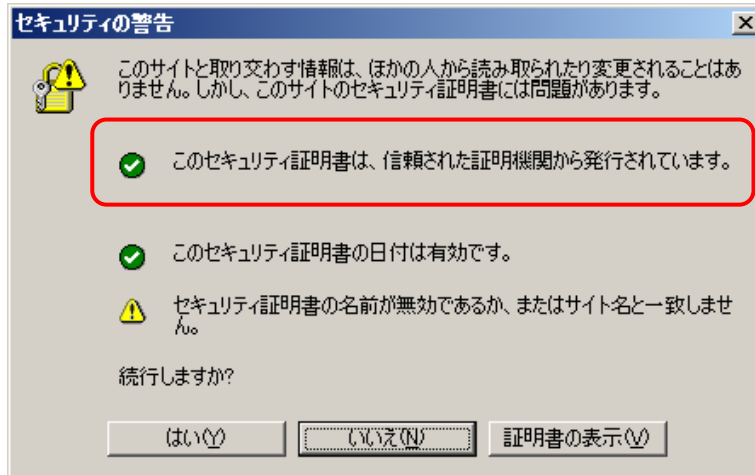
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



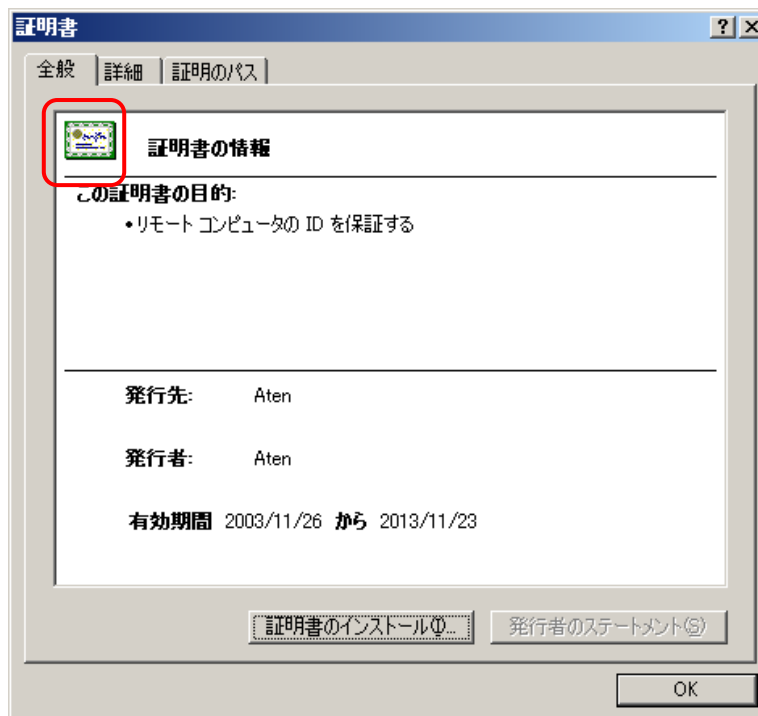
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

## 証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。

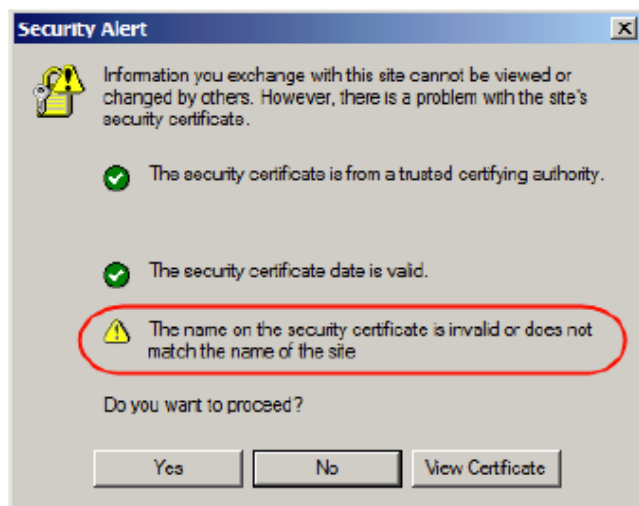


「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



## アドレス不整合に関する注意事項

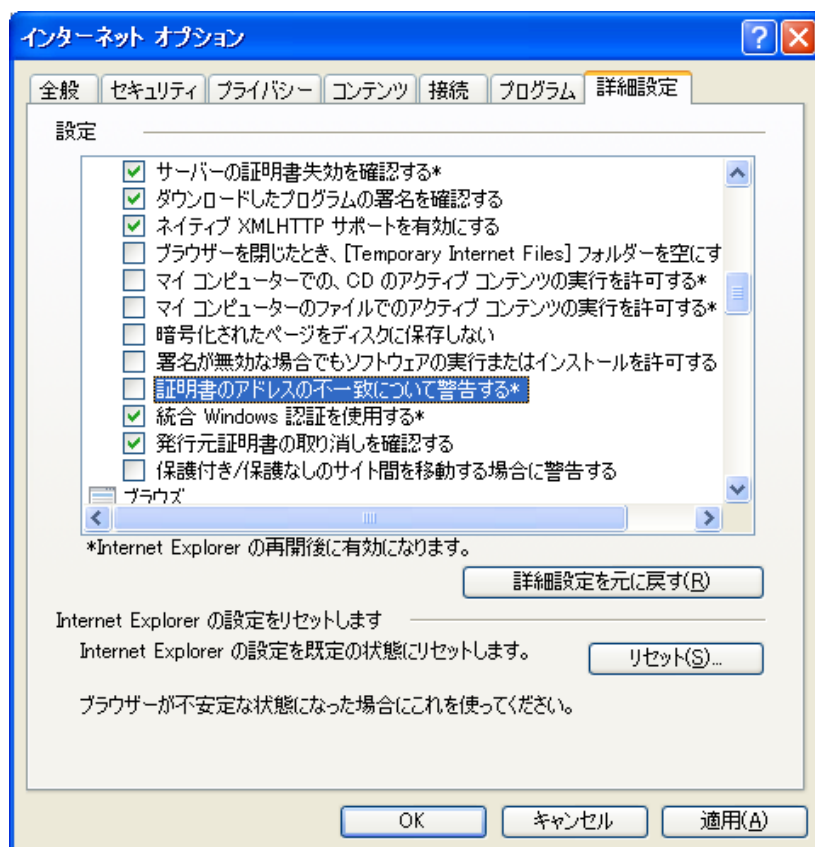
証明書の作成に使用されたサイト名や IP アドレスが、製品に設定されているアドレスに一致しない場合、下図のような警告ダイアログが表示されます。



「Yes」ボタンをクリックして継続することもできますし、不整合のチェックを無効にすることもできます。

不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ログイン画面が表示されたら、Web ブラウザのメニューで、[ツール]→[インターネットオプション]→[詳細設定]タブを選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザの再開後に有効になります。

## 自己署名(プライベート)証明書

---

オリジナルの自己署名暗号鍵や証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」を Web サイト([www.openssl.org](http://www.openssl.org))からダウンロードすることができます。オリジナルのプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ダウンロードした openssl.exe を解凍したディレクトリに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して openssl.exe を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

- 
- 注意:**
1. 上記のコマンドは 1 行で入力してください。パラメーターの入力途中で [Enter]キーを押さないでください。
  2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください。(例: "ATEN International")
- 

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

### 例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer  
-config openssl.cnf -subj "/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganiztion/OU=yourorganizationalunit/CN=yourcommonname/emailAddress=name@  
yourcompany.com"
```

### 入力例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer  
-config openssl.cnf -subj "/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O=ATEN  
International/OU=ATEN/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw"
```

## ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリに「CA.key」(プライベートキー) と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という 2 つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「Security」(セキュリティ)メニュー(p.219 参照)の「Private Certificate」(プライベート認証)メニュー(p.228 参照)でアップロードします。



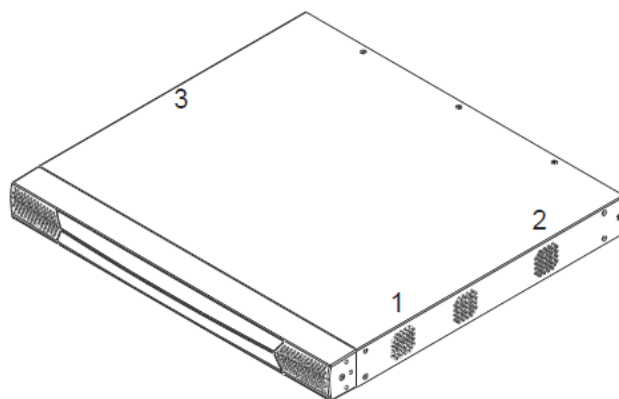
## ファンの位置と速度

---

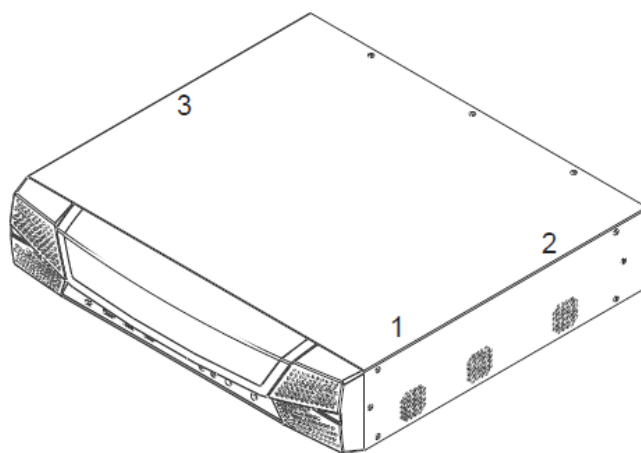
### ファンの位置

本製品にはファンを3基搭載し、ファンスピードに関する情報を、リアルタイムで Windows クライアント/Java クライアントの「Device Management」(設定)タブに表示します。

KN2116VA/KN4116VA/KN2124VA/KN4124VA/KN1132V/KN2132VA/KN4132VA  
/KN8132V/KN2140VA/KN4140VA



KN4164V/KN8164V



上図に示されている各ファンのスピードは「Device Information」(デバイス情報)メニューで表示されます。詳細は p.201 をご参照ください。

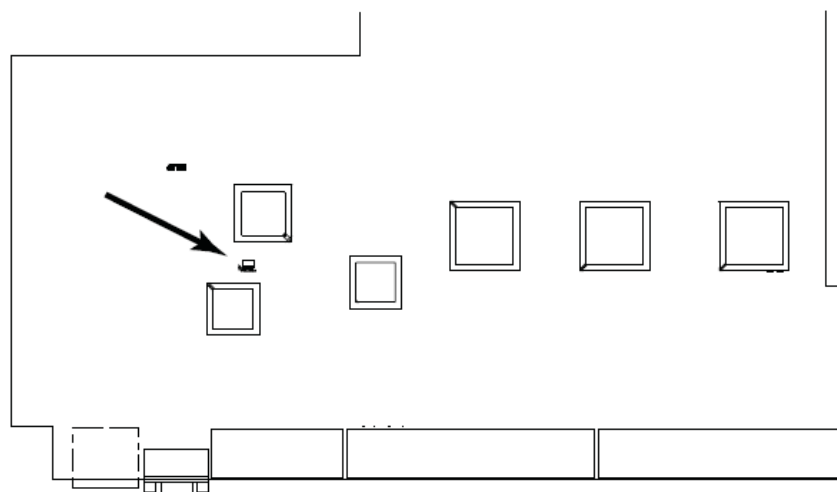
## ログイン情報の消去

ユーザーネームやパスワードを忘れたなどの理由でアドミニストレーターとしてログインできなくなった場合は、以下の方法でログイン情報を消去することができます。

**注意:** 以下の操作を行うと、すべての設定項目が工場出荷時のデフォルト値に戻ってしまいますので、ご注意ください。

ログイン情報をクリアし、すべての設定項目を工場出荷時のデフォルト値に戻す場合は、以下の手順で操作してください。

1. 製品の電源を切り、本体のケースを外してください。
2. ジャンパーキャップを使ってメインボード上の「J25」と記載されているジャンパーをショートさせてください。



3. 製品に電源を入れてください。

4. リンク LED ランプ、10/100 Mbps LED ランプがそれぞれ点滅したら、製品の電源を切ってください。
5. J25 のジャンパーからジャンパーキャップを外してください。
6. ケースを本体に取り付け、製品に電源を入れてください。

製品に電源が入ると、デフォルトのアドミニストレーターのユーザーネームとパスワードでログインできるようになります(p.70 参照)。

## 工場出荷時のデフォルト設定

OSD メニューの各項目の工場出荷時におけるデフォルト値は以下の通りです。

設定	デフォルト値
Language (言語)	英語
GUI Hotkey (GUI ホットキー)	[Scroll Lock]キー2 度押し
Port ID Display (ポート ID 表示)	ポートナンバー + ポートネーム
Port ID Display Duration (ID 表示間隔)	3 秒
Scan Duration (スキャンインターバル)	5 秒
Screen Blanker (スクリーンブランカー)	0 分 (無効)
Beeper (ビープ音)	ON
Microphone/Speaker (マイク/スピーカー)	ON
Viewer (ビューアー)	自動検出
Welcome Message (ウェルカムメッセージ)	非表示
Accesible Ports (アクセス可能なポート)	◆ スーパーアドミニストレーター - 全ポートに対しフルアクセス ◆ その他のユーザー - 全ポートに対しアクセス不可

## シリアルアダプターのピンアサイン

SA0142 : RJ-45 メス → DB9 オス(黒) DTE → DCE

スイッチ (RJ-45)	ピン(8)		モデム/デバイス (DB9)
RTS	1	⇔	7
DTR	2	⇔	4
TXD	3	⇔	3
CTS	4	⇔	8
GND	5	⇔	5
RXD	6	⇔	2
DCD	7	⇔	1
DSR	8	⇔	6
			9 NC 未使用

## 対応 KVM スイッチ

本製品には以下の機種をカスケード接続して使用することができます。

- ◆ CS9134
- ◆ CS9138
- ◆ KH1508A
- ◆ KH1516A
- ◆ KH1532A

- 注意:**
1. カスケード接続された KVM スイッチの機種によっては、製品の機能の一部が制限される場合があります(例:接続した KVM スイッチがバーチャルメディアに対応していない場合)。
  2. 本製品は 3 段階以上のカスケード接続には対応していません。

## 対応電源管理デバイス

---

本製品には以下の電源管理デバイスを接続して使用することができます。

- ◆ PN0108
- ◆ PN5212
- ◆ PN5320
- ◆ PN7212
- ◆ PN7320

## 対応 PDU

---

本製品には以下の PDU を接続して使用することができます。

- ◆ PE8r シリーズ
- ◆ PE9r シリーズ

## バーチャルメディア対応

---

### Windows クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)

- ◆ IDE CD-ROM/DVD-ROM ドライブ - 読取専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読取専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROM ドライブ - 読取専用
- ◆ USB ハードディスクドライブ - 読込/書込対応\*
- ◆ USB フラッシュメモリ - 読込/書込対応\*
- ◆ USB フロッピードライブ - 読込/書込対応
- ◆ スマートカードリーダー - 読込/書込対応\* (KA7166、KA7168、KA7169、KA7177、KA7188、KA7189 コンピューターモジュール使用時のみ)
  - \* これらのドライブは、ドライブまたはリムーバブルディスクとしてマウントすることができます(p.118「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能な OS が含まれていれば、そこからリモートサーバーをブートすることができます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスすることもできます。
- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応

### Java クライアント (Web ブラウザ版、アプリケーション版共通)

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応